第十一章　萬国平和会議議事録

一五二　自明治三十二年五月十八日
至　七月二十九日
萬国平和会議議事録
一、目　録
平和会議委員氏名表
第一回総会議（千八百九十九年五月十八日）
外務大臣ド・ボーフォール閣下開会ノ辞
平和会議議長露国第一委員スタール閣下ノ演説
平和会議事務局及書記局ノ構成
第二回総会議（千八百九十九年五月二十日）
和蘭国皇帝陛下ノ宸翰朗読
露西亜国皇帝陛下ノ親電朗読
議長ノ演説
第三回総会議（千八百九十九年五月二十三日）
委員会及委員会事務局ノ選任
委員会議事録ニ関スル協定
各委員会委員氏名表（附属書）
第四回総会議（千八百九十九年六月二十日）
第二委員会報告書（「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルノ件）ノ提出
「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約案十個條ノ可決
日本国委員本野一郎君ノ宣言
希臘国第一委員デリアンニ君ノ宣言
土耳其国委員ノ宣言
平和会議最終決議書起草委員ノ任命
第二委員会ノ名ヲ以テ提出シタルエル・ルノール君ノ報告書（附属書）
第五回総会議（千八百九十九年七月五日）
第二委員会報告書（陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則）ノ提出及可決
陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約案各條ノ可決
中立国ノ権利義務ニ関スル問題ニ就キ盧森堡国第一委員ノ提出ニ係ル希望ノ可決
防禦ナキ港湾ノ砲撃ニ関スル希望ノ可決
英国第一委員「サー」ゼー・ポーンスフォートノ不同意宣言
「ジェネヴァ」條約ノ改正ニ関スル希望ノ可決
海戦ノ際ニ於ケル私有財産ノ不可侵権ニ関シ合衆国委員ノ提出シタル希望ノ審議
合衆国第一委員ホワイト君ノ演説
伊太利国第一委員ニーグラ伯爵ノ宣言
合衆国ノ提案ヲ次回ノ萬国会議ノ議題ト為スコトニ関スル希望ノ可決
最終決議書起草委員ニ加フヘキ新委員ノ指定
第二委員会ノ名ヲ以テ提出シタルローラン君ノ報告書（附属書第一号）
六十ヶ條ヨリ成ル陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言案（附属書第二号）
第六回総会議（千八百九十九年七月二十一日）
露国皇太子殿下薨去ニ付平和会議ヨリ奉呈シタル弔辞ニ対スル露国皇帝陛下ノ謝意
第一委員会報告書ノ審査
合衆国委員クロジエー大尉ノ提案
右提案ノ討議（ジリンスキー君、ファン・カルネベーク君、デン・ベール・ポールチュゲール君）
ホワイト君ノ演説
クロジエー大尉提案ノ否決
第一委員会報告書ノ可決
第二委員会ニ於テ制定シタル條約案（赤十字ニ関スル）ノ追加條項トシテ合衆国委員ノ提出シタル議案ノ撤回
第一委員会ノ名ヲ以テ提出シタルファン・カルネベーク君ノ報告書
第七回総会議（千八百九十九年七月二十五日）
第三委員会報告書（国際紛争平和的処理）ノ提出及可決
五十七箇條ヨリ成ル條約案ノ可決
葡萄牙国第一委員伯爵デ・マセーヅ君ノ宣言
合衆国委員ノ宣言
土耳其国委員ノ宣言
第五十三條（海底電信ノ陸上線）ニ関スル「サー」ゼー・ポーンスフォートノ提議
丁抹国第一委員ド・ビル君ノ宣言
第五十三條修正ノ可決
最終決議書起草委員ノ名ヲ以テ為シタルルノール君ノ口述報告
「サー」ゼー・ポーンスフォート君ノ宣言

瑞西国委員オジエー君ノ宣言
最終決議書案ノ可決
伯爵ニーグラ閣下ノ演説
ファン・カルネベーク君ノ答辞
第三委員会ノ名ヲ以テ提出シタルシュヴァリエ・デカン君ノ報告書（附屬書）及其ノ他ノ附屬書類
第八回総会議（千八百九十九年七月二十七日）
最終決議書起草委員会ノ名ヲ以テ為シタルルノール君ノ口述報告
各條約及宣言ノ前文並総則ノ案文可決
白耳義国委員伯爵ド・グレル・ロジエー君ノ宣言
盧森堡国第一委員アイシェン君ノ宣言
デリアンニ君ノ宣言
清国委員ノ宣言
「サー」ゼー・ポーンスフォートノ宣言
伯爵ニーグラ閣下ノ宣言
仏国第一委員レオン・ブールジョア君ノ宣言
伯爵デ・マセーヅ君ノ宣言
第九回総会議（千八百九十九年七月二十八日）

最終決議書起草委員会ノ名ヲ以テ為シタルルノール君ノ口述報告
国際紛争平和的処理條約前文並総則案可決
通信委員会ノ名ヲ以テ為シタルファン・カルネベーク君ノ報告
右報告ノ可決
各條約ノ前文ニ掲クヘキ順序ヲ一定スル為メ平和会議ニ於テ是認シタル君主其ノ他国ノ元首列記表（附屬書）
第十回総会議（千八百九十九年七月二十九日）
調印会議
最終決議書、條約書、及宣言書ノ調印表
和蘭国皇帝陛下ヨリ法王台下ニ送リタル書簡ノ朗読
法王台下ノ答翰
議長ノ演説
独逸国第一委員伯爵ド・ミュンステル閣下ノ演説
議長ノ答辞
「ヨンクヘール」、ファン・カルネベーク君ノ答辞
仏国委員男爵デツールネル君ノ演説
外務大臣ド・ボーフォール閣下ノ演説
平和会議ノ閉会
目録終

独逸国
全権委員　仏国駐剳独逸国特命全権大使伯爵ド・ミュンステル
第二委員　「ミュンヘン」大学教授男爵ド・ステンゲル
学術委員　「コンセイエー・アンチーム・ド・ジュスチス」「キョーニヒスベルヒ」大学教授博士ツォルン
専門委員　歩兵第五聯隊長陸軍歩兵大佐ド・グロッス・ド・シュワルツホッフ
専門委員　在仏国独逸国大使館附武官海軍大佐ジーゲル
書記官補　公使館書記官デルクルト

墺地利洪牙利国
第一全権委員　特命全権大使伯爵「エル・ヴェルセルスハインヴ」
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使アレキサンドル・オコリクサニー・ドコリクスナ
副委員　大使館参事官兼外務大臣官房長ガエタン・メレー・ド・カポスメール
副委員　維也納大学教授アンリー・ランマシュ
副委員　参謀本部中佐ヴイクトル・ド・クエパック・ツー・リード・チンメルレーヘン・エ・ハスルブルヒ
副委員　海軍少佐伯爵スタニスラス・ソルチック

白耳義国
全権委員　国務大臣衆議院議長オーギュスト・ベルネルト
全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使伯爵ド・グレル・ロジエー
全権委員　上院議員シュヴァリエー・デカン
委員附書記官　公使館参事官モーリス・ジュースタンス

清国
第一全権委員　露国駐剳特命全権公使楊儒
第二委員　陸徴祥

第二委員　胡惟徳
副委員　公使館参事官何彦昇
通訳官　公使館参事官博士クレイエル

丁抹国
第一全権委員　英国駐剳特命全権公使侍従エフ・エ・ド・ビル
第二全権委員　砲兵大佐前陸軍大臣ジー・ジェー・エフ・フォン・シュナック
委員附書記官　外務書記官男爵オトン・レエーッツ・トット

西班牙国
第一全権委員　前外務大臣公爵デ・テツアン
全権委員　白耳義国駐剳特命全権公使ドブルヴェ・ラミーレス・デ・ヴィーリヤ・ヴルーチヤ
全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使アルツーロ・デ・バゲール
副委員　在白耳義国西班牙国公使館附武官陸軍大佐伯爵デル・セラーリョ
委員附書記官　大使館書記官クレスポ

亜米利加合衆国
全権委員　独逸国駐剳特命全権大使アンドリュー・チー・ホワイト
全権委員　和蘭国駐剳特命全権大使スタンフォード・ニュウェル
全権委員　紐育「コロンビヤ」大学総長「オノレーブル」セッス・ロウ
全権委員　海軍大佐アルフレッド・チー・マハン
全権委員　砲兵大尉ウヰリアム・クロジエー
委員兼委員附書記官　紐育弁護士フレデリック・ダブルユー・ホルス
委員附書記官　トーマス・エム・マック・グラス
委員附書記官　ジェームス・ハリス・ヴィツクリー
委員附書記官　トーマス・モリソン

墨西哥合衆国
全権委員　仏国駐剳特命全権公使ド・ミエー
全権委員　白耳義国駐剳弁理公使セニール

仏蘭西国
第一全権委員　前内閣議長前外務大臣衆議院議員レオン・ブールジョア
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使ジョールジュ・ビウール
第三全権委員　特命全権公使衆議院議員男爵デツールネル・ド・コンスタン
専門委員　陸軍少将ムーニエ
専門委員　海軍少将ペフォー
専門委員　巴里法科大学教授外務省法律顧問ルーイ・ルノール
平和会議書記官兼委員附書記官　大使館二等書記官アルベール・ルグラン
委員附書記官　大使館二等書記官ア・ボップ
平和会議書記官兼委員附書記官　大使館試補エム・ジャルーッス・ド・シヤック
委員附書記官　大使館試補オー・オンベール
書記官　ルイ・ルジヤンドル
書記官補　騎兵中尉男爵ピション

大不列顛及愛蘭国
第一全権委員　枢密顧問官亜米利加合衆国駐剳連合王国特命全権大使「サー」ジュリアン・ポーンスフォート
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使「サー」ヘンリー・ホワード
専門委員　海軍中将「サー」ジョン・エー・フィッシャー
専門委員　陸軍少将「サー」ゼー・シー・アルダー
専門副委員　在白耳義国及和蘭国公使館附武官陸軍中佐シー・アコート

委員附一等書記官　リチャード・ホンソンビー・マクスウェル
委員附二等書記官　アーサー・ピール
委員附三等書記官　ロナード・ジェームス・ハミルトン

希臘国

全権委員　前内閣議長前外務大臣仏国駐劄特命全権公使ニー・デリアンニ
公使附書記官　アレキサンドル・メルカチ

伊太利国

第一全権委員　墺国駐劄伊太利国特命全権大使上院議員伯爵ニーグラ
第二全権委員　和蘭国駐劄特命全権公使伯爵ア・ツァンニーニ
第三全権委員　伊太利国衆議院議員シュヴァリエー・ギード・ポンピーリー
専門委員　陸軍少将シュヴァリエー・ルイージ・ツッカーリ
専門委員　在英国大使館附武官海軍大佐シュヴアリエー・アウグスト・ビヤンコ
書記官補　大使館試補男爵シャルル・フアスチオッチ
書記官補　公使館試補エルネスト・アルトム

日本国

第一全権委員　露国駐劄特命全権公使男爵林董
第二全権委員　白耳義国駐劄特命全権公使本野一郎
専門委員　陸軍工兵大佐上原勇作
専門委員　海軍大佐阪本俊篤
専門委員　陸軍大学校及海軍大学校国際法教授有賀長雄
委員附書記官　西源四郎
委員附書記官　萩原守一

盧森堡国

全権委員　内閣議長国務大臣アイシェン
全権委員　独逸国駐劄代理公使伯爵ド・ヴィレー

「モンテネグロ」国

「露西亜国委員之ヲ兼ヌ」

和蘭国

全権委員　前外務大臣下院議員ヨンクヘール・アー・ペー・セー・ファン・カルネベーク
全権委員　前陸軍大臣参事院議官将官ヨットチェー・チェー・デン・ベール・ポールチュゲール
全権委員　参事院議官テー・エムチェー・アッセル
全権委員　上院議員エー・エヌ・ラヒュセン
専門委員　和蘭国海軍参謀長海軍大佐アー・ペー・タデマ

波斯国

第一全権委員　露国及瑞典諾威国駐劄特命全権公使侍従武官将官ミルザ・リザ・カン（アルファ・ウッドウレー）
副委員　在露国公使館参事官ミルザ・サマッド・カン（モンタシス・サルタネー）
委員附書記官　サミュエル、ホリアコッフ
委員附書記官　男爵ジェー、ド、レヴィー

葡萄牙国

全権委員　前海軍及殖民大臣西班牙国駐劄特命全権公使「ペールデュ・ロワイヨーム」伯爵デ・マセーヅ
全権委員　露国駐劄特命全権公使「ペール・デュ・ロワイヨーム」ドルネーラス・デ・ヴァスコンセーロス
全権委員　和蘭国駐劄特命全権公使伯爵デ・セリール
専門委員　海軍大佐アウグスツ・デ・カスチーリョ
専門委員　参謀本部大尉アイーレス・ドルネーラス
委員附書記官　公使館一等書記官ジョゼ・リベイル・グ・クニア

羅馬尼亜国
第一全権委員　独逸国駐剳特命全権公使アレキサンドル・ベルヂマン
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使ジャン・エヌ・パピニウ
専門委員　陸軍省砲兵局長伝令使陸軍大佐コンスタンチン・コアンダ

露西亜国
全権委員　英国駐剳露国特命全権大使「コンセイエー・プリヴェー・アクチュエル」ド・スタール
全権委員　外務省常任顧問官「コンセイエー・プリヴェー」ド・マルテンス
全権委員　侍従外務省第一局長「コンセイエー・デクター・アクチュエル」ド・バシリー
専門委員　在仏国大蔵省派出員「コンセイエー・デクター・アクチュエル」ラファロヴィッチ
専門委員　参謀本部大佐ジリンスキー
専門委員　近衛砲兵大佐伯爵パランツェフ
専門委員　在仏国露国海軍派出員海軍中佐シェーヌ
専門委員　法学教授海軍大尉オヴチニコフ
委員附書記官　外務省第一局課長「ジャンチヨンム・ド・ラ・シャンブル」プリクロンスキー
委員附書記官　大使館二等書記官エヌ・ア・グウルコ・ロメイコ
委員附書記官　外務省官房三等書記官男爵エム・エフ・ドシーリング
委員附書記官　司法省課長ヘッセン
海軍専門委員附書記官　ビリレッフ

塞爾比亜国
全権委員　英国及和蘭国駐剳特命全権公使ミヤトヴィッチ
全権委員　「モンテネグロ」国駐剳特命全権公使陸軍大佐マシーヌ
副委員　「ベルグラード」法科大学教授博士ヴォイスラーヴ・ヴェリコヴィッチ

羅馬国
第一全権委員　露国及仏国駐剳特命全権公使ピア・スリヤ・ヌヴァトル
第二全権委員　和蘭国及英国駐剳特命全権公使ピア・ヴィスッダ・スリヤ・サクヂ
第三委員　公使館参事官カルロ・コラヂオーニ・ドレーリ
第四委員　白耳義国在勤暹羅国総領事エヴアール・ローラン
委員附　ジー・ア・エヌ・パチジュン
委員附　プラ・ジャヤァスリンドル

瑞典諾威国
全権委員　伊太利国駐剳特命全権公使男爵ド・ビルト
専門委員　近衛「グレナヂエー」第一聯隊長陸軍大佐ペー・ハー・エー・ブレンドストレーム
専門委員　海軍大佐チェー・アー・エム・ド・ヒュールハムマル
専門委員　衆議院立法部議長ヴェ・コノウ
専門委員　陸軍軍医総監陸軍少将ヨット・ヨット・タウロウ
委員附書記官　外務書記官エフ・ド・ラップ

瑞西国
全権委員　独逸国駐剳特命全権公使博士アルノルド・ロート
委員　国会議員陸軍大佐アルノルド・キュンツリー
全権委員　国会議員エヴアール・オヂエー
委員附書記官　聯邦外務省書記官補ア・シュテル

土耳其国
第一全権委員　前外務大臣参事院議官チュルカン・パシャー
全権委員　外務省書記官長ヌーリー・ベー
全権委員　参謀官陸軍中将アブヴラー・パシャー
全権委員　海軍少将メヘメッド・パシャー

委員附書記官　外務省官房長ユゥスースフ・ベー
委員附書記官　外務省翻訳課次長アギアー・ベー
委員附書記官　陸軍中佐ジェヴァツド・ベー
委員附書記官　土耳其国法律顧問附シェエリフ・ベー

勃爾牙利国
第一全権委員　露国在勤外交事務官博士ゼミトリ・イ・スタンショッフ
第二全権委員　在塞爾比亜国公使館附武官陸軍少佐クリスト・ヘッサプチエッフ

平和会議事務局
名誉議長　和蘭国外務大臣ドブルヴェ・アッシュ・ド・ボーフォール閣下
議長　スタール閣下
副議長　ヨンクヘール・ア・ペー・セー・ファン・カルネベーク

書記局
書記官長　和蘭国皇帝陛下ノ弁理公使ヨンクヘール・ヨット・チエー・エヌ・ファン・アイス
書記官長補　露国専門委員「コンセイエー・デター・アクチュエル」ラファロヴィッチ
書記官　仏国大使館書記官アルベール・ルグラン
同　白耳義国公使館一等書記官エゾアール・ド・グレル・ロジエー
同　和蘭国公使館書記官シュヴァリエー・ドヴルヴェ・ド・ラッパール
同　和蘭国公使館書記官ヨンクヘール・ア・ゲー・シンメルペンニンク
同　仏国大使館附外交官補マックス・ジャルーッス・ド・シヤック
同　和蘭国外務省副課長ヨンクヘール・ヨット・ヨット・ロヒュセン
書記官補　和蘭国陸軍参謀大尉ゲー・ヨット・チェー・アー・ポップ
同　和蘭国海軍大尉チェー・エ・チットリンゲル
書記局附　独逸国大使館書記官デルクルト
同　「ヨンクヘール」、アッシュ・ア・ファン・カルネベーク

二、第一回総会議

萬国平和会議議事録

千八百九十九年五月十八日第一回総会議開会式

独逸国、亜米利加合衆国、墺地利洪牙利国、白耳義国、清国、丁抹国、西班牙国、仏蘭西国、大不列顛及愛蘭聯合王国、希臘国、伊太利国、日本国、盧森堡国、墨西哥国、「モンテネグロ」国、和蘭国、波斯国、葡萄牙国、羅馬尼亜国、露西亜国、塞爾比亜国、暹羅国、瑞典諾威国、瑞西国、土耳其国及勃爾牙利国ノ各政府ハ全露西亜国皇帝陛下ノ政府ノ提議ニ依リ和蘭国皇帝陛下ノ政府ノ招請ニ応シ各国民ノ為ニ永久ノ平和ヲ担保シ且ツ各国ノ停止スルコトナキ軍備ノ拡張ニ制限ヲ設ケムカ為ニ最モ有効ナル方法ヲ考究スルコトヲ承諾シタルニ依リ前顕諸国政府ノ委員ハ本日即チ五月十八日午後二時ヲ以テ「ボアー」離宮ニ会同シテ会議ヲ開キ左記ノ委員諸氏出席セリ

独逸国
全権委員　仏国駐剳独逸国特命全権大使伯爵ド・ミュンステル
第二委員　「ミュンヘン」大学教授男爵ド・ステンゲル
学術委員　「コンセイエー・アンチーム・ド・ジュスチス」「キョーニヒスベルヒ」大学教授博士ツォルン
専門委員　歩兵第五聯隊長陸軍歩兵大佐ド・グロッス・ド・シュワルツホッフ
専門委員　在仏国独逸国大使館附武官海軍大佐ジーゲル

墺地利洪牙利国
第一全権委員　特命全権大使伯爵エル・ヴェルセルスハインブ
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使アレキサンドル・オコリクサニー・ドコリクスナ
副委員　大使館参事官兼外務大臣官房長ガエクン・メレー・ド・カポスメール
副委員　維也納大学教授アンリー・ランマシュ
副委員　参謀本部中佐ヴィクトル・ド・クエパック・ツー・リード・チンメルレーヘン・エ・ハスルブルヒ
副委員　海軍少佐伯爵スタニスラス・ソルチック

白耳義国
全権委員　国務大臣衆議院議長オーギュスト・ベルネルト
全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使伯爵ド・グレル・ロジェー
全権委員　上院議員シェヴァリエー・デカン

清国
第一全権委員　露国駐剳特命全権公使楊儒
第二委員　陸徴祥
第二委員　胡惟徳
副委員　公使館参事官何彦昇

丁抹国
第一全権委員　英国駐剳特命全権公使侍従エフ・エ・ド・ビル
第二全権委員　砲兵大佐前陸軍大臣ジー・ジェー・エフ・フォン・シュナック

西班牙国
第一全権委員　前外務大臣公爵デ・テツアン
全権委員　白耳義国駐剳特命全権公使ドブルヴェ・ラミーレス・デ・ヴィイーリャ・ウルーチャ
全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使アルツーロ・デ・バゲール
副委員　在白耳義国西班牙国公使附武官陸軍大佐伯爵デル・セラーリョ

亜米利加合衆国
全権委員　独逸国駐剳特命全権大使アンドリュユー・ヂー・ホワイト
全権委員　紐育「コロンビヤ」大学総長「オノレーブル」セッス・ロウ
全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使スタンフォード・ニュウェル
全権委員　海軍大佐アルフレッド・チー・マハン
全権委員　砲兵大尉ウヰリアム・クロジェー

委員兼委員附書記官　紐育弁護士フレデリック・グブルュー・ホルス

墨西哥合衆国
全権委員　仏国駐剳特命全権公使ド・ミエー
全権委員　白耳義国駐剳弁理公使セニール

仏蘭西国
第一全権委員　前内閣議長前外務大臣衆議院議員レオン・ブールジョア
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使ジョルジュ・ビウール
第三全権委員　特命全権公使衆議院議員男爵デツールネル・ド・コンスタン
専門委員　陸軍少将ムーニエ
専門委員　海軍少将ペフォー
専門委員　巴里法科大学教授外務省法律顧問ルーイ・ルノール

大不列顛及愛蘭国
第一全権委員　枢密顧問官亜米利加合衆国駐剳聯合王国特命全権大使「サー」ジュリアン・ポンスフォート
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使「サー」ヘンリー・ホワード
専門委員　海軍中将「サー」ジョン・エー・フィッシャー
専門委員　陸軍少将「サー」ゼー・シー・アルダー
専門副委員　在白耳義国及和蘭国公使館附武官陸軍中佐シー・アコート

希臘国
全権委員　前内閣議長前外務大臣仏国駐剳特命全権公使ニー・デリアンニ

伊太利国
第一全権委員　墺国駐剳伊太利国特命全権大使上院議員伯爵ニーグラ
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使伯爵ア・ツァンニーニ
第三全権委員　伊太利国衆議院議員シュヴァリエー・ギード・ポンピーリー

専門委員　陸軍少将シュヴァリエー・ルイージ・ツッカーリ
専門委員　在英国大使館附武官海軍大佐シュヴァリエー・アウグスト・ビヤンコ

日本国
第一全権委員　露国駐剳特命全権公使男爵林董
第二全権委員　白耳義国駐剳特命全権公使本野一郎
専門委員　陸軍工兵大佐上原勇作
専門委員　海軍大佐阪本俊篤
専門委員　陸軍大学校及海軍大学校国際法教授有賀長雄

盧森堡国
全権委員　内閣議長国務大臣アイシェン
全権委員　独逸国駐剳代理公使伯爵ド・ヴイレー

「モンテネグロ」国
全権委員　英国駐剳露国特命全権大使「コンセイエー・プリヴェ・アクチュエル」ド・スタール

和蘭国
全権委員　前外務大臣下院議員ヨンクヘール・アー・ペー・セー・ファン・カルネベーク
全権委員　前陸軍大臣参事院議官将官ヨット・チェー・チェー・デン・ベール・ポールチュゲール
全権委員　参事院議官テー・エム・チェー・アッセル
全権委員　上院議員エー・エヌ・ラヒュセン
専門委員　和蘭国海軍参謀長海軍大佐アー・ペー・タデマ

波斯国
第一全権委員　露国及瑞典諾威駐剳特命全権公使侍従武官将官ミルザ・リザ・カン（アルファ・ウッドウレー）
副委員　在露国公使館参事官ミルザ・サマッド・カン（モンタシス・サルタネー）

葡萄牙国
全権委員　前海軍及殖民大臣西班牙国駐剳特命全権公使「ペール・デュ・ロワイヨーム」伯爵デ・マセーヅ
全権委員　露国駐剳特命全権公使「ペール・デュ・ロワイヨーム」ドルネーラス・デ・ヴァスコンセーロス
専門委員　和蘭国駐剳特命全権公使伯爵デ・セリール
専門委員　海軍大佐アウグスツ・デ・カスチーリョ
専門委員　参謀本部大尉アイーレス・ドルネーラス

羅馬尼亜国
第一全権委員　独逸国駐剳特命全権公使アレキサンドル・ベルヂマン
第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使ジャン・エヌ・パピニウ
専門委員　陸軍省砲兵局長伝令使陸軍大佐コンスタンチン・コアンダ

露西亜国
全権委員　英国駐剳露国特命全権大使「コンセイエー・プリヴェー・アクチュエル」ド・スタール
全権委員　外務省常任顧問官「コンセイエー・プリヴェー」ド・マルテンス
全権委員　待従外務省第一局長「コンセイエー・デクー・アクチュエル」ド・バシリー
専門委員　在仏国大蔵省派出員「コンセイエー・デクー・アクチュエル」ラファロヴィッチ
専門委員　参謀本部大佐ジリンスキー
専門委員　近衛砲兵大佐伯爵バランツェフ
専門委員　在仏国露国海軍派出員海軍中佐シェータ
専門委員　法学教授海軍大尉オヴチニコフ

塞爾比亜国
全権委員　英国及和蘭国駐剳特命全権公使ミヤトヴィッチ
全権委員　「モンテネグロ」国駐剳特命全権公使陸軍大佐マシーヌ
副委員　「ベルグラード」法科大学教授博士ヴォイスラーヴ・ヴェリコヴィッチ

遅羅国
第一全権委員　露国及仏国駐剳特命全権公使ピア・スリヤ・ヌヴァトル

第二全権委員　和蘭国及英国駐剳特命全権公使ピア・ヴィスッダ・スリヤ・サクヂ
第三委員　公使館参事官カルロコラヂオーニ・ドレーリ
第四委員　白耳義国在勤遅羅国総領事エヴアール・ローラン

瑞典諾威国
全権委員　伊太利国駐剳特命全権公使男爵ド・ビルト

瑞典国
専門委員　近衛「グレナヂエー」第一聯隊長陸軍大佐ペー・ハー・エー・ブレンドストレーム
専門委員　海軍大佐チェー・アー・エム・ド・ヒュールハムマル

諾威国
専門委員　衆議院立法部議長ヴェ・コノウ
専門委員　陸海軍軍医総監陸軍少将ヨット・ヨット・クウロウ

瑞西国
全権委員　独逸国駐剳特命全権公使博士アルノルド・ロート
委員　国会議員陸軍大佐アルノルド・キュンツリー
全権委員　国会議員エヴアール・オヂエー

土耳其国
第一全権委員　前外務大臣参事院議官チュルカン・パシャー
全権委員　外務省書記官長ヌーリー・ベー
全権委員　参謀官陸軍中将アブヅラー・パシャー
全権委員　海軍少将メヘメッド・パシャー

勃爾牙利国
第一全権委員　露国在勤外交事務官博士デミトリ・イ・スタンショッフ
第二全権委員　在塞爾比亜国公使館附武官陸軍少佐クリスト・ヘッサプチエッフ

和蘭国外務大臣「ド、ボーフォール」閣下ハ開会ヲ告ケ且左ノ如キ演説ヲ為セリ

余ハ我至尊ナル皇帝陛下ノ名ニ於テ玆ニ諸君ヲ迎ヘ且海牙府ヲ萬国平和会議ノ開会地ト指定シテ我国ニ一大名誉ヲ与ヘラレタル全露西亜国皇帝陛下ニ対シ至敬深謝ノ意ヲ表スルノ光栄ヲ有ス

全露西亜国皇帝陛下カ文明諸国ノ挙テ称讃スル所トナリタル高貴ナル議ヲ首唱セラレタルハ英名最高キ先帝亜歴山第一世陛下ノ遺志ニ則リ欧州各国ノ君主及各国民ヲシテ和協一致交ハルニ同胞ノ親ヲ以テシ急アレハ互ニ相援助スルニ至ラシメントノ叡旨ニ出ツ陛下ハ右ノ希望実行ノ為ニ軍備ノ止ムコトナキ拡張ニ制限ヲ設ケ且全世界ヲ脅カス所ノ禍害ヲ防止スヘキ方法ヲ講究スルノ目的ヲ以テ萬国会議ヲ開カンコトヲ各国政府ニ提議セラレ而シテ各国政府ノ派遣セル代表者ハ今日玆ニ会同シタリ

此萬国会議ヲ開クノ日ハ将ニ終ラントスル現世紀ノ史上ニ特筆大書スヘキノ日ニシテ恰モ亦露国臣民カ其ノ国祭日トシテ挙テ奉祝スルノ日ニ当レリ依テ余ハ最モ熱心ニ慈仁ナル露国皇帝陛下ノ康福ヲ祈ルト同時ニ陛下ノ寛仁ナル企望カ萬国会議ノ尽力ニ依リテ能ク其ノ効ヲ奏シ将来陛下カ今日ヲ以テ陛下治政中ノ至幸ナル一日ト数ヘラルルニ至ランコトヲ切望ス是レ蓋シ今日陛下ニ対スル文明諸国一般ノ希望ナルベシ

我至尊ナル皇帝陛下モ亦全露西亜国皇帝陛下ト同一ナル感情ヲ懐抱セラルルニ依リ皇室所属ノ最モ美麗ナル紀念的建造物ヲ以テ萬国会議ノ会場ニ充テラレタリ現ニ諸君ノ会同セラルル此室ハ「フレデリック、アンリー」公ノ未亡人カ公ノ紀念ノ為ニ建設シタルモノニシテ其ノ装飾ハ第十七世紀ノ最モ巧妙ナル技術家ノ手ニ成レリ諸君ノ玆ニ賞賛スル幾多ノ絵画中「ウエストファリー」ノ平和ニ因シテ描キタル一幅ノ比喩画ハ特ニ諸君ノ注意ニ値スルモノナリ諸君ノ観ラルルカ如ク「平和」ノ神カ「ジャニュス」ノ神殿ヲ閉ササンカ為ニ此室ニ入リ来レル模様ヲ写シ出セルモノ即チ是ナリ諸君余ハ此好比喩カ諸君ノ任務ニ対スル吉兆ヲ為シ愈々任務結了ノ後ニ至リ美術ニヨリテ此堂ニ入リタル「平和」ノ神ハ「人類全体ノ上ニ其ノ恵沢ヲ普及セムカ為ニ此室ヲ出テタリ」ト相慶シテ言ヒ得ルニ至ランコトヲ希望ス（全会同感ノ意ヲ表ス）

終リニ臨ミ余ハ二個ノ案ヲ諸君ニ提出スルノ光栄ヲ有ス第一案ハ吾人ノ敬祝ノ意ヲ表スル為メ左ノ如キ文意ノ祝

電ヲ全露西亜国皇帝陛下ニ発送セントノ議是ナリ

「萬国平和会議ハ謹テ玆ニ陛下誕辰ノ佳節ニ際シ深厚ナル慶祝ノ意ヲ奏上シ陛下ノ慈仁ナル聖意ニ出テタル偉業ノ成功ヲ賛助セント欲スル誠実ナル希望ヲ表彰シ併セテ

陛下カ本会議ノ深謝ノ至意ヲ嘉納アラセラレンコトヲ冀フ」（全会同感ノ意ヲ表ス）

余ハ第二案モ第一案ト同シク満堂諸君ノ同意ヲ得ヘシト信シテ疑ハサルナリ諸君全露西亜国皇帝陛下ノ大使「スタール」閣下ノ豊富ナル経験卓越セル材能ハ諸君ノ従事セントスル高尚ナル事業ヲ容易ニスルニ藹力スルコト必ス大ナルヘキヲ以テ余ハ同氏ヲ本会議ノ議長ニ推挙セラレンコトノ希望ヲ表ス

同提議ハ全会一致ヲ以テ採用セラレタルニ依リ「ド、スタール」閣下ハ議長席ニ就キ左ノ如キ演説ヲ為セリ

諸君

余ノ第一ノ義務ハ和蘭国外務大臣閣下ニ向ヒテ閣下カ只今我至尊ナル皇帝陛下ニ対シテ述ヘラレタル鄭重ナル祝詞ニ付陳謝ノ意ヲ表スルニ在リ「ド、ボーフォール」閣下ノ高潔ナル情誼ト本会議議員諸君カ閣下ニ相和シテ表

彰セラレタル任意ノ同情トハ陛下ニ於テ深ク感佩アラセラルル所ナルヘシ

平和会議ノ発意ハ露国皇帝陛下ニ帰スヘキモ同会議ヲ此地ニ開会スルコトヲ得タルハ一ニ和蘭国皇帝陛下ノ高庇ニ依ル陛下聖徳遐邇ニ遍ネク仁恵四方ニ光被シ夙ニ本会議ノ目的トスル平和ノ為ニ絶エス深厚ナル同情ヲ表セラレタリ而シテ吾人カ玆ニ斯ル聖明ナル皇帝陛下ノ擁護ノ下ニ相会同スルコトヲ得タルハ誠ニ吾人ノ事業ノ成功ヲ見ルノ吉兆ナリト謂フヘシ吾人ハ静雅ナル此海牙ノ地ニ来リ世界文華ノ顕著ナル一要素ヲ組成セル此国民ノ間ニ立チテ吾人ノ眼前ニ勇気ト愛国心ト不撓ノ耐忍力トカ如何ニ国民ニ康福ヲ与ヘ得ルカノ好模範ヲ認ムル和蘭国ハ実ニ歴史ノ地ナリ国際上ノ最大問題玆ニ討議セラレ国際法学玆ニ発芽シ数世紀ノ久シキ欧州諸国間ノ幾多ノ協商玆ニ進行シ彼ノ久シク結ンテ解ケサリシ血戦紛乱ノ休止ヲ命シタル有名ナル條約モ亦玆ニ調印セラレタリ然ラハ吾人ハ今正ニ歴史的伝説ノ真中ニ在ルナリ

余ハ和蘭国外務大臣カ余ノ為メニ過当ナル褒詞ヲ述ヘラレタルコトヲ感謝ス又余ハ「ド、ボーフォール」閣下ニ於テ自ラ本会議事ヲ管理スルノ任ニ就カレクランニハ吾人

ニ満悦ヲ与フヘカリシコトヲ閣下ニ證言スルハ即チ本会議全議員ノ感情ヲ表白スルモノト確信ス同様ノ場合ニ於ケル先例ニ徴スルモ亦現ニ和蘭国外務長官ノ地位ニ在ル適任ノ政治家タル資格ヨリ謂フモ議長ノ地位ハ「ド、ボーフォール」閣下ニ帰スヘキ筈ナリシノミナラス閣下ヲ議長ニ戴クコトハ吾人ニ優遇ヲ賜ハリタル和蘭国皇帝陛下ニ対シテ敬意ヲ表シ奉ル所以ノ一タリシナリ

翻テ余ノ議長ト指定セラレタルハ萬国会議ノ至尊ナル首唱者露国皇帝陛下ノ全権委員タル資格ニ依ルノ外他ニ理由アリテ然ルモノト思料スルコト能ハス和蘭国外務大臣閣下ヨリ議長ノ職ヲ余ニ申出ラレ議員諸君カ閣下ノ選択ニ同意ヲ表セラレ以テ余ニ与ヘラレタル著大ノ栄誉ヲ深謝ノ情ヲ以テ承諾スルモ亦右ノ資格ヲ有スルカ為ニ外ナラス余ハ孜々トシテ勉メテ諸君ノ信任ニ背カサランコトヲ期スヘシト雖モ既ニ此高齢ニ達シ而シテ高齢ノ終ニ悲ムヘキ一特権ニシテ又頼ムニ足ラサル一補助タルコトハ余ノ固ヨリ自認スル所ナリ余ハ只諸君カ之ヲ理由トシテ余ヲ寛恕セラレンコトヲ希望ス余ハ今玆ニ諸君ニ向テ吾人ノ為メニ懇篤ナル待遇ヲ与ヘラレタル和蘭国皇帝陛下ニ感謝状ヲ奉呈センコトヲ提議ス余ハ之ヲ朗読スヘシ

美麗ナル「ボアー」宮殿ニ於テ初会ヲ開キタル萬国平和会議議員ハ謹テ玆ニ陛下ノ康福ヲ祈ルノ誠意ヲ表シ奉リ併セテ陛下カ一同ニ賜ハリタル優遇ヲ深謝スルノ衷情ヲ嘉納アラセラレンコトヲ冀フ

余ハ和蘭国外務大臣閣下ヲ萬国平和会議名誉議長ニ、和蘭国第一全権委員「ヨンクヘール」、ファン、カルネベーク氏ヲ同副議長ニ推挙センコトヲ提議ス（議員同意ヲ表ス）

次ニ議長ノ提議ニ依リ萬国会議ハ書記局ヲ左ノ如ク構成セリ

書記官長　和蘭国皇帝陛下ノ弁理公使ヨンクヘール、ヨット、チェー、エヌ、ファン、アイス

書記官長補　露国専門委員「コンセイエー、デクー、アクチュエル」ラファロヴィッチ

書記官　仏国大使館書記官アルベール、ルグラン

白耳義国公使館一等書記官エヅアール、ド、グレル、ロジエー

和蘭国公使館書記官シュヴァリエー、ドーヴルヴェ、ド、ラッパール
和蘭国公使館書記官ヨンクヘール、ア、ゲー、シンメルペンニンク
仏国大使館附外交官補マックス、ジャルーッス、ド、シヤック
和蘭国外務省副課長ヨンクヘール、ヨット、ヨット、ロヒュセン
和蘭国陸軍参謀大尉ゲー、ヨット、チェー、アー、ポップ
和蘭国海軍大尉チェー、エ、チットリンゲル
専門書記官

次ニ議長ハ萬国平和会議ノ議事ハ総会委員会共之ヲ秘密会ト為スヘキヤヲ議場ニ諮リタルニ同提議ハ採用セラレタリ

議長ハ議場ノ同意ヲ得テ次回ノ総会開会日ヲ五月二十日土曜日午前十一時ト定メ午後二時三十分散会セリ（毎回議事録ノ末尾ニ掲ケタル議長及書記官ノ署名ハ之ヲ略ス以下倣之）

三、第二回総会議

千八百九十九年五月二十日第二回総会議

議長スタール閣下
午前十一時開会

議長ハ萬国平和会議ノ感謝状ニ対シ和蘭国皇帝陛下ヨリ議長ニ賜ハリタル左ノ勅電ヲ朗読セリ

朕ハ閣下ノ電報ヲ以テ表シタル感情ニ対シテ閣下及平和会議議員諸氏ニ謝シ此機ニ附シテ重ネテ諸氏ガ朕ノ国ニ来会セラレタルヲ視ス朕ハ萬国平和会議カ上帝ノ保護ニ依リテ閣下ノ至尊ナル皇帝陛下ノ仁慈ナル希望ヲ成就セシメンコトヲ庶幾フ

千八百九十九年五月十九日「ハウスバーデン」ニ於テ
ウィルヘルミナ
（喝采）

次ニ議長ハ和蘭国外務大臣ノ電奏ニ対シ露国皇帝陛下ヨリ同大臣ニ賜ハリタル左ノ勅電ヲ朗読セリ

皇帝陛下ハ最モ誠実ナル謝意ト最モ熟心ナル希望トヲ萬国平和会議ニ致サレンコトヲ閣下ニ望マセラル
我至尊ナル陛下ハ閣下ノ奏電ニ対シ如何ニ深ク感動アラセラレタルカノ趣ヲ無漏閣下ニ通報可致様余ニ命シ玉ヘリ

千八百九十九年五月十九日「聖彼得斯堡」ニ於テ
伯爵ムーラヴィエフ
（喝采）

議長ハ議事ノ開始ニ先チ平和会議ニ於テ討議スヘキ事項ニ付其ノ精神ト一般ノ傾向トヲ約言シ置クヲ必要ト認メ左ノ如ク演述セリ

確実永久ナル平和ノ康福ヲ各国民ニ担保セムカ為ニ最モ有効ナル方法ヲ考究スヘキコトハ八月十二日附ノ廻章ニ掲ケタル所ニシテ即チ吾人ノ議スヘキ事項ノ主眼ナリ

「平和会議」ナル名称ハ各国政府ノ定ムル所ニ先チ既ニ各国民カ自然ノ感覚ニ依リテ本会議ニ附シタルモノニシテ明カニ本会議ノ主タル目的ヲ示スモノナリ故ニ「平和会議」ハ決シテ其ノ帯フ所ノ使命ヲ中廃スヘカラス須ラク其ノ議決ヨリ全世界ノ翹望スル所ノ好結果ヲ発生セシムヘキナリ

露国ノ廻章中ニ掲載シタル提議ヲ各国政府ニ於テ迅速ニ承諾セラレタルハ是レ実ニ各国一般ニ平和ヲ希望スルノ確證ナリ故ニ余ハ此席ニ列セラルル各国ノ代表者ニ請フニ露国政府ノ謝意ヲ各其ノ国ノ政府ニ伝達アランコトヲ以テスルハ余ノ最モ愉快トスル所ナリ

本会議ノ構成其ノモノハ既ニ吾人ノ任務ヲ遂行セントスル精神ノ確乎タル保證ナリ何トナレハ各国政府ヨリ本会議ニ派遣セラレタル代表者ハ或ハ嘗テ其ノ国ノ運命ニ関シテ大ニ尽力シタル政治家或ハ重大ナル事件ニ関与シタル老練ナル外交家ニシテ孰レモ皆国民ノ第一要義ハ平和ノ維持ニ在ルコトヲ熟知スルノ士ナリ加フルニ国際法学上知名ノ学者アリ陸海軍ノ高級将校アリテ各其ノ職務上ノ秀越セル技能ヲ以テ吾人ヲ賛助セラルヘケレハナリ

吾人ノ熟知スルカ如ク外交ノ要務ハ各国間ノ紛争ヲ豫防鎮静シ其ノ競争ヲ調停シ其ノ利益ヲ融和シ其ノ誤解ヲ駆除シ不和ニ代フルニ一致ヲ以テスルニ在リ

然レトモ外交モ亦一般ノ法則ニ従ヒ今日ニ於テハ単ニ個人ノ技倆如何ニ依リテ支配セラルヘキ技術タルニ止マラスシテ国際上ノ紛争ヲ解決スルニ当リ一定ノ條規ヲ有スヘキ一個ノ学問タラントスル傾向ヲ有スト云フコトヲ得ヘシ外交ノ今日着目スヘキ理想的目的モ亦実ニ茲ニ存セリ而シテ本会議ニ於テ右條規ノ二三ヲ制定スルコトヲ得ハ外交ハ実ニ一大進歩ヲナシタルモノト云ハサルヘカラス故ニ吾人ハ特ニ意ヲ用キテ仲裁裁判、居中調停若ハ周旋ノ実行ヲ拡張シ且其ノ手続ヲ制定セント欲ス此ノ意思

ハ之ヲ譬ヘハ吾人ノ任務ノ骨髄吾人ノ尽力ノ基本ニシテ平和的方法ニ依リテ紛争ヲ豫防セントスルモノ即チ是ナリ然レトモ空論ニ渉ルカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラス吾人ハ須ラク出来得ヘキ範囲ニ於テ研究ヲ加ヘ徒ニ理想ニ流ルルカ如キコトナキヲ要ス即チ吾人ハ毫モ将来ノ希望ヲ犠牲ニ供セサルト同時ニ現実ノ範囲内ニ止リテ能ク其ノ深浅ヲ測リ以テ鞏固ナル基礎ヲ据エサルヘカラス

然ラハ即チ現実ノ状況ハ如何試ニ萬国共存ノ有様ヲ観ルニ各国民間ノ有形無形ノ共通利益ハ日ニ月ニ増張シ人類社会ノ各支族ヲ連結スル靱絆ハ益々緊接ノ度ヲ加ヘ仮令一国民ニシテ弧立セント欲スルモ能ハサルナリ実ニ今日ノ各国ハ猶歯車ノ相噛ミテ回転シ其用ヲ為スカ如ク皆同一機関ニ属シテ共同ノ利益ヲ享クルモノナレハナリ又一面ニ於テ各国民間ニ競争ノ存在スルコトハ事実ナリト雖モ其ノ競争ハ現今ニ於テハ寧ロ経済上ノ範域ニ属セリ即チ各国民ノ活動力ハ其ノ本国内ニ在リテハ充分ノ用途ヲ得サルカ故ニ其ノ剰余ヲ外国ニ流出セシメントノ同一ナル必要ニ基ク通商貿易大拡張ノ競争ニ外ナラス此ノ如キ競争ハ之ヲ制裁スルニ正義ノ思想ト博愛ノ情念トヲ以テスルニ於テハ敢テ不可ナラサルナリ

各国民ハ果シテ右ノ如ク幾多ノ連鎖ニ依リテ相結合スルモノトセハ斯ル関係ヨリ生スヘキ結果ヲ研究スルノ必要ハ有ラサル乎若シ二国又ハ数国ノ間ニ意見ノ衝突ヲ生シタルトキハ之ト直接ノ関係ヲ有セサル他ノ諸国モ少ナカラサル影響ヲ蒙ムルニ至ルヘク若シ地球上ノ或ル一角ニ国際上ノ紛争ヲ生スルトキハ其ノ余弊ハ延テ四方ニ波及スヘシ是ヲ以テ第三国ハ右ノ紛争ヲ袖手傍観スルコト能ハスシテ進ンテ調和的態度ヲ執リ其ノ調停ヲ試ミサルヲ得サルナリ是等ノ真理ハ決シテ新規ナルモノニ非ラス古来之ヲ発意シタル幾多ノ学者アリ之ヲ実地ニ適用セントシタル幾多ノ政治家アリシト雖モ其ノ必要ノ大ナル今日ノ如キハ未タ曾テ有ラサル所ナリ故ニ本会議ノ如キ会議ニ於テ右ノ真理ヲ宣言スルニ至レハ其ノ事実ハ実ニ人類ノ歴史上著明ナル一時期ヲ劃スルモノト云フヘシ

各国ハ平和ヲ希望スルコト切ナリ故ニ吾人ハ人道ノ為メ又吾人ニ全権ヲ委任シ且ツ人民ノ幸福ヲ謀ルノ義務ヲ有スル所ノ各政府ノ為メ且又吾人自身ノ為ニモ平和ヲ担保スルニ必要ナル方法ヲ実行スルノ途ヲ確定スヘキノ責務ヲ負フ而シテ右ノ手段中ニハ仲裁裁判及居中調停ヲ挙ケサルヘカラス外交ハ既ニ久シク是等ノ慣行ヲ賞賛シタル

モ未タ其ノ適用方法ヲ特定セス又未タ之ヲ適用スヘキ場合ヲ確定スルニ至ラス是レ吾人カ人道啓発ノ為ニ力ムルモノナリトノ確信ヲ持シ寛厚ナル先例ノ遺徹ヲ踏ミ吾人ノ尽力ヲ集中シテ右ノ高尚ナル事業ヲ成就セシメント欲スル所以ナリ

然リト雖モ吾人ハ空想ニ遠サカランコトニ確ク決心シ且ツ吾人ノ事業ハ如何ニ重大ナルニモセヨ自ラ一定ノ範囲ヲ有スルコトハ吾人ノ等シク承認シタル所ナルヲ以テ現下ノ実況ニ鑑ミルニ吾人ハ又他ノ方面ニ向ヒテモ意ヲ用キサルヘカラス

国民間ニ起ルコトアルヘキ戦争ノ機ヲ絶対的方法ヲ以テ防遏スルコト能ハサリシ場合ニ臨ミ若シ之ニ伴フノ惨禍ヲ軽減スルコトヲ得ハ吾人ハ尚人道ノ為メニ力ヲ尽シタルモノト云フヲ得ヘシ文明諸国政府ハ既ニ右ノ目的ヲ以テ幾多ノ国際條約ヲ締結シ以テ重要ナル進歩ノ階梯ヲ示セリ吾人ハ更ニ歩ヲ進メテ新規ノ條約ヲ協定セサルヘカラス此種ノ問題ヲ討究スルニ付此議場ニ参列セラルル幾多専門家諸君ノ共助ハ誠ニ貴重ナルモノト云フヘシ

然ルニ玆ニ又平和ノ維持ニ関シ頗ル高遠且最モ困難ナル意義ヲ有スル案件アリテ露国政府ノ所見ニテハ同問題ノ講究ハ萬国平和会議ノ議事項目中ニ包含セシメ得ヘキモノト認メタリ他ナシ各国民ノ幸福ノ為ニ謀ルニ愈ゝ増嵩シテ停止スル所ヲ知ラサル軍備ノ上ニ制限ヲ加フルノ必要ナキヤ否ヤノ問題即チ之ナリ実ニ此問題ハ国民ノ利害休戚ヲ以テ任トスル各国政府ノ須ラク意ヲ加ヘテ講究スヘキノ案件ニ屬ス

諸君、以上述フル所ハ吾人ノ議事全体ヲ指導スヘキ主要ノ観念ナリ余ハ確信ス諸君ハ平和ノ鞏固ヲ求メンカ為ニ高潔ニシテ而カモ衷心和協ノ精神ヲ以テ右等ノ事項ノ講究ニ取リ掛カラルルコトヲ、吾人ハ斯ノ如クニシテ果シテ能ク此有益ナル事業ヲ成就スルコトヲ得ハ後代ノ人ハ玆ニ代表者ヲ派遣セラレタル各国君主及元首ニ対シ感謝ノ意ヲ表シテ止マサルナルヘシ（拍手）

諸君、議事進行上ノ便宜ヲ謀リ事務ノ分担ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ余ハ左ノ案ヲ提出シテ諸君ノ承認ヲ需ム

本会議ニ三箇ノ委員会ヲ設ク

第一委員会ハ千八百九十八年十二月三十日附ノ廻章第一、第二、第三及第四ノ諸條ニ関シ権限ヲ有ス

第二委員会ハ同廻章第五、第六及第七ノ諸條ニ関シ権限ヲ有ス

第三委員会ハ同廻章第八條ニ関シ権限ヲ有ス

各委員会ハ各々数箇ノ分科委員会ニ分科スルコトヲ得

本会議ハ右ニ列挙セル事項ノ外他ノ如何ナル問題ヲモ審査スルノ権限ヲ有セサルモノトス疑ハシキ場合ニ於テハ本会議ハ各委員会ノ提出セル議案ハ上記事項ノ範囲内ニ入ルヘキモノナルヤ否ヲ決定スルモノトス

各政府ハ各委員会ニ其ノ代表者ヲ出席セシムルノ権利ヲ有スヘシ

各国ノ第一全権委員ハ自国ノ委員中ヨリ右委員会ニ参列スヘキ委員ヲ指定スヘシ尤モ右指定セラレタル委員ハ二箇若ハ数箇ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ヘシ

総会議ノ為ニ定メタルト同様各国ハ各委員会ニ於テ単ニ一箇ノ投票権ヲ有スルモノトス

各国政府ノ代表者タル平和会議委員ハ各委員会ノ各会議ニ参与スルコトヲ得ヘシ

専門委員及学術委員ハ平和会議ノ総会議ニ列席スルコトヲ得ヘシ

各委員会ハ自ラ其ノ事務局ヲ構成シ及其ノ執務規程ヲ定ムヘシ

本会議ハ右提議ヲ採用セリ

議長ハドカルネベーク君ニ向ヒテ委員ノ組織及其ノ事務ノ分配案ヲ議事ニ附センコトヲ請フド・カルネベーク君左ノ案ヲ朗読ス

各委員会事務局ニ名誉議長若干名議長一名参与議長一名及副議長若干名ヲ置ク議長及参与議長ハ分科委員会ノ議長トナル

ド・ガルネベーク君ハ右ノ規程ニ依リ左ノ如ク委員会事務局ヲ組織センコトヲ提議ス

第一委員会

名誉議長　伯爵ド・ミュンステル（独）
　　ホワイト（米）
議長　ベルネルト（白）
参与議長　ド・カルネベーク（蘭）

第一分科委員会副議長

アブヅラー・パシャー（土）
「サー」ジョン・アルダー（英）
陸軍少将ムーニエ（仏）

議長ハ各委員会ニ参列スヘキ委員ノ氏名ヲ事務局ニ通知セラレンコトヲ各国ノ第一全権委員ニ請求シ又各国委員中未タ其ノ全権委任状ヲ提出セサルモノハ直チニ又未タ之ヲ所持セサル者ハ接受次第平和会議事務局ニ交附セラレンコトヲ請求セリ

○議長、吾人ハ総会議ニ於テモ委員会会議ニ於テモ等シク議事ノ秘密ヲ守ルヘキコトヲ約束シクリト雖モ此ノ重要ナル規約ニ違反スルコトナク且出来得ヘキ範囲内ニ於テ吾人ノ事業ニ対スル公衆ノ好奇心ヲ参酌スルノ必要アルヘキニ依リ余ハ議長ノ監督ノ下ニ新聞通信掛ヲ組織スルノ権限ヲ事務局ニ賦与セラレンコトヲ諸君ニ望ム（議員同意ヲ表ス）

第一回総会議議事録ヲ承認ス

議長ハ次回開会ノ日時ハ書記局ヨリ平和会議各議員ニ通知アルヘキ旨ヲ宣言シ十一時四十五分散会セリ

四、第三回総会議

千八百九十九年五月二十三日第三回総会

議長スタール閣下

正午十二時開会

第二回総会議議事録ヲ承認ス

第二分科委員会副議長

「サー」ジョン・フィッシャー（英）
海軍少将ペフォー（米）
海軍大佐ジーゲル（独）

第二委員会

名誉議長　公爵デ・テヅアン（西）
　　チュルカン・パシャー（土）
議長　伯爵ヴェルセルスハインブ（塊）
　　ド・マルテンス（露）
参与議長　アッセル（蘭）

第一分科委員会副議長

ロート（瑞西）
タウロウ（瑞典）

第二分科委員会副議長

男爵ド・ステンゲル（独）
陸軍少将ツッカーリ（伊）

第三委員会

名誉議長　伯爵ニーグラ　（伊）
「サー」ジュリアン・ポーンスフォート（英）

議長　レオン・ブールジョア　（仏）

副議長　ド・ビル　（丁）
男爵デツールネル・ド・コンスタン（仏）
伯爵デ・マセーゾ　（葡）
メレー・ド・カポスメール　（塊）
ポンピーリー　（蘭）
ツォルン　（独）

右ノ提議ハ採用セラレタリ

次ニド・カルネベーク君ハ左記ノ日時割ニ依リテ委員会ヲ開カンコトヲ発議セリ

月曜日午前十時　第一委員会
同　午後二時　第三同
火曜日午前十時　第二同
水曜日午前十時　第一同

会ハ任意ニ其ノ議事筆記ノ手続ヲ定ムヘキコトニ決定セリ

議長ハ数多ノ書信事務局ニ到来スルカ故ニド・カルネベーク君ヲ議長トスル特別委員会ヲ組織シテ右書信ノ開封ヲ委託センコトヲ提議シ採用セラレタリ

議長ハ各委員会委員ノ氏名表ハ之ヲ印刷シテ次回ノ議事録ニ添附スヘキ旨ヲ議場ニ報告シ午後一時散会セリ

五月二十三日第三回総会議議事録附属書

第一委員会
毎月曜日水曜日及金曜日午前十時

名誉議長　伯爵ド・ミュンステル
ホワイト

議長　ベルネルト

参与議長　ヨンクヘール・ファン・カルネベーク

第一分科委員会副議長　アブゾラー・パシャー

同　午後二時　第三同
木曜日午前十時　第二同
金曜日午前十時　第一同
同　午後二時　第三同
土曜日午前十時　第二同

但シ今週ニ限リ第二委員会ハ木曜日午前十時及土曜日午前十時第一委員会ハ金曜日午前十時第三委員会ハ金曜日午後二時ニ開会スヘシ

ラファロヴィッチ君ハ委員会ノ議事録ニ対スル本会議ノ意見ヲ知ランコトヲ希望セリ氏ハ分解筆記ノ方法ヲ採用シテ書記官ノ担任事務トナシ次回ノ会議ニ於テ同筆記ヲ朗読セシメンコトヲ発議セリ同筆記ハ委員会ノ議事ニ関スル報告書ヲ総会議ニ提出スルニ際シ有用ナルヘシ尤モ右ハ印刷ニハ附セサルモ之ヲ参考セント欲セル委員ノ為ニ備付置キタキモノナリ尚ホ委員会開会ノ初ニ於テ右筆記ヲ朗読スルトキハ前会議議事録ヲ校正スルノ便アルヘシ但シ委員会ヨリ提出セル動機若ハ議案ハ石版摺トシテ各委員ニ配付セラレタシト述フ

右ニ関シビルト男トベルヂマン氏トノ間ニ意見ノ交換アリタル後本会議ハド・マルテンス氏ノ提議ニ依リ各委員

陸軍少将ムーニエ
「サー」ジョン・アルダー

第二分科委員会副議長
海軍大佐ジーゲル
海軍少将ペフォー
「サー」ジョン・フィッシャー

委員

独逸国
男爵ド・ステンゲル
陸軍歩兵大佐ド・グロッス・ド・ジュワルツホップ
海軍大佐ジーゲル

亜米利加合衆国
ホワイト
海軍大佐マハン
砲兵大尉クロジェー

墺地利洪牙利国
陸軍中佐ド・クエパック・ツー・リード・チンメルレーヘン・エ・ハスルブルヒ

海軍少佐伯爵ソルチック

白耳義国　ベルネルト
伯爵ド・グレル・ロジエー

清国　楊儒

丁抹国　ド・ビル
砲兵大佐フォン・シュナック

西班牙国　陸軍大佐伯爵デル・セラーリョ

仏蘭西国　ビウール
陸軍少将ムーニエ
海軍少将ペフォー

大不列顛国　「サー」ジョン・フィッシャー
「サー」ジョン・アルダー
陸軍中佐シー・アコート

希臘国　羅馬尼亜国　ア・ベルデマン
陸軍大佐コアンダ

露西亜国　ド・バシリー
陸軍大佐ジリンスキー
砲兵大佐伯爵バランツェフ
海軍中佐シエーヌ
海軍大尉オヴチニコフ
ラファロヴィッチ

塞爾比亜国　陸軍大佐マシーヌ

暹羅国　コラデオーニドレーリ
エ・ローラン

瑞典諾威国　陸軍大佐ブレンドストレーム
ド・ヒュールハムマル

瑞西国　陸軍大佐キュンツリー

伊太利国　陸軍少将シュヴァリエー・ツッカーリ
海軍大佐シュヴァリエー・ビヤンコ

日本国　陸軍工兵大佐上原勇作
海軍大佐阪本俊篤
男爵林董
本野一郎

盧森堡国

墨西哥国　セニール

和蘭国　将官デン・ベール・ボールチュゲール
海軍大佐タデマ

波斯国　将官ミルザ・リザ・カン（アルファ・ウッドウレー）

葡萄牙国　陸軍大尉ア・ドルネーラス
海軍大佐ア・デ・カスチーリョ

土耳其国　陸軍中将アブヅラー・パシャー
海軍少将メヘメッド・パシャー

勃爾牙利国　陸軍少佐ヘッサプチエッフ

第二委員会

毎火曜日木曜日及土曜日午前十時

名誉議長　伯爵デ・テツアン
チュルカン・パシャー
伯爵ヴェルセルスハインブ

議長　ド・マルテンス

参与議長　アッセル

第一分科委員会副議長　ロート
陸軍少将クウロウ

第二分科委員会副議長　男爵ド・ステンゲル

陸軍少将ツッカーリ

委員

独逸国
男爵ド・ステンゲル
博士ツォルン
陸軍歩兵大佐ド・クロッス・ド・シュワルツホッフ
海軍大佐ジーゲル

亜米利加合衆国
ホワイト
スタンフォード・ニュウェル
海軍大佐マハン
砲兵大尉クロジエー

埃地利洪牙利国
ランマシュ
陸軍中佐ド・クエパック・ツー・リード・チンメルレーヘン・エ・ハスルブルヒ
海軍少佐伯爵ソルチック

白耳義国
陸軍中佐シー・アコート

希臘国

伊太利国
伯爵ツァンニーニ
ポンピーリー
陸軍少将シュヴァリエー・ツッカーリ
海軍大佐シュヴァリエー・ビヤンコ

日本国
本野一郎
陸軍工兵大佐上原勇作
海軍大佐阪本俊篤
有賀長雄

盧森堡国
アイシェン
伯爵ド・ヴィレー

墨西哥国
ド・ミエー
セニール

和蘭国
アッセル

ベルネルト
伯爵ド・グレル・ロジエー
シュヴァリエー・デカン

清国
楊儒
胡惟徳
陸徴祥

丁抹国
陸軍砲兵大佐ド・シュナックド・ビル

西班牙国
デ・ウィーリャ・ウルーチャデ・バゲール

仏蘭西国
陸軍少将ムーニエ
海軍少将ペフォーレノール

大不列顛国
「サー」ジョン・フィッシャー
「サー」ジョン・アルダー
将官デン・ベール・ボールチュゲール
海軍大佐クデマ

波斯国
ミルザ・リザ・カン（アルファ・ウッドウレー）

葡萄牙国
伯爵デ・セリール
海軍大佐ア・デ・カスチーリョ

羅馬尼亜国
ベルヂマン
パピニウ
陸軍大佐コアンダ

露西亜国
ド・マルテンス
陸軍大佐ジリンスキー
近衛砲兵大佐伯爵バランツェフ
海軍中佐シェーヌ
海軍大尉オヴチニコフ

塞爾比亜国
ミヤトヴィッチ

博士ヴェリコヴィッチ

遥羅国
コラヂオーニ・ドレーリ
エ・ローラン

瑞典諾威国
陸軍少将タウロウ
陸軍大佐ブレンドストレーム

瑞西国
博士ロート
オヂエー

土耳其国
ヌーリー・ベー
陸軍中将アブヅラー・パシャー
海軍少将メヘメッド・パシャー

勃爾牙利国
博士スタンショッフ

第三委員会
毎月曜日水曜日及金曜日午後二時

名誉議長
伯爵ニーグラ

「サー」ジュリアン・ポーンスフォート

議長
レオン・ブールジョア

副議長
ド・ビル
男爵デツールネル・ド・コンスタン
伯爵デ・マセーヅ
メレー・ド・カポスメール
ポンピーリー
ツオルン

委員
独逸国
博士ツォルン
陸軍歩兵大佐ド・クロッス・ド・シュワルツホッフ
海軍大佐ジーゲル

亜米利加合衆国
ホワイト
「オノレーブル」セッス・ロウ
ホルス

墺地利洪牙利国
伯爵ド・ヴェルセルスハインブ
オコリクサニー・ドコリクスナ
ド・メレー・ド・カポスメール

白耳義国
伯爵ド・グレル・ロジェー
ジュヴァリエー・デカン

清国
楊儒
胡惟徳
陸徴祥

丁抹国
侍従ド・ビル

西班牙国
公爵デ・テツアン
デ・ウィーリャ・ウルーチヤ

仏蘭西国
ブールジョア
男爵デツールネル・ド・コンスタン
ルノール

大不列顛国
「サー」ボーンスフォート
「サー」ヘンリー・ホワード

希臘国
デリアンニ

伊太利国
伯爵ニーグラ
伯爵ツァンニーニ
ポンピーリー

日本国
本野一郎
男爵林董
有賀長雄

盧森堡国
アイシェン
伯爵ド・ヴィレー

墨西哥国
ド・ミエー
セニール

和蘭国

ヨンクヘール・ファン・カルネベーク
アッセル
ラヒュセン

波斯国
将官ミルザ・リザ・カン（アルファ・ウッドウレー）

葡萄牙国
ドルネーラス・ヴァスコンセーロス

羅馬尼亜国
ベルゼマン
パピニウ

露西亜国
ド・スタール
ド・マルテンス
ド・バシリー
ラファロヴィッチ

塞爾比亜国
ミヤトヴィッチ
博士ヴェリコヴィッチ

遥羅国

ピア・スリヤ
コラゾオーニ・ドレーリ
ローラン

瑞典諾威国
男爵ド・ビルト
コノウ

瑞西国
博士ロート
陸軍大佐キュンツリー
オゼエー

土耳其国
チュルカン・パシャー
ヌーリー・ベー

勃爾牙利国
博士スタンショッフ

五、第四回総会議

千八百九十九年六月二十日第四回総会議

議長　スタール閣下

午後四時開会

五月二十三日第三回総会議議事録ヲ承認ス

議長ハ本日ノ議事日程ハ第一ニ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルヲ目的トスル規定ニ関スル第二委員会報告ノ審査次ニ同委員会ヨリ本会議ニ提出シタル條規採決ノ二件ナルコトヲ報ス

伯爵デ、マセーヅ君ハ敢テ議事日程第一ノ議事ヲ延期セント迄主張スニハアルラサルモ本会議ニ提出セラレタル十箇ノ條規ハ現ニ第二委員会ヨリ分科委員会ニ付托シ在ルモノナレハ本会議ニ於テ之ニ対シ確定ノ決議ヲナスヘキモノニアラスト宣言ス

ド、マルテンス君ハ曰ク第二委員会ハ既ニ十箇ノ條規ヲ確然採用シタリ彼ノ第一分科委員会起草委員ニ送付シタルハ海軍大佐マハン君ノ提出ニ係ル追加案ナリト

伯爵デ、マセーヅ君ハ分科委員会ノ決議如何ニ由リテハ既ニ採用シタル條文ニ変更ヲ来スコトアルヤモ計リ難キヲ以テ其ノ場合ニ於テハ本会議ハ該條規ヲ再ヒ審議セサル可カラサルニ至ルヘシト答ヘ且決議ノ如何ニ拘ハラス曩ニ氏カ第二委員会会議ニ於テ為シタル左ノ宣言ヲ玆ニ再陳スルノ必要アリト附言セリ

「葡萄牙国第一委員伯爵デ、マセーヅハ此ノ宣言ヲ議事録ニ掲載セラレンコト並ニ此ノ宣言ヲ今正ニ朗読ヲ経テ討議ニ附セラレタル十箇條ノ採択ニ対スル一般ノ保留ト認メラレンコトヲ第二委員会ニ請求シタル後宣言シテ曰ク

我政府ノ訓令ハ只ムーラヴ〻エフ氏ノ廻章ニ掲ケタル一般ノ原則ニ賛同シ又等シク一般ノ形式ニ因リテ右原則ノ応用ヲ承諾センコトヲ許シタルニ過キス而シテ之ヨリ以上ヲ命令スル能ハサルコト勿論ナルヲ以テ右十箇條ノ学説ニ対シテ余カ無言ノ間ニ表シタル賛成ハ余ノ全権委任状カ余ニ表決スルコトヲ許シタル権能ノ範囲内ニ於テモ（本国政府ノ承認ヲ條件トシテ賛否ヲ表スルノ権能）決シテ確定ノ性質ヲ有スルモノニアラス而シテ葡萄牙国皇帝陛下ノ政府カ本会ノ採用シタル右ノ條文ヲ知悉シ其ノ為特ニ訓令ヲ余ニ与ヘタル後ニアラサレハ之ニ確定ノ性質ヲ有セシムルコト能ハス」

議長ハデマセーヅ伯ノ宣言ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ認許ス

○議長　余ハ第二委員会カ共同ノ良意ノ明確ナル一発現ト認ムヘキ好結果ヲ他ノ委員会ニ先チテ此ノ総会議ニ提出セラレタルヲ祝スルニ於テハ必ス全会一致ノ賛同ヲ得ヘ

シト信ス、ルノール君カ君ノ卓越セル報告書中ニ於テ巧妙ニ述ヘラルルカ如ク吾人ハ相対抗スル利益ヲ調和シ「ジェネヴァ」條約カ陸戦ニ関シテ定メタル博愛慈仁ノ恵ヲ海戦ニモ及ホササルヘカラストノ宿望ヲ満足セシムヘキ提案ヲ眼前ニ控ユルモノナリ余ハ諸君ニ向テアッセル君カ其ノ透逸ナル材幹ヲ以テ能ク分科委員会ノ議事ヲ統裁セラレタルコトニ対シ深ク吾人ノ謝意ヲ表センコトヲ請ハサルヲ得ス又報告ノ任ニ当ラレタルルノール君カ條文ノ明確ナル解釈ヲ吾人ニ与ヘラレタルハ吾人ノ感謝ニ堪ヘサル所ナリ

アッセル君ハ総会議カ本案ニ就テ表決ヲナスカ為ニハ単ニ委員会ニ於テ可決シタル條文ヲ朗読スルヲ以テ足レリト信セリ又氏ハ伯爵デマセーヅ君ノ注意ヲ与ヘタル次第ニ関シ説明シテ曰ク委員会ハ海軍大佐マハン君ノ提出ニ係ル三箇條ノ追加案ヲ起草委員ニ附托スルコトヲ議決スルニ当リ此総会議ニ提出シタル十箇ノ條文ハ其ノ全部ヲ維持スルコトニ同意シタリ右追加案ヲ附托シタルカ為ニ十箇ノ條文ニ変更ヲ来スコトハ殆ント之レ無カルヘシト雖モ亦必無ト云フコトヲ得ス

萬一変更ヲ来シタル場合ハ新規ノ條文ヲ後日総会議ノ議

ニ附スルノ外ナシト雖モ本日ノ総会議ニ於テ第二委員会ノ提案ヲ承認スルニ及ハスシテ散会スルハ遺憾トスル所ナリト

次テアッセル君ハ第二委員会ニ於テ可決シタル十箇ノ條文ヲ朗読ス

第一條　軍用病院船即チ傷者病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ製造シ又ハ設備スル船舶ニシテ戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ交戦中之ヲ尊重スヘク捕獲スルヲ得サルモノトス

前項ノ船舶ハ中立港内ニ碇泊スルコトニ関シテモ亦軍艦ト同一視セラルルコトナシ

第二條　一個人又ハ公認セラレタル救恤協会ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ其ノ所属交戦国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ敵国ニ通告セラレタルモノハ亦均ク尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス

前項ノ船舶ハ其ノ艤装中及最後出発ノ際当該官庁ニ於テ監督シタルコトヲ證明スル文書ヲ携帯スヘシ

第三條　中立国ノ一個人又ハ公認セラレタル協会ノ費用ヲ

以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ若シ其ノ所属中立国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス

第四條　第一條、第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ交戦国ノ傷者病者及難船者ヲ其ノ国籍ノ如何ニ関セス救護扶助スヘシ

各国政府ハ右船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコトヲ約定ス

（右船舶ハ決シテ戦闘者ノ運動ヲ妨碍スヘカラス）

右船舶ハ戦闘中ト戦闘後トヲ問ハス自ラ其ノ危険ノ責ニ任シテ行動スルモノトス

交戦国ハ右船舶ニ対シ監督及臨検捜索ヲ為スノ権利ヲ有シ助力ヲ拒絶シ其ノ離隔ヲ命令シ其ノ航行スヘキ方向ヲ示命シ且其ノ船中ニ監督員ヲ乗込マシメ若シ重大ナル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ

交戦国ハ病院船ニ下シタル命令ヲ成ルヘク該船ノ航泊日誌ニ記入スヘシ

第五條　軍用病院船ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ緑色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ赤色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

救護用ニ供セラルヘキ小船類及前二項ノ船舶ニ附属スル端舟ハ各前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スヘシ

病院船ハ総テ其ノ国旗ト共ニ「ジェネヴァ」條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケテ之ヲ標識スヘシ

第六條　中立国ノ商船遊船又ハ短舟ニシテ交戦国ノ傷者病者若ハ難船者ヲ搭載シ若ハ収容スルモノハ此ノ輸送ノ事実ノ為ニ捕獲セラルルコトナシ

然レトモ中立違犯ノ所為アルトキハ捕獲ヲ免カレサルモノトス

第七條　総テ捕獲セラレタル艦船内ニ在リテ教法医療及看護ニ従事スル人員ハ侵スヘカラサルモノニシテ俘虜ト為スコトヲ得ス此等ノ人員其ノ艦船ヲ退去スルトキハ各自ノ私有ニ属スル物品及外科用具ヲ携帯ス

此等ノ人員ハ必要アル限リハ引続キ其ノ職務ニ従事スヘク首席指揮官ニ於テ妨ナシト認ムル時ニ至リ退去スルコトヲ得

交戦国ハ其ノ権内ニ陥リタル此等ノ人員ニ其ノ給料ノ全額ヲ得セシムルコトヲ要ス

第八條　凡ソ艦船内ニ在ル海陸軍人ノ傷者病者ハ其ノ何レノ国籍ニ屬スルニ論ナク捕獲者ニ於テ之ヲ保護介抱スヘシ

第九條　交戦国ノ一方ノ難船者傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ権内ニ陥リタル者ハ俘虜タルヘク其ノ事情ノ如何ニ依リ或ハ之ヲ抑留シ或ハ之ヲ自国ノ一港又ハ中立国ノ一港ニ送致シ或ハ之ヲ其ノ敵国ノ一港ニ送還スルトモ一ニ後者ノ決スル所ニ従フ右最終ノ場合ニ於テ其ノ本国ニ送還セラレタル俘虜ハ交戦中再ヒ服役スルコトヲ得ス

第十條　中立国地方官庁ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタル難船者傷者又ハ病者ハ中立国ト交戦国トノ間ニ反対ノ取極ナキ限リハ再ヒ戦闘ニ従事スルコト能ハサラシムル為メ右地方庁ニ於テ之ヲ抑留スヘシ

医療及留置ノ費用ハ其ノ難船者傷者又ハ病者ノ所屬国ニ於テ之ヲ負担スヘシ

○伯爵ド・グレル・ロジエー君　第十條第二項ヲ「医療ノ費用及場合ノ生シタルトキハ留置ノ費用ハ云々」ト修正スル方然ルヘシト述フ

○報告委員ルノール君　右ノ修正説ヲ駁シ第十條ノ原文ヲ維持セムコトヲ議場ニ望メリ議長ハ十箇條ノ提案ヲ可決セムコトヲ議場ニ諮リタルニ本会議ハ之ヲ採用セリ

○日本国委員本野一郎君　左ノ如キ宣言ヲ為セリ

第二委員会第一分科委員会ノ千八百九十九年五月三十日ノ会議ニ於テ余ハ日本国委員ノ名ニ於テ千八百六十四年ノ「ジェネヴァア」條約ノ規定及千八百六十八年ノ追加條約ノ規定ニ一ノ缺点アルコトヲ分科委員会ニ注意スルノ栄ヲ有セリ

陸軍ノ傷者病者竝ニ病院野戦病院及降伏ノ城市ハ共ニ「ジェネヴァア」條約ニ依リテ保護セラルルモノナリ

千八百六十八年ノ追加條約ハ或ル程度ニ於テ病院船及其ノ乗組員竝ニ該船内ニ在ル傷者病者及難船者ヲ保護スルヲ目的トナシタルモノナリ然レトモ此ノ規定ハ其ノ大体ノ意義ヲ案スルトキハ独リ海戦ノ犠牲トナリタル者ニ応用スヘキモノノ如シ

日本帝国政府ハ人類ノ利益上陸軍病院野戦病院及降伏ノ城市ニ対シテ「ジェネヴァ」條約カ与ヘタル保護ハ陸軍ノ傷者及病者ヲ海路ニ依リテ運搬スルノ任ニ当レル病院船ニモ亦之ヲ及ホスヲ必要ナリト思考ス

余カ本国政府ノ訓令ニ基キ第二委員会第一分科委員会ノ五月三十日ノ会議ニ於テ一ノ適当ナル規定ヲ本案中ニ挿

入セラレンコトヲ冀望スル旨ヲ陳述シタルハ之カ為ナリ

第二委員会第一分科委員会ハ同上ノ会議ニ於テ吾等ノ冀望ヲ不問ニ措カサルニ決シルノール君ハ第二委員会ニ於テ調査シタル事項ニ関シテ此ノ総会議ニ提出セラレタル卓越ナル報告書ニ於テ本案ヨリ生スヘキ改良ノ効力ヲ左ノ如ク説明セラレタリ

委員会ヨリ総会ノ議ニ附シタル規定中ニハ海戦ノ犠牲ニアラサル傷者病者及難船者ノコトヲ掲ケタリト雖モ此ノ「海戦ノ犠牲ニアラサル」ノ語ハ多クノ場合ニ於テハ其ノ当ヲ得タルモノトスルモ必スシモ総テノ場合ニ応用シテ常ニ其ノ当ヲ得タルモノト云フ能ハサルヘキニ依リ之ヲ條文中ヨリ取除クヲ要スヘシ本案ニ掲ケタル規則ハ苟モ船舶内ニ傷者及病者アルトキハ其ノ傷ハ陸上ニ於テ負ヘルカ海上ニ於テ負ヘルカ又其ノ病ハ陸上ニ於テ発シタルカ海上ニ於テ発シタルカヲ問ハスシテ一般ニ之ヲ適用スヘキモノナリ故ニ若シ或ル船舶カ陸軍ノ病者及傷者ヲ海路運搬スルノ任ニ当ルトキハ該船舶病者及傷者ハ必ス本案ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ之ト均シク若シ海軍ノ傷者及病者上陸シテ野戦病院又ハ病院内ニ在ルトキモ亦「ジェネヴァ」條約ノ規定ヲ之ニ応用スヘキコト勿論ナリ

以上ノ説明ハ分科委員会ニ提出セラレタル意見ヲ充分満足セシムルモノト信スルニ依リ本件ニ関シ特別ノ規定ヲ設クルノ必要ナカルヘシト認定セリ

第二委員会ノ報告ニ掲ケタル右ノ説明ハ日本帝国政府カ表彰シタル冀望ニ十分ノ満足ヲ与ヘタリ

故ニ前記ノ事項ニ関スル本案ノ條文解釈ニ関シ将来ノ誤解ヲ避ケムカ為メ余ハ日本国全権委員ノ名ニ於テ平和会議ノ議事録中ニ前記報告書ノ一節ヲ掲載セラレンコトヲ茲ニ請求スルノ栄ヲ有ス

○議長　本野一郎君ノ宣言ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ認許シ且其ノ審査ヲ最終決議書編纂ノ任ニ当ル所ノ委員ニ附托スヘシト告ク

○デリアン君　左ノ如キ宣言ヲ為ス

余ハ本日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルノ件ニ関スル報告及條文ノ審査ニ参与シタリト雖モ余ハ我政府ニ右ノ條文ヲ交付シテ之ニ調印スルノ許可ヲ受クルニアラサレハ後日編纂セラルヘキ本会議ノ一般決議書ニ調印スルコトヲ得ス

○土耳其国委員　左ノ如キ宣言ヲ為ス

土耳其国委員ハ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルノ件ニ関シテ既ニ採決ヲ経タル條文ヲ掲載シタル本会議ノ一般決議書ニハ之ヲ本国政府ニ交付シテ其ノ訓令ヲ受ケタル後アラサレハ調印スルコトヲ得ス

議長ハ右二箇ノ宣言ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ認許ス

○議長　議事日程第二ニハ本会議ノ決議ニ成例ノ形式ヲ与フルコト即チ慣行ノ方式ニ依リテ必要ノ文書ヲ起草スルノ任ニ当ルヘキ委員ヲ任命スルコトヲ豫期シアル旨ヲ述ヘ伯爵ニーグラ閣下ヲ委員長トシアッセル・デカン・ド・マルテンス・ルノール・男爵ド・ステンゲルノ諸氏ヲ委員トシ露国専門委員ラファロヴィッチ君ヲ書記官長トシテ右委員ヲ組織センコトヲ提議ス

本会議ハ右議長ノ選択ヲ承認シ

午後四時三十分散会セリ

六月二十日第四回総会議議事録附屬書

第二委員会報告書

第二委員会ハ起草委員会ノ報告ニ基キ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルヲ目的トスル諸條規一篇ヲ可決シタルヲ以テ其ノ各條ノ趣旨ヲ説明センカ為ニ本報告ヲ添ヘカ吾人ノ提案ニ基キテ従来ノ事業ヲ玆ニ終結シ本案ヲ採用シテ之ヲ国際條約ノ形ニ変シ以テ本事業ノ知已タルヲ表明セラレンコトヲ切望ス

吾人ノ方針トシタル概念ハ左ノ如シ

先ツ調査ノ範囲ヲ主要ノ原則ニ限リ各国カ其ノ利益又ハ慣習ニ顧ミテ自ラ決定スヘキ組織及成規ノ細目ニ渉ルコトヲ避ケタリ例ヘハ吾人ハ国際的観察上病院船ノ法律上ノ地位如何ハ之ヲ決定シタルモ其ノ病院船ノ組織ハ如何、国有船舶又ハ救恤協会所屬船舶ノ任務ハ如何、一個人カ戦争中其ノ船舶ヲ病院船ノ任務ニ服セシムルコトヲ許容スヘキヤ等ノ問題ハ各国政府ノ各自ニ講究スヘキ案件ニ屬シ到底一様ノ解決ヲ下シ得ヘキニアラス何トナレハ国ニ依リテ私設慈善事業ノ共助ニ大小アルカ如ク各国ノ事情相同シカラサレハナリ其ノ他人道ノ命スル所ヲ参酌スルト同時ニ戦闘上ノ必要ヲ忘却スルコトヲ避ケタリ縦令疑モナク寛仁ノ至情ヨリ出テタル命令ナリトスルモ交戦国カ其ノ行動ヲ防碍セラルルモノトシテ往々之ヲ非認スルカ如キ規定ハ之ヲ排除スルニ如カス蓋シ遂ニ死文ニ終ルヘキ規則ヲ採用スルモ多ク人道ニ稗益スル所ナキノミナラス却テ約束尊重ノ観念ヲ薄弱ニスル余弊アルヘシ故ニ如何ナル場合ニ於テモ実行シ得ヘキ義務ヲ命スルニ止メ以テ交戦者ノ為ニ必要ノ余地ヲ存シ濫ニ徒ラニ救護事業ヲ防碍スルナカランコトヲ希望ス

吾人ノ制定スヘキ規定ハ三種ノ観念ノ外ニ出テス則チ

第一　救護事業ニ使用セラルル船舶（第一条又第六条）

第二　慈善事業ニ従事スル人員（第七条）

第三　傷者、病者又ハ難船者

ノ地位ヲ規定セントスルニ在リ

船舶

実際ニ於テ永久又ハ一時ノ救護事業ニ使用セラルル船舶中其ノ性質甚タ異ナルモノアルヲ以テ之ヲ識別スルコトヲ要ス

軍用病院船千八百六十八年「ジェネヴァ」会議ニ於テハ此種ノ船舶ニ与フヘキ地位ニ関スル観念ノ変更ヲ見タリ則チ一定ノ条件ノ下ニ之ニ局外中立ノ恩典ヲ与フルコトトシ結局追加第九条ヲ採用スルニ決セリ同条ニ依レハ軍用病院船ハ其ノ材料ニ関シテハ依然戦時法規ニ服従シ捕獲者ノ所有物ト為ルヘシト雖モ捕獲者ハ戦争ノ継続中之ヲ其ノ特定任務以外ニ転用スルコトヲ得ス」千八百六十九年以来仏国政

之ヲ本会議ノ議ニ付セントス

（註）　右起草委員会ハ海軍中将フィッシャー・海軍中佐シェーヌ・海軍大佐ジーゲル・及ルノール教授ヨリ成リルノール君ヲ以テ報告者トス又陸軍中佐シャルル・ア・クール及海軍大尉オヴチニコフモ副員トシテ同委員会ノ事業ニ参与シタリ

第二委員会（第一分科委員会）ハムウラヴィエフ伯ノ廻章中第五点及第六点ノ審査ヲ委託セラレタリ而シテ委員会ハ千八百六十四年「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルノ最モ望マシキコト並一千八百六十八年ノ追加諸條ヲ基礎トシテ採用スルノ適当ナルコトハ異議ナク之ヲ認容セリ蓋シ右等ノ諸條ハ其ノ調印ノ翌日ヨリ早ク既ニ幾多ノ批難ヲ招キ爾来三十年間深遠ナル講究ヲ経タルモノナルカ故ニ今日ノ事業ハ右ノ批難ニ鑑ミ右ノ講究ヲ利用シ以テ相対抗スルノ利益ヲ調和シ而シテ彼ノ最有力ナル個人及団体ノ発表シタル宿昔ノ希望即チ「ジェネヴァ」條約カ陸戦ノ為ニ設定シタル博愛仁慈ノ恵ヲ海戦ニモ及ホササルヘカラストノ希望ヲ満足セシムヘキ一案ヲ制定スルニ在リ吾人ハ思ヘラク輿論ノ熟望シテ已マサル本案ノ準備的事業ハ既ニ充分ナリ今ヤ之ヲ終結スヘキノ秋ニ達セリト故ニ吾人ハ本会議

府ハ次ノ規定ヲ加ヘテ第九条ヲ補正センコトヲ請求セリ

「但戦闘ニ適セサル船舶ニシテ政府カ平時ニ於テ海上病院トシテ使用スル旨ヲ公然宣言シタルモノハ戦時ニ於テモ其ノ武装カ単ニ其ノ特定用途ニ使用セラルル限リ該船舶ノ材料幷人員ハ完全ナル局外中立ノ利益ヲ享受スルモノトス」

英国政府ハクラレンドン伯ヨリツウル・ドーヴェルギュ公ニ宛テタル千八百六十九年一月二十一日附公簡ヲ以テ右ノ見解ニ同意ヲ表シタリ

委員会ハ右ノ補充規定ト共ニ第九条ヲ維持スルノ必要ナキモ別ニ単独ナル一般規定ヲ設クヘシトノ意見ヲ抱キ千八百六十九年ニ提出セラレタル制度ヲ採用シタリ、蓋シ濫用ノ弊ヲ防遏スルカ為ニ必要ノ注意ヲ加ヘ以テ前記ノ船舶ヲシテ戦争ノ変移シ易キ行動ノ犠牲タルヲ免カレシムルコト極メテ必要ナリト思料シタレハナリ

故ニ委員会ハ傷者、病者及難船者ヲ「救護スル唯一特定ノ目的ヲ以テ国家ニ於テ建造シ又ハ設備スル」船舶ハ之ヲ捕獲権外ニ置クヘキコトヲ提議ス各国カ其ノ救護事業ニ使用スヘキ船舶ヲ建造シ又ハ設備スルハ其ノ随意ニシテ固ヨリ一定ノ式ノ採用ヲ命シ得ヘキモノニアラス要ハ該船舶ハ単ニ病院船タルノ性質ヲ有スルニ止リ従テ傷者、病者及看護

人ノ用ニ供セラレサル物品ニシテ却テ敵対行為ニ利用セラレ得ヘキ物品ハ一モ之ヲ積載スルコトヲ得サルノ一点ニ存ス

各交戦国ハ特殊ノ免許ヲ受ケタル敵国ノ船舶ヲ知ルコトヲ要スルカ故ニ右船舶ノ名称ハ公然之ヲ通知セサルヘカラス

如何ナル時期ニ於テ右ノ通知ヲ為ササル可カラサル乎交戦国カ敵対開始ノ瞬間ニ於テ其ノ病院船ノ名称ヲ互ニ相通知スヘキハ当然ナリト雖モ同時機ニ於ケル通知ノ外ハ之ヲ承認スルコト能ハストスルハ酷ニ過キタリ何トナレハ戦争不慮ニ出テ交戦国ハ予メ病院船ヲ建造シ又ハ設備シ居ラサルコトモアルヘク或ハ戦争ノ情勢甚タ拡大シテ現存ノ病院船ニテハ不足ヲ告クルコトモアルヘシ然ルニ交戦国ニ向ヒ戦争ノ必要ニ応シテ救護事業ヲ拡張スルカ為ニ新タニ船舶ヲ設備スルノ権能ヲ禁止スルハ酷ニアラサル乎故ニ吾人ハ敵対ノ進行中ト雖モ右ノ通知ヲ為シ得ヘキモノトシ唯其ノ新事業ニ宛テタル船舶ノ使用前ニ之ヲ為スヘキモノト為セル所以ナリ

軍用病院船名ノ通知ハ固ヨリ交戦国ノ利害ニ関係ヲ有シ且中立国ニモ影響ヲ及ホスモノトス何トナレハ下ニ説明スルカ如ク右船舶ハ中立国港内ニ於テ特別ノ地位ヲ有スヘキヲ

以テナリ故ニ交戦国ハ右船舶ノ名称ヲ其ノ官報又ハ公文彙纂ニナリトモ挿入シテ之ヲ中立国ニ通知センコト吾人ノ希望スル所ナリ

船舶ニ一旦病院船タル任務ヲ与ヘテ其ノ旨ヲ敵国ニ通知シタル以上ハ戦争ノ継続中之ヲ変更スルコトヲ得サルハ言ヲ俟タス否ラサレハ濫用ノ弊ヲ生スルコトアルヘシ例ヘハ一定ノ場処ニ安全ニ到着セシムルノ目的ヲ以テ或船舶ニ与フルニ病院船タルノ資格ヲ以テシ愈〻目的地ニ到着ノ上ハ之ヲ敵対行為ニ使用スヘキ船舶ニ変更スルカ如キ是ナリ

軍用病院船ニ与ヘタル免許ヲ指称スルニ当リ中立者及局外中立ノ語ヲ用ユルコトヲ避ケタリ右ノ二語ハ自体明確ヲ缺キ居ルノミナラス既ニ久シク至当ノ批難ヲ受ケ分科委員会ニ於テモ亦同様ノ批難ヲ招キタリ故ニ吾人ハ単ニ右船舶ハ尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノナリト云フニ止メンコトヲ提議ス之ニ依リテ吾人ハ中立ナル抽象的観念ニ伴フヘキ二個ノ主要ナル結果ヲ精確ニ表明スルコトヲ得ヘシ

先ツ右ノ船舶ハ之ヲ攻撃スルコトヲ得サルモノトス其ノ外形上病院船タルノ性質ヲ表明スルカ故ニ右等ノ船舶ニ対シテハ敵国ノ軍艦ニ対シテ使用スルコトヲ得ヘキ手段ヲ応用スルコト能ハサルモノニシテ其ノ趣旨ハ千八百六十四年ノ

条約第一条ニ於テ野戦病院及陸軍病院ハ交戦者之ヲ尊重セサル可カラスト規定シタルニ同シ右ノ如ク病院船ハ之ヲ尊重スヘキコトヲ保障スト雖モ下ニ述フルカ如ク（第四条）右船舶ニ対シテ取ルヘキノ注意ヲ排斥スルモノニアラス

次ニ又軍用病院船ハ敵国ノ一切ノ船艦ニ当然適用セラルヘキ捕獲権ヲ免ルルモノトス是レ畢竟両交戦国ニ共通ナル人道ノ高尚ナル利益ノ為メニ此ノ確定ノ権利ヲ拋棄スルモノナリ

以上ハ交戦国相互ノ関係ニ就キテ観察ヲ下シ軍用病院船ノ為ニ特殊ノ地位ヲ設ケ之ニ対シテハ敵国軍艦ト異リタル取扱ヲ為スヘキ旨ヲ定メタルモノナリト雖モ右船舶ト中立港トノ関係ニ就テモ亦同一ノ思想ヲ拡張スルノ必要ヲ認ム否ラサレハ中立港ノ官庁ハ右等ノ病院船ヲ其ノ所属交戦国ノ軍用船ト一様ニ看做ス可シト主張シ其ノ碇泊期間、出帆及給養ノ条件ヲ真ノ軍艦ト同様厳密ニ制限セント試ミルコトアルヘシ是レ不条理ナリ故ニ病院船ト中立港官庁トノ間ニ於ケル一切ノ紛議並交戦国ヨリ中立国ニ対スル一切ノ苦情ヲ避ケンカ為ニ明確ナル規則ノ必要ヲ見ル而シテ右ニ掲ケタル観念以外ニ在リテハ軍用病院船ハ軍艦ト同様ニ取扱ハ

ルヘキコト勿論ニシテ治外法権ノ利益ニ関シテ特ニ然リトス

依テ軍用病院船ノ地位ハ左ノ如ク規定スルコトヲ得ヘシ

軍用病院船即チ傷者病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ製造シ又ハ設備スル船舶ニシテ戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ交戦中之ヲ尊重スヘク捕獲スルヲ得サルモノトス

前項ノ船舶ハ中立港内ニ碇泊スルコトニ関シテモ亦軍艦ト同一視セラルルコトナシ（第一条）

国有船舶ニアラサル交戦国病院船

追加条約第十三条ハ救恤協会ノ費用ヲ以テ艤装シタル病院船ノ件ニ関ス吾人ハ二三ノ修正ヲ加ヘテ右ノ規定ヲ存置シタリ該規定ハ各交戦国ノ公認シタル協会ニ関スルモノナレトモ第十三条ノ文面ハ漠然ニ失シ意義曖昧タルヲ免カレス吾人ハ右等船舶ノ地位ヲ明確ニセンカ為ニ前条ニ関シテ述ヘタルト同一ノ理由ニ依リ中立ノ語ヲ用ユルコトヲ避ケタリ

次ニ交戦国ヨリ交戦国ニ為スヘキ通知ニ関シテハ軍用病院船ニ於ケルト同一ノ規定ヲ設ケタリ是レ亦同一ノ理由ニ基クモノトス

吾人ハ第十三条ニ有益ナル補充ヲ為セリ吾人ハ一個人カ救護事業ニ充テント欲シタル船舶モ軍用病院船ト同様ノ保障ヲ具備スル以上ハ之ト同様ノ免除ヲ享有スヘキモノト思料セリ蓋シ是等ノ船舶ハ往々貴重ナル材料ニシテ現ニ諸国ニ於ケル遊船ノ所有者ハ戦争ノ場合ニ於テハ救護事業ノ為ニ右遊船ヲ使用スヘキ旨ヲ表明シタリ

一個人又ハ公認セラレタル救恤協会ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ其ノ所属交戦国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ敵国ニ通告セラレタルモノハ亦均ク尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス

前項ノ船舶ハ其ノ艤装及最後出発ノ際当該官庁ニ於テ監督シタルコトヲ証明スル文書ヲ携帯スヘシ（第二条）

中立国病院船

中立国ハ海戦ニ於ケル救護事業ニ干与スルニ至ルヘキヤ及ヒ其ノ程度如何ハ未来ノ問題ニ属ス吾人ハ只右ノ干与ニシテ充分ノ保障ヲ為スニ足ルヘキ条件ヲ具備スルニ於テハ之ヲ正常ト認ムルニ止ムヘシ中立国病院船ハ其ノ政府カ事実

ヲ知悉シテ専ラ病院船トシテ使用スヘキ性質ノモノタルコトヲ確認シタル上右船舶ニ交付シタル官ノ命令ヲ帯有シ且ツ其ノ船名ヲ交戦国ニ通告セサルヘカラス

中立国病院船ハ交戦国ノ一方ノ直轄ニ属スヘキモノナルヤノ問題起リタルモ吾人ハ審議ノ末若シ斯ク決定スルトキハ頗ル重大ナル難問ヲ惹起スルニ至ルヘキコトヲ発見セリ右等ノ船舶ハ孰レノ国ノ国旗ヲ掲揚スヘキヤ中立国ノ官命ヲ帯有スル船舶カ一方ノ交戦国ノ海軍ニ併合セラルルノ事実ハ既ニ中立ノ観念ニ戻ル所アラサル乎依テ吾人ハ右等船舶ノ行動ヲシテ其ノ最初官命ヲ受ケタル政府ノ管轄ニ属セシムルト同時ニ後ニ掲ケタル第四条ノ条件ニ依リ交戦国ノ権力ニ服従セシムルヲ以テ十分ナルヘシト認メタリ

中立国ノ一個人又ハ公認セラレタル協会ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ若シ其ノ所属中立国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス（第三条）

各種病院船ニ関スル通則

上記ノ船舶ニ附与シタル免除ハ右船舶ノ為ニ設ケタルモノニアラスシテ右船舶カ進ンテ救護ノ任ニ当ラントスル戦時遭難者ノ利益ヲ目的トシタルモノナリ而シテ此利益ハ縦令如何ニ尊重スヘキモノナリトスルモ之カ為ニ戦争其ノモノノ目的ヲ没却シ去ルヘキニアラス此二重ノ観念ハ即チ左記二段ノ規定ヲ説明スルモノナリ

第一ニ救護ノ目的ハ決シテ専ラ利己的ニ流ルヘカラス病院船ハ須ラク戦争ノ犠牲ニ対シ其ノ国籍ノ如何ヲ問ハス等シク救助ヲ与フヘキナリ此事ハ啻ニ交戦国ノ雙方ニ慈善的援助ヲ与フルコトアルヘキ中立国病院船ニ適応スヘキノミナラス併セテ交戦国病院船ニモ亦均シク適応スヘキモノトス病院船ハ斯クノ如クニシテ始メテ其ノ免除ヲ得タル本旨ニ負カサルモノト云フヘシ、各交戦国カ其ノ敵国ニ属スル病院船ニ対シテ捕獲ノ権利ヲ抛棄スルハ一ニハ慈善ノ思想ニ出ツト雖モ亦一ニハ右ノ病院船カ場合ニ依リテハ敵国ノ海兵ニ対スルカ如ク自国ノ海兵ニ対シテ救護ヲ与フルナラントノ明白ナル利益ニ基クモノナリ

右等ノ船舶ハ何等ノ他ノ目的ニモ使用セラルルコトナカルヘク又如何ナル口実ヲ以テスルモ報告ヲ蒐集シ、信書ヲ送達シ、戦具兵器又ハ軍需品ヲ輸送シテ直接又ハ間接ニ軍事動作ノ為ニ利用セラルルコトアルヘカラサルハ勿論トス各国政府ハ此義ニ関シテ本條約ニ調印シタル事実其ノモノニ

依リ直ニ名誉上ノ誓約ヲ締結シタルモノニシテ之ヲ蔑視スルハ不信不実ノ所為ト目セサルヘカラス

病院船ハ其ノ慈善的任務ノ範囲内ニ於テ細心従事スルト同時ニ毫モ交戦国ノ軍事的動作ヲ妨碍スルコトナキヲ要ス交戦国ハ病院船ノ協助ヲ請求シ承諾シ若ハ拒絶スルコトヲ得ヘク又単純ニ若ハ一定ノ方向ヲ指示シテ病院船ノ離隔ヲ命スルコトヲ得ヘシ最後ノ場合ニ於テ交戦国ハ其ノ下シタル命令ノ完全ナル執行ヲ監視スルカ為メニ右病院船ニ委員ヲ乗込マシムルノ必要ヲ感スルコトアルヘシ、更ニ進ンデ特ニ重大ナル事情アルトキハ交戦国ハ病院船ヲ抑留スルノ権利ヲモ有スヘシ、例ヘハ或ル軍事的動作ノ絶対的秘密ヲ保持セントスル場合ノ如キ即チ是ナリ

病院船ニ下シタル命令ノ存否若ハ其ノ意義ニ関スル紛議ヲ避ケンカ為ニ交戦国ハ其ノ下シタル命令ヲ成ルヘク該船舶ノ航泊日誌ニ記入スヘシ是レ常ニ為シ得ヘキノ事ニアラサルハ明白ナリ、或ハ海上ノ状況ニ由リ又ハ急迫ノ場合ニ於テハ此方式ヲ履行スルコト能ハサルヘキカ故ニ右ノ履行ハ絶対的ニ之ヲ強要スルコトヲ得ス故ニ又病院船ハ其ノ受ケタル命令ヲ履行セサル場合ニ於テ既ニ他ノ方法ニ依リ該命令ノ存在證明セラレタルトキハ其ノ航舶日誌ニ記入ナキノ

事実ヲ援用シテ弁解ノ辞トナスコトヲ得サルナリ

救護ヲ請求スル船舶及救護ヲ提供スル病院船ノ為ニ特殊ノ信号ヲ定ムヘシトノ議ヲ唱フル者アレトモ此点ニ関シ委員会ハ別ニ特殊ノ規定ヲ設クルノ必要ナク各国海軍ノ現ニ採用スル萬国信号成典ヲ以テ此目的ヲ達スルニ充分ナリト認メタリ

最後ニ交戦国ハ除外例ナク一切ノ病院船ニ対シ監督及臨検捜索ノ権利ヲ有スヘキコト言ヲ俟タス交戦国ハ右船舶内ニ於テ何等ノ濫用モ行ハレサルヤ右船舶カ其ノ慈善的用途以外ニ毫モ転用セラレサルヤヲ確知セサルヘカラス実ニ交戦国ノ臨検捜索権ハ畢竟右船舶ノ享有スル免除ニ対スル必然ノ代償ニシテ国有病院船ニ対シテ右ノ権利ヲ適用スルモ毫モ怪ムヘキノ謂アラサルナリ

蓋シ臨検捜索ヲ受ケタル右等ノ病院船舶ハ若シ之ヲ普通法ノ範囲内ニ置クトキハ捕獲セラルヘキモノナレハ交戦国ノ臨検捜索ハ右船舶ノ地位ヲ毀損スルモノニアラスシテ其ノ受クル優待ノ一條件ニ外ナラサルナリ

又病院船ノ臨検捜索ハ曾ニ該船舶カ其任務ノ範囲ヲ踰越セサルヤヲ判知スルニ必要ナルノミナラス後ニ第九條ニ就キテ説明スルカ如ク右船舶内ニ在ル傷者病者及難船者ノ地位ヲ決定スルニモ亦必要ナリトス

左ニ掲ケタル規定ハ追加條約第十三條ノ第四項、第五項、第六項及第七項ヲ殆ント原文ノ儘採用シタルモノナリ只吾人ハ一切ノ病院船ニ免除ヲ与フルコトトナシタルカ故ニ之ト同時ニ右ノ規定モ一切ノ病院船ニ及ホスヘキモノトナセルノミ

第一條、第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ交戦国ノ傷者病者及難船者ヲ其ノ国籍ノ如何ニ関セス救護扶助スヘシ

各国政府ハ右船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコトヲ約定ス

右船舶ハ決シテ戦闘者ノ運動ヲ妨碍スヘカラス

右船舶ハ戦闘中ト戦闘後トヲ問ハス自ラ其ノ危険ノ責ニ任シテ行動スルモノトス

交戦国ハ右船舶ニ対シ監督及臨検捜索ヲ為スノ権利ヲ有シ助力ヲ拒絶シ其ノ離隔ヲ命令シ其ノ航行スヘキ方向ヲ示命シ且其ノ船中ニ監督員ヲ乗込マシメ若シ重大ナル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ

交戦国ハ病院船ニ下シタル命令ヲ成ルヘク該船ノ航泊日誌ニ記入スヘシ（第四條）

病院船ノ標識

病院船ハ他ト紛ハシカラサル様其ノ性質ヲ表明セサルヘカラス是レ右船舶ノ最大関係ヲ有スル一点ナリトス此点ニ就キ吾人ハ追加條約第十二條第三項及第十三條第三項ノ規定ヲ採用シ只現今ノ船舶ニ適セサル字句ニ些細ナル修正ヲ加ヘタリ

専ラ救護事業ニ従事スル船舶ハ総テ指定ノ幅員アル緑色又ハ赤色ノ横筋ヲ有セサルヘカラス但右病院船附属ノ端舟並ニ救護事業ニ使用スル遊船及小形船舶ハ同幅員ノ横筋ヲ有スルコト能ハサルモ其船体ノ大サニ比例スル類似ノ塗色ヲ施スヘキモノトス

右等ノ船舶ハ其ノ国旗ト共ニ「ジェネヴァ」條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケテ之ヲ標識スヘシ、且同條約ニ定メタル此規則ハ敵国病院船タルト中立国病院船タルトヲ問ハス悉ク皆其ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ後者ニ関シテ生シタル難問ハ前ニ第三條ニ付説明シタルト同一ノ理由ヲ以テ之ヲ排斥セリ

軍用病院船ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ緑色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ赤色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

救護用ニ供セラルヘキ小船類及前二項ノ船舶ニ附属スル

端舟ハ各前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スヘシ
病院船ハ総テ其ノ国旗ト共ニ「ジェネヴァ」條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケテ之ヲ標識スヘシ（第五條）

中立国ノ商船

茲ニハ時トシテ傷者、病者又ハ難船者ノ輸送ニ任スルコトアル中立国ノ船舶ニ付論セント欲スト雖モ即チ特ニ右ノ目的ノ為ニ賃借シタルカ若クハ偶然戦争ノ犠牲ヲ収容スルノ地位ニ邂逅シタル中立国船舶ニ関シテ説明セント欲スルナリ蓋シ厳格ニ法律ヲ適用スルトキハ一方ノ交戦国ノ傷者病者又ハ難船者ヲ搭載セル右等ノ船舶カ他ノ一方ノ交戦国ノ軍艦ニ遭会シタルトキハ其ノ輸送セル国民ノ属スル交戦国ノ声援者ト看做サルヘキカ故ニ捕獲ヲ免カルルコト能ハサルニ至ルヘシ然リト雖モ斯クノ如キ極端ナル結果ヲ排除シ慈善的協助ノ為ニ右等ノ船舶ヲ処罰スルコトナク須ラク之ヲ自由ニ放置スヘシトハ何人モ異議ナキ所ナリ而シテ病院船ニ付与シタル免除ヲ指称スルニ局外中立ナル文字ヲ用ユルコトヲ避クルノ利益ハ特ニ此場合ニ於テ之ヲ見ル得ヘシ何トナレハ若シ右ノ語ヲ使用スルトキハ今茲ニ吾人ノ論究スル中立国船舶ハ局外中立ノ性質ヲ有スヘキモノナリト云ハサルヲ得サルヘク言句ノ上ニ於テ頗ル奇観ヲ呈スヘキヲ以テナリ

之ニ反シ右等ノ船舶カ其ノ慈善的協助ノ事実ニ依リテ中立ノ義務ニ違反スルトキハ其ノ違反ノ行為ノ結果ヲ免ルルコトヲ得サルナリ、例ヘハ戦時禁制品ヲ輸送スルカ又ハ封鎖ヲ破ルカ如キ所為アルトキハ其ノ所為ニ伴フヘキ普通ノ結果ヲ受クヘキモノトス

之ヲ要スルニ中立国船舶ハ傷者病者又ハ難船者ノ輸送ニ因リテ其ノ中立ノ地位ニ損益スル所ナキモノトス、追加條約第十條第二項ノ趣旨モ恐ラクハ茲ニ在ルヘシト雖モ其ノ文辞瞹昧ナリシカ為ニ英国政府カ右ニ関スル説明ヲ求メタルコトハ人ノ知ル所ナリ、吾人ノ提出シタル左ノ規定ハ法律上ノ原則ニ適合シ且千八百六十九年英仏両国政府ノ認容シタル解釈ニ一致スルモノナリ（千八百六十九年一月二十一日附クラレンドン伯ノ書簡及翌年二月二十六日附ツウール・ドーヴェルギュ公ノ回答）

中立国ノ商船遊船又ハ端舟ニシテ交戦国ノ傷者病者若ハ難船者ヲ搭載シ若ハ収容スルモノハ此ノ輸送ノ事実ノ為ニ捕獲セラルルコトナシ然レトモ中立違犯ノ所為アルトキハ捕獲ヲ免レサルモノトス（第六條）

交戦国ノ商船カ傷者又ハ病者ヲ搭載シタル場合ニ関シテハ吾人ハ何等ノ條規ヲモ提議セサルコトハ人ノ見ル所ナルヘシ此ノ沈黙ハ右船舶ノ依然トシテ普通法ノ支配ヲ受ケ従テ捕獲ヲ免レサルコトヲ示スモノナリ是レ厳酷ナル結果ナリト雖モ吾人ハ之ヲ以テ独リ論理ニ合シ原則ニ適スルモノト認メタリ、追加條約第十條第一項ハ専ラ傷者又ハ病者ヲ搭載セル交戦国船舶ハ「局外中立ノ保護ヲ受クヘキコト」ヲ許セリ然ラハ傷者及病者ノ外ニ旅客及貨物ヲ搭載シタルトキハ右ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルナリ、此区別ハ果シテ理由アルモノナル乎吾人ハ爾ク思料セス

委員会ハ亦追加條約第六條ト相対スヘキ條規ヲ提議セス、是レ該條ニ掲ケタル場合ハ前ニ論シタル場合ニ入ルヘキモノニシテ特ニ規定ヲ設クルノ必要ナシト認メタルニ由ル之ヲ詳説スレハ該條ハ端舟カ戦闘中又ハ戦闘後自ラ危険ノ責ニ任シテ難船者又ハ傷者ヲ収容スルカ若ハ収容シタル後之ヲ中立国船舶又ハ病院船ニ輸送スル場合ヲ規定シタリ然レトモ若シ右ノ端舟カ中立国船舶又ハ病院船ニ附属スルモノナルトキハ其ノ所属船舶ノ性質ヲ分有スヘキカ故ニ前記ノ規則ニ従ヒ捕獲ヲ免ルルモノトス、若シ又右ノ端舟カ敵国ノモノナルトキハ其ノ軍艦ニ附属スルト交戦国ノ商船ニ附属スルト他ノ一方ノ交戦国ノ捕獲ヲ免ルルコト能ハサルヘシ、故ニ右等ノ場合ニ関シテハ何等特殊ノ点アルヲ見スシテ吾人ノ既ニ設定シタル原則ハ是等ノ一切ノ場合ヲ網羅スルモノト認ム而シテ吾人ハ右ニ依リテ既ニムラヴィエフ伯廻章第六点ノ審査ヲ終リタルナリ

衛生事務員

病院船内ニ在ル衛生事務員ニ関シテハ概シテ特ニ規定ヲ設クルノ要ナシ既ニ船舶ノ尊重セラルル以上ハ船内ノ人員カ其ノ職務ノ執行ヲ妨クラルヘキ筈ナケレハナリ、然レトモ敵軍ノ権内ニ陥リタル軍艦内ノ衛生事務員ノ地位ハ之ト同シカラス独リ軍艦ノミナラス傷者病者竝之ニ伴ヘル医員及看護人ヲ輸送スル敵国商船モ亦同シ、右等ノ場合ニ於テハ陸戦ニ関シテ定メタル條規ヨリ類推シテ凡ソ船艦ノ捕獲セラレタルトキハ其ノ船艦内ニ在ル衛生事務員ハ侵スヘカラサル者ト決定スヘキナリ不可侵トハ右事務員ヲ俘虜ト為スコトヲ得サルノ謂ナリ而シテ船艦ニ関シテモ人員ニ関スルカ如ク中立又ハ局外中立ノ文字ヲ用ユルコトヲ避クルヲ要ス

右人員ハ必要ノ程度内ニ於テ其職務ノ執行ヲ継続セサルヘカラサルコトアルヘシ、何トナレハ捕獲者ハ其ノ権内ニ陥

リタル病者ヲ看護スルニ足ルノ医員及看護人ヲ有セサルコトアルヘケレハナリ

敵ノ手中ニ陥リタル衛生事務員ハ俘虜ニアラストノ原則ハ容易ニ之ヲ設定シ得ヘシト雖モ右事務員ノ退去シ得ヘキ時期ハ之ヲ確定シ難シ固ヨリ各場合毎ニ全ク事情ヲ異ニシ到底厳格ナル規則ノ下ニ一斉ニ律スルコトヲ得サルカ為ニ此点ハ之ヲ首席指揮官ノ裁量ニ一任スルノ外ナシ而シテ指揮官ハ其ノ権内ニ有スル者ハ俘虜ニアラス且自ラ擅ニ之ヲ抑留スルノ権能ヲ有セストノ観念ヲ常ニ抱持シテ忘ルルナキヲ要ス

最後ニ右ノ如ク敵軍ニ抑留セラレタル人員ニ給料ヲ与ヘサルヘカラサルモ其ノ額ニ付テハ疑ナキニアラス右ノ給料ハ抑留セラレタル医員カ自国ノ軍隊内ニ於テ給与セラルル額ヲ給スヘキヤ将タ敵軍内ノ同級ノ医員ノ受クヘキ額ヲ給スヘキヤ最モ厳格ナル解答ニ従フトキハ右等ノ給料中最少額ノモノヲ支給スヘシト云ハサルヲ得ス、然レトモ医員ノ抑留セラルル交戦軍ニ於ケル給料ノ細密ナル問題ニ渉ルコトヲ避ケ右医員ノ給料全額ヲ支給スルコトト為スヲ以テ最モ簡易ニシテ又最モ公平ナルモノト認ム

左ニ掲ケタル提案ハ追加條約第七條及第八條ノ趣旨ニ顧ミ委員会ヨリ本会議ニ提出スル右ノ規定ニ於テハ傷者病者及難船者ト記シテ海戦ノ犠牲ト為リタル者ト云ハス海戦ノ犠牲ナル文辞ハ多クノ場合ニ於テ当レリト雖必スシモ常ニ然ラサルカ故ニ之ヲ用ユルコトヲ避ケサルヘカラス蓋シ右等ノ規則ハ海上ニ於ケル艦船内ノ傷者及病者ニ対シ其ノ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルハ海上ニ於テナルト陸上ニ於テナルトヲ問ハスシテ其ノ艦船内ニ入リタル時ヨリ直チニ適用セラルヘキナリ故ニ若シ艦船カ陸軍ノ傷者及病者ヲ海路ニ依リ輸送スルノ任務ニ当リタルトキハ該艦船及傷病者ハ本条ノ規定ニ依リテ支配セラルヘク之ニ反シテ若シ海軍傷病者カ揚陸ノ上陸軍病院若ハ其ノ他ノ病院ニ収容セラルルトキハ該傷病者ニ対シ「ジェネヴァ」條約ハ当然適用セラルヘシ

以上ノ説明ハ分科委員会ニ提出セラレタル意見ヲ充分満足セシムルモノト信スルニ依リ吾人ハ此点ニ関シ特別ノ規定ヲ設クルノ必要アラサルヘシト認メタリ

傷者病者及難船者ニ賦与スヘキ地位ニ関シテハ議論百出シ追加條約ノ規定ノ如キモ混雑ニ陥リタルノ嫌アリ

（追加條約第六條第三項、第十條第一項、第十一條第二項、第十三條第八項参看）、委員会ノ見ル所ニ依レハ右ノ困難

テ起稿シ僅カニ二三ノ点ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

総テ捕獲セラレタル艦船内ニ在リテ教法医療及看護ニ従事スル人員ハ侵スヘカラサルモノニシテ俘虜ト為スコトヲ得ス此等ノ人員其ノ艦船ヲ退去スルトキハ各自ノ私有ニ属スル物品及外科用具ヲ携帯ス

此等ノ人員ハ必要アル限リハ引続キ其ノ職務ニ従事スヘク首席指揮官ニ於テ妨ナシト認ムル時ニ至リ退去スルコトヲ得

交戦国ハ其ノ権内ニ陥リタル此等ノ人員ニ其ノ給料ノ全額ヲ得セシムルコトヲ要ス（第七条）

傷者病者及難船者

「ジェネヴァ」條約ノ基礎ヲ為シ且陸戦ニ於ケルト同様海戦ニモ亦適用セサルヘカラサル通則ハ戦争ノ犠牲ト為リタル者ニ対シ其ノ国籍ノ如何ヲ問ハス一様ニ救助ヲ与フルノ義務アリト為スコト則チ是ナリ此観念ノ適用ハ先キニ病院船ノ任務ニ関シ既ニ之ヲ見タリ（追加條約第四條第一項及同條約第十一條第一項参照）

凡ソ艦船内ニ在ル海陸軍人ノ傷者病者ハ其ノ何レノ国籍ニ属スルニ論ナク捕獲者ニ於テ之ヲ保護介抱スヘシ（第八條）

ハ主トシテ各場合ニ適用スヘキ極メテ単簡ナル通則ヲ看過シタルニ由ルモノノ如シ其ノ原則トハ他ナシ交戦軍カ其ノ権内ニ有スル敵国戦闘員ハ俘虜ナリト云フコト即チ是ナリ而シテ其ノ俘虜ノ傷者病者又ハ難船者タルト之ヲ収容シタル艦船ノ性質ノ如キハ敢テ顧ミルノ要ナシ何トナレハ事実ノ変態ハ法律上ノ地位ニ影響ヲ及ホササルヲ以テナリ故ニ先ツ右ノ原則ヲ基礎ト定ムルコトヲ要ス然レトモ其ノ適用ニ至リテハ必スシモ常ニ千八百六十八年ノ規定ニ符合セサルヘシ一方ノ交戦国ノ病院船其ノ国籍ニ属スル病者傷者及難船者ヲ収容シ之ヲ其ノ国ノ一港ニ輸送シタリトセンニ該傷者病者及難船者ハ何カ故ニ陸軍病院内ニ収容セラレタル傷者病者ト同一ノ自由ヲ得ルコト能ハサル乎然ルニ追加條約第十三條末項ハ病院船ニ収容セラレタル傷者及難船者ハ戦争ノ継続中再ヒ服役スルコトヲ得サルモノト規定セリ

又若シ自国ノ傷者病者及難船者ヲ搭載セル右ノ病院船カ敵国ノ巡洋艦ニ出会シタリトセンニ該巡洋艦ハ何カ故ニ其ノ権内ニ陥リタル右等ノ戦闘員ヲ其ノ俘虜ト看做スノ権利ヲ有セサル乎勿論右等ノ戦闘員中ニハ傷者モ有ルヘク病者モ有ルヘシ捕獲者ハ之ニ対シ特別ノ待遇ヲ与フルノ義務ヲ負フト雖モ右等戦闘員ノ均シク皆俘虜タルノ観念ニ至リテハ

毫モ之カ為ニ変更スヘキ謂ナシ追加條約第十條第一項及第十三條末項カ右等ノ戦闘員ヲ以テ服役スルノ資格ナキ者ト定メタルハ此趣旨ニ外ナラサルヘシト雖モ該規定ハ未タ充分ノ保障ヲ供スルニ足ラス

由是観之右巡洋艦ハ事情ニ依リテ行動スルノ自由ヲ有スヘキナリ例ヘハ其ノ俘虜ヲ自ラ保有スルコトヲ得ヘク之ヲ自国ノ港若ハ中立港又ハ近距離ニ港ナキ場合ニ於テ已ムヲ得サル必要アルトキハ之ヲ敵国ノ港ニ送付スルコトヲ得ヘシ又重態ナル傷者病者ノミナルトキモ亦最後ノ場合ト同様ノ処置ヲ執ルコトヲ得ヘシ而シテ敵国傷病者ヲ収容シ無用ニ之ヲ自国ノ負担ニ帰セシムルハ交戦国ノ利益ニアラサルカ故ニ最モ多クノ場合ニ於テハ右等ノ傷者及病者ヲ搭載セル病院船及其ノ艦船ハ之ヲ右傷病者ノ本国ニ輸送スルコトナルヘシ是レ人道及交戦国ノ利益ノ等シク要求スル所ナレトモ交戦国ノ権利モ之ヲ蔑視スルコトヲ得サルヲ以テ以上ノ方法ニ依リ其ノ本国ニ送還セラレタル傷者及病者ハ戦争ノ継続中再ヒ服役スルコトヲ得サルモノトス又而シテ右等戦闘員ハ俘虜交換ニ依リ帰還シタル者ナルトキハ宣誓ノ上解放セラレシ俘虜タルノ地位茲ニ止ミ行為ノ自由ヲ回復スヘキコト言ヲ俟タス

交戦国ノ一方ノ難船者傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ権

内ニ陥リタル者ハ俘虜タルヘク其ノ事情ノ如何ニ依リ或ハ之ヲ抑留シ或ハ之ヲ自国ノ一港又ハ中立国ノ一港ニ送致シ或ハ之ヲ其ノ敵国ノ一港ニ送還スルトモ一ニ後者ノ決スル所ニ従フ右最終ノ場合ニ於テ其ノ本国ニ送還セラレタル俘虜ハ交戦中再ヒ服役スルコトヲ得ス（第九條）

最後ニ説明セントスル一箇條ノ規定ハ追加條約中之ニ該当スル規定ヲ見サルモノニシテ中立国ノ港ニ揚陸セラレタル難船者傷者及病者ノ場合ニ関セリ此場合ハ一面ニ於テハ屢々起ルコトアルヘキ性質ノモノニシテ又他ノ一面ニ於テハ若シ明確ナル規則ヲ缺クトキハ紛議ヲ惹起スノ虞アルモノナルヲ以テ豫メ備フル所アルヲ要ス抑モ中立国政府カ其ノ領土内ニ傷者病者及難船者ヲ収受スルノ義務ナキコトハ勿論ナルモ之ヲ収受スルモ能ク中立ノ義務ニ違反スルコトナキヲ得ル乎此疑問ノ由テ起ル所以ヲ考フルニ或ル場合ニ於テ交戦国ハ右ノ方法ニ依リテ其ノ煩労ヲ致シテ作戦行為ヲ障碍スヘキ傷病者ヲ遠サクルコトヲ得テ多大ノ利益ヲ収ムヘク結局作戦計画執行ノ為ニ中立国ノ領土ヲ利用スルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシト云フニ在リ然リト雖モ吾人ハ此点ニ関シテハ須ラク人道ノ観念ニ重キヲ置クヘキモノト認ム

彼ノ病院船又ハ商船内ニ収容セル傷者及病者ヲ揚陸スルハ最モ多クノ場合ニ於テハ専ラ慈善的ノ趣旨ニ出ツルモノナルニ若シ之ヲ揚陸スルコトナク各々其ノ戦員所属国ノ港ニ輸送セントスルトキハ航路延長ノ為ニ従ラニ傷病者ノ苦痛ヲ増加スルニ至ルヘシ況ヤ右揚陸セラルヘキ傷者及病者中ニハ交戦国双方ノ者ヲ交ユルコトアルヘキニ於テオヤ

右揚陸ヲ承諾シタル中立国ハ其ノ領土ヲシテ単ニ戦争ノ犠牲ト為リタル者ノ避難所ト為スニ止メ収容セル各箇人ヲシテ新ニ敵対行為ニ干与スルコトナカラシムル様必要ノ処置ヲ施ササルヘカラス難船者ニ関シテハ特ニ此事ヲ注意スルノ必要アリトス

最後ニ右病者傷者及難船者ノ在留ニ由リ生シタル実費ハ中立国ノ負担ニ帰スヘカラサルコト言ヲ俟タス右等ノ費用ハ収容セル各個人所属ノ国ヨリ之ヲ弁済スヘキモノトス

中立国地方官庁ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタル難船者又ハ病者ハ再ヒ戦闘ニ従事スルコト能ハサラシムル為メ右地方庁ニ於テ之ヲ抑留スヘシ医療及留置ノ費用ハ其ノ難船者傷者及病者ノ所属国ニ於テ之ヲ負担スヘシ（第十條）

本委員会ハ追加條約第十四條ニ該当スル何等ノ規定ヲモ提出セス該條ヲ掲ケサルコトニ就キテハ何等ノ異論モナカリシナリ

蓋シ右ノ如キ規定ヲ設ケテ之ニ服従スヘキノ義務ヲ命スルモ必スシモ常ニ遵由セラレサルノ虞アルノミナラス却テ多少重大ナル濫用ニ流ルルノ恐ナシトセス加フルニ該條ニ掲ケタルカ如キ悲シムヘキ事実ハ国際法上ノ普通ノ制裁ヲ受クヘキモノナルニ之カ為ニ特殊ノ規定ヲ設クルハ却テ前掲諸規則ノ法律上及徳義上効力ヲ薄弱ニスルノ弊アルヘシ

本会議ニ提出シタル法文

第一條　軍用病院船即チ傷者病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ製造シ又ハ設備スル船舶ニシテ戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ交戦中之ヲ尊重スヘク捕獲スルヲ得サルモノトス

前項ノ船舶ハ中立港内ニ碇泊スルコトニ関シテモ亦軍艦ト同一視セラルルコトナシ

第二條　一個人又ハ公認セラレタル救恤協会ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ其ノ所属交戦国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其

ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ敵国ニ通告セラレタルモノハ亦均ク尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス

前項ノ船舶ハ其艤装中及最後出発ノ際当該官庁ニ於テ監督シタルコトヲ證明スル文書ヲ携帯スヘシ

第三條　中立国ノ一個人又ハ公認セラレタル協会ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部分ヲ艤装シタル病院船ニシテ若シ其ノ所屬中立国ヨリ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戦闘開始ノ際又ハ交戦中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戦国ニ通告セラレタルモノハ尊重セラレ捕獲ヲ免ルルモノトス

第四條　第一條第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ交戦国ノ傷者病者及難船者ヲ其ノ国籍ノ如何ニ関セス救護扶助スヘシ

各国政府ハ右船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコトヲ約定ス

右船舶ハ決シテ戦闘者ノ運動ヲ妨碍スヘカラス

右船舶ハ戦闘中ト戦闘後トヲ問ハス自ラ其ノ危険ノ責ニ任シテ行動スルモノトス

交戦国ハ右船舶ニ対シ監督及臨検捜索ヲ為スノ権利ヲ有シ助力ヲ拒絶シ其ノ離隔ヲ命令シ其ノ航行スヘキ方向ヲ示命シ且其ノ船中ニ監督員ヲ乗込マシメ若シ重大ナル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ

交戦国ハ病院船ニ下シタル命令ヲ成ルヘク該船ノ航泊日誌ニ記入スヘシ

第五條　軍用病院船ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ緑色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗リ幅約一「メートル」半ノ赤色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

救護用ニ供セラルヘキ小船類及前二項ノ船舶ニ附屬スル端舟ハ各前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スヘシ

病院船ハ総テ其ノ国旗ト共ニ「ジェネヴァ」條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケテ之ヲ標識スヘシ

第六條　中立国ノ商船遊船又ハ短舟ニシテ交戦国ノ傷者病者若ハ難船者ヲ搭載シ若ハ収容スルモノハ此ノ輸送ノ事実ノ為ニ捕獲セラルルコトナシ

然レトモ中立違犯ノ所為アルトキハ捕獲ヲ免カレサルモノトス

第七條　総テ捕獲セラレタル艦船内ニ在リテ教法医療及看護ニ従事スル人員ハ侵スヘカラサルモノニシテ俘虜ト為スコトヲ得ス此等ノ人員其ノ艦船ヲ退去スルトキハ各自ノ私有ニ屬スル物品及外科用具ヲ携帯ス

此等ノ人員ハ必要アル限リハ引続キ其ノ職務ニ従事スヘク首席指揮官ニ於テ妨ナシト認ムル時ニ至リ退去スルコトヲ得

交戦国ハ其ノ権内ニ陥リタル此等ノ人員ニ其ノ給料ノ全額ヲ得セシムルコトヲ要ス

第八條　凡ソ艦船内ニ在ル海陸軍人ノ傷者病者ハ其ノ何レノ国籍ニ屬スルニ論ナク捕獲者ニ於テ之ヲ保護介抱スヘシ

第九條　交戦国ノ一方ノ難船者傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ権内ニ陥リタル者ハ俘虜タルヘク其ノ事情ノ如何ニ依リ或ハ之ヲ抑留シ或ハ之ヲ自国ノ一港又ハ中立国ノ一港ニ送致シ或ハ之ヲ敵国ノ一港ニ送還スルトモ一ニ後者ノ決スル所ニ従フ右最終ノ場合ニ於テ其ノ本国ニ送還セラレタル俘虜ハ交戦中再ヒ服役スルコトヲ得ス

第十條　中立国地方官庁ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタル難船者傷者又ハ病者ハ中立国ト交戦国トノ間ニ反対ノ取極ナキ限リハ再ヒ戦闘ニ従事スルコト能ハサラシムル為メ右地方庁ニ於テ之ヲ抑留スヘシ

医療及留置ノ費用ハ其ノ難船者傷者又ハ病者ノ所屬国ニ於テ之ヲ負担スヘシ

六、第五回総会議

千八百九十九年七月五日第五回総会議

議長スタール閣下

午後二時四十五分開会

六月二十日第四回総会議ノ議事録ヲ可決ス

○議長　日程第一ハ陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言若ハ條約案ノ審査及確定ナリト告ケ且ツ曰ク

「報告委員ニ発言ヲ許スノ前余ハ先ツ能ク特有ノ伎倆ヲ揮フテ十二回ノ分科委員会ニ議長タリシ卓越ナル法律家ニ対シテ本会ノ抱有セル感情ヲ表示セサルヘカラスド・マルテンス君ハ吾等ト倶ニ露国委員タルノ故ニ由リ予ノ之ヲ称揚スルコト多キニ過クルハ聊カ偏頗ニ彌ルノ嫌ナキニアラス然レトモ余今君ニ対シテ本案ニ関スル成功ノ大部分ハ君ノ力ニ依レルコトヲ告クルハ蓋シ亦君ノ肯スル所ナルヘシ君ハ実ニ其ノ心神ヲ傾倒シテ其ノ担任セル事業ニ竭サレタルナリ右十二回ノ会議ハ分科委員会カ能ク励精鋭意其ノ担当セル事業ヲシテ良好ノ結果ヲ収メシメンコトヲ力メラレタルノ證ニシテ之ヲ組成セル卓越ノ委員諸氏ハ吾人カ全幅ノ称讃ニ値スルモノナリ吾人ハ今回ローラン君ノ如キ精確ニシテ公平大体ヲ観ルニ明カニ

シテ又能ク細目ヲ洩スコトナキ真個理想的ノ報告委員ヲ得タルハ幸ナリトス願クハ諸君ト共ニ君ノ善良ナル事業ヲ感謝セン」（喝采）

議長ハ第二委員会議長ド・マルテンス君ニ発言ヲ許シ委員会ノ決議ト其ノ提出セル希望トヲ総会ニ報告セシム

ド・マルテンス君ハ委員会ニ於テ採決シタル六十箇ノ條文及之ニ添ヘテローラン君ヨリ提出シタル報告書ヲ今復タ総会ニ於テ朗読スルハ議員諸君ノ欲セサル所ナルヘシ右書類ハ既ニ議員諸君ニ配附シアルヲ以テ第二委員会ノ事業ハ同会カ表決シタル條文及ヒ之ニ添付シアル理由説明書ニ記載セル儘ニテ承認セラレンコトヲ総会ニ向テ望ム旨ヲ述フ

右ノ提議ニ対シ何等異議ヲ唱フル者ナキニ依リ議長ハ総会ニ於テ之ヲ可決シタルモノト宣告ス

○ド・マルテンス君　右ノ決議ニ依リ総会ハ今シモ可決シタル條項ニ対シ平和会議全体ヨリ出シタル正確ナル理由説明書トシテローラン君ノ報告ヲ受諾シタルモノナルコトヲ附言シ且ツ第二委員会ニ於テ討議ヲ竭クシテ可決シタル左記各項ノ希望ヲ総会ノ承認ニ附スルコトヲ該委員会ヨリ委任セラレタリト述フ

非サレハ仮令単純ナル希望ニ過キサルモノトスルモ一切此種ノ決議ニ同意ヲ表スルコト能ハス

○議長「サー」ジュリアン・ポーンスフォート君ノ宣言ヲ議事録ニ掲クルコトヲ許シ委員会第二ノ希望ハ可決セラレタルコトヲ宣告ス

○ド・マルテンス君　第三ノ希望ハ「ジェネヴァ」條約ノ改正ニ関シ第二委員会第一分科委員会ヨリ其ノ議長アッセル君ノ発議ニ由リテ提出シタルモノニシテ其ノ主旨左ノ如シ

「海牙萬国会議ハ「ジェネヴァ」條約ノ改正ノ為メ瑞西聯邦政府ニ於テ採ラレタル準備ノ措置ヲ考査シ久シカラスシテ右條約ノ改正ヲ目的トスル特別ノ萬国会議ヲ開会セラレンコトヲ希望ス」

右ノ希望案ハベルヂマン君ヨリ提出セラレタル左ノ動議ト倶ニ第二委員会ノ可決スル所トナレリ

（ベルヂマン君提出ノ動議）

「第二委員会ハ「ジェネヴァ」條約ノ改正ニ関スル希望ヲ表彰スルニ当リ六月二十日ノ会議ニ於ケル第一分科委員会議長アッセル君ノ宣言即チ之ニ依テ同君カ海牙萬国平和会議ニ賛同セル諸国ハ皆瑞西聯邦政府ニ於テ遠カ

其ノ第一ノ希望ハ盧森堡国第一委員ノ発案ニシテ中立国ノ権利義務ニ関スル問題ヲ次回ノ萬国平和会議ノ議題中ニ掲載セラレンコトヲ望ムモノナリ

右ノ希望ハ討論ヲ用キスシテ之ヲ可決セリ

其ノ第二ノ希望ハ防禦ナキ港湾並海浜ノ市府、村落ヲ軍艦ヨリ砲撃スルノ件ニ関スルモノナリ

第二委員会ハ陸戦ノ法規ニ関スル條約第二十五條ニ規定シタル禁止ヲ拡メテ防禦ナキ港ノ砲撃ニ及ホシ以テ前記ノ問題ヲ本会議ニ於テ解決セント欲スルハ唯タ会議ヲ錯綜ナラシムルニ過キサルヲ以テ一ノ棄権ヲ除クノ外全会一致ヲ以テ本問題ノ審査ヲ次回ノ萬国平和会議ニ譲ルノ希望ヲ表彰セリ

右ノ希望ハ唯タ此ノ重大ナル件ニ就キテ列国政府カ深ク意ヲ用キンコトヲ促カシタルニ止マリ決シテ列国政府ニ拘束ヲ加フルモノニアラス

○「サー」ジュリアン・ポーンスフォート君　右ノ如キ希望ハ幾分カ列国政府ニ対シテ無形ノ威圧ヲ加フルモノナリト思惟ス英国政府カ嘗テ比律悉ノ萬国会議ニ参列シタルハ海軍ニ関スル問題ヲ其ノ議決シタル規定以外ニ措ク ト云フ條件アリタルカ為ナリ依テ新タニ訓令ヲ受クルニ

ラス「ジェネヴァ」條約ノ改正ヲ目的トスル萬国会議招集ノ発議ヲ為サレンコトヲ希望スル趣旨ヲ表彰セラレタル宣言ニ全然同意スルモノナリ」

○ド・マルテンス君　右ノ希望ヲ表彰スルニ方リ本会ハ決シテ明白ニ聯邦政府ニ与フルニ修正会議ヲ招集スルノ委任ヲ以テスルモノニアラス唯タ瑞西政府ノ斡旋ニ由リ「ジェネヴァ」條約ノ改正ヲ見ンコトヲ冀望スルノ意ヲ示シタルニ過キサルコトヲ明言ス

第二委員会ヨリ提出シタル希望及動議ハ総会議ノ可決スル所トナレリ

○ド・マルテンス君　第四ノ希望ハ合衆国ノ委員ヨリ総会ノ議長ニ宛テタル書簡ノ形式ヲ以テセル一ノ提議ニシテ海戦ノ際ニ於ケル私有財産ノ不可侵権ヲ宣言セント欲スルモノナリ

第二調査委員ハ右ノ問題ヲ稽査スルノ権限ヲ有セサルコトヲ認ムルト同時ニ合衆国委員ノ提案ヲ以テ次回ノ萬国平和会議ノ議題トナスヘシトノ希望ヲ表セサルヘカラスト思料シタリ

ホワイト君ハ其ノ提議ヲ一層詳細ニ説明スルノ許可ヲ求メ左ノ如ク演説セリ

「曩ニ我合衆国委員ヨリ平和会議議員諸君ニ通牒シタル覚書ニ拠レハ海戦ニ際シ戦時禁制品ノ外一切ノ私有財産ノ不可侵権ニ関スル原則ヲ定立セシメムカ為メ我合衆国政府ニ於テ一世紀以前ヨリ終始大ニ力ヲ竭クシタルコトヲ視ルニ足ルヘシ

合衆国政府カ露西亜国皇帝陛下ノ召集ト和蘭国政府ノ招請トニ応シ喜ンテ本会ニ賛同シタルハ唯タニ露国ノ廻章ニ掲ケタル本会主要ノ目的ニ就キテ協賛ヲ与ヘント欲シタルカ為メノミニアラス更ニ前記ノ件ヲ親交国民ノ面前ニ提出スルニ最好ノ機会ナルコトヲ信シ右提議カ諸国民ノ採用スル所トナリテ国際法ノ一部タランコトヲ希望シタルカ故ナリ

亜米利加合衆国委員ハ本会ニ於テ数多ノ国カ其ノ提議ヲ採用セント欲シ自余ノ諸国モ亦其ノ採用ヲ可トスルノ意思ヲ有スルヲ視タリ然レトモ未タ全会一致ノ協賛ヲ得ルコト能ハサリシヲ以テ合衆国委員ハ本会ノ開会中ニ前件ノ決定ヲ主張スルコト能ハサリシナリ

本会召集ノ廻章ニ指定シタル本会ノ権限ヲ踰越スルノ嫌アルコト諸大国ノ委員カ前記ノ件ニ就キテ特別ノ訓令ヲ受ケサリシコト並ニ本会カ諸国民ニ最モ直接ノ関係ヲ有スル大問題ノ決定ニハ出来得ル限リ充分ノ時日ヲ与フルノ必要ナル保障ハ他ノ一ヲモ用ヒサルニアリトス

彼ノ有名ナル伯爵ド・ネッセルロードガ我合衆国カ今日主張スル如クニ氏ノ当時ニ於テ主張シタル宣言ヲ称シテ近世ノ外交ニ一大光彩ヲ与フヘキモノナリト断言セシハ唯タニ深遠ナル確信ヲ示シタルノミナラス亦実ニ一大真理ヲ表彰シタルモノタルコト今ニ至リテ益々明白トナレリ

余ハ反対論者カ一見頗ル有力ナル駁論ヲ唱フルコトヲ知ラサルニアラス其ノ論タル他ナシ今若シ戦時禁制品ニアラサル私有財産ノ不可侵権ヲ保障スルトキハ即時ニ之ニ次テ今日ニ於テ所謂戦時禁制品トハ果シテ如何ナルモノヲ指スヤト云フ極メテ困難ナル問題ヲ惹起スヘシト云フ駁論是レナリ

世人ハ必ス石炭、麺包ノ原料及米（両大国間ノ最近ノ戦争ニ於テ）又時トシテ船舶ニ至ルマテモ禁制品ノ中ニ包含セラルルニ至ルヲ得ヘシト云フ点ニマテ注意スヘシ

然レトモ本会ノ如キ賢明叡智ナル人物ノ会合セル席ニ於テハ此類ノ問題ニ於テ第二歩ヲ為スノ困難アルカ為メニ第一歩ヲ為スコトヲ断念スヘシト云フカ如キ議論ヲ為スヘカラサルハ余ノ言ヲ竢タサルヘシ

ノ義務アルモノト認メタルコト等ノ事情ハ本会ニ於テ前記ノ件ニ関スル確定ノ結果ヲ収ムルノ到底望ムヘカラサルコトヲ知ラシメタリ

然レトモ米国委員ハ遺憾ヲ忍ヒテ右ノ事実ヲ識認スルト同時ニ其ノ受領シタル訓令ニ依レハ此ノ至重至大ナル問題ヲ永ク本会ニ参列セル諸国民ノ精神ニ銘セシメンカ為メニ全力ヲ竭クスノ義務アルコトヲ信ス

米国委員ハ本問題カ必ス良好ノ解決ヲ見ルニ至ルノ望ヲ失ヒタルコトナシ

今ヤ国際法学ニ於テ著名ナル諸大家カ日ニ益々吾等ノ擁護スル所ノ説ニ左袒スルノ傾キアルハ蓋シ明白ニシテ掩フヘカラサル事実ナリ

右ノ原則ヲ採用スルハ各国民ノ利益ナリト云フコトモ亦日一日ニ明白トナレリ

仮令海上ノ拿捕ヲ禁スル協約ヲ為スト雖モ之ト共ニ戦時禁制品ヲ除クノ外総テ海上ニ於ケル私有財産ノ不可侵権ヲ協定スルニアラサレハ其ノ協約無効ニ属スヘキハ亦斉ク諸大家ノ認ムル所ナリ

戦争中敵ヲ害スル前記二個ノ方法ハ論理上相連結シテ離レサルモノナリ故ニ若シ其ノ一ノ利用ヲ廃止セシニハ其最モ着実ナル手段ハ先ツ第一歩ヲ為シ然ル後徐ロニ第二歩ノ何タルヤヲ稽査スルニ在リ

余ハ吾等カ擁護スル旨義ヲ助ケントシテ尽力シタル事ニ関シテ用キラレタル或種ノ論旨カ反テ之ニ危害ヲ加ヘタルコトヲ否定スルコト能ハス余ハ戦時ニ於テ海上ノ私有財産ヲ以テ陸上ノ私有財産ト同一視スル論旨中ノ或ルモノカ吾等ノ主張ニ利ヲ与フルヨリハ寧ロ害ヲ為シタルコト多キヲ認メサルヘカラス然レトモ是レ決シテ吾等カ提議ノ正当ナルコトヲ証明スヘキ有力ナル許多ノ論旨ヲ排斥スルニ足ルモノニアラス

若シ本問題カ今本会ノ討議ニ登リ居リシナランニハ若シ他ニ世界ノ注意ヲ惹キ吾人ノ心力ヲ用ユヘキ問題アラサリシナランニハ余ハ宣戦ニ際シ諸国民ノ受クヘキ莫大ナル損失ニ就キテ諸君ノ注意ヲ促サンコトヲ希望スヘシ余ハ其ノ一例トシテ単ニ船舶及商品カ其ノ属籍ヲ変更スルカ為メニ生スル所ノ損失ヲ示スヘシ

人若シ亜米利加ノ内乱中ニ於ケル聯合捕獲艦ノ歴史ヲ一読スルトキハ直接ノ関係ヲ有セル諸国カ受ケタル損害ノ如何ニ大ナリシカヲ知ルコトヲ得ヘシ当時聯邦巡洋艦ノ拿捕ニ従事セシモノハ纔カニ三隻ニ過キスシテ其ノ拿捕

セル船舶ハ百六十九隻ニ止マレリ然レトモ英米両国間ニ於ケル航海ノ保険料ハ一噸ニ就キ三十志ヨリ百二十志ニ上ホリ亜米利加ノ商船五十萬噸内外ハ英国ノ国旗ヲ掲ケ之カ為メ合衆国ノ商船ハ殆ト全ク其ノ跡ヲ歛メタリ構造不完全ニシテ艤装モ亦頗ル不良ナル三小艦ノ拿捕ヨリ生シタル結果既ニ此ノ如シトセハ今日諸大国カ有スル軍艦ヲ以テ拿捕ヲナストセハ其ノ結果果シテ如何ソヤ

然レトモ前記ノ拿捕カ戦争ノ局ヲ結フニモ亦之ヲ短縮スルニモ毫モ与リテ力アラサリシハ世人ノ普ク熟知スル所ナリ若シ其ノ損失カ更ニ十倍ノ多キニ達シタリトスルモ之レカ為メ亦毫モ交戦ノ時期短縮スルコト能ハサリシナルヘシ唯タ我国民中最モ勤勉ニシテ最モ敬重スヘキ望ヲ属シタル巨額ノ財産ト其ノ多年ノ貯蓄ヨリ成レル資本ヲ船舶ニ放下セル海員ニ属シタル巨額ノ財産トヲ破壊シタルノミ而シテ其ノ最モ顕著ナル結果ハ両大国民ノ間ニ辛ウシテ仲裁裁判ニヨリテ不和ノ原因ヲ除キ得タルニ過キサルヘシ憶フニ軍艦ノ力ニ依リテ交戦ヲ短縮スル手段ハ唯タ一ノ封鎖手段アルノミナリ今ヤ陸上ニ於ケル貨物運輸ノ方法大ニ発達シ仮令海上ノ運輸ヲ中止スルモ戦争ノ終局ヲ速カナラシムル上ニ於テハ何等ノ効力ナシト雖モ

人ノ労営ニ依リテ聚積シタル富ヲ破壊スルノ点ヨリ言ヘハ其ノ損失ノ大ナル数世ノ久シキヲ積ムニアラサレハ之ヲ回復スルコト能ハサルヘク而シテ世界全土ノ人民ハ皆齊ク其ノ反響ヲ被ムラサルヘカラス

諸君、亜米利加合衆国ノ委員ハ決シテ単ニ自国ノ利益ヲ回護スルモノニアラス限今ノ事態ヲ以テスルニ若シ欧州ノ二国若ハ数国ノ間ニ戦ヲ開クコトアランニハ許多ノ貨物及船舶ハ必ス即時ニ中立国民ノ手ニ移リ合衆国モ亦之ニ依リテ莫大ノ利益ヲ収ムルコトヲ得ヘシ然レトモ我政府ハ決シテ此ノ類ノ利益ヲ増加スルノ望ヲ有セス欧羅巴ニ於テハ往々我国民ノ性質ヲ誤解セル者アリ欧羅巴人ハ概シテ合衆国民ヲ以テ専ラ実務ヲ尚フ人民ナリトナス実ニ然リ然レトモ是レ唯タ真相ノ半面ニ過キサルナリ何トナレハ合衆国民ハ徒ラニ実務ノミヲ尚フモノニアラスシテ更ニ大ニ理想ヲ尚フモノナレハナリ

人若シ合衆国ヲ観察シ若ハ之ト交渉ヲ開クニ当リテ其ノ国民ハ専ラ実利実益ヲ旨トシテ百事ヲ処スルモノナリト思料セハ誤謬之ヨリ大ナルハ莫シ吾等ノ内乱ハ吾等カ国ノ統一ヲ維持セント欲スル理想ノ為ニ殆ト百万ノ人民ト百億弗ノ金トヲ犠牲ニ供シタルコトヲ証明スルニアラスヤ

余カ右ノ如キ言ヲ為スハ決シテ浮誇ノ為ニアラス我米国民カ海上財産ノ不可侵権問題ニ対シテハ実務家タラスシテ理想家タルコトヲ示スカ為メナリ此問題タル単ニ吾人ニ取リ利益問題タルノミニアラス実ニ世界ノ公道、正義進歩ニ関スル問題ナリ我国民ノ感情ヲ刺戟スルコトノ此ノ如ク大ナルモノ蓋シ之ニ由ルナリ

余ハ合衆国委員ノ名ヲ以テ本問題ノ全部ヲ後回ノ萬国会議ニ附スルノ動議ヲ賛成ス余ハ遂ニ之ニ賛成スルノ外ナキニ至レルヲ深ク憾ミトナス然レトモ本会ニ賛同セル自余ノ諸国ノ利益ハ余ヲシテ之ヨリ以上ヲ望ムコトヲ得セシメサルヲ如何セン

余ハ右ニ述ヘタル所ニ依リテ能ク余ノ代表セル国民ノ名ヲ以テ本会ニ列シタル委員諸君就中諸国ノ大法律家、国際法学ノ諸大家、政治家及外交家ニ此ノ重大ナル問題ニ留意センコトヲ促カスコトヲ得又能ク此ノ問題カ必ス次回ノ萬国会議ノ議題中ニ掲ケラルルニ至ランコトヲ希望ス而シテ余ノ指定シタル意味ニ依リテ本問題ヲ解決スルニ至ラハ啻ニ其ノ解決ニ与カリテ力アリタル者ノ名誉ナルノミナラス関係諸国民ハ永ク其ノ利恵ニ浴スヘキナリ」（喝采）

ラヒュセン君ノ請求ニ依リホワイト君ノ演説ハ其ノ全文ヲ本日ノ議事録ニ掲クルコトニ決定セリ

伯爵ニーグラ君ハド・マルテンス君ノ提議ヲ賛成シ伊太利国政府ハ単ニ海上ニ於ケル私有財産ヲ尊重スルコトヲ公言スルニ止ラス実ニ法律ヲ以テ此ノ原則ヲ確定シタルコトヲ弁シ就中伊国ト合衆国トノ間ニ締結シタル通商条約中ニハ互恵ノ条件ヲ以テ私有財産ノ不可侵権ノ互認ヲ規定セルコトヲ述ヘ且本宣言ヲ議事録ニ掲ケラレンコトヲ請求ス

○議長　伯爵ニーグラ君ノ宣言ヲ議事録ニ掲クルコトヲ許シ委員会ヨリ提出シタル希望ヲ採用スヘキヤ否ヲ議場ニ諮ル

「サー」ジュリアン・ポーンスフォート君ハ第二ノ希望ニ就テ前キニ為シタル宣言ヲ援用シ本国政府ヨリ訓令ナキヲ以テ可否ヲ表スルヲ控ユルノ外ナシト述フブールジョア君モ右同一ノ宣言ヲ為ス

○議長　二君ノ宣言ヲ議事録ニ掲クルコトヲ許シ希望ノ可決セラレタルコトヲ宣告ス

議長ハ萬国会議ノ最終決議書及之ニ添付スル諸條約ヲ起草編纂セムカ為メ前回ノ総会ニ於テ指名シタル委員カ既ニ其ノ事業ニ著手セルヲ報シ且ツ委員中ニ更ニ二名ノ委

員ヲ加ヘラレンコトヲ冀望スルノ意思ヲ表彰シタル者アリ而シテ議長モ亦其ノ冀望ヲ容レテ一モ不可ナル所アラスト信スルヲ以テ塡地利洪牙利国ノ委員メレー・カポス・メール君及合衆国ノ委員セッス・ロウ君ヲ右ノ起草委員ニ指名シタルコトヲ告ケ其ノ承認ヲ議場ニ求ム（可決）

午後三時半散会

七月五日第五回総会議議事録附属書

（第一号）

報告書

第二分科委員会ハ其ノ審査事項トシテ「千八百七十四年比律悉会議ニ於テ制定セラレ今日マテ批准ヲ経ルニ至ラサリシ陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言修正」ノ件ヲ受領シタリ、此件ハ千八百九十八年十二月三十日付ムウラヴィエフ伯爵閣下ノ廻章中第七号ニ掲ケタル問題即是レナリ

本報告ノ始メニ於テ右審査事項ノ範囲ヲ精確ニ決定センカ為ニ先ツ比律悉会議ニ於テ定メタル条規ハ専ラ陸上ニ於ケル戦争ノ法規及慣例ヲ掲ケタルモノナルコトヲ注意セサルヘカラス従テ第二分科委員会ノ権限モ亦同一ノ範囲内ニ止マルヘキモノナリトハ同委員会カ常ニ之ヲ念頭ニ置キタル所ニシテ同委員会カ六月一日ノ議事ニ於テ亜米利加合衆国委員クロジェー君ノ提出ニ係ル私有財産尊重ノ規則ヲ海上ニモ適用セシメントスルノ案件ヲ受領シ置クニ止メタルモ亦右ノ観念ニ由ルモノナリ又同委員会カ一ノ特別問題即チ砲撃ニ関スル規則ハ海上ニ在ル船舶ヨリ沿岸諸点ニ発砲スル場合ニモ之ヲ適用スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ヲ決スルハ之ヲ第二分科委員会ノ議ニ一任スルコトト為シタル如キモ亦同一ノ観念ニ基クニ外ナラサルナリ

分科委員会ハ主トシテ其ノ審議ノ順序ヲ一定シ置クニ注意シタリ則チ同委員会ハ其ノ議事ノ基礎トシテ千八百七十四年比律悉会議宣言ノ法文ヲ採用スルニ決シタルモ其ノ各種問題ヲ議スルニ当リテハ左ノ順序ニ拠ルコトトセリ（五月二十五日第二分科委員会会議）

第一　俘虜（第二十三條乃至第三十四條）

第二　降伏條約及休戦（第四十六條乃至第五十二條）

第三　軍使（第四十三條、第四十四條）

第四　私人ニ対スル軍ノ権力、取立金及徴発（第三十六條乃至第四十二條）

第五　「ジェネヴァ」條約ニ関スル第三十五條及第五十六條

第六　間諜（第十九條乃至第二十二條）

第七　害敵手段攻囲及砲撃（第十二条乃至第十八条）

第八　中立国内ニ留置スル交戦者及救護スル傷者（第五十三條乃至第五十五条）

第九　敵国ノ版図内ニ於ケル軍衙ノ権力（第一條乃至第八條）

第十　交戦者ノ中ニ列スヘキ者如何、戦闘員及非戦闘員（第九條乃至第十一條）

右ノ議事順序ハ最困難ナル問題ヲ後ニシタルモノニシテ分科委員会第一続会ニ於テハ全ク右ノ順序ニ依リタルモ唯私人ニ対スル軍ノ権力ニ関スル比律悉条第三十六條乃至第三十九條ノ次ニ議スヘキ豫定ノ第四十條乃至第四十二條ノ取立金及徴発ハ之ヲ前記第九ノ敵国ノ版図内ニ於ケル軍衙ノ権力ノ章ニ於テ併セテ審議スルコトト為シ直ニ第五ノ議案ニ移リタリ

然ルニ分科委員会ハ六月十二日ノ会議ニ於テ任命シタル起草委員会ノ意見ニ基キ一ノ案ヲ採用シタリ該案ハ四款ヨリ成リ其ノ第一款及第二款ハ亦各章ニ分カレ其ノ各條ノ排列宜シキヲ得序次一層整然タル新案ニシテ現ニ第二委員会ニ付託中ノモノニ係リ「陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言案」ト題シテ本報告ノ末尾ニ附加シ置ケルモノ即是レナリ而シテ右新案ノ法文ト常ニ連絡ヲ失ハサランカ為ニ本報告モ亦之ヲ該宣言案ニ対応セル款章ニ分ツコトトセリ

第二委員会ニ付託中ナル該案ノ詳細ナル審査ヲ記述センスルニ臨ミ分科委員会ニ於テ右議事ノ進行中接受セル広狭各種ノ意見書ニ付一言シ以テ第二委員会ノ注意ヲ喚起セント欲ス

六月十日会議ノ始メニ於テ大不列顛国専門委員将官「サー」ジョン・アルダー、ハ其ノ政府ニ関係ナク自分一個ノ意見トシテ左ノ如キ趣旨ノ宣言ヲ朗読シタリ「比律悉宣言ノ修正ヲシテ国際條約タラシメントスルハ謬見ナリト云ハサルヘカラス、比律悉宣言ノ採用ニ至ラサリシ原因ハ強イテ之ヲ探究スルニ及ハスト雖我海牙会議ノ決定ニ関シテモ或ハ同一ナル故障ノ起ラサルヲ期スル能ハサルヘシ、故ニ此ノ如キ故障ヲ避ケ比律悉会議ニ於ケルト同様ノ不結果ニ陥ラサランカ為メ寧ロ吾人ハ本宣言ヲ単ニ吾人ノ軍隊ニ対スル戦時法規及慣例ニ関スル訓令ノ一般基礎トシテ採用スルニ止メ必スシモ多数決ニヨリテ成立シタル條文全部ヲ承認スヘキ義務ヲ負ハシメサルモノト為スヲ以テ優レリト信ス」ト

右「サー」ジョンアルダーノ説ニ依レハ各国政府ハ縦令本

宣言ニ賛同シタルニ拘ラス其宣言ノ「條項ヲ取捨変改スルノ完全ナル自由」ヲ留保スルモノト云ハサルヲ得サルヘシ

大不列顛国専門委員ニ於テ右ノ意見ヲ発表シタルカ為ニド・マルテンス君ハ同件ニ関スル露西亜帝国政府ノ意見ヲ補充スル為メ二三ノ註解ヲ試ムルニ至レリド・マルテンス君ハ曰ク

「露西亜帝国政府ノ目的トスル所ハ始終一貫渝ルコトナシ則チ同政府ハ本平和会議ニ於テ適宜ニ修正セラルヘキ比律悉宣言ヲ以テ各国政府カ戦時其ノ陸軍ニ下スヘキ訓令ノ鞏固ナル基礎タリ得ヘキモノト認定ス而シテ此ノ基礎ヲ実際ニ確立セント欲セハ千八百六十八年聖彼得斯堡宣言ト均シク條約上ノ約束ヲ必要トス則チ條約ノ明文ヲ以テ右ノ訓令ニ掲クヘキ共通齊一ノ規則ニ関シ各記名国及加盟国ハ全然一致シタル旨ヲ宣言シ置クコト必要ナリ能ク各記名国ヲ結合スルノ拘束力ヲ維持スルハ唯此一法アルノミ然リ而シテ比律悉宣言カ締盟国及加盟国ニ対スル外拘束力ヲ有セサルコトハ言ヲ俟タサルナリ」

右最後ノ一句ニ徴スルニ露国政府ノ意見ニテハ唯條約ヲ締結セント欲スルノミ従テ採用ヲ得タル諸規則ニ就キテモ亦

加盟国間ニアラサレハ拘束ノ効力ヲ認メサルナリ若シ加盟国間ノ戦争ニ於テ其ノ一国カ未タ加盟セサル一国ノ援助ヲ承諾シタル場合ニ於テモ亦該諸規則ノ適用ハ停止セラルヘキモノトス露国委員ド・マルテンス君ハ右ノ意見ヲ主張スル為ニ一ノ仮定ヲ援用シテ曰ク、本案ノ事業タル恰モ「戦時兵力ノ濫用ニ対スル相互保険会社」ヲ設立スルカ如キモノニシテ該会社ニ加入スルトセサルトハ各国ノ自由ナルヘキモ一旦其ノ会社ニ加入シタル以上ハ加入者相互間ニ遵守スヘキ定款ナカルヘカラスト

同時ニド・マルテンス君ハ後ニモ記載スルコトアルヘキ他ノ一異議ニ対シテ曰ク一致ノ承諾ニヨリ「戦時兵力ノ濫用ニ対スル相互保険会社」ヲ設立シ以テ最大災害ニ対シ人民ノ利益ヲ保護スルヲ目的トスルモ決シテ是等ノ災害ヲ公認スルモノニアラス唯災害ノ存在ヲ認識スルモノニ外ナラサルコト恰モ火災、霰害其ノ他ノ災害ニ対スル保険会社カ其ノ定款ニ於テ夫々災害ヲ豫見スルモ敢テ右ノ災害ヲ定款ニ於テ公認スルモノニアラス唯現ニ各種災害ノ存在スルコトヲ推測シタルニ過キサルト同シト

右ド・マルテンス君ノ意見中最後ノ部分ハ六月五日分科委員会ノ議事ニ於テ主トシテ白耳義国第一委員ベルネルト閣下ニ依リテ表明セラレタル根本的議論ニ対抗スルモノナリ

ベルネルト君ノ演説ハ比律悉宣言中特ニ第一章、第二章及第九章ノ敵国版図ノ占領、交戦者及現品又ハ金銭ノ徴発ニ関スル條規ニ関スルモノニシテ同君ノ議論ハ実ニ是等各章ニ掲ケタル或ル規定ニ対シ左記ノ件ノ当否ヲ論弁シタルモノナリ曰ク「戦争ノ未タ開始セラレサル前ニ於テ戦敗者タルヘキモノハ豫メ自国ノ版図内ニ於ケル戦勝者ノ権利ヲ承認シ以テ戦敗ニ適応スル制度ヲ構成シ置クカ如キハ果シテ至当ノコトナル乎予ノ見ル処ヲ以テセハ戦勝者ノ権利ヲ認ムルコトナク単ニ事実ノ存在ヲ認メ以テ戦勝者ノ行為ヲ抑制シ得ヘキ種類ノ規定ノミヲ採用センコトヲ要ス」

右白耳義国第一委員ノ意見ハ其ノ意義広汎ナルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ該意見ノ趣旨ハ戦時法規及慣例ニ関スル宣言ノ全部ニ対シ多少関係ヲ有セサル所ナキヲ以テナリ

右ノ演説ニ対シド・マルテンス君ハ平隠ニシテ武装セサル人民ノ生存上ノ利益ヲ「戦争及国際法ノ為ス儘ニ」放擲スルノ不可ナル所以ヲ極力論弁シタリ

抑モ右問題ノ骨子ハ軍隊ノ勢力ニ依リテ行ハルル事実上ノ権力ヲ国際的規則中ニ掲クルハ之ヲ以テ権利ナルカノ如ク

看做サルルノ虞アルカ故ニ寧ロ右権力制限ノ貴重ナル利益ヲ放棄セサルヘカラサルヤノ点ニ在リトス然リ而シテ分科委員会ニ於テハ侵略セラレタル国ノ正当ナル政府カ侵略軍又ハ占領軍ノ事実的権力ニ対シテ豫メ認可ヲ与ヘ置クヘキモノナリトハ何人モ思考セサリシ所ニシテ全委員ノ見ル所唯此権力ノ執行ヲ制限セントスル貴重ノ規則ヲ採用スルハ畢竟明瞭ニシテ疑ナキノ必要ニ応シ兵者ノ常態タル一勝一敗豫メ期シ難キ運命ニ対シ各国人民ノ利益ヲ保護スル所以ニ外ナラスト認メタルノミ

分科委員会ハド・ベルネルト君ノ意見ヲ認容シテ之ヲ委員会ノ宣言ト為シ六月二十日ノ議事ニ於テド・マルテンス君之ヲ朗読シ尚ホ該委員会ハ此宣言ヲ平和会議議定書中ノ一部分ト為スヘキコトニ定メタリ、右宣言ヨリシテ陸戦ノ法規慣例ニ関スル案ハ之ヲ以テ実際ニ生スヘキ一切ノ場合ヲ規定シタルモノト看做サルヘキモノニアラスシテ他ニ国際法ノ範囲存在セリト云フノ結果ヲ生スルモノトス、且該案中何等ノ條項ト雖締盟国ヲシテ其ノ主権ト相容レサル権利ヲ認メシムルモノニアラス各国カ該規則ニ賛同スルハ単ニ兵力ノ運命ニ依リ外国ノ版図又ハ外国臣民ニ対シテ事実的権力ヲ掌握スルニ至リタル場合ニ該事実的権力ノ執行ヲ制

限センカ為ニ一篇ノ法律上ノ規則ヲ承認シタルモノニ外ナラサルコトモ亦右宣言ニ於テ明確ニ言明セラレタルモノトス右ノ外尚ホ第二委員会ニ報告スヘキ一般的意見ノ存スルアリアイシェン閣下ノ提出ニ係ルモノ即是レナリ

第二分科委員会六月三日ノ会議ニ於テ盧森堡国委員アイシェン君ハ「中立国ノ権利義務」ヲ決定スルノ有要ナルコトニ就キ該委員会ノ注意ヲ求メタリ、分科委員会ハ比律悉宣言ノ条項ニ就キテ各問題ヲ議スルニ際シ併セテ之ヲ審査スヘシトノ意見ナリシモ遂ニ「中立国ノ権利義務ヲ規定スルノ問題ハ次期萬国会議ノ議事項目中ニ掲載セラレタシ」トノ希望ヲ発表セリ（第二分科委員会六月六日議事）

以下四款ニ於テ陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言案ノ審査ヲ細説セン

第一款　交戦者

第一章　交戦者ノ資格

（第一條乃至第三條）

本章ノ始メノ二箇條（第一條乃至第二條）ハ全会一致ヲ以テ可決セラレタリ、此二箇條ハ比律悉宣言案第九條及第十條ヲ其ノ儘採用シタルモノナルモ唯第二読会ニ於テ第一條末項ノ追加ヲ為シ民兵又ハ義勇兵団ヲ軍ノ名目中ニ包含スヘキ旨ヲ形式的ニ増補シタルノミ

右各條ノ議事ヲ開始セントスルニ臨ミド・マルテンス君ハ前ニ一言シ置キタル宣言ノ案ヲ朗読シ分科委員会ハ即時ニ之ヲ採用シタリ今平和会議ニ提出スヘキ其ノ全文ヲ左ニ掲ク

「平和会議ハ全会一致、戦時慣例ノ明確ニ規定セラルルコトヲ深ク希望セリ、本会議ハ此趣旨ヲ体シ交戦者及人民ノ権利義務ヲ確定シ並軍事上ノ必要ノ許ス限リ戦争ノ惨害ヲ緩和スルヲ以テ目的トセル許多ノ條文ヲ可決シタリ然レトモ今ニ於テ実際生スヘキ一切ノ場合ヲ網羅スル條規ヲ妥定スルハ克クスヘカラサルノコトナリトス

尚又右ノ規定ヲ缺ケル場合ニ関シ其ノ條項無キノ故ヲ以テ之ヲ軍司令官ノ自由裁量ニ放任スルカ如キハ決シテ本会議ノ意思ニアラス

本会議ハ完備シタル戦闘法典ノ編纂ニ至ルマテハ今日ノ協定ニ漏レタル場合ニ就キテハ人民及交戦者カ従来文明国民ノ間ニ存立スル慣習、人情ノ原理並公共良心ノ要求ヨリ生スル萬民法ノ原則ニ依リテ保護セラレ且之ニ服従スヘキモノト宣言スルヲ以テ適当ト認ム

本会議ハ其ノ採用シタル規則中ニ就キ第九條及第十條（新提出案ノ第一條及第二條）ハ殊更右ノ趣旨ヲ以テ解スヘキモノナルコトヲ宣言ス」

曩ニ第九條及第十條（新提出案ノ第一條及第二條）ノ採用ニ関シ異議ヲ提出シタル白耳義国第一委員ベルネルト君ハ右宣言在ルノ故ヲ以テ直チニ前記二箇條ヲ可トシ得ル旨ヲ陳述セリ

於是乎交戦者ノ資格認定ニ関スル重要ニシテ且ツ困難ナル右ノ規定ニ就キ全然一致ノ意見ヲ定ムルコトヲ得タリ

本章ノ末條タル第三條ハ案文ノ詳細ナル点ヲ措キ比律悉案第十一條ニ該当スルモノニシテ同條ニ於テハ軍隊ノ一部分タル非戦闘員モ亦交戦者ト看做サルヘキ者ニシテ戦闘員並非戦闘員即一切ノ交戦者ハ敵ニ捕獲セラレタル場合ニ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ権利ヲ有スルコトヲ明定シタリ

或ハ本條若ハ本條ノ下部ヲ俘虜ノ章ニ移サントノ説アリタルモ結局交戦者タル資格ニ属スル地位ヲ確定シタル後引続キ交戦者カ敵ニ捕獲セラレタル場合ニ於テ俘虜トシテ取扱ハルヘキ重要ナル権利ヲ規定スルハ無益ノ業ニアラサルヘシト認メ且俘虜ノ地位ヲ定メタル次ノ第二章トノ連絡上自然ノ順序ニ適フモノト思料シタリ

ド・マルテンス君ノ提議ニ由リ採用セラレタル前記宣言文

ノ分科委員会ニ提出セラルル前、大不列顛国専門委員「サー」ジョン・アルダー少将ハ第一章ノ末尾ニ左ノ規定ヲ加ヘンコトヲ発議セリ

「本章中何等ノ規定ト雖モ之ヲ以テ被侵略国ノ人民カ侵略者ニ対シ一切ノ適法手段ニ依リテ最有力ナル愛国的抵抗ヲ為シ其ノ義務ヲ尽クスノ権利ヲ制限セラレ又ハ廃棄セラレタルモノト看做スコトヲ得ス」

第二分科委員会六月二十日ノ議事録ニ依リテ之ヲ見ルニアルダー君ノ提出ニ係ル右ノ條規ハ同日議事ノ劈頭ニ於テド・マルテンス君カ朗読シタル宣言ニ何等加フル所アルモノニアラストハ分科委員会委員多数ノ意見ナリシカ如シ然ルニ瑞西国委員ハ右ノ追加條規ニ甚タ重キヲ置キ若シ「サー」ジョン・アルダーノ該発議ニシテ採用セラレサルトキハ瑞西国委員ハ第一條及第二條（旧第九條及第十條）ニ参同スルヲ躊躇セントスルマテニ至リ同国委員キュンツリー君ハ現ニ右ノ意ヲ洩シタリ又他ノ一方ニ於テ独逸国専門委員ド・グロッス、ド・シュワルツホッフ大佐ハ述ヘテ曰ク比律悉宣言第九條（即新案第一條）ハ交戦者タル資格ノ認定ニ関シ極メテ単純ナル條件ヲ付シタルニ過キス従テ同大佐ハ未タ占領セラレサル地方ノ人民カ単ニ戦闘ノ法規慣例

ヲ遵守スルノ一條件ニ依リテ均シク交戦者ト看做サルヘキコトヲ定メタル第十條（新案第二條）ニハ賛成セサルヘシトノ意見ナリシモ調和ノ精神ニヨリ之ヲ可トシタルノミト同大佐ハ更ニ明確ナル語調ヲ以テ揚言スラク「本員カ譲歩ハ此点ヲ限リトシテ停止ス、今一歩ヲ進メ防衛上ノ絶対的自由ヲ宣言スル論者ニ同意スルカ如キハ本員ノ断シテ為ス能ハサル所ナリ」ト

右意見ノ交換アリタル後ド・マルテンス君ノ提出ニヨリ採用セラレタル前記宣言ニ鑒ミ「サー」ジョン・アルダーノ提議ハ提出者自ラ調和ノ目的ヲ以テ之ヲ撤回セリ

第二章　俘虜

（第四條乃至第二十條）

千八百七十四年比律悉ニ於テ採用セラレタル宣言案中俘虜ノ章（第二十三條乃至第三十四條）ニ於テハ先ツ其ノ第二十三條第一項ニ於テ俘虜ノ定義ヲ掲ケ「俘虜ハ適法ニシテ且武装ヲ解棄ラレタル敵人ナリ」ト規定セリ此定義ハ露西亜帝国政府ヨリ比律悉会議ニ提出シタル原案第二十三條ニ掲ケタル他ノ長文ナル定義ノ一片ナリト看做スコトヲ得ヘシ分科委員会ニ於テハ右等ノ定義ヲ以テ精確ヲ缺ケルモノト思考シタルモ別ニ一層完全ニシテ精確ナル他ノ定義ヲ発見スルノ難キヲ認メタルヲ以テ寧ロ定義ヲ付スルコトヲ避ケ本章ニ於テハ単ニ俘虜ノ取扱ノコトヲ記スルニ止ムルコトトセリ

此故ニ比律悉案第二十三條ニ該当スル本案第四條ニ於テハ直チニ「俘虜ハ敵国政府ノ権内ニ属シ云々」ノ規定ヲ掲ケタリ

又「不従順ノ行為」ニ関スル項ハ第四條中ニ之ヲ設ケスシテ第八條ニ掲クルヲ以テ其ノ処ヲ得タルモノト認メタリ

比律悉会議ニ於テ採用セラレタル俘虜ノ取扱問題ニ関スル其ノ他ノ規定ニ就キテハ分科委員会ハ其ノ議事録中（五月二十七日及三十日同委員会議事）ニ説明スル如ク或ハ軽微ノ修正又ハ単ニ形式上ノ変更ヲ加ヘタルノミニシテ大半之ヲ採用シタリ

俘虜ノ留置ニ関スル第五條ハ比律悉案第二十四條ヲ其ノ儘採用シタルモノトス

第六條ハ比律悉案第二十五條第二十六條ノ規定ヲ聯結シタルモノニシテベルネルト君ノ発議ニ依リ其ノ文面ニ軽微ノ変更ヲ加ヘタルノミ

第七條ハ比律悉案第二十七條ト略ホ同様ナルモ唯俘虜ノ取扱上食料及被服ニ関スル件ノ外寝具ノ件ヲモ併セテ規定セリ

俘虜ノ規律ニ関スル第八條ハ比律悉案第二十八條ニ該当スルモ之ニ二三ノ変更ヲ施シ而シテ此変更ハ単ニ形式ニノミ止マラス特ニ俘虜ノ逃走ニ関シテ然リトス、右修正ハ尚ホ、後ニ之ヲ解説スヘシ

第九條ハ第二十九條ヲ其ノ儘採用セリ（氏名及階級申告ノ件）

俘虜交換ニ関スル比律悉案第三十條ハ無用ノモノトシテ廃棄セラレタリ何トナレハ此交換問題ハ一般的規則ノ規定事項タルヘキモノニアラスシテ交換ハ常ニ交戦者間相互ノ協商ニ依リ之ヲ為シ得ルコト当然ナレハナリ

宣誓解放ニ関スル第十條第十一條及第十二條ハ二三些細ナル文章上ノ修正ヲ除クノ外凡テ比律悉宣言第三十一條、第三十二條及第三十三條ノ転載ニ過キス

俘虜ニ準セラルル一箇人ニ関スル第十三條ノ規定ハ之ニ該当スヘキ比律悉案第三十四條ニ比シ其ノ意義及形式共ニ著シキ差異アリ

第十四條ヨリ第二十條マテハ全ク新設ニ係リベルネルト君ノ提議ニ由リ採用セラレタルモノトス

右ノ如クナルヲ以テ第八條（比律悉案第二十八條）第十三條（比律悉案第三十四條）及新設第十一條乃至第十七條ニ就キテノミ二三特別ノ説明ヲ与フルヲ以テ足ルヘキナリ

前ニ陳ヘタル如ク第八條ト為リタル比律悉案第二十八條ハ長時間ノ論争ヲ経タルモノニシテ特ニ俘虜ノ逃走ニ関シテ然リトス、而シテ結局逃走ノ未遂ハ全ク之ヲ不問ニ附スルコトヲ得スト雖モ之ニ科スヘキ刑ノ程度ヲ制限シ以テ特ニ右ノ逃走ヲ敵前ニ於ケル遁逃ト同一視シテ死刑ニ処セラルルコトヲ防クハ必要ノコトニ属セリトハ千八百七十四年比律悉会議ニ於ケルト均シク認メラレタル所ナリ、右ノ結果トシテ「逃走シタル俘虜ニシテ其ノ軍ニ達スル前又ハ之ヲ捕獲シタル軍ノ占領セル地方ヲ離ルル前ニ再ヒ捕ヘラレタル者ハ懲罰ニ付セラルヘシ」トノ規定ヲ見ルニ至レリ

然レトモ俘虜ノ逃走カ特別ノ事情例ヘハ共謀反乱、若ハ多衆嘯集ノ如キ事犯ニ関聯シタル場合ニハ右ノ制限ノ適用セラレサルヘキコト弁論ノ進行中ニ於テ證明セラレタルトコロナリ右等ノ場合ニ於テハド・ヴォアレッツ将軍カ千八百七十四年比律悉会議ニ於テ陳述シタル如ク（千八百七十四年八月六日議事、同議事録第六号）其ノ俘虜ハ同第八條第一項「俘虜ハ之ヲ権内ニ属セシメタル国ノ陸軍現行法律規

則及命令ニ服従スヘシ」トノ規定ニ依リテ所罰セラルヘシ
加之ナラス此規定ハ尚ホ旧第二十三條ニ基キテ第八條ニ附
加シタル「総テ不従順ノ行為アルトキハ俘虜ニ対シテ必要
ナル厳重手段ヲ施スコトヲ得」トノ規定ニヨリ補充セラル
ルモノトス
比律悉案第二十八條ハ「逃走セル俘虜ニ対シ戒告ノ後武器
ヲ使用スルコトヲ得」ト規定シタルモ分科委員会ニ於テハ
之ヲ廃棄セリ然レトモ此削除ノ目的ハ逃走俘虜ニ発砲スル
ノ権ニシテ若シ陸軍規則ノ規定スル所ナルニ於テハ決シテ
此権ニ就キテ異議ヲ唱ヘントスルモノニアラス唯分科委員
会ニ於テハ宣言中ノ箇條ニシテ特ニ斯カル極端ノ手段ヲ奨
励スルカ如ク見ユルモノアルハ宜シカラスト思考シタルニ
過キス
終リニ分科委員会ハ多少躊躇ノ後本條末項「俘虜逃走ヲ遂
ケタル後再ヒ俘虜ト為リタル者ハ前ノ逃走ニ対シテハ何等
罰ヲ受クルコトナシ」トノ規定ヲ採用スルニ決シタリ蓋シ
一俘虜カ其ノ自由ヲ回復シタルトキハ其ノ事実上及法律上
ノ地位ハ総テノ点ニ於テ嘗テ俘虜タラサリシ者ト些ノ差異
アルコトナシ故ニ其ノ以前ノ事実ニ対シテハ真ノ刑罰ヲ適
用スルコトヲ得ストノ意見ニ従ヘルモノナリ

分科委員会案第十三條ハ比律悉案第三十四條ニ該当シ之ニ
著ルシク変更ヲ加ヘタルモノナリ
第三十四條ニ於ケル最モ著ルシキ欠点ハ其ノ文意明晰ヲ欠
キ軍ノ一部ヲ為ササル従軍者ニシテ同條ノ指定シタル者
（新聞通信員、探訪者、酒保用達人ノ如キ）カ官ノ證認状
ヲ携帯スルトキハ俘虜ト看做サルヘシト規定スルモノノ如
ク見ユルカ故ニ其ノ文字ニ拘泥スルニ於テハ恰モ官ノ證認
状ヲ携帯セサル者ハ自由ニ解放セラルルカノ如キ嫌ナキ能
ハス然ルニ是素ヨリ該規定ノ真意ニアラサルナリ、於是乎
分科委員会ハ同会報告者ノ提出ニ係リ国際法学会戦時法規
提要第二十二條ニ近似セル精確ナル案文ヲ採用セリ、此條
文ニ於テハ是等ノ一私人ハ元来真ノ俘虜ト看做サルヘキ者
ニアラストノ点ニ着眼セリ、然レトモ一時若ハ戦争ノ終結
ニ至ルマテ之ヲ抑留スルノ必要ナルコトアルヘク而シテ此
場合ニ於テ俘虜トシテ取扱ハルルハ右一私人ニ取リテ利益
タルハ争フヘカラサルナリ、但シ「此ノ所屬陸軍官衙ノ證
認状ヲ携帯」スルニアラサレハ此利益ヲ享クル能ハサルモ
ノトス
次ニ本章中最後ノ七箇條（第十四條乃至第二十條）ニ就キ
テ数言ヲ費ヤサントス此諸條ハ白耳義国第一委員ベルネル
ト閣下ノ提出ニ基クモノトス
ベルネルト君ハ右諸條ノ提案ヲ以テ敢テ斬新ノモノニアラ
スシテ主トシテ千八百七十年役戦離者ノ為ニ力ヲ尽シタル
後将来ニ向テ負傷軍人又ハ俘虜ノ状態ヲ改良センコトニ鋭
意従事シタルロムベール・ニザール氏ノ意思ニ出ルモノナ
ルコトヲ明言セリ
是等追加諸條中第一ノ規定ハ嘗テ千八百六十六年普漏西ニ
於テ設置セラレ又千八百七十年―七十一年戦役ノ間大ナル
任務ヲ尽シタルコトアルモノト同一ナル俘虜情報局ノ設置
ヲ一般ナラシメントスルモノニシテ第十四條則チ是レナリ
次ノ第十五條ニ於テハ適法ニ組織セラレタル俘虜救恤協会
ニ対シテハ多少ノ便宜ヲ与フヘキコトヲ規定シ、第十六條
ニ於テハ情報局ニ与フルニ郵税免除其ノ他ノ利益ヲ以テシ
且一般ニ俘虜ニ宛テタル送品ニ就キテモ此等ノ特典ヲ規定
セリ第十七條ハ俘虜タル将校ニ其ノ給料ノ支払ヲ受ケシム
ルコトヲ目的トシ、第十八條及第十九條ニ於テハ俘虜ニ其
ノ宗教遵行ノ自由ヲ与ヘ遺言上ノ便宜ヲ計リ併セテ死亡證
書及埋葬ノ件ヲ規定セリ終リニ第二十條ニ於テハ和約締結
ノ上ハ「成ルヘク速ニ俘虜ヲ其ノ本国ニ送還スヘキ」コト
ヲ明定セリ、蓋シ絶対的ニ即時ニ放還スルコトハ徒ニ混雑
ヲ惹起スルノ虞アルカ故ニ実際不可能ノコトナリトス
第二十條第二項トシテ右和約締結ノ上ハ俘虜ハ普通法ノ重
軽罪ニ対スル外其ノ捕獲後ノ事実又ハ処刑ノ為ニ抑留セラ
レ又ハ放免ヲ遅延セラルルコトナキ旨ヲ規定スヘキ筈ナリ
シモ、大佐ド・グロッス、ド・シュワルツホッフ君ノ意見
ニ基キ軍紀保維ノ必要上俘虜抑留最終ノ日マテ充分ノ制裁
ノ行ハルヘキコトヲ要ストノ理由ニ依リ右ノ規定ハ全会一
致之ヲ廃棄セリ
以上白耳義国第一委員ノ発議ニ係ル追加諸規定ノ中独リ
郵税及関税其ノ他ノ免除ニ関スル第十六條ニ就キ異議ヲ生
シタリ然レトモ墺地利洪牙利国専門委員ランマシュ君及和
蘭国第二委員将官デン・ベール・ポールチュゲール君ノ熟
心ナル申請ニ依リ同條モ亦遂ニ全会一致ヲ以テ採用セラレ
タリ
爰ニ注意スヘキハ郵便條約其ノ他ノ條約ハ右規定ニ遵ヒテ
修正セラレサルヘカラサルコト是レナリ、而シテ関税免除
ノ件ニ至リテハ素ヨリ俘虜自身ノ使用ニ宛テラレタル物品
ニ非レハ適用セラレサルコト明カナリトス
右第十四條乃至第二十條ハ正ニ千八百七十四年比律悉会議

ニ於テ白耳義国政府カラムベルモン男ヲシテ提出セシメタル俘虜救恤協会ニ関スル六ヶ條ニ該当シ寧ロ之ニ過クルモノアルハ蓋シ玆ニ特筆スルノ価値アルモノト信ス（比律悉会議議事録附属書第十一号参照）、当時右ノ六ヶ條ハ寧ロ好意ヲ以テ迎ヘラレタル議事事項ナリシモ比律悉宣言案中ニハ遂ニ掲載セラレサリシナリ（比律悉会議議事録第八号千八百七十四年八月十日会議）

第三章　病者及傷者

（第二十一條）

本章ハ唯一箇條ヨリ成リ比律悉案第三十五條ヲ其ノ儘採用シタルモノナリ且其ノ議決ニ当リテハ全会異議ナク之ヲ可決シタリ本條ハ分科委員会議長ノ注意シタル如ク単ニ交戦者タルモノハ「ジェネヴァ」條約ノ規則ヲ遵守セサルヘカラサルコトヲ規定シタルニ止マリ且末段ニ於テ将来該條約ノ修正セラルヘキ場合ヲモ豫見シタリ

又後ノ第六十條（比律悉案第五十六條）ニ於テ「ジェネヴァ」條約ハ中立国ノ版図内ニ留置シタル病者及傷者ニモ適用セラルル旨ヲ規定シアリ

第二款　戦闘

第一章　害敵手段攻囲及砲撃

（第二十二條乃至第二十八條）

本章ニ於テハ比律悉宣言中「害敵手段」（第十二條乃至第十四條）及「攻囲、砲撃」（第十五條乃至第十八條）ノ二章ヲ併合セリ

此併合ハ起草委員会ノ発議ニ依リ分科委員会第二読会ニ於テ之ヲ可決シタルモノニテ害敵手段ニ関スル箇條ハ攻囲及砲撃ニモ亦均シク適用セラルルモノナルコトヲ明確ナラシメントノ趣旨ニ基クモノトス

第二十二條、第二十三條及第二十四條ハ文面ノ修正ヲ除クノ外正ニ比律悉宣言第十二條第十三條及第十四條ニ該当スルモノトス

第二十三條ニハ「特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモノ左ノ如シ」云々トアリ是等ノ特別條約トハ第一ニ常ニ効力ヲ有スル千八百六十八年聖彼得斯堡宣言ヲ指シ次ニ将来特ニ平和会議後ニ締結セラルヘキ類似ノ條約ヲ指セルモノトス旧法文ニ於テハ単ニ聖彼得斯堡宣言ノミヲ指定シタルモ分科委員会ハ広議ノ規定ヲ設クルヲ優レリト認メタリ

第二十三條末項(ト)号ニ於テハ戦争ノ必要上萬已ムヲ得サルノ外敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押収スルコトヲ禁シタリ、起草委員会ニ於テハ後ニ私有財産尊重ノコトヲ規定シタル箇

條アルニ因リ無要ナルヘシトノ意見ニテ同委員会ハ本号削除ノ議ヲ提出シタルモ分科委員会ハ其ノ第二読会ニ於テベルネルト君ノ申請ニ基キ本章中ニ於ケル右規定ハ所謂戦闘ノ効果ヲ制限セントスルモノニテ私有財産ニ関スル規定ハ特ニ敵国版図ノ占領ニ関スルモノナリトノ理由ニ依リ之ヲ維持シタリ

第二十四條（比律悉案第十四條）ノ案文ニ就キテハ批難アリ本條ヲ文字通リニ解釈スルトキハ一切ノ奇計並敵情地形探知ノ為必要ナル総テノ手段ハ其ノ事自体ニ於テ「適法」ノモノト看做サレサルヘカラサルモノノ如ク判断セラルルノ虞ナキ能ハスト雖是素ヨリ本條ノ真意ニアラス唯本條ニ於テハ奇計並探知手段ハ適法ノモノタル以上ハ禁セラルルコトナシト云フニ外ナラス故ニ他ノ部ニ掲ケタル命令的規則ニ違反セル場合ニ於テハ奇計及探知手段ノ「適法」タルコト亦止ムモノトス

比律悉案第十四條ニ於テハ特ニ右命令的規則ノ一ヲ援用セリ則チ占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ本国ニ敵対スヘキ作戦動作ニ加ハラシムルコトヲ禁シタルモノ是ナリ（比律悉案第三十六條）然ルニ命令的規則ハ尚ホ此外ニモ少ナカラス特ニ軍使旗ノ濫用ヲ禁止スルカ如キハ（第二十三條、ヘ号）

其ノ著ルシキモノナリ加之ナラス宣言案ノ一條中ニ明定セラレサルモノモ亦之有リ、於是乎第二十四條中ニ総テ是等ノ規則ヲ列記スルコト能ハサルニ由リ分科委員会ニ於テハ寧ロ全然之ヲ掲ケサルヲ以テ優レリトシ此説明ヲ以テ充分本條ノ真意ヲ指定シ得タルモノト認メタリ

第二十五條、第二十六條、第二十七條及第二十八條ハ殆ト一字毎ニ比律悉案第十五條ニ該当シ唯形式上軽微ナル変更ヲ加ヘタルニ過キス

防守セサル市府町村落居宅又ハ建物ノ砲撃禁止（第二十五條）ニ関シテ玆ニ一言セサルヘカラサルハ大佐ド・グロッス・ド・シュワルツホッフノ右ニ関スル意見是レナリ同大佐ノ説ニ依レハ此禁止タル作戦働作上ノ必要アルトキハ如何ナル建物ト雖モ総テノ手段ニ依リ破壊スルノ権能ヲ制限シタルモノト解釈セラルヘキモノニ非スト云フニ在リ而シテ此意見ハ分科委員会ニ於テ更ニ異議ヲ生スルコトナカリキ又本報告ノ冒頭ニモ掲ケタル如ク本章ノ下部ニ属スル諸條ハ艦隊ヨリ海岸ノ或点ヲ砲撃スル場合ニモ適用セラルルモノト看做スヘキヤノ問題ニ対シ和蘭国委員デン・ベール・ポールチュゲール君及ベルネルト君ハ積極的ノ意見ヲ陳ヘタルモ露国専門委員ジリンスキー大佐ノ発議ニ由リ全会一致

本問題ノ審査ハ之ヲ委員総会（第二委員会）ニ譲ルコトトセリ

第二章　間諜

（第二十九條乃至第三十一條）

本章ノ三箇條ハ比律悉案第十九條乃至第二十二條ノ規定ヲ殆ト其ノ儘採用シタルモノナルモ該案第十九條及第二十二條ハ仏国専門委員ムーニエ少将ノ発議ニ依リ之ヲ併合シテ一箇條トシ第二十九條ヲ設ケタリ、蓋シ右ノ二箇條ハ実際同一ノ観念ニ基キ何人ヲ間諜ト看做シ又間諜トシテ取扱フヘキヤヲ決定シ且其ノ例トシテ間諜ト看做スコトヲ得サル者ニ就キ二三特別ノ場合ヲ指定シタルモノナレハナリ

第三十條（比律悉案第二十條）ハ間諜ノ場合ニ於テ刑罰ノ適用前先ツ裁判ニ付スルコトハ他ノ場合ニ於ケルト均シク缺クヘカラサル保障トシテ常ニ必要ナルコトヲ規定シタルモノニテ比律悉案ノ條文ニ比シ其ノ文面ヲ一層明瞭ナラシメタリ

第三十一條（比律悉案第二十一條）ノ規定ニ依レハ所犯ノ際捕獲セラレスシテ後ニ至リ敵ノ手中ニ陥リタル者ハ其ノ前ノ「間諜」行為ニ対シテハ何等ノ責ヲ負フコトナキモノトス此免責ハ戦時慣習ニ適合スルモノナリ但「行為」ノ上「間諜」ノ二字ハ第二読会ニ於テ追加セル所ニ係リ右ノ免責ノ間諜行為ニノミ適用セラルルモノニシテ他ノ犯罪ニ及ハサルモノナルコトヲ明瞭ナラシメントスルニ外ナラス

第三章　軍使

（第三十二條乃至第三十四條）

本章ノ三箇條ハ比律悉案第四十三條第四十四條及第四十五條ニ該当ス

第三十二條ト比率悉案第四十三條トハ軽微ノ差違アルノミ本條ニ依レハ軍使ハ喇叭手、皷手、旗手ノ外尚ホ通訳者ヲ随従セシメ得ルモノトス又本條新規定ノ結果トシテ軍使ハ右随伴者ヲ省略シ単独ニテ自ラ白旗ヲ掲ケテ来ルコトヲ得ルモノトス

第三十三條ハ比律悉案第四十二條ノ前二項ヲ採用シタルモノナルモ第一読会及第二読会ニ於テ其ノ案文ニ変更ヲ加ヘタルモノナリ

該條ニ於テハ一切ノ交戦者カ軍使ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ軍使カ其ノ使命ヲ利用シテ軍情ヲ探知スルヲ防クニ必要ナル一切ノ手段ヲ施シ若ハ特権濫用ノ場合ニ於テ軍使ヲ抑留スルノ権利アルコトヲ規定セリ是皆戦時ノ必要及慣習ニ適合シタル規則トス

比律悉案第四十四條末項ニ於テハ「一定ノ時期中軍使ヲ受ケサルヘシ」トノ宣言ヲ為スコトヲ交戦者ニ許シ且「右宣言通告ノ後ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル敵軍ヨリ来リタル軍使ハ其ノ不可侵権ヲ失フヘシ」ト規定セリ、蓋シ右ノ場合ニ於テ不可侵権ノ喪失ハ最良ノ制裁タルニ相違ナキモ新案ハ一定ノ時期中云々ノ規定ヲ削除シタルヲ以テ不可侵権喪失ノ規定モ亦其ノ要ナキニ至レリ五月三十日分科委員会ノ議事中特ニ伊太利国第一委員伯爵ニーグラ閣下ノ本條ニ対シテ陳述シタル意見ニ基キ分科委員会ハ交戦者ニ許スニ縦令一定ノ時期中タリトモ軍使ヲ受ケサルヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ以テスルハ国際法ノ原則ニ反スルモノナリト認メタリ千八百七十四年比律悉会議ニ於テモ右ノ規定ハ百方議論ヲ経タル後僅ニ独逸国委員ド・ヴォアレッツ将軍ノ希望ニ応センカ為メ許容セラレタルモノニ過キス（千八百七十四年八月三日会議議事録第四号参看）之ニ反シ海牙会議ニ於テハ各専門委員特ニ独逸国委員ド・グロッス・ド・シュワルツホッフ大佐ハ総テ司令官ハ何時ニテモ軍使ヲ受ケサルノ権能ヲ認メラレタルヲ以テ（第三十三條第一項）戦時ノ必要ハ之ニ依リテ充分尊重セラレタルモノト看做シタルモ

ノノ如ク遂ニ全会一致ヲ以テ比律悉案第四十四條末項ノ廃止ヲ可決セリ

第三十四條ハ比律悉案第四十五條ニ同シ同條ニ依レハ「軍使特権ヲ利用シテ欺罔ノ行為ヲ為シ又ハ之ヲ教唆シタルノ證迹分明掩フヘカラサルトキハ其ノ不可侵権ヲ失フ」モノトス此規定ノ真意ニ関シテハ何等ノ意見ヲモ提起シタル者ナシ只軍使タルモノ如何ニシテ其ノ敵軍ニ対シ欺罔ノ行為ヲ犯シ得ヘキヤハ一ノ疑問ナリシナリ然ルニ本條ノ維持セラレタル所以ハ或国ノ刑法ニ於テ犯罪ノ教唆者ヲ以テ共犯者ト看做スノ規定アルコトヲ考量シタルニ依ル

第四章　降伏規約

（第三十五條）

本章ハ一箇條ヨリ成リ文面上ノ二三変更ヲ除キテハ比律悉案第四十六條ニ該当セリ

「降伏規約ニハ軍人ノ名誉若ハ義務ニ反スル條件ヲ掲クルコトヲ得ス」トノ箇條ハ比律悉会議ニ於テ仏国委員アルノードー将軍ノ発議ニ係リ（千八百七十四年八月三日会議議事録第四号）殆ト其ノ儘第四十六條ニ掲ケラレタルモノナリ而シテ第三十五條ニ於テ亦此主義ヲ維持シタルモ之ヲ表明スルニ当リテ一層命令的ノ案文ヲ採用シ降伏規約ニハ

「軍人ノ名誉ニ関スル慣例ヲ参酌スヘキモノトス」ト規定セリ

第五章　休　戦

（第三十六條乃至第四十一條）

本章ハ比律悉案中之ニ該当セル第四十七條乃至第五十二條ヲ殆ト文字通リニ採用シタルモノナリ

第三十六條ハ休戦ノ効果及期間ヲ規定シ第三十七條ハ全部休戦ト局部休戦ト区別ヲ為セリ右二箇條ハ比律悉案第四十七條及第四十八條ヲ其ノ儘採用シタルモノナリ

第三十八條ハ休戦ノ通告及戦闘ノ中止ニ関ス其比律悉案第四十九條ト異ナル点ハ戦闘ヲ中止スルハ必スシモ通告ノ時ニ於テスルコトヲ要セスシテ或ハ約定ノ時ニ於テスルヲ得ト為シタルニ在リ

第三十九條ハ比律悉案第五十條ヲ採用シタルモノナルモ其ノ意義ヲ拡張シ併セテ之ヲ精確ナラシメタリ則チ同條ハ休戦規約ニ於テ人民間ノ関係ヲ規定スルノミナラス尚ホ人民トノ関係ヲモ定メ得ルモノト為スト同時ニ其ノ「戦地」ニ限ルモノタルコトヲ明言セリ休戦規約中特別ノ規定ナキ場合ハ素ヨリ戦時法規普通ノ規則特ニ敵国版図ノ占領ニ関スル規則ニ依リ支配サルヘキモノトス

休戦規約締結者ノ一方カ同規約ニ違反シタル場合ノ問題ニ就キテハ分科委員会五月三十日ノ会議ニ於テ意見ノ交換アリ比律悉案第五十一條ニ於テハ休戦締約者ノ一方ニ規約違反アルトキハ他ノ一方ハ規約ヲ廃棄スルノ権利ヲ有スト云フニ止マリタルモド・グロッス・ド・シュワルツホッフ大佐ノ意見ニ由リ分科委員会ハ規約廃棄ノ権ノミニテハ未タ充分ナリトセス進ンテ交戦者ニ認容スルニ緊急ノ場合ニ於テハ「直ニ戦闘ヲ開始スル」ノ権ヲ以テセサルヘカラスト認メタリ而シテ亦他ノ一方ニ於テ分科委員会ハ直ニ戦闘ヲ開始シ得ル場合ハ勿論単ニ規約廃棄ヲ正当ナラシメンカ為ニモ必ス休戦規約ノ容易ナラサル違反ナカルヘカラスト為セリ是レ亦第四十條カ比律悉案ノ箇條ト異ナル点ナリトス

一個人ニ依ル休戦規約違反ノ件ヲ規定セル比律悉案第五十二條ハ修正ヲ受クルコトナクシテ第四十一條ト為レリ同條ハ「違反者ノ処罰及損害ヲ受ケタルトキノ賠償」ニ就キテ規定シタルノミ

第三款　敵国ノ版図内ニ於ケル軍衙ノ権力

（第四十二條乃至第五十六條）

右ニ掲ケタル款名ハ比律悉宣言案第一章（第一條乃至第八條）ノ題目ナリ

分科委員会ハ既ニ六月一日ノ会議ニ於テ取立金及徴発ニ関スル諸條（比律悉案第四十條乃至第四十二條）ヲモ均シク本章ニ加ヘテ審議スヘキモノト決シタリ尚ホ又同委員会ハ比律悉案中「一私人ニ対スル軍ノ権力」ト云ヘル一章ヲ成セル第三十六條乃至第三十九條ニ就キテ既ニ採用シタル新條文ヲモ本章ニ挿入スヘキ旨ヲ起草委員会ニ命シタリ右ノ理由ニ依リ本章ハ著ルシク長文ト為リ之カ審議モ亦非常ニ困難ナリシ然レトモ分科委員会議長ド・マルテンス君ノ終始渝ルコトナキ寛容ト同委員会各員ノ善意ト相俟テ各員満腔ノ希望タリシ一致ノ協定ヲ遂クルコトヲ得タリ

本章冒頭ノ箇條タル第四十二條ハ占領ノ定義ヲ与ヘタルモノニシテ比律悉案第一條ヲ其ノ儘採用シタルモノトス本條ハ本章中ノ他ノ重モナル諸條ト均シク分科委員会ニ於テ全会一致ヲ以テ可決シタリ

第四十三條ハ比律悉案第二條及第三條ノ趣旨ヲ一箇條ニ纏メタルモノナリ其ノ案文ハ海牙駐在仏国公使ビウール君及仏国委員ノ一人ヨリ提出シタルモノニ係レリ同條中占領者ハ「萬已ムヲ得サル場合ノ外占領地ノ現行法律ヲ尊重シテ」秩序ヲ回復保障スヘシト規定シタルハ実ニ比律悉案第三條ノ与ヘ得ヘキ一切ノ保障ヲ確保スルモノニシテ且本報告ノ始メニ記載セルベルネルト君ノ演説中ニ表明セラレタル周密ノ注意ニ抵触スル所ナキモノトス而シテ同君カ比律悉案第三條ノ無條件廃棄ヲ発議シタルモ畢竟右周密ノ注意ニ基クニ外ナラサリシナリ

比律悉案第四條廃棄ノ件ハベルネルト君ノ意見及ファン・カルネベーク君ノ熱心ナル賛成ニ由リ全会一致ヲ以テ可決シタリ和蘭国第一委員会ハ占領地ノ官吏ニ直接又ハ間接ニ戦勝者ノ使役ニ服スルノ許可ヲ与フルカ如ク見ユル一切ノ規定ヲ排斥センコトヲ宣言セリ然レトモ或官吏特ニ市町村ノ吏員カ占領者ノ来リタル後尚ホ其ノ任所ニ止マル場合ニ於テハ人民ニ対シ時トシテ成ルヘク其ノ義務（少クモ徳義上ノ）ヲ尽クスヘキモノタルコトニ就キテハ敢テ異議ナカリシナリ

次ノ四箇條（第四十四條乃至第四十七條）ハ軽微ナル変更ノ外比律悉宣言第三十六條乃至第三十九條ヲ其ノ儘採用シタルモノニシテ侵略者及占領者カ其ノ土地ノ人民トノ関係ニ於テ遵守スヘキ行為ノ一般規則ト認メラレタル主要ノ原則ヲ掲ケタルモノナリ是等ノ原則ハ個人ノ名誉生命竝個人又ハ団体ノ私有財産ヲ保護シ又宗教上ノ信仰ヲ尊重スルモノナリ

分科委員会ハ右ノ諸條ヲ戦勝者カ敵国ニ於テ使用スル事実上ノ権力ニ法律上ノ制限ヲ付スルヲ目的トスル諸條文ノ冒頭ニ置クハ其ノ宜シキニ適スルモノト認メタリ

且ド・グロッス・ド・シュワルツホッフ大佐カ異議ヲ招クコトナクシテ陳述シタル意見ニヨレハ右ノ期限ハ正当防衛ノ一種トモ看做スヘキ萬一非常ノ場合ニ於ケル交戦者ノ行為ノ自由ヲ妨クルモノニアラス

第四十八條ハ比律悉案第五條ノ如ク占領者ハ現存ノ租税ヲ徴収スヘキコトヲ定メ且此場合ニ於テハ「占領地行政ノ費用ヲ支弁スルコト一ニ正当政府カ支弁セシ所ト同様ノ程度ニ於テスヘキコト」ヲ命セリ本條ニ於テ特ニ注意スヘキ点ハ條件付形式即チ「徴収スルトキハ」ナル案文ヲ採用シタルコトヲ是レナリ是レ報告委員ノ特ニ発議シタル所ニ係リベルネルト君其ノ他分科委員会委員中占領者ニ権利ヲ認ムルカ如ク見ユル一切ノ案文ヲ嫌忌セル者ノ一致賛同ヲ得ンカ為メナリシノミ

第四十九條乃至第五十二條ハ臨時取立金罰金及徴発ニ関スル規定ニシテ異議ヲ招キタル比律悉案第四十條乃至第四十二條ニ代ルモノナリ右ノ異議ニ関シテハブールジョア君ノ発議ベルヂマン君ノ賛成ニ依リ問題ヲ起草委員会ニ付託シ新ニ起草セラルヘキ條文ニ於テハ那辺ノ点マテ双方ノ協譲ヲ纏メ得ヘキヤヲ審査セシメタリ

起草委員会ハブールジョア君ヲ委員長トシベルネルト・ファン・カルネベーク及オデエー三君ノ協力ニ依リ右ノ問題ニ関シ充分ノ研究ヲ遂ケ先ツ最初ニ敵国版図内ニ於ケル或ル取立金ノ徴収ニ干スル重モナル三点ニ就キテハ双方意見ノ相一致スルモノアルヲ認メタリ其ノ三点トハ則チ左ノ如シ

第一　凡ソ取立金ヲ徴収スルノ命令ハ責任アル司令官ヨリ発セサルヘカラス又其ノ命令ハ成ルヘク書面ヲ以テ為スコトヲ要ス

第二　凡テノ徴収特ニ金銭ニ関スル場合ニ於テハ成ルヘク現行租税ノ賦課及税率ニ準拠スルコトヲ要ス

第三　凡ソ徴収ハ領収證ニヨリ之ヲ證明スヘシ

次ニ起草委員会ハ右ノ三條件ヲ形式的ニ規定スルニ止ムヘキカ将タ如何ナル程度マテ現品ノ徴発、金銭ノ徴発、及罰金ニモ之ヲ適用スヘキモノナルカヲ明定スヘキヤ否ヤヲ審査シタル後本報告ノ始メニ掲ケタルベルネルト君ノ表明シタル議論ニ抵触スルコトナカルヘシトノ概念ヲ参酌シ比律悉宣言第四十條乃至第四十二條ノ趣旨則チ正当ノ官庁ニ対抗シテ行ハレ且私有財産尊重ノ原則ヲ踰越セントスル事実的ノ権力ヲ制限セントスル右條文ノ趣旨ヲ体シテ二三ノ原則ヲ設定スルハ一方ニ於テ非常ニ望マシキコトタルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ可能事ナリト認メタリ依テ設定セントスル規則ハ三種ノ事実ニ関スルモノトス

（イ）現品（金銭ヲ除ク）ヲ提供セシムルノ徴発及人身ノ使役換言スレハ現品ノ徴発及課役（第五十二條）

（ロ）現行租税ノ外他ノ取立金ノ賦課及徴収（第四十九條）

（ハ）適当ノ名称ニハアラサルモ「罰金」ト呼ハルルモノノ賦課及徴収（第五十條）

（イ）現品ノ徴発及課役ニ関シテハ占領者ハ「占領軍需要ノ為ニスル」ニ非レハ市町村又ハ住民ニ対シテ之ヲ要求スルコトヲ得サル旨ヲ認メタリ、是レ「必要」ニ基ク規則ナリ、但シ此必要ハ占領軍維持上ノ必要タルヘシ故ニ比律悉案第四十條ニ掲ケタル「軍事上ノ必要」ナル稍ヤ漠然タル用語ト全ク標準ヲ異ニセリ蓋シ比律悉案ノ條文ハ之ヲ極端ニ適用スルニ於テハ順次其ノ地方ノ資産ヲ蕩尽セシメ得ルノ虞アルモノナリ

而シテ右ノ徴発及課役ハ「其ノ地方ノ資力ニ相応シ且人民ヲシテ其ノ本国ニ敵対スル作戦動作ニ与ルノ義務ヲ負ハシメサル性質ノモノタル」ヘキコトハ尚ホ比律悉案第四十條ニ於ケルト均シク認メラレタル所ナリ

前ニ掲ケタル三條件ノ一タル其ノ地方ノ賦課及税率ニ従ヒテ徴収スヘシトノ條件ハ課役ニ関シテハ或点マテ適用シ得ヘキモノナルモ所謂現品ノ徴収則チ一時ノ使用又ハ消費ノ為メニ一定ノ物件ヲ其ノ所有者ヨリ徴発スルコトニ就キテハ之ヲ適用シ得ヘカラサルコト明瞭ナリトス、

於是乎起草委員会ハ徴発及課役ニ就キテハ単ニ「其ノ地方ノ資力ニ相応」スヘキ旨ヲ規定スルニ止マルノ已ムヲ得サルモノアリト思考シ分科委員会モ亦之ヲ是認シタリ

尚ホ徴収命令及領収證ノ二要件ニ関シテハ比律悉案第四十二條ニ掲ケタルモノヲ転載スルヲ以テ充分ナリトナシタルモ比律悉案ニ於テハ徴発ノ命令ハ其ノ地方ニ在ル司令官ノミ之ヲ発シ得ヘキモノトシタル上ニ尚ホ命令書ヲ必要トシタルハ稍ヤ厳ニ失スルノ観ナシトセス、蓋シ日々ノ徴発ニ関シ其ノ地所在ノ軍務官以上ノ武官ノ許可ヲ仰カサルヘカラストスルハ軍事上ノ必要ト相反スルモノト云ハサルヘカラス此点ニ於テハ比律悉案ノ規定至当ナ

リト雖領収證ヲ与フルノ義務ヲ設ケタル以上ハ徴収命令書ヲ必要トスルハ蛇足タルニ似タリ

終リニ新條文ニ於テハ徴発ニ対シ金銭ヲ以テ支払フヲ原則ト為セリ但シ之ヲ以テ義務ト為シタルニハアラス、而シテ斯ノ金銭ヲ以テ支払フトキハ徴発ト云ハンヨリモ寧ロ売買ニ近キモノト云フヘキナリ、又此ノ方法タル最モ人情ニ適合スルノミナラス又概シテ巧妙ナル政略ノ命スル所ニシテ必スシモ人民ヲシテ糧食及日用品隠匿ノ念ヲ放棄セシムルノ効アルノミニ止マラサルナリ、加之ナラス占領軍ハ其ノ占領地方ニ於テ各人ノ負担均一ナル取立金ヲ為シ之ニ依テ徴発及買入ニ要スル金銭ヲ調ヘ得ルノ途アリ賠償無キ徴発ニ至リテハ畢竟偶然ナル特定ノ箇人ヲ疲弊セシムルニ帰スルモノナリ

（ロ）占領者カ「現行租税ノ外ニ於テ徴収セント欲スル取立金ニ関シテハ分科委員会ハ亦起草委員会ノ提議ニ基キ別條ニ掲ケタル罰金ノ特別ナル場合ヲ除クノ外取立金モ亦徴発ト同シク「軍ノ需要」ニ応スル外之ヲ徴収スルヲ得スト云ヘル被占領者ニ取リテ極メテ有益貴重ナル規則ヲ認容セリ而シテ右ノ取立金ヲ徴収シ得ヘキ正当ノ理由尚ホ一アリ占領地行政上ノ需要ニ応スルコト是レナリ、蓋シ此点ニ於テ占領地人民タルモノハ素ヨリ不服ヲ唱フルノ理由ナカルヘキナリ

之ヲ要スルニ自己ヲ富マシメンカ為ニ取立金ヲ徴収スルコトハ之ヲ禁止スルニ在リ

右ノ規定ハ比律悉案第四十一條ヨリモ一層制限的ノモノニシテ此点ニ就キ分科委員会ノ各員ハ特別ノ注意ヲ用キタリ蓋シ各員ハ主トシテ各々自国ノ地位ニ基ク行為ノ標準ニ顧ミ戦勝ニ依ル侵略者ノ自由行動ヲ成ルヘク法規ニ依リテ制限スルヲ最先ノ急務ト思考シタレハナリ

以上ニ列挙シタル三條件（徴収命令、賦課及領収證）ハ右取立金ノ徴収ニ関シ遍ネク適用セラルルモノナリト雖モ之ヲ金銭ノ一切ノ徴収ニ適用シ得ヘキ特別ノ箇條ニ掲クルヲ以テ優レルモノト信シタリ

（ハ）罰金ニ関シテハ之ヲ命シ得ヘキ場合ヲ能フ限リ精確ニ決定センカ為メ別ニ一箇條ヲ制定スルヲ必要ト為セリ

起草委員会ノ所見ニテハ「罰金」ナル文字ハ刑法上ノ思想ト混同ヲ来タスノ虞アルノミナラス其ノ意義亦正確ヲ缺クモノト為セリ、而シテ同会ノ或ル委員ノ如キ「抑

圧」ナル語ヲ発言スルヲ避ケンコトヲ説キタル者スラアリキ

本件ニ関スル箇條ニ付最初分科委員会ハ特ニ戦闘法規上ノ「罰金」則チ占領者カ敵対行為抑圧ノ名義ヲ以テ徴収スル一定ノ形ヲ有スル非常取立金ニ関スルコトノミヲ規定セント欲シタリ、従テ分科委員会全会ノ意見ニ於テハ人民一般ニ科セラルヘキ抑圧行為ハ多衆共同ニテ犯シタル非難スヘキ行為若ハ敵対行為アリタルトキ又ハ少クトモ多衆共同ニテ是等行為ノ遂行ヲ放任シタルトキニアラサレハ適用スヘキモノニアラスト云フニ在リタリ、右ノ結果トシテ一箇人限リノ行為ハ決シテ非常取立金ノ徴収ニ依ル連坐的抑圧ヲ惹起スヘキモノニアラス多衆共同ニ対シテ右ノ抑圧ヲ行ハントセハ少クトモ該多衆者ノ受クヘキ責任ナカルヘカラサルモノトス、然レトモ一ト度ヒ右ノ方法ヲ執リタル以上ハ起草委員会及分科委員会ハ報復ニ関スル何等ノ豫断ヲ下スコトナクシテ尚ホ一歩ヲ進メ右罰金ニ関スル規則ハ金銭上ノモノタルト否トヲ問ハス苟モ人民全体ニ科セントスル総テノ刑罰ニ適用シ得ヘキモノト認メタリ

終リニ分科委員会ハ起草委員会ノ提出ニ係ル特別ノ條文則チ占領者ノ行フ金銭上ノ総テノ徴収ニ適用セラルヘキ三種ノ原則ニ関スル第五十二條ヲ是認シタリ

以上ヲ分科委員会カ起草委員会ノ提出ニ係ル原案ニ軽微ナル修正ヲ加ヘテ可決シタル第四十九條乃至第五十二條ノ説明トス

右ノ諸規定ハ第五十一條及第五十二條ヲ除クノ外悉ク全会一致ヲ以テ可決セラレ右除外ノ二箇條ニ対シテモ之ニ賛成ヲ表セサリシハ独リ瑞西国委員アルノミ、同委員ハ支払ヲ要求シ又ハ領収證ニ依ル弁済ヲ請求スルノ権ヲ右諸條中ニ明定セラレンコトヲ其政府ノ名ニ於テ提議シ、而シテ分科委員会ハ右ノ如キ規定ハ寧ロ国内法律ノ範囲ニ屬シ且和約ノ條項中ニ掲クルヲ至当ナリトシ宣言案中ニ記載スヘキモノニアラスト思料シタリ

第五十三條ハ比律悉宣言第六條ニ該当シ敵国国有動産及総テ作戦ノ手段ニ供セラルル物品特ニ鉄道材料ノ押収ニ関スルモノトス

同條第一項ハ分科委員会ニ於テ何等ノ修正ナク直ニ全会一致ヲ以テ承認セラレタルモ、特ニ鉄道材料ニ関シ私有財産尊重ノ原則ニ例外ヲ設ケタル第二項ノ規定ニ至リテハ則チ然ラス、ベルネルト君ハ右材料ノ押収ハ供託ノ性

質ヲ有スルニ過キサルモ他ノ一方ニ於テ戦争ノ必要上該供託ヲ命スルノ権ハ完全ニ存スルモノト看做スヘシト発議セリ、此発議ハ久シク議論ノ焼点トナリタルヲ以テ右第二項ハ再ヒ之ヲ起草委員会ニ附託シ同会ノ修正ヲ俟ツコトトセリ、而シテ起草委員会ノ発表シタル意見ニ依レハ若シ此規定ヲ一層明確ナラシメントセハ恐ラクハ到底協議纏マリ難カルヘキカ故ニ成ルヘク比律悉案ノ條文ヲ其ノ儘保存スルノ優レルニ如カストナセリ、然リト雖結局簡明ヲ尚フノ目的ヲ以テ第二項ノ案文ヲ唯一句ニ短縮シ起草委員会ノ提議ニ由リ分科委員会ニ於テハ右作戦ノ手段ニ供セラルル物品ハ「占領軍之ヲ敵国ノ処分ニ放任セサルコトヲ得」ト云フカ如キ曖昧ナル文句ヲ廃止スルコトニ決定セリ、蓋シ右ノ文句中ニモ亦暗ニ供託ノ観念ノ存スルカ如ク見ユルノ虞アルニ依リ分科委員会ハ之ヲ避ケント欲シタルナリ

又他ノ一方ニ於テ起草委員会ニ次テ分科委員会ハ丁抹国第一委員ド・ビル君ノ提出ニ係ル「海底電信ノ陸上線」ニ関スル修正意見ヲ許容セリ依リテ「陸上電信（但シ海底電信ノ陸上線ヲ含ム）」ト掲記スルコトト為レリ

右修正案提出者ノ意見ハ一層細目ニ渉リ海底電信ノ陸上線ニシテ「一国ノ海濱ニ於ケル国境内ニ設置セラレタル」モノト指定シタリト雖斯ノ如ク細目ニ渉ルトキハ河川ニ沿ヒタル国ノ領海権ノ性質及領海ノ範囲如何等ノ難問題ニ触ルルノ虞アルヲ以テ此細目ニ渉ルコトヲ認容セサリシナリ

尚ホ又ランマシュ君ノ発議ニ依リ本條中ニ電話ヲモ掲クルコトト為レリ

本條ノ適用ニ関シ押収ヲ為ス所ノ交戦者ハ徴発ニ於ケルト均シク領収證ヲ差出スノ義務アルモノト規定スルハ未タ適当ニアラスト認メタリ然レトモ起草委員会ノ意見ハ押収物件ノ所有者ニ対シ縦令法文上明カニ賠償ヲ請求スルノ機会ヲ与ヘストスルモ兎ニ角押収ノ事実ハ何等カノ方法ニ依リテ精確ニ之ヲ証明シ得セシメサルヘカラスト云フニ在リキ

「鉄道材料ニ就テハ其ノ国有ニ属スルモノト雖亦平和回復ノ際之ヲ返還スヘシ」ト云ヘルオヂエー君ノ提議アリタルモ起草委員会ハ該件モ亦和約締結ノ際其ノ約款中ニ記載セラルヘキ問題ナリトノ意見ニ依リ之ヲ認容セサリシナリ

第五十四条ハ全ク新設ニ係リベルネルト君及アイシェン

君ノ発案ニ基キ「中立国ヨリ来レル鉄道材料ハ右中立国ノ所有タルト会社又ハ個人ノ所有タルトヲ問ハス成ルヘク速ニ之ヲ還付」スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

初メベルネルト君ノ発議ニテハ戦時ノ需要ニ応スル目的ヲ以テスルト雖右材料ヲ使用スルコトヲ禁シ竝即特ニ之ヲ還付スヘキモノト為シタルモ分科委員会ハ起草委員会ト意見ヲ同フシ中立国ノ鉄道材料ニ対シテハ交戦国ノモノニ対スルト全ク同一ノ押収ヲ為ス能ハサル旨ヲ闡明スルヲ唯一ノ趣旨トシ従テ短期日間ニ之ヲ還付スヘシトノ原則ヲ設クルヲ以テ充分ナリト認メタリ

第五十五条ハ占領地内ニ在ル敵国国有財産ノ管理ニ関スルモノニシテ比律悉案第七條ヲ其ノ儘採用シタルノトス

又第五十六条ハ市町村ノ財産竝慈善的其他ノ営造物尊重ニ関スルモノニシテ其ノ第二項中ニ於ケル語句ノ軽微ナル修正ノ外ハ比律悉案第八條ニ全ク相同シ

而シテ第五十六條中「宗教ノ為設ケラレタル営造物」ナル語ハ寺院、神社、マホメット教祉其ノ他耶蘇教外ノ社寺ノ如キ悉ク皆之ヲ包含シ宗教ノ異同ニ依リテ区別ヲ設ケサルモノタルハ疑ヲ容レサル所ナリ是レ蓋シ千八百七十四年比律悉会議ニ於テ証明セラレタル所ニシテ（同会議議事録第十八号）起草委員会カ波斯国第一委員将官ミルザ・リザ・カン君ノ提出ニ係ル弁明要求ニ対シテ答ヘタル所モ亦右ニ同シ

以上第三款全部ニ対シテ特ニ一言スヘキコトハ占領者行動ノ自由ニ関シテ設ケラレタル制限ハ未タ第四十二條ノ意義ニ於ケル所謂占領ヲ為スニ至ラサル侵略軍ニ対シテハ尚ホ更ニ適用セラルヘキモノナルコト是レナリ

故ニ第四十四条及第四十五條ノ如キハ占領者及侵略者ノ共ニ其ノ適用ヲ受クヘキ規定ニシテ二者倶ニ占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ本国ニ敵対スヘキ作戦動作ニ加ハラシメ又ハ其ノ敵国ニ臣従ノ誓ヲ為サシムルコトヲ得サルモノナリ

又取立金及徴発ノ徴収若ハ材料ノ押収ニ関シテモ侵略者ハ尚ホ占領者ト同一ノ地位ニ立ツモノトス

第四款　中立国内ニ留置スル交戦者及救護スル傷者

（第五十七條乃至第六十條）

本款ハ四箇條ヨリ成リ分科委員会ニ於テ可決シタル案ノ末尾ヲ占メ其ノ第五十九條（比律悉案第五十五條）ニ一項ヲ

追加シタル外ハ比律悉案第五十三條乃至第五十六條ヲ其ノ儘採用シタルモノナリ

本款審議ノ始メ特ニ中立国ノ版図内ニ於ケル交戦者ノ留置ニ関スル規定ニ就キ盧森堡国第一委員アイシェン閣下ハ（六月六日分科委員会）千八百六十七年倫敦條約ノ効果ニ依リ同大公国ハ本款ニ掲ケタル交戦者留置ノ義務ニ関シ特別ノ地位ニ立ツモノナルコトヲ陳述セリ、蓋シ右ノ倫敦條約ハ盧森堡国政府将兵ノ件ヲ規定シ秩序保持ノ為メニ必要ナル兵数ノ外ハ軍隊ヲ維持スルコトヲ許ササルナリ是故ニ盧森堡国ハ右留置ノ件ニ関シ他ノ諸国ト同一ノ義務ヲ確保スル能ハス、依テアイシェン君ノ請求ニ依リ盧森堡国ハ千八百六十七年五月十一日倫敦條約特ニ其ノ第二條第三條及第五條ヨリ生スル一切ノ権利ヲ保留スト云ヘル同君ノ宣言ヲ議事録中ニ掲クルコトヲ許容セリ

右ノ件ニ次テ中立国ノ版図内ニ於ケル交戦者ノ留置ニ関スル比律悉案第五十三條及第五十四條ハ何等ノ修正ナクシテ採用セラレ分科委員会案第五十七條及第五十八條ト為レリ」

交戦軍ニ属スル傷者及病者ノ中立国版図通過ニ関スル第五十九條ハ其ノ第三項ヲ除クノ外ハ比律悉案第五十五條ニ該当スルモノトス、此第三項ハベルネルト君及ムーニエー

少将ノ発議ニ係リ第一読会ニ於テ採用セラレタルモノニシテ「病者又ハ傷者ニシテ一度ヒ中立国ノ版図内ニ収容セラレタルトキハ唯其ノ本国ニ向テ之ヲ送致スルコトヲ得ルノミ」ト規定シタリ

然ルニ後ニ至リ右規定ノ意義ニ関シテ疑問発生シ起草委員会ノ二三委員ノ如キハ本條ニ於テハ病者及傷者ヲ俘虜ノ地位ニ陥ラシムルノ敵国ニ向テ輸送スル為ニ中立国ノ版図ヲ使用スルヲ禁スル件ニ就テノミ規定スヘキ筈ナルニモ拘ラス右ニ掲ケタル第三項ノ案文ニ依レハ恰モ中立国ニ傷者及病者ヲ即時其ノ本国ニ送置スルノ権ヲ与ヘタルモノノ如ク思料シタリ

於是乎新案文ニ於テハ一切ノ疑義ヲ避クル為メ「前記ノ條件ニ依リテ甲交戦国カ乙交戦国ニ属スル傷者及病者ヲ中立国ノ版図内ニ伴レ来ルトキハ中立国ハ之ヲ監守シテ再ヒ作戦動作ニ与ルコト能ハサラシムヘシ」ト規定スルコトト為レリ、而シテ伊太利国専門委員ツッカーリ少将ハ中立国ノ絶対的公平ヲ尊重スルノ趣旨ニ依リ遺憾ナカラ此新案文ニ対シテモ尚ホ旧案文ニ対スルト均シク賛成ヲ表スル能ハサル旨ヲ宣言セリ

次ニ交戦国カ自国ノ軍ニ属スル傷者及病者ヲ輸送スル場合ニ或ル理由ノ為メ単ニ中立国ノ版図ヲ通過スルニアラスシテ其ノ或ル場処ニ滞留スルコトアルヘシ、斯クノ如キ場合ニ於テ右ノ傷病者カ平癒ノ後再ヒ作戦動作ニ与ルハ其ノ当ヲ得サルモノナルカ故ニ分科委員会ニ於テハベルネルト君ノ提議ニ基キ第二読会ニ於テ更ニ右ノ傷病者モ亦中立国ニ依リテ監守セラルヘシトノ規定ヲ追加シタリ

クロジエー君ハ右第五十九條ノ末項ト「ジェネヴァ」條約ヲ海戦ニ応用スルノ案第十條トハ相牴触スルモノナリトノ意見ヲ持シ之ニ就キ分科委員会ノ注意ヲ求メタリ然ルニ此牴触タル唯外観ニ止マリ而モ新案文ノ規定ト共ニ全ク其ノ跡ヲ止メサルニ至レリ

第五十九條全体ノ原則ニ関シムーニエー少将ハ中立国ハ本條ニ依リ交戦国ノ一方ニ与フルニ傷者及病者ヲ撤去スルノ便宜ヲ以テシ間接ニ其ノ交戦国ヲ幇助スルモノナルカ故ニ病者及傷者ノ通過ハ寧ロ一切之ヲ禁止スヘシトノ意見ヲ持シタリ、然レトモ分科委員会一般ノ意見ハ右ノ場合ニ於テハ中立国ハ人情ニ基キテ救助ヲ与フヘキモノトナシ同時ニ中立国タルモノハ絶対的公平ヲ守ルヘキノ原則ヲ服膺スヘシトスルニ在リタリ加之ナラス六月八日ノ分科委員会会議ニ於テ本條ノ公正解釈トモ称スヘキモノベルネルト君ヨリ提出セラレムーニエー少将ノ賛成アリテ遂ニ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ其ノ文則チ左ノ如シ

「本條ハ中立国カ人情及衛生ノ観念ニ依リ其ノ中立タルノ義務ニ背クコトナク傷兵及病兵ヲシテ其ノ版図内ヲ通過セシムルヲ得ルコトヲ定ムルノ外他ニ趣旨アルモノニアラス」

終リニ末條タル第六十條ハ比律悉宣言案ノ末尾タル第五十六條ヲ其ノ儘採用シタルモノニテ「ジェネヴァ」條約ヲ中立国ノ版図内ニ留置シタル病者及傷者ニ適用スルコトヲ規定シタルモノナリ

第二委員会カ右ニ掲ケタル「陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言案」ノ條文ヲ決議セラレタル後ニ於テハ此宣言案ノ諸條ニ拘束ノ効力ヲ附スルニハ如何ナル形式ヲ可トスルヤヲ審査スルコト第一ニ注意ヲ要スル点ナルヘシ

七月五日第五回総会議事録附属書

（第二号）

陸戦ノ法規慣例ニ関スル宣言

第一款　交戦者

第一章　交戦者ノ資格

第一條　戦闘ノ法規及権利義務ハ独リ之ヲ軍ニ適用スルノ

ミナラス左記ノ條件ヲ具備スル所ノ民兵及義勇兵団ニモ亦之ヲ適用ス

第一　部下ノ為ニ責任ヲ負フ者其ノ頭ニアルコト

第二　遠方ヨリ看別シ得ヘキ固著徽章ヲ有スルコト

第三　公然武器ヲ携帯スルコト

第四　其ノ動作ニ於テ戦闘ノ法規慣例ヲ遵守スルコト

民兵又ハ義勇兵団ヲ以テ軍ノ全部又ハ一部ヲ組織スル国ニ於テハ之ヲ軍ノ名目中ニ包含ス

第二條　未タ占領セラレサル地方ノ人民ニシテ敵ノ接近スルニ方リ第一條ニ遵テ編成スルノ遑ナク自然武器ヲ操リテ侵入軍隊ニ抗敵スル者ニシテ戦闘ノ法規慣例ヲ遵守スル者ハ交戦者ト看做スヘシ

第三條　交戦国ノ兵力ハ戦闘員及非戦闘員ヲ以テ之ヲ編成スルコトヲ得敵ニ捕獲セラレタル場合ニハ二者均シク俘虜ノ取扱ヲ受クル権利ヲ有ス

第二章　俘虜

第四條　俘虜ハ敵国政府ノ権内ニ属シ之ヲ捕獲シタル個人又ハ軍団ノ権内ニ属スルコトナシ

俘虜ハ博愛ノ心ヲ以テ之ヲ取扱フヘキモノトス

兵器馬匹及軍用書類ヲ除キ凡ソ俘虜ノ一身ニ属スルモノハ依然其ノ所有タルヘシ

第五條　俘虜ハ之ヲ市邑城塞陣営其ノ他ノ場所ニ留置シ一定ノ境界以外ニ出テサル義務ヲ負ハシムルコトヲ得ヘシ但シ已ムヲ得サル保安手段ニ出ツル場合ノ外之ヲ幽閉スルコトヲ得ス

第六條　国家ハ俘虜ヲ其ノ階級及技能ニ応シテ労務者トシテ使役スルコトヲ得但シ其ノ労務ハ過度ナルヘカラス又一切作戦動作ニ関係ヲ有スヘカラス

俘虜ハ公衙一個人又ハ自己ノ為ニ労務スルコトヲ許可セラルルコトアルヘシ

国家ノ為ニスル労務ハ内国陸軍軍人ヲ同一労務ニ使役スル場合ニ適用スルト同一ノ割合ニテ賃銀ヲ支給スヘシ

他ノ公衙又ハ一個人ノ為ニスル労務ニ関シテハ陸軍官衙ト協議ノ上條件ヲ定ムヘシ

俘虜ノ賃銀ハ其ノ境遇ノ艱苦ヲ軽減スルノ用ニ供シ剰余ハ其ノ解放ノ時之ヲ交付ス但シ其ノ中ヨリ給養ノ費用ヲ控除スヘシ

第七條　政府ハ其ノ権内ニ在ル俘虜ヲ給養スヘキ義務アリ

交戦国間ニ特別ノ協定ナキ場合ニハ食料寝具及被服ニ関シ俘虜ハ之ヲ捕獲シタル政府ノ軍隊ト対等ノ取扱ヲ受クヘシ

第八條　俘虜ハ之ヲ権内ニ属セシメタル国ノ陸軍現行法律規則及命令ニ服従スヘシ

総テ不従順ノ行為アルトキハ俘虜ニ対シテ必要ナル厳重手段ヲ施スコトヲ得

逃走シタル俘虜ニシテ其ノ軍ニ達スル前又ハ之ヲ捕獲シタル軍ノ占領セル地方ヲ離ルル前ニ再ヒ捕ヘラレタル者ハ懲罰ニ附セラルヘシ

俘虜逃走ヲ遂ケタル後再ヒ俘虜ト為リタル者ハ前ノ逃走ニ対シテハ何等罰ヲ受クルコトナシ

第九條　俘虜其ノ氏名及階級ニ付キ訊問ヲ受ケタルトキハ実ヲ以テ答フヘキモノトス若之ニ背クトキハ同種ノ俘虜ニ相応スル利益ヲ減殺セラルルコトアルヘシ

第十條　俘虜ハ其ノ本国ノ法律カ之ヲ許ストキハ宣誓ノ後解放セラルルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ本国政府並之ヲ捕獲シタル国ノ政府ニ対シ一身ノ名誉ヲ賭シテ誓約ヲ厳密ニ履行スルノ義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ俘虜ノ本国政府ハ之ニ対シ其ノ宣誓ニ違反スル勤務ヲ命シ又ハ之ニ服セムトノ申出ヲ受諾スヘカラサルモノトス

第十一條　俘虜ヲ強迫シテ宣誓解放ヲ受ケシムルコトヲ得ス又敵国政府ハ必スシモ宣誓解放ヲ得ムトスル俘虜ノ請願ニ応スルノ義務ナシ

第十二條　宣誓解放ヲ受ケタル俘虜ニシテ其ノ名誉ヲ賭シテ誓約ヲ為シタル政府又ハ其ノ政府ノ同盟国ニ対シテ兵器ヲ操リ再ヒ捕ヘラレタル者ハ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ権利ヲ失ヒ軍法会議ニ付セラルルコトアルヘシ

第十三條　新聞通信員及探訪者酒保用達人等ノ如キ直接ニ軍ノ一部ヲ為ササル従軍者ニシテ敵ノ権内ニ陥ル所ト為リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認ムルトキハ其ノ所属陸軍官衙ノ證認状ヲ携帯スル者ニ限リ俘虜取扱ヲ受クルノ権利ヲ有ス

第十四條　戦闘開始ノ時ヨリ各交戦国及場合ニ依リテハ交戦者ヲ版図内ニ収容スル中立国ニモ俘虜情報局ヲ設置ス該局ハ俘虜ニ関スル一切ノ問合ニ答フルノ任務ヲ有シ各俘虜ニ関スル銘銘票ヲ作ル為各当該官衙ヨリ総テ必要ナル通報ヲ受領ス俘虜ノ留置移動入院並死亡ニ関スル現況ハ該局ヲシテ之ヲ知悉セシム

情報局ハ尚ホ戦場ニ於テ発見セラレ又ハ病院若ハ繃帯所ニ於テ死亡セシ俘虜ノ遺シタル一切ノ自用品有価證券書状等ヲ収集シテ之ヲ其ノ関係者ニ伝送スルコトヲ担任ス

第十五條　慈善行為ノ媒介者タル目的ヲ以テ其ノ国ノ法律ニ従ヒ正当ニ組織セラレタル俘虜救恤協会及其ノ正当ノ委任ヲ受ケタル代理者ハ其ノ博愛ナル業務ヲ有効ニ遂行セムカ為軍事上ノ必要及行政上ノ規則ニ依リテ定メタル範囲内ニ於テ交戦国ヨリ一切ノ便宜ヲ受クルコトヲ得ヘシ右協会派出員ハ陸軍官衙ヨリ当人ヘ交付シタル免許状ニ拠リ且該官衙ノ定メタル一切ノ秩序及風紀維持ニ関スル法則ニ服従スヘキ旨書面ヲ以テ約スルトキハ俘虜ノ留置所及其ノ送還途中ノ休泊所ニ於テ救恤品ヲ分配スルコトヲ許サルヘシ

第十六條　情報局ハ郵税免除ノ特典ヲ享有ス凡ソ俘虜ニ宛テ又ハ俘虜ヨリ発送スル書状郵便為替有価物並小包郵便物ハ発受ノ両国並通過国ニ於テ総テ郵税ヲ免除セラルヘシ

俘虜ニ宛テタル贈与及救恤ノ現品ハ輸入税其ノ他ノ諸税及国有鉄道ノ運賃ヲ免除セラルヘシ

第二十二條　交戦者ハ害敵手段ノ選択上無限ノ権利ヲ有スルコトナシ

第二十三條　特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモノ左ノ如シ

（イ）毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

（ロ）敵ノ国民又ハ軍ニ属スル者ヲ欺罔ノ行為ヲ以テ殺傷スルコト

（ハ）兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段尽キテ降ヲ乞ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト

（ニ）助命セサル宣言ヲナスコト

（ホ）無益ノ苦痛ヲ与フヘキ兵器弾丸其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

（ヘ）濫リニ軍使旗及国旗其ノ他軍用ノ標章並敵兵ノ制服及「ジェネヴァ」條約ノ徽章ヲ使用スルコト

（ト）戦争ノ必要上萬已ムヲ得サルノ外敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押収スルコト

第二十四條　奇計並敵情地形探知ノ為必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做ス

第二十五條　防守セサル市府町村落居宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルヲ禁ス

第十七條　俘虜将校ハ本国ノ規則ニ其ノ規定アルトキハ俘虜ノ地位ニ在リテ給与セラルヘキ給料ヲ受クルコトヲ得但シ右ハ其ノ本国政府ヨリ償還スヘキモノトス

第十八條　俘虜ハ陸軍官衙ノ定メタル秩序及風紀維持ニ関スル法則ニ服従スルノ範囲内ニ於テ宗教ヲ遵行スルノ自由ヲ許サレ且其ノ宗門ノ礼拝式ニモ亦参与スルコトヲ許サルヘシ

第十九條　俘虜ノ遺言書ハ内国陸軍軍人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ収領シ又ハ調製ス

俘虜ノ死亡證書及埋葬ニ関シテモ亦同一ノ規則ニ遵ヒ且其ノ身分階級ニ相当シタル取扱ヲ為スヘシ

第二十條　和約締結ノ上ハ成ルヘク速ニ俘虜ヲ其ノ本国ニ送還スヘシ

第三章　病者及傷者

第二十一條　病者及傷者ノ取扱ニ関スル交戦者ノ義務ハ千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約及将来之ニ加フルコトアルヘキ修正ニ拠ル

第二款　戦闘

第一章　害敵手段攻囲及砲撃

第二十六條　攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其ノ旨ヲ官庁ニ通告スル為凡ソ其ノ権内ニ属スル総テノ手段ヲ尽スヘキモノトス

第二十七條　攻囲及砲撃ニ於テハ宗教技芸学術及慈善ノ為設ケラレタル建物病院並病者傷者ノ収容所ハ其ノ現ニ軍事上ノ目的ニ供セラレサルニ於テハ成ルヘク之ニ害ヲ加ヘサル為必要ノ手段ヲ施スヘシ

被囲者ハ豫メ攻囲者ニ通知シタル看易キ特別ノ徽章ヲ以テ此等ノ建物又ハ収容所ヲ表示スルノ義務アリ

第二十八條　突撃ヲ以テ攻抜シタル市府又ハ其ノ他ノ地域ト雖掠奪ヲ行フコトヲ禁ス

第二章　間諜

第二十九條　一方ノ交戦者ニ通知スルノ意思ヲ以テ他ノ一方ノ作戦地帯内ニ於テ隠密ニ行動シ又ハ虚妄ノ口実ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ収集シ若ハ収集セムトスル者ノ外之ヲ間諜ト看做スコトヲ得ス

故ニ仮扮セサル軍人ニシテ情報ヲ収集センカ為敵軍ノ作戦地帯内ニ進入シタル者ハ之ヲ間諜ト看做サス又軍人タルト否トヲ問ハス自国ノ軍又ハ敵国ノ軍ニ宛テタル信書ヲ伝達スルノ任務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ間諜ト看做

サス信書ヲ伝達スル為及総テ一軍又ハ一地方ノ各部間ノ聯絡ヲ通スル為軽気球ニテ派遣セラレタル者モ均シク此ノ部類ニ屬スルモノトス

第三十條　現行中捕ヘラレタル間牒ハ先ツ裁判ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三十一條　一旦所屬軍ニ復帰シタル後ニ至リ敵ノ為ニ捕ヘラレタル間牒ハ俘虜トシテ取扱ハルヘク其ノ前ノ間牒行為ニ対シテハ何等ノ責ヲ負フコトナシ

第三章　軍使

第三十二條　交戦者ノ一方ノ命ヲ帯ヒ他ノ一方ト談判ヲ開ク為白旗ヲ掲ケテ来ル者ハ之ヲ軍使トス軍使竝之ニ随従スルコトアルヘキ喇叭手鼓手旗手及通訳者ハ不可侵権ヲ有ス

第三十三條　軍使ヲ差向ケラレタル軍隊ノ司令官ハ必スシモ之ヲ受クルノ義務ナキモノトス

司令官ハ軍使カ其ノ使命ヲ利用シテ軍情ヲ探知スルヲ防ク為ニ必要ナル一切ノ手段ヲ施スコトヲ得

司令官ハ軍使カ其ノ特権濫用シタル場合ニハ一時之ヲ抑留スルノ権利ヲ有ス

第三十四條　軍使特権ヲ利用シテ欺罔ノ行為ヲ為シ又ハ之ヲ教唆シタルノ證迹分明掩フヘカラサルトキハ其ノ不可侵権ヲ失フ

第四章　降伏規約

第三十五條　双方ノ間ニ協定スル降伏規約ニハ軍人ノ名誉ニ関スル慣例ヲ参酌スヘキモノトス

降伏規約確定ノ上ハ双方ニ於テ厳密ニ之ヲ遵守スヘキモノトス

第五章　休戦

第三十六條　休戦ハ交戦者双方ノ合意ヲ以テ作戦動作ヲ中止ス若其ノ期限ノ定メナキトキハ交戦者ハ何時ニテモ再ヒ之ヲ開始スルコトヲ得但シ休戦ノ條件ニ遵依シ約定ノ時期ニ於テ其ノ旨ヲ敵ニ通告スヘキモノトス

第三十七條　休戦ハ全部ニ亘リ又ハ一局部ニ限ルコトヲ得

其ノ全部ニ亘ルモノハ普ク交戦国間ノ作戦動作ヲ中止シ其ノ一局部ニ限ルモノハ単ニ特定ノ地域内ニ於テ交戦軍ノ或ル一部間ニ之ヲ中止スルモノトス

第三十八條　休戦ハ時機ヲ失ハス之ヲ関係官衙及軍隊ニ公然通告スヘシ通告ノ後即時ニ又ハ約定ノ時期ニ至リ戦闘ヲ中止ス

第三十九條　戦地ニ於テ交戦者ト人民トノ間及交戦者相互

間ニ為シ得ヘキ交通ハ規約者ニ於テ休戦規約ノ條項ヲ以テ規定スルモノトス

第四十條　休戦規約者ノ一方ニ於テ容易ナラサル規約違反アルトキハ他ノ一方ハ規約廃棄ノ権利アルノミナラス緊急ノ場合ニ於テハ直ニ戦闘ヲ開始スルコトヲ得

第四十一條　一個人カ自己ノ発意ヲ以テ休戦規約ノ條款ニ違反シタルトキハ唯其ノ違反者ノ処罰ヲ要求シ若損害ヲ受ケタルトキハ其ノ賠償ヲ要求スルノ権利ヲ生スルニ止マルヘシ

第三款　敵国ノ版図内ニ於ケル軍衙ノ権力

第四十二條　一地方ニシテ事実上敵軍ノ権力内ニ帰シタルトキハ之ヲ占領セラレタルモノト看做ス

占領ハ右権力ノ成立シテ且行使セラルヘキ地域ヲ以テ限トス

第四十三條　正当ノ権力事実上占領者ノ手ニ移リタル以上ハ占領者ハ萬已ムヲ得サル場合ノ外占領地ノ現行法律ヲ尊重シテ成ヘク公ノ秩序及衆庶ノ生活ヲ回復保障スルノ目的ヲ以テ其ノ権内ニ屬スル総テノ手段ヲ施スヘシ

第四十四條　占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ本国ニ敵対スヘキ作戦動作ニ加ハラシムルコトヲ禁ス

第四十五條　占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ敵国ニ臣従ノ誓ヲ為サシムルコトヲ禁ス

第四十六條　家族ノ名誉及権利個人ノ生命及私有ノ財産並宗教ノ信仰及其ノ遵行ハ之ヲ尊重セサルヘカラス

私有財産ハ之ヲ没収スルコトヲ得ス

第四十七條　掠奪ハ之ヲ厳禁ス

第四十八條　占領者若占領地内ニ於テ従来国家ノ為ニ設ケタル租税賦課金及通行税ヲ徴収スルトキハ成ルヘク現行ノ賦課規則ニ依テ之ヲ徴収スヘシ此ノ場合ニ於テハ占領者ハ占領地行政ノ費用ヲ支弁スルコト一ニ正当政府カ支弁セシ所ト同様ノ程度ニ於テスルノ義務アルモノトス

第四十九條　占領者若占領地ニ於テ前條ニ掲ケタル租税ノ外他ノ取立金ヲ命スル場合ニハ軍又ハ占領地行政上ノ需要ニ応スルノ外之ヲ為スコトヲ得ス

第五十條　人民ニ対シ其ノ聯帯ノ責アリト認ムヘカラサル一個人ノ行為ノ為金銭其ノ他ノ連坐罰ヲ科スヘカラス

第五十一條　凡ソ取立金ハ高級司令官ノ責任ノ下ニ命令書ヲ以テスルノ外之ヲ徴収スルコトヲ得ス

右取立金ハ成ルヘク現行ノ租税賦課規則ニ拠ルニ非サレハ之ヲ徴収スヘカラス

凡ソ取立金ニ対シテハ其ノ納付者ニ領収證ヲ交付スヘシ

第五十二條　現品徴発及課役ハ占領軍需要ノ為ニスルニ非サレハ市町村又ハ住民ニ対シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

徴発ハ其ノ地方ノ資力ニ相応シ且人民ヲシテ其ノ本国ニ敵対スル作戦動作ニ与ルノ義務ヲ負ハシメサル性質ノモノタルコトヲ要ス

右徴発及課役ハ占領シタル一局地ニ於ケル司令官ノ許可アルニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

現品ノ供給ハ成ルヘク即金ニテ之ヲ支払フヘク否ラサレハ領収證ヲ与ヘテ之ヲ證明スヘシ

第五十三條　一地方ヲ占領シタル軍ハ本来国有ニ属スル現金基金有価證券兵器廠輸送材料倉庫糧秣其ノ他総テ作戦動作ニ供スルコトヲ得ヘキ国有動産ノ外之ヲ押収スルコトヲ得ス

鉄道材料陸上電信電話海上法ノ規定外ニ在ル汽船其ノ他ノ船舶兵器廠其ノ他一切ノ軍需品ハ会社若ハ個人ニ属スルモノタリトモ均シク作戦動作ニ供スヘキ性質ヲ有スル中立国ハ成ルヘク之ヲ戦場ヨリ遠隔シタル地ニ留置スヘシ

中立国ハ此等軍隊ヲ陣営内ニ監守シ又ハ城塞若ハ特ニ之カ為ニ設備シタル場所ニ幽閉スルコトヲ得ヘシ

将校ヲシテ許可ナクシテ中立国ノ版図以外ニ出テサル旨ヲ宣誓セシメ以テ解放スルト否トハ中立国ノ決スル所トス

第五十八條　特別ノ條約ナキトキハ中立国ハ其ノ留置シタル人員ニ食料被服ヲ給与シ人情ニ訴テ必要ト認ムル救助ヲ与フヘシ

留置ノ為ニ生シタル費用ハ平和回復ノ上償却セラルヘシ

第五十九條　中立国ハ交戦軍ニ属スル傷者及病者カ其ノ版図内ヲ通過スルヲ許スコトヲ得ヘシ但シ之ヲ輸送スル列車ニハ戦闘ノ人員及材料ヲ搭載セサルヲ條件トスヘシ斯ノ場合ニ於テハ中立国ハ之カ為必要ナル保安及監督ノ処置ヲ施スヘキモノトス

前記ノ條件ニ依リテ甲交戦国カ乙交戦国ニ属スル傷者及病者ヲ中立国ノ版図内ニ伴レ来ルトキハ中立国ハ之ヲ監守シテ再ヒ作戦動作ニ与ルコト能ハサラシムヘシ甲交戦

モノニ属ス然レトモ平和回復ノ際ニハ之ヲ返還シ及之カ補償ヲ為スヘキモノトス

第五十四條　中立国ヨリ来レル鉄道材料ハ該国ノ国有タルト会社又ハ個人ノ所有タルトヲ問ハス成ルヘク速ニ之ヲ還送スヘシ

第五十五條　占領者タル国ハ敵国ノ国有ニ属シ其ノ占領地内ニ存在スル公有ノ建物不動産森林及農作地ノ管理者タリ且其ノ用益権者タルニ過キサルモノト心得此等財産ノ基本ヲ保護シ用益権ノ規則ニ依リテ之ヲ管理セサルヘカラス

第五十六條　市町村ノ財産並宗教慈善教育技芸及学術ノ為設ケラレタル営造物所属ノ財産ハ国有ニ属スルモノト雖私有財産同様之ヲ取扱フヘシ

総テ這般ノ営造物歴史上ノ紀念建造物技芸及学術上ノ製作品ヲ故意ニ押収シ破壊シ又ハ毀損スルコトヲ禁ス犯ス者ハ之ヲ訴追スヘキモノトス

第四款　中立国内ニ留置スル交戦者及救護スル傷者

第五十七條　交戦軍ニ属スル軍隊ヲ其ノ版図内ニ収容シタル傷者及病者ニ対シテモ亦同一ノ義務ヲ有スヘシ

第六十條　「ジェネヴァ」條約ハ中立国ノ版図内ニ留置シタル病者及傷者ニモ亦之ヲ適用ス

国ヨリ依頼ヲ受ケタル傷者及病者ニ対シテモ亦同一ノ義務ヲ有スヘシ

七、第六回総会議

千八百九十九年七月二十一日第六回総会議

議長スタール閣下

午後二時開会

議長ハ着席シ左ノ如ク演説ス

「議事日程ニ入ルニ先チ余ハ茲ニ我至尊ナル君主全露西亜国皇帝陛下ノ勅命ヲ伝ヘントス

陛下ハ陛下ノ皇室ニ関係ヲ有スル凶事ニ就キ本会カ前キニ副議長ノ雄弁ナル言ヲ藉リテ表彰シタル同情ヲ嘉納アラセラレタリ我至尊ナル君主ハ余ニ命スルニ本会ノ弔辞ニ対シ深ク感謝セラルルノ聖意ヲ伝ヘンコトヲ以テセラレタリ」

印刷ノ上各委員ニ配付シタル第五回総会議ノ議事録ヲ承認ス

議長ハ日程ニハ第一ニ第一委員会ノ報告審査ノコトヲ掲ク

ル旨ヲ告ケ該報告起草ノ任ニ当ラレタルド・カルネベーク君ノ労ヲ謝ス

○報告委員　前日第一委員会ニ於テ可決シタル報告書第一部中第一ノ点ヲ本会議ニ提出シテ曰ク

委員会ハ全会一致ヲ以テ軽気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新タナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スルノ協約ヲ可決セリト

次ニ報告委員ハ委員会ノ名ニ於テ前記ノ協約ヲ掲ケタル宣言ヲ為サンコトヲ本会議ニ提議シ

本会議ハ全会一致ヲ以テ此ノ提議ヲ可決セリ

次テ第二ノ点即チ窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スル件ニ移ル

右ノ協約モ亦亜米利加合衆国及大不列顛国ノ二票ヲ除クノ外全会一致ヲ以テ可決セリ

○報告委員　第三ノ点即チ外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包ハ中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ若ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スル協約ニ就テ同一ノ提議ヲナス

○大尉クロジエー君　左ノ如キ演説ヲ為ス

右ノ問題ニ関スル大体ノ原則ハ既ニ千八百六十八年ノ聖彼得斯堡会議ニ於テ之ヲ確定シタリ即チ既ニ戦闘力ヲ失ヒタル者ニ無用ノ苦痛ヲ与ヘ若ハ之ヲシテ必然死ニ至ラシムヘキ兵器ヲ使用スルコトハ正当ナル限界ヲ踰越シタルモノタルコトヲ宣言シタリ且ツ聖彼得斯堡ノ條約ハ当時ニ在リテハ右原則ニ対スル唯一ノ違反ナリト看做シタルモノ即チ重量四百「グランム」以下ノ爆裂弾ヲ使用スルコトヲ禁止シタリ

今ヤ本会議ニ於テハ右ノ禁止ヲ拡張シテ之ヲ爆裂弾以外ノ弾丸ニ及ホサントス是レ即チ現今使用セル小口径銃ノ弾丸及将来使用スルニ至ルコトアルヘキ一層小口径ナル銃丸ノ衝突力ヲ加フルコトヲ目的トスル新発明ヲ禁止セントスルモノナリ

此ノ如キ禁止ヲ設クルニ方リ吾人ハ中心ニ如何ナル目的ヲ抱有スルヲ要スルヤ

他ナシ必要ナル限界ヲ踰越シテ残酷ニ渉ルコトヲ禁止スト云フ目的是レナリ然ラハ則チ何ヲカ必要ト云フヤ聖彼得斯堡ノ宣言ニ云ヘルカ如ク「成ルヘク多数ノ人ノ戦闘力ヲ奪フヲ以テ充分ナリ」ト云フコト是レナリ

余カ尊敬スル同僚露西亜国ノ委員ハ本会ニ於テ「戦争ノ目的ハ敵兵ノ戦闘力ヲ滅殺スルニ在リ」ト宣言セラレタリ凡ソ軍人タル者ハ余ノ提起シタル問ニ答フルニハ唯タ一言ヲ以テ足レリトスヘシ他ナシ人既ニ一ノ弾丸ニ中リタルトキハ直チニ之ヲ戦闘員以外ニ置カレサルヘカラストト云フコト是レナリ故ニ余ハ此ノ目的ヲ達スルト同時ニ又此ノ目的以外ニ渉ルモノヲ禁止スルヲ旨トシテ玆ニ左ノ如キ修正案ヲ提出ス

「爆裂弾其ノ他即時ニ人ヲ戦闘員以外ニ置クニ必要ナル限界ヲ踰越シタル各種ノ弾丸ノ如キ無益ニ惨酷ナル苦痛ヲ与フヘキ弾丸ノ使用ハ之ヲ禁止セサルヘカラス」

右ノ修正文ハ明白ニ其ノ使用ヲ許スヘキ一切ノ弾丸ヲ指定セルモノナリ

或ル人ハ通常ノ弾丸ニテモ能ク人ヲ戦闘員以外ニ措クニ足ルモノナリト云ヘリ

右ノ言カ果シテ何レノ場合ニモ適応セラルルヤ否ヤニ附テハ人各々其ノ見ル所ヲ異ニセリ我合衆国ノ如キハ現今使用スル所ノ弾丸ニテ満足シ之ヲ変更スルノ意ナキヲ以テ余ハ自由ニ余ノ意見ヲ吐露スルコトヲ得ヘシ然レトモ現今使用スル弾丸ノ如何ニ拘ハラス本萬国会議ニ於テハ銃ノ口径ニ制限ヲ置クコトナカリシヲ以テ若シ他日益々銃ノ口径ヲ減スルニ至ラハ将来使用スヘキ弾丸ノ如何ナルヘキヤハ何人ト雖モ之ヲ豫知スルコト能ハサルヘシ原案ノ弱点ハ実ニ此所ニ存スルナリ蓋シ原案ハ其ノ禁止ヲ唯タ開展シ又ハ扁平トナルヘキ弾丸ノ一種類ニ限リ而シテ其ノ説明トシテ右弾丸ノ製造法ニ関シ左ノ如ク細目ヲ示シタルニ過キス

「外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ若ハ扁平トナルヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止ス」

小口径銃ノ便利ナルコトハ洽ク世人ノ知ル所ニシテ弾道ノ屈曲寡ナキコト弾丸ノ効力ヲ及ホス区域ノ大ナルコト反動力ノ僅少ナルコト就中兵士ノ携帯スヘキ弾薬ノ重量ヲ減スルコト等ハ是レ其ノ最モ較著ナルモノナリ故ニ若シ一国民ニシテ前記ノ便益ヲ収メムカ為ニ其ノ口径ノ一層小ナル銃ノ採用ヲ望ムトセンカ（実際有リ得ヘキコトト看做ササルヘカラス）銃砲専門ノ軍人等ハ必スヤ直チニ小口径銃ニ伴ヘル不便即チ其ノ弾丸ノ生スル衝突力ノ不足ヲ避クルノ方法ヲ探求スヘシ而シテ彼等ハ其ノ衝突力ヲ増加スルノ方法

ヲ求ムルニ方リテ勢必ス條約ニ由リテ禁止シタルモノヲ検按スヘク既ニ之ヲ検按シタルトキハ前記二種ノ弾丸ヲ除クトキハ何等ノ弾丸ヲ製造スルモ都テ自由ナルコトヲ考量スルニ至ルヘシ是ニ於テ或ハ其ノ外包ノ一部ヲ非常ニ薄クシテ有レトモ無キカ如クシタル弾丸ヲ製造シ以テ條約ノ禁止シタル製造ノ細目ヲ回避スルコトヲ得ヘク将タ或ハ（一）、其ノ弾丸ノ尖頭人体内ニ入リテ容易ク一方ニ回転スルコトヲ得ヘキ弾丸ヲ製シ（銃弾ニ右ノ如キ運動ヲ与フルノ容易ナルハ世人ノ熟知スル所ナリ）（二）、其ノ形ヲ変スルコトナクシテ極メテ激烈ナル創傷ヲ与フヘキ新式ノ弾丸ヲ製シ以テ禁止セラレタル種類ノ弾丸ヲ製スルコトヲ全ク回避スルコトヲ得ヘシ此他ノ例ハ一々枚挙スルニ暇アラス

一ノ専門士官ハ余ノ提出セル案文ニ於テ禁止スルモ調査委員ノ提出セル案文ニ於テ許容セラルヘキ極メテ慘酷ナル創傷ヲ与フル弾丸ヲ発明スルニ絶エス其ノ力ヲ用ユルコトヲ得ヘシ嘗ニ然ルノミナラス調査委員ノ案文ニ於テ禁止シタル種類ヲ回避センコトヲ力ムルノ結果適々一層慘忍ナル他ノ種類ノ弾丸ヲ採用スルニ至ルコトアルヘシ又弾丸ノ衝突力ヲ増加セント欲スルニ当リ若シ之ヲ必要ナリトセハ種々ノ方法ニ依リテ之ヲ増加スルコトヲ得ルハ極メテ確実ナリ正シク膨脹スヘキ弾丸ヲ製造セスシテ他ニ之ヨリモ一層慘酷ナラサル弾丸ヲ製造スルノ方法アルコトナシ

然ルニ膨脹スヘキ弾丸ノ製造ハ既ニ條約ニ由リテ禁止セラレタリトセハ新タニ禁止ヲ設クヘキ列国会議ノ存セサル時ニ於テ之ヨリモ一層慘酷ナル他ノ弾丸ヲ製造スルノ方法ヲ採用スル者アルニ至ルヘシ要スルニ徒ラニ細目ヲ列記シテ原則ヲ其ノ中ニ網羅セント欲スレハ是レ危険ノ甚シキモノナリ何トナレハ人能ク其ノ細目ヲ回避シテ原則ヲ侵スコトヲ得ヘケレハナリ

曩ニ委員会ハ余ノ提案ノ文辞甚タ漠然タルコトヲ非難シ若シ余ノ提案ニ従フテ修正ヲ加フルトキハ原案ニ就キテ残ル所幾クモナカルヘシト言ヘリ然レトモ其ノ実余ノ提案ハ委員会ノ提案ヨリモ一層制限ノ範囲ヲ広クセルモノナリ何トナレハ委員会ノ提案ハ一ノ原則ヲ網羅シタルニアラスシテ唯タ其ノ一角ニ触レシニ過キサレハナリ其ノ禁止ヲ一種ノ製造法ニ関スル細目ニ及ホサンコトヲ力メテ自余一切ノ新発明ニ其ノ禁止ヲ及ホスコト能ハサレハナリ

或者ハ又「グム・ダム」弾丸ハ禁止ノ目的物ナリト明白ニ宣言シタリ

余ハ「ダム、ダム」弾丸ヲ弁護スルノ任ヲ帯フルモノニアラス余ハ「ダム、ダム」ニ就テハ本会ニ於テ聞キシ所ノ外一モ知ル所アラス論者ハ吾等カ今此ノ弾丸ニ就キテ可否ノ判断ヲ下タサンコトヲ求メタリ余ハ該弾丸カ果シテ慘酷ナルモノタルコトヲ明カニスヘキ證拠ナカルヘカラスト思料ス

然ルニ今ニ至ルマテ如何ナル證拠タモ提供セラレタルコトナシ

大佐ジリンスキー君ハ其ノ一身ノ名誉タリ又其ノ政府ノ名誉タルヘキ雄弁ナル演説ヲナシテ専ラ博愛ノ情義ヲ回護センコトヲ努メラレタリ君ハ「ダム、ダム」弾丸ノ使用セラレタル二回ノ戦争ニ於テ該弾丸カ極メテ慘酷ナル創傷ヲ与フルヲ證明シタリト述ヘラレタリ然レトモ君ハ遂ニ吾人ヲシテ君ノ説ニ首肯セシムルニ足ルヘキ事実ヲ挙クルコトアラサリキ

唯タ其ノ一ノ證拠トシテ吾人ノ聞クコトヲ得タルモノハ「チュービンゲン」ニ於テ執行シタル試験及其ノ試験ニ用キタル弾丸ト「ダム、ダム」弾丸トノ類似シタルコト是ナリ然レトモ英国ノ委員ハ明カニ其ノ然ラサルヲ證言スル為ニ此ノ事実ヲ引證セラレタリ

然レトモ余ノ修正案ニ於テハ決シテ明白ニ「ダム、ダム」弾丸ノ採用ヲ許シタルニアラス若シ其ノ慘酷ナル創傷ヲ与フルノ證拠ヲ明白ニ示シタル場合アラハ亦宜シク禁止ノ部類ニ入ルヘキモノナリ余ハ此点ニ就キテ諸君ノ注意ヲ求メサルヘカラス

吾人ハ皆齊ク無益ニ慘酷ナル創傷ヲ与フヘキ兵器ノ使用ヲ禁止センコトヲ切望スル者ナリ只其ノ禁止ノ効力ヲ奏スル点ニ於テ余ハ證拠ナクシテ濫リニ一国政府ノ採用セル或種類ノ兵器ヲ排斥シ以テ其ノ国民ノ激昂ヲ招カンヨリハ寧ロ明白ナル證拠ヲ其ノ政府ニ示シテ一国民ノ輿論ノ援助ヲ獲ルノ優レルニ若カサルヲ信ス

今ヤ本会議ハ既ニ閉会ノ時期ニ達シ而シテ尚ホ未タ其ノ協商ヲ遂クルコト能ハサルハ独リ本問題アルノミ且ツ両論者ハ各々固ク其ノ見ル所ヲ把持シテ相容ルルコトナク彼我殆ント相反目スルノ状アリ之レカ為メ始メ本案ヲ提出スルニ至レル慈仁ノ趣旨モ亦遂ニ其ノ価値ヲ失フノ虞ナキニアラス

右ノ如クナルヲ以テ余ハ諸君ニ向テ仮令諸君ノ中ニ余ノ提出セル修正案カ一層博愛的傾向ヲ有シタルコトヲ信セサル

モノアリト雖モ亦能ク余ノ提案ヲ可決シ以テ列国間ノ感情ヲ融和センコトヲ願ハサルヲ得ス

「サー」　ジュリアン・ポーンスフォート君ハ陸軍大尉クロジェー君ノ修正案ヲ賛成シ其ノ委員案ニ対スル駁論ニ同意ヲ表ス

ド・カルネベーク君ハ本件ニ関スル委員会ノ経過ヲ報シ来国委員ハ既ニ委員会ニ於テ本会議ニ提出セルト粗々同様ナル修正案ヲ提出シタルモ委員ノ多数ハ其ノ修正案ノ博愛ノ趣旨ヨリ出テタル者タルニ拘ハラス其ノ法文ノ意義漠然トシテ明白ヲ缺ケル者トシ之レカ為メ修正案ハ遂ニ定数ノ賛成ヲ得ルニ至ラス依テ委員ノ一人ノ請求ニ由リ原案ヲ先決問題トナシ二票ヲ除クノ外全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタルコトヲ告ク

「サー」　ジュリアン・ポーンスフォート君ハ其ノ本国政府ハ「ダム、ダム」弾丸ノ件ニ就キテ極メテ重大ナル一ノ宣言ヲ為サント欲スト雖モ右ノ宣言ハ猶ホ未タ到達セサルヲ以テ議事録中ニ之ヲ記入スヘキ空所ヲ残サレンコトヲ請求シ右請求ハ本会議ノ可決スル所トナレリ

将官デン・ベール・ボールチュゲール君ハ会議ノ意思ハ弾丸問題ニ就キテ再ヒ討論ヲ開カント欲スルニ在ルヤ否ヤヲ

知ラスト雖モ其ノ見ル所ヲ以テスルニ此ノ件ニ関シテハ百事皆終了シテ復タ討論ヲ開クノ要アルコトナシ然ルニ若シクロジェー君ノ提議ヲ容レテ再ヒ此ノ件ヲ討論ニ附スルトキハ既ニ成就シタル事業ヲ破壊スルニ至ルヘシ且ツクロジェー君ト斉ク同君ノ提出セル法文中ニハ大体ノ原則ヲ網羅スルモノト認ムト雖モ其ノ法文ノ効力ハ頗ル薄弱ナルヘシト思考スト述ヘ更ニ言ヲナシテ曰ククロジェー君ノ提案中ニ必要ナル限界云々ノ語アリト雖モ其ノ必要ナル限界ト云ヒ無益ニ惨酷ナル創傷ト云フハ果シテ如何ナル意義ヲ有スルモノナルヤ吾人ハ之ヲ知ルコト能ハス所謂必要ナル限界ヲ定ムルニハ須ラク其ノ標準ニ充ツヘキモノナカルヘカラス吾人ハ明カニ言ハサルヘカラス「爰ニ一個ノ弾丸アリ此ノ弾丸タル従来諸国ニ於テ使用セル弾丸トハ全ク其ノ類ヲ異ニセルモノナリ」ト吾人ハ宜シク一般ノ限界ニアラスシテ特別ノ限界ヲ定メサルヘラス然ラスンハ其ノ規定ハ一モ効果ヲ収ムルコト能ハサルヘシ

クロジェー君若シ吾人ヲ以テ「ダム、ダム」弾丸ヲ排斥スルモノナリトセハ是レ誤レルノ甚シキモノナリ今其ノ弾丸ノ何物タルヲ知ラスシテ豫シメ之ヲ排斥スルコト能ハサルハ吾人モ亦之ヲ知レリ吾人ハ一般ニ外包硬固ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタル弾丸ノ使用ヲ禁止セント欲スルノミ而モ其ノ禁止ノ法文ヲ此ノ如ク草定スルニスラ頗ル困難ヲ感シタリ其ノ法文中製造法ノ細目ニ渉レル所アルハ蓋シ亦已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ其ノ法文ノ細目ニ渉レル所アルカ為メ適々他ノ方法ヲ以テ大体ノ原則ニ違反スル者ヲ出タスノ虞アルコトハ余モ亦之ヲ認メサルニアラス

然レトモ委員会ノ法文ハ既ニ其ノ原則ニ違反スル一個ノ方法ヲ排斥スルコトヲ得タリ是レ亦以テ多トスルニ足ル若シ夫レ之ニ依リテ将来発明セラルルコトヲ得ヘキ一切ノ方法ヲ排斥センコトハ固ヨリ得テ望ムヘカラス

吾人若シ此ノ法文ヲ採用セサルトキハ遂ニ一モ得ル所ナカルヘキナリト

○大佐ジリンスキー君　クロジェー君ノ言ニ答ヘテ先ツ当初露国ノ提案カ「ダム、ダム」弾丸ヲ掲ケサリシコトヲ弁シ乃チ其ノ提案ノ條文ヲ朗読シ更ニ説ヲナシテ云ク

他ノ専門委員中右ノ原案ニ修正ヲ加ヘタル者アリテ結局報告書ニ在ルカ如キ法文ヲ採用スルニ決シタルヲ以テ此ノ法文モ亦「ダム、ダム」弾丸ノ事ヲ載セス故ニ更ニ本問題ヲ検按シテ該弾丸カ果シテ法文ニ於テ禁止シタル種類ニ屬スヘキモノナルヤ否ヲ決スルハ之ヲ列国政府ニ一任セサルヘカラス

蓋シ此ノ類ノ弾丸ハ其ノ截刻シタル硬固ナル外包ヨリ鉛ヲ出タシテ開展スルコトヲ得セシムルカ故ニ無益ニ惨酷ナル創傷ヲ与フルモノナリ此類ノ弾丸ハ嘗ニ創傷ヲ与フルノミナラス更ニ人肉ノ断片ヲ割取スルモノニシテ此ノ如キ結果ハ単ニ敵ノ戦闘力ヲ滅殺スルニ止マレル戦争ノ目的ヲ踰越スルモノト謂ハサルヘカラス単ニ敵ヲ戦闘員以外ニ置クニハ口径七「ミリメートル」半ヲ過キサル小口径銃ノ弾丸ヲ使用スルヲ以テ足レリトス

人或ハ其ノ然ラサルヲ論スル者アラン然レトモ右弾丸ノ力足ラサルヲ感スルハ極メテ稀ナル例外ノ場合ニ屬ス例ヘハ其ノ弾丸骨ニ達セスシテ単ニ筋肉又ハ人体ノ柔軟チル部分ニ触レタル場合ニ於テハ敵ニ与フル所ノ創傷ハ未タ以テ其ノ戦闘力ヲ奪フニ足ラサルコトアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ致命ノ創傷ヲ被ムレルモノニシテ猶ホ若干ノ時間前進シ弾丸ニ中リタルコトヲ知ラスシテ斃死スルコトアリ千八百六十八年ノ聖彼得斯堡宣言ハ既ニ存在セル事実ヲ目的トシテ規定ヲ設ケ其ノ実際ニ存在セル弾丸ノ使用ヲ禁止セント欲シタルモノナリ

本会議ニ於テモ亦同一ノ事ヲ為サンコトヲ望ム即チ吾人ハ既ニ製造セラレタル或ル種類ノ弾丸ヲ使用スルコトヲ禁止セント欲ス将来ニ於テ如何ナル発明ノ起ルヘキカハ吾人之ヲ知ラスト雖モ顧フニ将来ノ発明ニ就キテハ又新タニ之ヲ禁止スルノ必要ヲ生スルコトアルヘシ

且ツ文明国民ト野蛮部落トノ間ニ差別ヲ設クルハ決シテ事体ノ宜シキヲ得タルモノニアラス余ハ単ニ「無益ニ慘酷ナル」ト云フ語ヲ法文中ニ挿入スルニ就テハ異議ナシト雖モ其ノ他ノ点ニ於テハ一切委員会ノ決定シタル法文ヲ其ノ儘ニ可決スヘシ此ノ法文タル諸専門家列席ノ上具サニ討論審議ヲ竭クシ然ル後チ採用シタルモノニシテ総会議ニ於テ之ヲ否認セント欲スルモ得ヘカラサルモノナリ

○大尉クロジエー君　其ノ見ル所ニ拠レハ委員会ニ於テ可決シタル法文ハ左ノ三個ノ欠点ヲ有スルコトヲ述フ

（一）　該法文ハ一ノ場合ヲ除クノ外採用シ得ヘキ限界ヲ踰越シタル弾丸ヲ禁止セス

（二）　該法文ハ開展スヘキ弾丸ヲ禁止ス然ルニ正シク開展シテ無益ニ慘酷ナル創傷ヲ生セサル弾丸ヲ発明スルコト甚タ難カラサルヘシ故ニ開展スヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スルハ必要ナラサラン

（三）　明文ニハ「ダム・ダム」ノ語存在セスト雖モ議事録ニ拠ルニ法文ノ趣旨ハ「ダム・ダム」弾丸ノ使用ヲ禁止スルニ在ルコト疑ヲ容レス是レ證拠ナクシテ濫リニ該弾丸ヲ排斥スルモノナリ如何トナレハ該弾丸カ無益ニ慘酷ナルノ証拠ハ一モ存スルコトアラサレハナリ

同大尉ハ其ノ言ノ誤マラサルコトヲ證セムカ為メデン・ベールポールチュゲール将官ノ報告書中ノ一節（第三頁第二項）ヲ朗読セリ

大尉ハ該報告書ニハ「ダム・ダム」弾丸ノコトヲ記述シ該弾丸ノ使用ヲ禁止セント欲スルノ趣旨カ種々ノ点ヨリ證明セラルルコトヲ論シ合衆国ニ於テハ口径七「ミリメートル」半ノ銃ヲ使用シ敢テ之ヲ変更スルノ意ナキヲ述フ

大尉ハ又小口径銃ノ禁止ト或種ノ弾丸ノ禁止トハ密接ノ関係ヲ有スルコトヲ論シ此ノ事ニ就キテデン・ベール・ポールチュゲール将官ノ報告書ノ一節（第三頁末項）ヲ朗読シ列国ノ多数ハ口径ノ制限ニ反対ヲ唱ヘタルコトヲ示シ且ツ云ク

列国ハ無限ニ小銃ノ口径ヲ減小スルコトヲ得ルカ故ニ遂ニハ極メテ小口径ナルモノヲ用ユルニ至リ随ツテ「ダム・ダム」弾丸ニ均シキ効力ヲ生スヘキ弾丸ヲ使用スルノ必要ヲ感スルコトアルヘシト

大尉ハ更ニド・カルネベーク君ノ言ニ答ヘテ云ク余ノ修正案ヲ分科委員会ニ提出シタル時分科委員会ハ之ヲ表決ニ附セスシテ独リ原案ニ就キ採決シタルノミ此ノ方法ハ議事ノ進行ヲ促カスノ便益ヲ有スト雖トモ更ニ是レヨリモ一層重要ナルモノアリ他ナシ一問題ノ提起セラルル毎ニ之ニ対スル議員ノ意見ヲ表明スルコト是レナリ然ルニ分科委員会ハ余ノ修正案ニ対シテ一個ノ意見タモ表明スルノ機会ヲ有セサリシヲ以テ余ハ更ニ本問題ヲ総会議ニ提出シテ第一ニ之ヲ表決ニ附セラレンコトヲ求ムト

○大佐ジリンスキー君　委員会ノ法案ニ於テ禁止セント欲スル弾丸ノ効力ハ最近二回ノ戦争ニ於テ既ニ世ニ確認セラレタルモ唯タ未タ此ノ事ニ関シテ公報ヲ得サルノミナルコトヲ再言ス

大佐云ク将来発明セラルヘキ弾丸ニ就キテハ其ノ時期ノ至リシトキ之ニ処スルノ方法ヲ講シテ可ナリト

又云ククロジエー大尉ハ正シク開展スヘキ弾丸ヲ発明スル者アルヘキコトヲ言レタリ此ノ事或ハ然ラン然レトモ此ノ

類ノ弾丸ト雖モ亦無益ニ慘酷ナル創傷ヲ与フルコトアルヘシ

露国ノ提案ハ現ニ存在セル弾丸ニ就キテ規定セント欲スルニ過キス前キニ余ノ言ヘルカ如ク小口径銃ノ弾丸ハ概シテ敵ノ攻撃ヲ止ムルコトヲ得ヘシト雖モ若シ更ニ現在ノ口径ヲ減小スルコトアラハ恐クハ其ノ結果同一ナラサルヘシ此ノ時ニ至ラハ更ニ新問題ノ起ルコトアルヘシ

然レトモ其ノ弾丸ノ衝突力十分ナラスシテ非凡ナル勇者ヲ撃退スル能ハストスルモ此ノ勇者ヲ撃タンカ為ニ一層慘酷ナル弾丸ヲ発明スルノ必要アリト云フコトヲ得サルヘシト

大尉クロジエー君ハ先ツ自己ノ提案ヲ表決ニ附センコトヲ請ヘリト雖モジリンスキー君ハ先ツ委員会ノ案ヨリ採決アリタキ旨ヲ主張セリ

○ド・ガルベーク君　其ノ議院ニ於テ得クル経験ニ徴シテ曰ククロジエー君ハ其ノ提案ノ最初ニ表決ニ附セラレサリシヲ非トセラル素ヨリ議事ノ慣例ニ依レハ一ノ修正案ハ原案ニ対シテ優先権ヲ有スルハ言ヲ俟タス然レトモクロジエー君ノ提案ハ修正案ニアラスシテ一個ノ新提出案ナリ委員会議長ベルネルト君カ議事ニ老練ナルハ何人モ

異論ナキ所ニシテ君カ先ツ原案ヲ表決ニ附シタルハ其ノ意見ノ余ト相同シキヲ知ルヘキナリ

今爰ニ二個ノ提案アルトキハ議事ノ慣例トシテ先ツ其ノ意義ノ最モ広キモノヨリ採決スルヲ常トス若シ本会ニ於テ右ノ原則ニ循由セサランコトヲ欲セハ必スシモ不可ナシ然レトモ其ノ措置ハ常例ニ戻ルノ嫌ヲ免レサルヘシト

○大尉クロジエー君　其ノ提案ハ則チ一ノ修正案ナルコトヲ主張ス

○ラファロウィッチ君　優先権問題ニ就テ採択センコトヲ提議ス

○ド・ビル君　委員会ニ於テ原案賛成ノ投票ヲ為セシモ未タ「ダム・ダム」弾丸ノ何物タルコトヲ知ラス又其ノ惨酷ナル結果ヲ證明セラレタルコトヲ信セサルヲ以テ決シテ該弾丸ヲ排斥セント欲シテ委員案ヲ賛成セシニアラサルコトヲ述フ

○ホワイト君　合衆国委員カ此件ニ就キ委員会ト其ノ意見ヲ同フスト宣言スル能ハサルハ遺憾ニ堪ヘサル所ナリトシ君ハ先ツ本問題ニ就キテ言フ所アラント欲スルモ弾丸其他如何ナル種類ノ兵器ニ就テモ専門的知識ヲ有スルニアラサルコトヲ述ヘ次イテ合衆国政府カ既往及現在ニ於テ他ノ文明国民ノ使用セル弾丸ト其ノ種類ヲ異ニシタル弾丸ヲ使用シタルコトナク将来ニ於テモ亦決シテ之ヲ使用スルノ意思ナキコトヲ宣言シ更ニ合衆国カ将来諸国民ノ協商ニ由リテ其ノ使用ヲ許容セサル弾丸ヲ採用スルノ意思ナキコトヲ宣言ス

右ノ宣言ノ後ホワイト君ハジリンスキー大佐ノ提案中薄弱ナリト認メタル点ヲ指摘シ大佐ノ提案ハ無益ニ惨酷ナル創傷ヲ与フヘキ弾丸ニ就キ特ニ其ノ製造法ノ細目ヲ指定セルヲ以テ戦争久キニ弥ルトキハ交戦者ヲシテ巧ミニ其ノ制限ノ規定ヲ廻避スルノ機会ヲ得セシムルニ至ルヘシト説ク

又云ク交戦者ハ此提案ニ於テ除カント欲スル惨害ヲ避ケントスルヨリモ寧ロ禁止ノ文字ニ違反セサルニ其意ヲ用ユルニ至ルヘシ

合衆国ニ於テハ余ノ遺憾ニ感シ而シテ神助ニ由リテ幸ニ其ノ収局ヲ告ケタル最近ノ戦争ニ於テ近時ノ小口径銃用ノ弾丸ノ効力寡キコトヲ経験シタリ一兵卒アリ四個ノ弾丸ニ貫カレテ猶ホ其ノ戦闘ヲ継続シ目下其ノ健康尚ホ常ノ如クナル者アリ

報告書ニ掲ケタル提案ハ諸国民カ現今使用スル弾丸ヲ変改シ若ハ一層惨酷ナルモノトナスヲ妨クルコトナシ是レ所謂

ル文字ニ於テ之ヲ殺シ精神ニ於テ之ヲ活カスモノナリ本会議ハ一層広キクロジエー案ノ原則ヲ採用セスシテ能ク独リ特種ノ弾丸ヲ排斥スルコトヲ得ヘキカヲ考究セサルヘカラス右ノ如クナルヲ以テ余ハ本案ヲ委員会ノ再審査ニ附シ以テ本会議ニ参列セル諸国ノ一致ノ協賛ヲ得ヘキ法文ヲ査定センコトヲ望ムト

○将官デン・ベール・ポールチュゲール君　小口径銃ノ能ク敵ノ進撃ヲ止ムニ足ルコトヲ論シ頃者「アッチン」ノ戦争ニ於ケル新例ヲ挙ケテ之ヲ證セリ

○大佐ジリンスキー君　合衆国カ多数ノ意見ニ賛同セサルヲ遺憾トシ本会議ニ於テハ専ラ現ニ存在スル弾丸ニ就キテ論議スルヲ可トスト主張シ米国委員ノ引用スル事例ハ稀有ノ場合ニ過キスト為シド・ガリッフエ将軍カ榴弾ノ破裂ニ由リテ腹部ニ重傷ヲ負ヒ而シテ猶ホ永ク生存シタル実例ヲ挙ケ之ニ由リテ榴弾ノ無害ナルヲ結論スルコトヲ得ヘカラサルヲ説キ総会議カ委員会ノ調査ニ十分ノ信用ヲ措カンコトヲ望メリ

○海軍大佐マハン君　ジリンスキー大佐カ本会議ニ於テハ専ラ現ニ存在スル弾丸ニ就キテ論議スヘシト言ヘルヲ駁シ果シテ然ラハ何故ニ議案ノ第一項及第二項ニ対シテ右ノ議論ヲ応用セサリシカヲ論シ問題ノ帰着スル所ハ唯タ全議員ノ斉シク賛成セル一個ノ目的ヲ達スルカ為ニハ大体ノ原則ニ就キテ採決スルヲ可トスルカ将タ細目ニ弥レル特定ノ事項ニ就キテ採決スルヲ可トスルカノ点ニ在リト述フ

○大佐ジリンスキー君　軽気球上ヨリ投射物ヲ投下スルコトハ目下研究中ナルヲ以テ即チ現ニ存在スル事実ナルコトヲ答フ

○ド・カルネベーク君　クロジエー案カ一ノ新タナル提出案ナルコトヲ再説シ先ツ原案ニ就キテ採決スルノ至当ナルヲ主張ス

○伯爵デ・マセーヅ君　ホワイト君ノ提議ヲ可トシ本問題ニ就キテハ十分ニ其ノ可否ヲ明カニスルコト能ハサリシヲ以テ委員会ニ於テ棄権シタルコトヲ告ケ「サア」ジュリヤン・ポーンスフォートノ為サント欲スル宣言ハ能ク本問題ノ真相ヲ明ラカニスルニ足ルヘキヲ以テ之ヲ待チテ後チ採決スルノ可ナルヲ主張ス

ホワイト君ノ提議ヲ表決ニ付ス

本問題ヲ委員会ノ再審査ニ附スヘシトノ説ハ五票ニ対スル二十票ノ多数ヲ以テ否決セラレタリ

再審査ニ付スルヲ可トシタル者ハ亜米利加合衆国、丁抹、大不列顛、希臘及ヒ葡萄牙ナリ

盧森堡ハ欠席セリ

○議長　委員会ノ法案ニ就キテ採決センコトヲ提議ス

○将官「サァ」ジョン・アルダー君及ヒ大尉クロジエー君之ニ反対ス

○大尉クロジエー君　先ツ自己ノ修正案ヲ採択シ委員会ヲシテ之ニ関スル其ノ意見ヲ述フルノ機会ヲ得セシメンコトヲ主張ス

○議長　調和ヲ図ルノ精神ヨリ先ツ米国案ヲ採決スルモ不可ナキコトヲ宣告ス

○「サー」ジュリヤン・ポーンスフォート君　凡ソ欧羅巴ノ議会ニ於テハ先ツ修正案ヨリ採決スルヲ以テ慣例トナセルコトヲ述ヘ英米二国ノ委員ハ倶ニクロジエー案ヲ以テ修正案ト視做セルコトヲ論ス

○セッスロウ君　米国案ヲ以テ後出案（サブスチチュート）ニ属スル者ナリトシ米国議会ニ於テハ原案ニ先チテ之ヲ採決スルノ慣例ニシテ然ラスンハ到底真成ナル多数ノ意見ヲ知ルコト能ハサルヲ論ス

○伯爵デ・マセーヅ君　米国案ニ賛成ノ投票ヲ為スヘシト

雖トモ之レカ為メ決シテ原案ヲ非トスルノ意アルニアラサルコトヲ宣言ス

○ローラン君　既ニ戦闘法規ヲ可決シタル委員ニシテ同法規中ノ一条規ニ外ナラサルクロジエー案ノ採用ヲ非トスヘキ道理ナシ依テ其ノ採決ノ為ニ或ハ誤解ヲ招クノ恐ナカランコトヲ望ミクロジエー案ノ果シテ採用セラレタル上ハ委員会ノ提案ヲ追加修正案トシテ更ニ表決ニ付スルノ可ナルコトヲ主張ス

○ラファロヴィッチ君　右ノ提議ヲ賛成ス

○大佐コアンダ君　最初先ツ大体ニ於テ博愛ノ情義ヲ示セル案文ヲ採決シ次イテ更ニ細目ニ渉レル法文ヲ採決スルノ可ナルコトヲ述フ

○将官ムーニエ君　委員会ノ提案ハ既ニ世ニ知ラレタル弾丸ヲ禁止セント欲スル者ナリト雖モ米国委員ノ禁止セント欲スル弾丸ニ至リテハ其ノ何種類ノ物タルカヲ知ル能ハサルヲ以テ若シクロジエー大尉ノ提案ヲ採用スルトキハ将来種々ノ困難ヲ生スヘキコトヲ論ス

○ド・ビル君　「人ヲ戦闘員以外ニ置クニ必要ナル限界」ナル文辞ハ其ノ意義極メテ明白ナルコトヲ論ス

○ド・カルネベーク君　優先権問題ヲ総議会ノ表決ニ付センコトヲ主張ス

○ド・ビル君　亦同一ノ提議ヲ為ス

優先権問題ヲ表決ニ附ス

亜米利加合衆国、白耳義、清、丁抹、大不列顛、希臘、葡萄牙及ヒ塞爾比亜ノ八個国ハ先ツ米国案ニ就キテ採決スルヲ可トス

其ノ他ノ十七個国ハ之ニ反対ス

盧森堡ハ表決ニ与カラス

次ニ報告書ニ掲ケタル委員会ノ提案ヲ表決ニ付シ反対二（亜米利加合衆国及ヒ大不列顛）棄権一、（葡萄牙）ヲ除キ全会一致ヲ以テ之ヲ可決ス

盧森堡ハ出席セス

報告書ノ第二項、第三項及ヒ第四項ハ全会一致ヲ以テ之ヲ可決ス

赤十字條約ニ関スル分科委員会ノ起草委員長ヨリ送レル書簡ヲ朗読ス、右ノ書簡ハ先キニ六月二十日ノ総会議ニ於テ可決シタル十個條ノ追加トシテ米国委員ヨリ提出シタル三個條ハ同委員ニ於テ之ヲ撤回シタル旨ヲ「サア」ジョン・フィッシャー提督ヨリド・マルテンス君ニ通告

○海軍大佐マハン君　右ノ件ニ就キテ左ノ宣言ヲ為ス

「米国委員カ其ノ提出セル三個條ノ追加案ヲ撤回セシハ其ノ條文ニ掲ケタル場合ヲ規定スルノ可否ニ就キテ意見ヲ翻ヘシタルカ故ニアラス唯タ本会ノ議事ヲシテ其終了ヲ容易ナラシメント欲シタルカ故ナリ

是故ニ米国委員ハ十個條ノ規定カ其提案ニ係ル追加ノ三個條ト相伴フニアラスンハ極メテ不完全ナルコトヲ認ムト雖モ仮リニ之ニ同意ヲ表シテ本国政府ノ裁可ヲ仰カント欲スト但シ其ノ裁可ニ就キテハ十分ニ行動ノ自由ヲ留保スヘシ且ツ米国委員ハ其ノ懐抱セル疑団ト其ノ必要ト思料スル解釈トヲ併セテ悉ク之ヲ本国政府ニ報告スルコト勿論ナリ」

散会

七月二十一日第六回総会議議事録附属書

第一委員会報告書

第一委員会ノ任務ハ伯爵ムーラヴィエフ閣下ノ廻章ノ始ニ掲ケタル四個ノ提議ヲ審査スルニ在リ依テ同委員会ハ戦争ノ器機ニ関スル問題ヲ考究センカ為メ豫定通リ二個ノ分科

委員会ニ分レ一ハ陸軍ニ関スル件他ノ一ハ艦隊ニ関スル件ヲ受持チ而シテムウラヴィエフ伯ノ第一提議即兵備制限ノ問題ハ之ヲ調査委員会全体ノ審査事項ト為セリ

第一　両分科委員会ノ審査ハ左ノ三点ニ帰着スルモノトス

一　軽気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルコトヲ禁止スルコト

右ノ約束ハ其ノ継続期限ヲ五箇年トシ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

二　窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ各自ニ禁止スルコト

右ノ件ハ一票ヲ除クノ外全会一致ヲ以テ可決セリ但シ多数ニ加ハリタルモノノ中六票ハ全会一致ヲ条件トシテ賛成ヲ表シタルモノナリ

三　外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用ヲ各自ニ禁止スルコト

右ノ件ハ反対ノ投票二、棄権一ノ外全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

右ノ次第ニ付本委員会ハ左ノ如キ約束ヲ掲ケタル宣言即條

約ヲ総会議ニ提出スルモノナリ則チ

一ノ件ニ関シテハ全会一致ノ約定

二ノ件ニ関シテハ一票（亜米利加合衆国及大不列顛国）ニ対スル十七票（独逸国、墺地利洪牙利国、丁抹国、西班牙国、仏蘭西国、伊太利国、日本国以上全会一致ヲ条件トスルモノ、モンテネグロ国、和蘭国、葡萄牙国、羅馬尼亜国、露西亜国塞爾比亜国、暹羅国、瑞西国、土耳古国、勃爾牙利国）ヨリ成レル約定

三ノ件ニ関シテハ一票（亜米利加合衆国及大不列顛国）及棄権一（葡萄牙国）ニ対スル十六票（独逸国、墺地利洪牙利国、丁抹国、西班牙国、仏蘭西国、伊太利国、日本国、モンテネグロ国、和蘭国、羅馬尼亜国、露西亜国、塞爾比亜国、暹羅国、瑞西国、土耳其国、勃爾牙利国）ヨリ成レル約定

第二　両分科委員会ハ豫算ニ重要ノ関係アルモノト認メタルニ依リ縦令一時ノ間タリトモ新式及新口径ノ銃砲ノ使用ヲ防止スル為協商ヲ遂クルノ途ナキヤニ就キ久シク審議ヲ費セリ然ルニ多少細目ニ渉リタル諸般ノ提案審議ノ際孰レモ皆先ツ本会議ノ会期中ニ於テ能ク実際ニ行ヒ得ヘキ決定ヲ為スカ為ニ充分精確ナル訓令ヲ受領スルコトヲ得ヘキヤノ点ニ付異議ヲ招キタリ、諸方ヨリ提出セラレタル議案審査ノ度毎トニ右等ノ問題ヲ決センカ為ニハ多数ノ国ニ於テハ豫メ実験ニ基キテ綿密ナル専門的研究ヲ遂ケサル可ラサルコトヲ知ルニ至レリ

右ノ如キ困難アリタルニ依リ委員会ハ平和会議ニ賛同シタル各国政府ハ特ニ小銃及海軍用ノ大砲ニ関スル問題ヲ各自ニ考究シ成ルヘク各国一致ノ決定ニ到着シ後日ノ平和会議ニ於テ確定セラルルニ至ランコトノ希望ヲ発表スルニ止マルノ已ムヲ得サルニ至レリ、本件ニ関シ両分科委員会ノ議事録ニ掲ケタル意見ノ交換ハ右講究ノ参考資料タルコトヲ得ヘシ

右ノ希望ニ関スル提議ハ委員会全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

第三　陸海軍ノ兵数並之ヲ維持スル軍事費豫算ヲ一定スルコトヲ得ヘキヤノ件モ亦熱心ナル研究事項ト為レリ

本件ニ関シテハ露国ヨリ種々ノ発議アリ其ノ始メニ提出セラレタルモノハ植民地軍隊ハ之ヲ除キ本国ニ於テ維持セラルル現在ノ兵数ヲ五箇年間一定シ且同一ノ期限内軍事費豫算ヲ現行ノ額ニ制限セントスルモノナリ

右提議ノ第一分科委員会ニ附託セラルルヤ先ツド・グロッス、ド・シュワルツホッフ大佐、クロジエー大尉、ド・キュエパック中佐、ムーニエ少将、「サー」、ジョン・アルダー少将、ツッカーリ少将、佐官コアンダ、ジリンスキー大佐及ブレンドストレーム大佐ノ各専門委員ヨリ成レル特別専門委員会ニ於テ審議ニ付セラレ同会ニ於テ慎重ナル意見ノ交換アリタル後ジリンスキー大佐ヲ除クノ外全会一致ヲ以テ左ノ決定ヲ為スニ至レリ

一　縦令五箇年ノ期限タリトモ同時ニ国防上ノ他ノ要件ニ就キテ規定スルコトナクシテ単ニ兵数ノミヲ一定スルハ甚タ困難ナルヘシ

二　右国防ノコトハ各国ニ於テ極メテ多様ノ観察ニ基キ設備セラルルモノニシテ之カ要件ヲ国際条約ニ依リ規定スルハ是亦均シク困難ナルヘシ

依テ特別専門委員会ハ遺憾ナカラ右ノ提議ハ之ヲ承諾スヘキモノナリト為スコトヲ得サルナリ、然レトモ委員ノ多数ハ列国政府各自ニ於テ一層深ク本問題ヲ考究センコトヲ希望スヘキモノト認メタリ

特別専門委員会ノ査定右ノ如クナルヲ以テ本委員会ニ於テハ遺憾ナカラ右兵数及軍事費豫算ノ問題ニ就キテハ到底本会議ニ於テ直チニ積極的ノ協商ヲ得ルノ途ナシト査定スル

ノ外ナシ但シムウラヴィエフ伯ノ廻章第一項ニ依リテ提起セラレタル右等諸般ノ問題ニ就キ列国政府各自ニ其ノ考究ヲ開始センコトヲ望ム

而シテ一般ノ観察点ヨリシテ軍備ヲ制限シ且本問題ノ決定ニ付最モ重大ナル注意ヲ喚起スルヲ要スト ノ観念ハ委員会ニ於テ著ルシキ活動ヲ呈シタリ於是乎委員会ハ全会一致ヲ以テ特別専門委員会ノ提議ヲ承認シタル上尚ホ此観念ヲ発表スル為メ本件ニ関シ仏国第一委員ノ提議ニ因リ全会一致ヲ以テ更ニ左ノ決議ヲ為セリ

「本委員会ハ現今世界ノ重累タル軍備ノ負担ヲ制限スルコトヲ以テ人類ノ有形的及無形的福利ヲ増進セムカ為大ニ望ムヘキモノタルコトヲ認ム」

依テ本委員会ハ右決議ノ採用アランコトヲ本会議ニ提議スルモノナリ

第四　尚ホ露国ノ提出ニ係ル一ノ発議ハ海軍ニ関スルモノナリ其ノ趣旨ハ海軍豫算額ヲ三箇年間一定スルノ原則ヲ承認セシメントスルニ在リテ其ノ金額ヲ定ムルニ就キテハ全然之ヲ各国政府ノ意見ニ一任シ只其ノ自ラ指定シタル金額ヲ三箇年間増加セサルコトヲ約束スルモノトス

午後二時半開会

○議長「サア」ジュリアン・ポーンスフォート君ヨリ必ス重要ナル宣言ヲ登載スヘキニ付前回ノ議事録ヲ締切ラサル様請求アリタルヲ以テ該議事録ハ未タ印刷ニ付スルニ至ラサルモ時間ヲ節約スル為メ該議事録ノ承認ハ之ヲ事務局ニ一任センコトヲ提議シ更ニ述ヘテ曰ク

余ハ此機ニ附シ再ヒ書記局ニ向テ其ノ目下担任セル夥多ノ事務ヲ執ルノ熱心ヲ謝シ又王国印刷局ニ向テ本会議ノ謝意ヲ致サレンコトヲファン・カルネベーク君ニ望ム該局局長及局員全体ハ特ニ吾人ノ感謝ヲ受クルノ権利ヲ有スル者ニシテシュヴァリエー・デカン君ノ報告ヲ速ニ印刷シ吾人ヲシテ今日玆ニ会同スルコトヲ得セシメタルカ如キハ実ニ該局共助ノ功績ヲ示スモノナリ（喝采）

諸君、吾人ノ事業ハ漸ク其ノ終局ニ近カントス先ツ本日ノ会議ニ於テ諸君ハ宜シク国際紛争平和的処理條約ニ関シ第三委員会ニ於テ可決シタル各條ニ付承認ヲ与ヘラレンコトヲ望ム

今シュヴァリエー、デカン君ヨリ其各條ヲ朗読セラルヘシ

シュヴァリエー・デカン君ノ朗読ヲ経タル左ノ各條ハ逐次

右ノ提議モ亦他ノ提議ト均シク分科委員会ニ於テ種々ノ困難ニ逢着セリ就中其ノ実施方法ヲ定メントスルニ当リテ種々意外ノ故障ヲ生スヘキコトハ措キテ問ハストスルモ特ニ議院政治国ニ於ケル立法議会ノ豫算議定権ニ関シテ重大ナル議論ノ生スヘキコトヲ認メタリ

本委員会ハ露国ノ提議ノ開拓シタル道途ニ由リテ奮進セントスルノ念如何ニ強盛ナリトスルモ奈何ニセン到底其ノ解決スル能ハサル問題ニ遭遇シタルコトヲ自認スルノ外ナシ蓋シ此問題タル訓令ニ依リテ其ノ意思ヲ言明スヘキ列国政府カ各自ニ深ク研究スル所アルヲ要スヘキ案件ニシテ到底本平和会議ノ会期中ニ於テハ必要ノ時ヲ得ルコト能ハサルヘシ

右ノ次第ニ付本委員会ハ陸軍ノ兵力ニ関スル問題ト共ニ本問題ヲ列国政府ノ考量ニ附シ列国政府ニ於テ若シ之ヲ有益ナリトセハ其ノ他ノ提議ト共ニ自ラ研究スヘキモノトナセリ

依テ委員会ハ玆ニ右ノ意見ヲ具シ総会議ノ承認ヲ需ム

八、第七回総会議

千八百九十九年七月二十五日第七回総会議

議長スタール閣下

表決ニ附セラレ何レモ異議ナク可決セラレタリ

第一章　一般平和ノ維持

第一條　列国間ノ関係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク制止セムカ為記名国ハ国際紛議ヲ平和ニ処理スルコトニ其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

第二章　周旋及居中調停

第二條　記名国ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ許ス限リ其ノ交親国中ノ一国若ハ数国ニ周旋又ハ居中調停ヲ依頼スルコトヲ約定ス

第三條　記名国ハ右依頼ノ有無ニ拘ハラス紛争以外ニ立ツ一国又ハ数国カ事情ノ許ス限リ自ラ進テ周旋又ハ居中調停ヲ紛争国ニ提供スルコトヲ有益ト認ム

紛争以外ニ立ツ国ハ交戦中ト雖其ノ周旋又ハ居中調停ヲ提供スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ右権利ノ行使ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得ス

第四條　居中調停者ノ本分ハ紛争国双方ノ申分ヲ和解シ且其ノ間ニ生スルコトアルヘキ悪感情ヲ融和スルニ在ルモノトス

第五條　居中調停者ノ職務ハ其ノ提出シタル和解方法ノ採納セラレサルコトヲ紛爭国ノ一方又ハ調停者自ラ宣言シタルトキ直ニ終止スルモノトス

第六條　周旋及居中調停ハ紛爭国ノ依頼ニ由ルト紛爭以外ニ立ツ国ノ発意ニ出ツルトニ論ナク全ク勧告ノ性質ヲ有スルニ止マリ決シテ拘束ノ効力ヲ有セサルモノトス

第七條　反対ノ約束アル場合ノ外ハ居中調停ヲ承諾シタルカ為動員其ノ他ノ戦闘準備ヲ中止シ遅延シ又ハ障碍スルノ結果ヲ生スルコトナシ

若戦闘開始ノ後ニ於テ居中調停起リタルトキハ反対ノ約束アル場合ノ外之カ為進行中ノ軍事的動作ヲ中止スルコトナシ

第八條　記名国ハ事情ノ許ス限リ左ノ手続ヲ以テスル特別居中調停ノ適用ヲ可トスルコトニ同意ス

平和ヲ破ルノ虞アル重大ナル紛議ヲ生シタル場合ニハ紛爭国ハ平和ノ破裂ヲ豫防スル為各各一国ヲ選定シ他ノ一方ノ選定シタル国ト直接ノ交渉ヲ開クノ任務ヲ附託ス

右附託ノ期間ハ反対ノ規約アル場合ノ外三十日ヲ超エサルモノトシ期間中紛爭事件ニ関スルコトハ調停国ニ一任シタルモノト看做シ紛爭国ハ自ラ直接ノ交渉ヲ為スコトヲ中止ス右調停国ハ紛議ヲ処理スルニ全力ヲ竭スヘキモノトス

平和ノ既ニ破レタル後ト雖右調停国ハ平和ヲ回復スルノ機会アル毎ニ之ヲ利用スルノ共同任務ヲ負フモノトス

第三章　国際審査委員

第九條　名誉又ハ重要ナル利益ニ関係セス単ニ事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛爭事件ニシテ外交上ノ手段ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ紛爭国ハ事情ノ許ス限リ国際審査委員ヲ設ケ之ヲシテ公平誠実ナル審査ニ依リテ事実問題ヲ明カニシ紛爭ノ結了ヲ幇助スルノ任ニ当ラシムルヲ以テ記名国ハ有益ナリト認ム

第十條　国際審査委員ハ紛爭国間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ設置ス

審査條約ハ審査スヘキ事実及委員ノ権限ヲ明瞭ニ規定ス

審査條約ハ審査手続ヲ規定ス

審査ハ双方対審ノ上之ヲ行フ

遵守スヘキ方式及期限ニシテ審査條約ニ規定ナキモノハ委員自ラ之ヲ定ム

第十一條　国際審査委員ハ反対ノ規約ナキ限リ本條約第三十二條ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ設置ス

第十二條　紛爭国ハ係爭事実ヲ完全ニ知悉シ且精確ニ会得スルニ必要ナル一切ノ方法及便宜ヲ其ノ為シ得ヘシト認ムル限リ充分ニ国際審査委員ニ提供スルコトヲ約定ス

第十三條　国際審査委員ハ各委員ノ記名シタル報告書ヲ紛爭国ニ提出ス

第十四條　国際審査委員ノ報告書ハ単ニ事実ノ記述ニ止マルモノニシテ決シテ仲裁宣告ノ性質ヲ有セス此ノ記述ニ対シ如何ナル結果ヲ付スヘキヤハ全ク紛爭国ノ自由タルヘシ

第四章　萬国仲裁裁判

第一節　仲裁裁判

第十五條　萬国仲裁裁判ハ紛爭国ノ選定セル裁判官ヲシテ法ヲ尊重スルノ基礎ニ拠リ国ト国トノ間ニ生シタル紛議ヲ処理セシムルコトヲ以テ目的トス

第十六條　法律問題就中国際條約ノ解釈又ハ適用ニ関スル問題ニ就テハ記名国ハ外交上ノ手段ニ依リ結了スルコト能ハサリシ紛議ヲ処理スルニハ仲裁裁判ヲ以テ最モ有効ニシテ最モ公平ナル方法ト認ム

第十七條　仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル紛議又ハ将来生スルコトアルヘキ紛議ノ為ニ締結ス

仲裁裁判條約ハ総テノ紛議又ハ特ニ指定シタル種類ノミニ関スルコトヲ得

第十八條　仲裁裁判條約ハ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

第十九條　仲裁裁判ニ依頼スヘキ義務ヲ記名国ニ対シテ現ニ規定シタル一般若ハ特別條約ノ有無ニ拘ハラス記名国ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思料スル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシメムカ為本條約批准前又ハ其ノ後ニ於テ一般若ハ特別ノ新協定ヲ為スノ権利ヲ保留ス

第二節　常設仲裁裁判所

第二十條　外交上ノ手段ニ依リテ処理スルコト能ハサリシ国際紛議ヲ直チニ仲裁裁判ニ付スルニ便ナラシムルノ目的ヲ以テ記名国ハ何時タリトモ依頼スルコトヲ得ヘキ且紛爭国間ニ反対ノ規約ナキ限ハ本條約ニ掲ケタル手続ニ依リテ其ノ職務ヲ行フヘキ常設仲裁裁判所ヲ構成スルコトヲ約定ス

第二十一條　常設仲裁裁判所ハ紛爭国ノ間ニ特別ノ裁判所ヲ設置スルノ協約アル場合ノ外一切ノ仲裁事件ヲ管轄スルモノトス

第二十二條　海牙ニ萬国事務局ヲ設置シ仲裁裁判所書記局ノ事務ニ当ラシム

右事務局ハ裁判所ノ開廷ニ関スル通信ノ媒介者トス

事務局ハ記録ノ保管ヲ掌リ一切ノ行政事務ヲ処理ス

記名国ハ相互ノ間ニ定メタル一切ノ仲裁裁判規約ノ認證謄本竝其ノ当事者タル場合ニ特別裁判所カ下シタル仲裁宣告ノ認証謄本ヲ海牙萬国事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

記名国ハ仲裁裁判所ノ下シタル宣告ノ執行ヲ證明スルコトアルヘキ法律規則及文書モ亦同シク右事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

第二十三條　各記名国ハ本條約批准後三箇月以内ニ国際法上ノ問題ニ堪能ノ名アリテ徳望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意アル者四名以下ヲ指定スヘシ

右指定ヲ受ケタル者ハ仲裁裁判所裁判官トシテ名簿ニ記入シ事務局ヨリ之ヲ各記名国ニ通知スヘシ

仲裁裁判官ノ名簿ニ異動アル毎ニ事務局ヨリ之ヲ記名国ニ通知ス

二国若ハ数国相約シテ共同ニ一名又ハ数名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトヲ得

同一人ニシテ数国ヨリ指定セラルルコトヲ得

仲裁裁判所裁判官ハ其ノ任期ヲ六箇年トス但シ再任セラルルコトヲ得

仲裁裁判所裁判官中死亡又ハ退職スル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

第二十四條　記名国ハ其ノ相互ノ間ニ生シタル紛議ヲ処理セムカ為常設仲裁裁判所ニ訴ヘムト欲スルトキハ其ノ紛議ヲ裁定スヘキ当該裁判部ヲ組織スル仲裁裁判官ノ選定ハ仲裁裁判所裁判官総名簿ニ就テ之ヲ為スヘシ仲裁裁判部ノ構成ニ関シ紛争国相互間ニ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

双方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半ハシタル場合ニハ双方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ双方ニ於テ各各異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

右ノ如ク仲裁裁判部ノ構成ヲ了リタルトキハ双方ヨリ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ決意及仲裁裁判官ノ氏名ヲ事務局ニ通知ス

仲裁裁判部ハ双方ノ定メタル期日ニ開廷ス

仲裁裁判所裁判官ハ外国ニ在リテ其ノ職務ヲ執行スルニ方リ外交官ノ特権及免除ヲ享有ス

第二十五條　仲裁裁判部ハ通常之ヲ海牙ニ設置ス

仲裁裁判部ハ不可抗力ノ場合ノ外双方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ其ノ所在地ヲ変更スルコトヲ得ス

第二十六條　海牙萬国事務局ハ其ノ庁舎及局員ヲ記名国ノ為特別仲裁裁判所ノ用ニ供スルコトヲ得

常設仲裁裁判所ノ管轄ハ双方ニ於テ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ協定シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ従ヒ之ヲ非記名国間又ハ記名国ト非記名国トノ間ニ生シタル紛議ニ及ホスコトヲ得

第二十七條　記名国ハ其ノ二国又ハ数国ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラムトスル場合ニハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ紛争国ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認ム

故ニ記名国ハ紛争国ニ向テ本條約ノ規定アルコトヲ注意シ且平和ノ大切ナル利益ヲ保タムカ為常設仲裁裁判所ニ訴フヘキコトヲ勧告スルハ全ク周旋ノ行為ニ外ナラサル

モノト看做スヘキコトヲ宣言ス

第二十八條　少クトモ九箇国ニ於テ本條約ヲ批准シタル後ハ成ルヘク速ニ常設評議会ヲ海牙ニ設置シ同府ニ駐劄スル記名国ノ外交代表者及和蘭国外務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ和蘭国外務大臣ヲ推シテ其ノ議長トス

評議会ハ萬国事務局ヲ創設組織スルノ任務ヲ有シ竝之ヲ指揮監督ス

評議会ハ仲裁裁判所ノ構成ヲ各国ニ通知シ及其ノ開庁ノ設備ヲ為ス

評議会ハ其ノ事務章程及其ノ他必要ナル諸規則ヲ定ム

評議会ハ仲裁裁判所ノ職務執行ニ関シテ生スルコトアルヘキ行政事務上一切ノ問題ヲ決定ス

評議会ハ事務局ノ役員及雇員ノ任命停職及罷免ニ関スル全権ヲ有ス

評議会ハ俸給及手当ヲ定メ竝全般ノ経費ヲ監督ス

評議会ハ正当ニ招集セラレタル会合ニ於テ五名以上ノ出席者アルトキハ有効ノ評議ヲ為スコトヲ得決議ハ投票ノ多数ニ依ル

評議会ハ其ノ制定シタル諸規則ヲ速ニ記名国ニ通知シ且毎年仲裁裁判所ノ事業行政事務ノ執行及経費ニ関スル報

告書ヲ記名国ニ提出ス

第二十九條　萬国事務局ノ経費ハ萬国郵便聯合事務局ノ為ニ定メタル比例ニ依リ記名国ニ於テ之ヲ負担ス

第三節　仲裁裁判手続

第三十條　仲裁裁判ノ発達ヲ助クルノ目的ヲ以テ記名国ハ紛争国カ別段ノ規則ヲ協定セサル場合ニ於テ仲裁裁判手続ニ適用スヘキ左ノ規則ヲ定ム

第三十一條　仲裁裁判ニ依頼スル諸国ハ其ノ係争事件ノ趣旨竝仲裁裁判官ノ権限ヲ明瞭ニ確定シタル特別條約（仲裁契約）ニ記名ス右條約ハ双方ニ於テ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

第三十二條　仲裁ノ職務ハ双方ニ於テ随意ニ指定シ若ハ本條約ニ依リテ設置シタル常設仲裁裁判所ノ裁判官中ヨリ双方ノ選定シタル一名又ハ数名ノ仲裁者ニ委託スルコトヲ得

紛争国相互間ニ仲裁裁判所ノ構成ニ関シ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

双方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半ハシタル場合ニハ双方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ双方ニ於テ各各異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

第三十三條　君主其ノ他国ノ元首ニシテ仲裁者ニ選定セラレタルトキハ仲裁裁判手続ハ仲裁者自ラ之ヲ定ム

第三十四條　上級仲裁裁判官ハ当然裁判長タルヘシ

仲裁裁判所ニ上級仲裁裁判官ナキトキハ裁判所自ラ其ノ裁判長ヲ指定ス

第三十五條　仲裁裁判官中死亡シ辞職シ又ハ原因ノ如何ヲ拘ハラス故障ヲ生シタル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

第三十六條　仲裁裁判所ノ所在地ハ双方ニ於テ之ヲ指定ス

其ノ指定ナキトキハ海牙ヲ以テ所在地トス

前項ノ所在地ハ不可抗力ノ場合ノ外双方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ仲裁裁判所ニ於テ之ヲ変更スルコトヲ得ス

第三十七條　紛争国ハ自国ト仲裁裁判所トノ間ニ在リテ媒介者タル任務ヲ帯フル所ノ委員又ハ特別代理人ヲ該裁判所ノ下ニ派遣スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ尚顧問又ハ弁護人ヲ任命シ仲裁裁判所ニ於テ其

ノ権利及利益ヲ弁護セシムルコトヲ得

第三十八條　仲裁裁判所ハ法廷ニ於テ自ラ使用シ及其ノ使用スルコトヲ許スヘキ国語ヲ選定ス

第三十九條　仲裁裁判手続ハ大体ニ於テ之ヲ準備書面ノ提出及口頭弁論ノ二種トス

準備書面ノ提出トハ双方ノ派遣員ヨリ印刷シ又ハ筆記シタル一切ノ公文及訴訟上援用スル理由ヲ掲ケタル一切ノ書類ヲ仲裁裁判所裁判官及相手方ニ提出スルヲ謂フ右書類ノ提出ハ本條約第四十九條ノ規定ニ基キ仲裁裁判所ニ於テ定メタル方式及期限ニ従ヒ之ヲ為スヘシ

口頭弁論トハ法廷ニ於ケル双方理由ノ口頭演述ヲ謂フ

第四十條　紛争国ノ一方ヨリ提出シタル書類ハ総テ之ヲ他ノ一方ニ通知スヘキモノトス

第四十一條　口頭弁論ハ裁判長之ヲ指揮ス

口頭弁論ハ紛争国ノ承諾ヲ経テ為シタル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ公開セス口頭弁論ハ裁判長ノ指定スル書記ノ作リタル調書ニ之ヲ記載シ此ノ調書ノミヲ以テ公正ナル性質ヲ有スルモノトス

第四十二條　仲裁裁判所ハ準備書面ノ提出終結ノ後ハ紛争

国ノ一方ヨリ他ノ一方ノ承諾ヲ得スシテ提出スル新ナル一切ノ公文又ハ書類ニ付論議スルコトヲ拒絶スルノ権利ヲ有ス

第四十三條　仲裁裁判所ハ紛争国ノ派遣員又ハ顧問カ其ノ注意ヲ求ムルコトアルヘキ新ナル公文又ハ書類ヲ参酌スルノ自由ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ仲裁裁判所ハ右公文又ハ書類ノ提出ヲ要求スルノ権利ヲ有ス但シ其ノ趣ヲ相手方ニ告知スルノ義務アルモノトス

第四十四條　仲裁裁判所ハ尚雙方ノ派遣員ニ一切ノ公文ノ提出ヲ要求シ且必要ナル一切ノ説明ヲ請求スルコトヲ得

若之ヲ拒ミタル場合ニハ其ノ旨ヲ記録ス

第四十五條　雙方ノ派遣員及顧問ハ其ノ訴訟ヲ弁護スル為ニ有益ナリト認ムル一切ノ理由ヲ口頭ニテ仲裁裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第四十六條　雙方ノ派遣員及顧問ハ抗弁ヲ為シ及中間ノ争ヲ起スノ権利ヲ有ス此点ニ関スル仲裁裁判所ノ決定ハ確定ニシテ更ニ之ヲ論議スルコトヲ許サス

第四十七條　仲裁裁判所裁判官ハ雙方ノ派遣員及顧問ニ質

問ヲ為シ且疑ハシキ事項ニ関シテ其ノ説明ヲ求ムルノ権利ヲ有ス

弁論ノ進行中仲裁裁判所裁判官カ為シタル質問又ハ注意ハ仲裁裁判所全体若ハ其ノ裁判官自己ノ意見ヲ表彰シタルモノト看做スコトヲ得ス

第四十八條　仲裁裁判所ハ仲裁契約其ノ他紛争事件ニ関シテ援用セラルヘキ諸條約ヲ解釈シ且国際法ノ原則ヲ適用シテ自ラ其ノ権限ヲ定ムルコトヲ得

第四十九條　仲裁裁判所ハ訴訟取扱手続ニ関スル命令ヲ発シ各当事者ノ結論ヲ為スヘキ方式及期限ヲ定メ且證拠扱ノ為メ適当ナル一切ノ手続ヲ履行スルノ権利ヲ有ス

第五十條　雙方ノ派遣員及顧問ヨリ各各其ノ訴訟ヲ弁護スル一切ノ説明及證拠ヲ提出シ了リタルトキハ裁判長ハ弁論ノ終結ヲ宣告ス

第五十一條　仲裁裁判所ノ評議ハ秘密会トス

決議ハ総テ裁判官ノ多数ニ依ル

裁判官中表決ノ数ニ加ハルコトヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨ヲ調書ニ記入スヘシ

第五十二條　投票ノ多数ニ依リテ決定シタル仲裁宣告ニハ其ノ理由ヲ付ス右宣告ハ書面ニ認メ各裁判官之ニ記名ス

裁判官中少数ニ屬シタル者ハ記名ノ際其ノ不同意ノ旨ヲ記入スルコトヲ得

第五十三條　仲裁宣告ハ雙方ノ派遣員及顧問在廷シ又ハ之ニ対シ正当ノ呼出ヲ発シタル仲裁裁判所ノ公開廷ニ於テ之ヲ朗読ス

第五十四條　正当ニ言渡ヲ為シ且雙方ノ派遣員ニ通知シタル仲裁宣告ハ確定ニシテ上告ヲ許サス

第五十五條　紛争国ハ仲裁契約ニ於テ仲裁宣告ノ再審ヲ請求スルノ権利ヲ保留スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ再審ノ請求ハ反対ノ約束ナキ限リ最初宣告ヲ為シタル仲裁裁判所ニ之ヲ為スヘシ右ノ請求ハ口頭弁論終結ノトキ仲裁裁判所モ又再審ヲ要求シタル一方ノ紛争国モ共ニ覚知セサリシ新事実ニシテ其ノ性質宣告ニ断乎タル影響ヲ与ヘ得ヘキモノヲ発見シタル場合ノ外之ヲ為スコトヲ得ス

再審ノ手続ハ特ニ新事実ノ存在スルコトヲ確認シ其ノ事実ハ前項ニ掲ケタル性質ヲ有スルコトヲ識認シ且之カ為再審ノ請求ノ受理スヘキモノタルコトヲ宣言スル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ開始スルヲ得ス

再審ノ請求ヲ提出スヘキ期限ハ仲裁契約ニ於テ之ヲ定ム

第五十六條　仲裁宣告ハ仲裁契約ヲ締結シタル紛争国ニ対スルノ外効力ヲ有スルコトナシ

仲裁契約ニシテ紛争国以外ノ諸国カ加盟セル條約ノ解釈ニ関スルモノナルトキハ紛争国ハ其ノ締結シタル仲裁契約ヲ右諸国ニ通告スヘシ右諸国ハ各々訴訟ニ参加スルノ権利ヲ有ス若其ノ一国又ハ数国ニ於テ此ノ権能ヲ利用シタルトキハ宣告文中ニ記載シタル解釈ハ其ノ国ニ対シテモ亦均シク効力ヲ有スルモノトス

第五十七條　紛争国ハ各各自国ニ係ル費用ヲ負担シ且仲裁裁判所費用ヲ等分ニ分担ス

○伯爵デ・マセーヅ君ハ氏カ発言ヲ求メタルハ氏カ去ル六月二十日ノ議事ニ於テ「ジュネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル件ニ関スル十箇條ノ確定議ニ際シテ為シタル保留ノ撤回ヲ宣言スルカ為ニ外ナラサレトモ今恰モ本会議カ全会一致ヲ以テ居中調停及仲裁裁判ニ関スル條約案ノ主要ナル部分ヲ可決シタル後ニ於テ発言スルノ栄ヲ得タルヲ以テ該問題ニ関シ氏一已ノ遺憾トスル所並ニ愛国心ノ満足トスル所ニ付敢テ一言セント欲スト述フ氏ノ遺憾トスル所ハ知ルニ難カラサル幾多ノ事情就中此諸大家ノ集会席上ニ在リテ氏ノ力能ク右等諸氏ニ比肩スルニ足ラサルカ為メ葡国委員ハ極メテ軽微ノ職責ヲ尽クシタルニ止マリ本会議ノ事業ノ神髄骨子トモ称スヘキ此主要ナル部分ノ議決ニ当リテモ徒ニ諸氏ノ驥尾ニ附シテ僅ニ表決ニ加ハレルニ過キサリシ点ニ在リテ又氏カ愛国的感想ニ満足ヲ得タル所以ノモノハ此人道進歩及平和ノ大事業ノ名誉ニ就キテ氏ノ本国ハ少クトモ本会議ニ賛同シタル他ノ列国ニ劣ラサル要位ヲ占ムルノ権利ヲ有スヘシト信スルニ因ル何トナレハ葡国ハ他ノ列国ニ先ンシ他ノ列国ヨリモ多ク或ハ模範ヲ示シ或ハ事実ニ由リ此事業ニ醵力シタルコト実ニ下ノ如キモノアレハナリ

抑モ今日ニ至ルマテ両国間ノ一方ノ自主及独立ニ係ル問題ヲ除クノ外両国間ノ紛争ヲ挙ケテ之ヲ仲裁裁判ニ附スヘシトノ條約ヲ締結シ且之ヲ批准シタルハ独リ葡荷牙ト和蘭トノ両国アルノミマセーヅ伯ハ亦葡荷牙国カ此下半世紀ニ於テ真ニ重要ナル国際紛争ニシテ単純ナル直接談判ノ方法ニ依リ迅速且容易ニ処理スルコト能ハサリシ場合ハ僅ニ五回ニ過キサルノ事実ハ他ヲ誘発スルニ大ナル

効力ヲ有スルモノナルコト人ノ否認スルヲ得サル所ナルヲ以テ氏ハ右ノ事実ヲ附言スルノ要アリト信セリ而シテ氏ノ本国ハ五回共之ヲ居中調停若ハ仲裁裁判ニ附センコトヲ提議シタリ今茲ニ一々右等ノ場合ヲ指摘スルハ礼節上ニ缺クルノ嫌アルコト瞭易キ所ナルヲ以テ氏ハ之ヲ敢テセサルノミナラス賢明ナル満堂諸君ノ前ニ於テ之ヲ喋々スルノ必要ヲ見スト雖モ右五回ノ内二回ハ之ヲ仲裁裁判ニ附スルノ協議成リテ仲裁裁判官ハ葡国ヲ以テ勝訴者ト為シ第三ノ場合ニ在リテハ必要ノ生シタルトキハ之ヲ居中調停ニ附スヘキ旨ヲ承諾シタルニ唯此ノ豫約ヲ為シタルカ為ニ幾何モナク好誼的直接談判ニ依リテ解決ヲ見ルコトヲ得タリ他ノ二個ノ場合ニ於テハ仲裁裁判ノミナラス居中調停ノ方法モ承諾セラレス紛議ハ全ク葡国ノ不利益ニ帰シテ落着ヲ告ケタリ以上ハ世人ノ能ク知ルトコロノ事実ナルモ之ヲ各其ノ特別ノ事情ニ就テ考案スレハ特ニ茲ニ陳述シテ諸君ノ注意ヲ惹クノ価値アリト信スト（喝采）

議長ハ左ノ宣言ヲ朗読ス

「亜米利加合衆国委員ハ萬国平和会議ニ於テ発議セラレテ無量ナル智能力ヲ表彰スルモノナリ又審査委員会ノ書記官エスツウルネル男爵並ニ政治家タリ法律家タル審査委員各位ニ向テ其ノ吾人ノ事業ヲ容易ナラシメ前途ノ障礙ヲ除去セラレタルコトヲ鳴謝ス（大喝采）

○チュルカン、パシャー君　次ノ宣言ヲ為ス

「土耳其国委員ハ本会議ノ事業タル本ト博愛公正ノ道ニ基キ各国ノ権利利益ヲ庇護シテ専ラ一般ノ平和ヲ確立スルヲ目的トスルモノタルコトヲ思ヒ今般可決セラレタル議案ノ全部ニ次ノ條件ヲ附シテ加盟スルコトヲ其ノ政府ノ名ニ於テ茲ニ宣言ス

第一　周旋居中調停国際審査委員及仲裁裁判ニ依頼スルコトハ全ク任意的ノモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ拘束的ノ性質ヲ有シ若ハ干渉ニ陥ルヲ得サルコトハ明白ニ承認セラレタルコト

第二　帝国政府ハ其ノ利益上前顕ノ手段ニ依頼シ得ヘキ場合ナルヤ否ハ自ラ之ヲ判断スヘク之ニ依頼セス若ハ之ヲ拒絶スルコトアルモ記名国ハ之ヲ以テ友誼ニ戻レルモノト為スヲ得サルコト

前顕各手段ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ内政上ノ問題ニ

タル国際紛争平和的処理條約ニ調印スルニ当リ左ノ宣言ヲ為ス

本條約中ノ如何ナル條項ト雖モ亜米利加合衆国カ外国ノ政治問題及政略若ハ内政ニ参与シ又ハ干渉スルコトヲ自ラ制止スヘシト云ヘル其ノ伝来ノ政治方針ニ乖離セサルヲ得サルカ如キ意味ニ解釈セラルルコトヲ得ス之ト均シク本條約中ノ如何ナル條項ヲモ合衆国ヲシテ純粋ナル亜米利加ノ問題ニ対スル同国伝来ノ態度ヲ廃棄セシムルカ如キ趣旨ニ解釈スルヲ得サルハ勿論トス」

議長ハ亜米利加合衆国委員ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

議案ノ全部ヲ可決確定ス

○議長　議事日程ノ次項ニ移ラントスル前ニ当リ第三委員会ノ議長タリシ政治家ニ向テ本会議々員一同ノ謝意ヲ表センコトヲ議場ニ諮リ更ニ述ヘテ曰ク

吾人一同ハ第三委員会議長ノ熱心ナル弁論ニ賛成ノ意ヲ表シ其ノ議事ヲ指揮スルノ機敏ニシテ且ツ公平ナリシコトヲ深ク感佩ス又同委員会ノ報告委員ニ向テ一言ヲ呈セン君カ名ハ今本会議カ可決シタル議案ト永ク相離ルルコトナカルヘシ其ノ報告ハ秩序整然タル学問上ノ記録ニシ

応用スルヲ得サルハ当然ナルコト」

チュルカン、パシャー君ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

○「サー」ジュリアン、ポーンスフォート君　陸戦ノ法規慣例トシテ採用セラレタル規則第五十三條ニ立戻リテ発言センコトヲ請求シ述ヘテ曰クド、ビル君ノ提議ニ依リ同條ノ規定中陸上電信ノ外ニ海底電信ノ陸上線ヲモ掲記スルコトトナリタルモ英国政府ノ見所ニ依レハ陸上電信材料保護ノ件ハ本会議ノ審査事項タリト雖モ時トシテハ海底ノ遠距離ニ延長セル海底電信線ニマテ同規定ヲ拡張スルコトハ海事ヲ除外スルニ一致シタル本会議ノ権限ヲ踰ユルモノト云フヘシ故ニ調和ノ精神ヲ以テ本員ハド、ビル君カ其ノ第五十三條ニ就キテ提出セラレタル修正ヲ本会議ノ協賛ヲ得テ撤回セラレンコトヲ望ム

○ド、ビル君　左ノ答弁ヲ為ス

「我政府ハ本会議ニ於テ可決ノ上陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約案第五十三條ニ記入セラレタル海底電信ノ陸上線ニ関スル修正ニ対シ大不列顛国第一委員ノ反対アリタルコトヲ聞カハ必ス遺憾トスルコトナラン

然レトモ今ヤ会期ノ終リニ迫リテ此反対ト之ニ伴フテ生

スヘキ保留トノ為ニ平和会議ノ名誉ヲ表彰シ且ツ萬国公法中ニ一進歩ヲ指示スヘキ一條約案ノ一致ノ承諾ニ障碍ヲ与フルコトヲ避ケントノ唯一ノ希望ニ基キ玆ニ本員ハ右ノ修正案ヲ撤回スルノ権限ヲ賦与セラレタリ之ト同時ニ我政府ハ依然トシテ海底電信ノ陸上線ハ勿論一般ノ海底電信ニ至ルマテ戦時ニ於テ陸上電信ニ対シ確保セラルルト同一ノ保護ヲ与フヘシトスル理由ノ正当ナルコトヲ確信セル旨ヲ宣言シ置クモノナリ

我政府ハ本会議カ前決議ニ依リ右附帯ノ原則ニ対シテ与ヘタル援助ヲ承認ス然レトモ海上法ノ問題ニ渉ルノ虞ヲ避クルカ為メ本会議ノ議決事項ト為リ得ヘキニモ拘ラス海底電信線ノ問題ヲ停止セサルヲ得サルニ至リタルコトヲ認メ玆ニハ只本問題カ遠カラスシテ列国ノ慎重ナル考察ヲ受クルニ至ルヘシトノ希望ヲ再陳スルニ止ムヘシ

○議長　右宣言ノ結果第五十三條ノ正文ニ変更ヲ来タスヘキ旨ヲ告ケ「サア」ジュリアン、ポーンスフォート君ト、ビル君トノ協議ニ成レル右ノ変更ニ対スル可否ヲ議場ニ問フ

○ド、ビル君　第五十三條ニ就テ全会一致ノ賛成ヲ保タンカ為ニ其ノ修正ヲ撤回シタル旨ヲ再述シ且若シ諸君ノ中

尚ホ該修正ヲ採用セサルヘカラスト思考セラルル者アルニ於テハ本員ハ義務トシテ其ノ新提議ニ賛成ヲ表スヘシト附言ス

○議長　氏名点呼ニ依リテ決スヘキヤ否ヲ諮ル

○ベルヂマン君　本員ハ曩ニド、ビル君ノ修正ニ賛成ヲ表シ我政府モ全然之ヲ可認シタリ然レトモ惟フニ今ヤ討論ヲ再開スルノ時ニアラス本員ハド、ビル君ト同シク海底電信ノ陸上線ト海底電信トハ大ナル差違アリテ後者ノミ海戦法規ノ範囲ニ属スヘキモノナリトノ意見ヲ有スレトモ若シド、ビル君ノ提出シタル修正ヲ廃棄スルコトカ果シテ陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約全体ニ対スル大不列顛国ノ加盟ヲ保持スルニ足レリトセハ本員ハ該修正ニ対スル賛成ヲ喜ンテ廃棄スヘシ

○「サア」ジュリアン、ポーンスフォート君　右ノ如キ約束ヲ為スノ権限ヲ有セサル旨ヲ答ヘテ曰ク本会議ノ採用シタル陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則ニ対シテハ今日マテノ処我政府ハ単ニド、ビル君ノ修正ノミニ対シテ異議ヲ申出テタルニ止マレリ而シテ今後敢テ他ノ困難ナル問題ヲ生スルコトナカルヘシト信スレトモベルヂマン君ノ陳

述シタルカ如キ約束ハ本員ニ於テ之ヲ為スコトヲ得スト

○ド、マルテンス君「サア」ジュリアン、ポーンスフォート君トド、ビル君トノ間ニ成立シタル協議ハ本條約カ一致ノ調印ヲ得ルノ望アルコトヲ確実ニ表明スルモノナリト述フ

他ニ発言者ナキニ付議長ハ大不列顛国第一委員ノ請求ニ依リ丁抹国第一委員ノ承諾シタル第五十三條変更説ハ異議ナク可決セラレタリト認ムル旨ヲ告ク

○議長　最終決議書起草委員ノ事業ニ付キ口述ノ報告ヲ為スタメルノール君ニ発言ヲ許ス

○ルノール君　本会議ノ決定ニ基キアッセル。シュヴァリエ、デカン。セッス、ロウ。ド、マルテンス。メレー、ド、カポスメール。伯爵ニーグラ。ルノール。及男爵ステンゲルノ諸君ハ本会議ノ事業ノ結果ヲ登載セル最終決議書ノ條文ヲ協定スル為ニ会議ヲ開キタリ右委員会議長ハ最初伯爵ニーグラ君ト定マリタルモ氏ノ辞退ニ由リアッセル君代テ議長ノ職務ヲ行ヘリ

本員ハ委員会ノ決議ニ由リ口述ノ報告ヲ為スノ任ヲ負フモ本会議ハ本員ノ此ノ突然ナル任務ニ就キテ充分ニ諒トスルトコロアランコトヲ希望ス

委員会ニ於テ起リタル第一ノ問題ハ諸君ノ手元ニアル所ノ最終決議書ニ如何ナル表題ヲ附スヘキヤノ点ナリ之ヲ公文書ト名ツクヘキカ将タ議定書若ハ最終議事録ト呼フヘキカ委員会ハ最終決議書ト命名スルヲ以テ本会議ノ事業ノ重要ナルコトト正サニ相適応スヘシト思考シ遂ニ斯ク定ムルコトトナレリ

最終決議書ノ目的ハ本会議ノ討議ノ結果ヲ證明スルニ在ルヲ以テ苟モ平和会議ノ事業ニ与リタル委員ハ総テ本書ニ記名スヘキモノナルヤ或ハ全権委員ノ記名ノミニテ足ルヘキヤノ問題ニ就キテハ共同ノ事業ニ力ヲ致シタル委員ノ氏名全体ヲ決議書ノ前文ニ掲出スルト同時ニ外交文書ニ於テ全権委員ノ記名ノミニ限ルノ慣例ニ従フヲ以テ至当ナリト思料シ次ノ案文ヲ採用スルコトトナレリ

全露西亜国皇帝陛下ノ博愛ナル聖意ニ出テタル萬国平和会議ハ和蘭国皇帝陛下ノ政府ノ招請ニ因リ千八百九十九年五月十八日ヲ以テ海牙府ノ離宮「ボアー」宮殿ニ於テ開会セリ

左ニ列記スル諸国ハ本会議ニ賛同シ左記ノ委員ヲ任命セリ

茲ニ全権委員及全権委員ニアラサル委員ノ氏名全体ヲ列記シ其ノ後ニ左ノ文面ヲ記載セリ

本会議ハ千八百九十九年五月十八日ヨリ七月二十九日ニ彌リテ数回ノ会議ヲ開キ其ノ間前記ノ委員ハ常ニ至尊ナル本会発議者ノ慈仁ナル趣旨ト各本国政府ノ希望トヲ成ルヘク広ク成効セシメムコトヲ熟望シ全権委員ノ記名ヲ求ムル為本決議書ニ附属スル左記ノ諸條約及宣言書ヲ議定セリ

以上ノ案文ハ各委員悉ク本会議ノ事業ニ与リ而シテ独リ全権委員ノミカ最終決議書ニ記名スルノ権ヲ有スルコトヲ示スモノナリ

次ニ本会議カ三條約及三宣言書ノ正文ヲ採用シタルコトヲ掲ケタリ茲ニ注意スヘキハ最終決議書ノ記名ト條約及宣言書ノ記名トハ相均シカラサルコト是レナリ蓋シ最終決議書ハ本会議カ斯々ノ決定ヲ為シタリトノコトヲ證明スルノ外他ノ目的ヲ有セス故ニ各全権委員ハ條約及宣言書ノ各個條ニ対スル其ノ政府ノ意嚮ヲ斟酌スルヲ須ヒスシテ悉ク之ニ記名シ得ルモノトス之ニ反シテ條約及宣言書ハ記名ヲ了シタル後ニアラサレハ拘束力ヲ有スル公文書タルコト能ハス且本会議ニ参同セサル全権委員ヲシテ之ニ記名セシムルトキハ其ノ効力ニ於テ條約及宣言書ハ夫々各別ノ文書ヲナシテ各々其ノ固有ノ効力ヲ保有スルモノナリ故ニ或国ハ総テ其ノ各通ニ記名スルコトヲ得ヘク或国ハ其ノ二三種ニ限リテ記名スルコトヲ得ヘシ随テ最終決議書、條約及宣言書ハ各相異ナリタル記名ヲ有シ又其ノ記名ノ数ニ於テモ相同シカラサルコトアルヘキハ明瞭ナリトス如何ナル日附ヲ各條約及各宣言書ニ掲クヘキヤ理想上ヨリ此疑問ヲ決スレハ本会議ニ賛同シタル各国ハ同時ニ且即座ニ各文書ニ記名スルノ手続ヲ為スヘキモノタルコト明カナレトモ不幸ニシテ実際ハ斯クノ如クナル能ハサルノ虞アリ然レトモ尚ホ各記名ノ間ニ連絡ヲ設ケンコトヲ欲シタルカ為メ多数ノ国ハ最終決議書ト同時ニ各條約ニ記名スルモノト想像スルモ妨ナカルヘシトシ各條約及各宣言書ニハ最終決議書ト同一ノ日附ヲ掲ケ而シテ此等ノ條約及宣言書ハ右同一ノ日附ヲ有シテ何レモ千八百九十九年十二月三十一日迄記名ノ猶豫ヲ存スヘキモノト為セリ

千九百年一月一日以後ハ條件ニ変更ヲ来タシ前顕ノ期日マテニ記名セサリシ国ニシテ記名ヲ為サントスルトキハ各條約若ハ各宣言書ニ掲ケタル加盟ノ條款ニ拠リ規定ノ方式ニ従テ其ノ加盟ノ通告ヲ為ササルヘカラス則チ本年十二月三十一日迄ニ記名セサル国ハ本会議ニ賛同シタルニモ拘ラス普通法ノ支配ニ帰スルコトトナルナリ

次ニ最終決議書ニハ左ノ形式ニ依リ條約及宣言書ヲ列記セリ

第一　国際紛争平和的処理條約

第二　陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約

第三　千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約

第四　左記ノ件ニ関スル三箇ノ宣言書

一　軽気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルヲ禁止スルコト

二　窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルコト

三　外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スルコト

右ノ宣言書第三ノ表題ニ就キテハ「外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ包蓋セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ」ト云ヘル文面ヲ添加シテ之ヲ補フコトトナレリ其ノ正文中ノ文面全部ヲ採用シタルハ最初之ヲ略シタルカ為メ多少ノ疑ヲ生シタルニ由ル故ニ此ノ修正ハ本文ノ性質ヲ変スヘキ根本的ノモノニアラサルナリ

各條約並各宣言書ニ対スル表決ノ結果ハ之ヲ掲載スルニ及ハスト信シタリ元来最終決議書ハ該條約及宣言書ヲ本会議ニ於テ採用シタルコトヲ證明スルニ止マリ其ノ承認ノコトハ毫モ之ヲ包含セス故ニ其ノ果シテ全会一致ノ承認ヲ得タリヤ否ヤヲ指示スルノ必要ナキモノト認メタリ蓋シ各国ハ之ニ記名スルト記名セサルトニ依リテ極メテ簡単ニ之ヲ承認スルト承認セサルトヲ表明スルコトヲ得ヘシ

次ニ仏国第一委員ノ提議ニ由リ全会一致ヲ以テ可決シタル一ノ決議ヲ掲載セリ其ノ文面左ノ如シ

本会議ハ又前述ノ趣旨ニ従ヒ全会一致ヲ以テ左ノ決議ヲ為セリ

本会議ハ現今世界ノ重累タル軍備ノ負担ヲ制限スルコトヲ以テ人類ノ有形的及無形的福利ヲ増進セムカ為ニ望ムヘキモノタルコトヲ認ム

次ニ「希望」ヲ掲載セリ希望ハ各政府ヲ覊束スルモノニアラスト雖モ其ノ之ヲ表彰スルニ至リタル意思ニ就キテハ各国ノ協賛アリタルモノト看做スコトヲ得ヘク随テ希望モ亦モ不可ナキモノナリ又他ノ一方ニ於テ條約及宣言書ハ夫夫

敢テ重要ナラストセス故ニ之カ文書ノ誠実ナルコトヲ表明センカ為ニ特ニ其ノ多数決ニ依リ若ハ全会一致ノ議決ニ依リタルコトヲ明記スルコトト為セリ則チ最終決議書ニ載セタル希望ノ文面ハ左ノ如シ

右ノ外本会議ハ尚ホ左記ノ希望ヲ表彰セリ

一　本会議ハ「ジェネヴァ」條約ノ改正ニ関シ瑞西聯邦政府ノ為シタル準備的処置ヲ参酌シ遠カラス該條約ノ改正ヲ目的トスル特別ノ萬国会議ヲ開クノ挙アラムコトヲ希望ス

右ノ希望ハ全会一致ヲ以テ之ヲ可決セリ

二　本会議ハ中立国ノ権利義務ニ関スル問題ヲ次回ノ萬国会議ノ議題中ニ掲ケムコトヲ希望ス

三　本会議ハ本会ノ審議ニ付セラレタルカ如キ小銃及海軍用ノ大砲ニ関スル問題ヲ列国政府ニ於テ考究シ新式及新口径ノ銃砲ノ使用ニ就テ協商ヲ遂クルニ至ラムコトヲ希望ス

四　本会議ハ列国政府ニ於テ本会ノ議ニ上リタル提議ヲ参酌シ陸海軍ノ兵力及軍事費豫算ノ制限ニ関シテ協商ヲ遂ケ得ヘキカヲ考究セラレムコトヲ希望ス

五　本会議ハ海戦ノ際ニ私有財産ノ侵害スヘカラサルコトヲ宣言スルヲ旨トスル提議ハ之ヲ後日ノ萬国会議ノ審議ニ付セラレンコトヲ希望ス

六　本会議ハ軍艦ヨリ港、市、町、村ヲ砲撃スルコトニ関スル問題ヲ規定セムトスル提議ハ之ヲ後日ノ萬国会議ノ審議ニ付セラレムコトヲ希望ス

以上五箇ノ希望ハ若干ノ棄権ヲ除キ全会一致ヲ以テ之ヲ可決セリ

終リニ最終決議書ハ左ノ文面ヲ以テ結了セリ

右證拠トシテ各全権委員ハ本決議書ニ記名調印スルモノナリ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ外務省ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ本会議ニ賛同シタル各国ニ交付スルモノナリ

右末項及決議書ノ前文第二項並宣言列記ノ次ニアル一節中「国家」若ハ「政府」ナル文字ハビルト男爵ノ請求ニ依リ総テ之ヲ国ト改メタリ

○議長　右ルノール君ノ提出シタル完全明亮ナル報告ニ対シ本会議ノ名ヲ以テ謝意ヲ表ス（全会喝采）

○「サア」ジュリアン・ポンスフォート君　最終決議書ニ載セタル前記五箇ノ希望ハ若干ノ棄権ヲ除キ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シタル旨ヲ掲記セリ然ルニ大不列顛国第一委員カ右希望中二、三、五及六ノ表決ニ際シテ棄権シタルコトハ何レノ議事録ニモ見当ラサルニ付本日再ヒ之カ棄権ノ宣言ヲ為シ本議事録ニ其ノ登載ヲ乞フノ必要アリト信スル旨ヲ述フ

○議長　其ノ通取計フヘキ旨ヲ宣告ス

○オヂエー君　分科委員会ニ於テアイシェン君ノ提出ニ係ル中立国ノ権利義務ニ関スル問題ヲ後日ノ萬国会議ノ議ニ付スルノ希望ニ就キテハ之ヲ承諾スルノ権限ヲ有セサルコトヲ宣言シ置ケリ玆ニ同宣言ヲ再陳シテ議事録ニ記入セラレンコトヲ請求セサルヘカラスト信スル旨ヲ述フ

○議長　オヂエー君ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

ラファロヴィッチ君ハ最終決議書ノ全文ヲ再ヒ朗読ス

○男爵ド・ビルト君　最終決議書ノ一頁十頁及十一頁ニ於ケル「国家」若ハ「政府」ナル文字ハ同君ノ公然ノ請求ニ依リ「国」ナル文字ニ改メラレタル旨ヲ述フ

他ニ異議ナク最終決議書ノ全部ヲ可決セリ

○伯爵ニーグラ君　左ノ演説ヲ為ス

諸君本会議ノ事業ノ終局ニ近ツカントスルニ際シ玆ニ本員ハ本会議ノ文書及議事録印刷ノ任ニ当レル印刷局ノ大事業ニ就キテ諸君ノ注意ヲ喚起セント欲ス

吾人ハ用紙ノ佳美ト字体ノ優雅トニ就キテ喋々セントスルモノニアラス是レ和蘭国政府ノ功ニシテ敢テ吾人ノ異トセサル所蓋シ装本ノ美麗ト版字ノ鮮明トハ当国古来ノ遺習ナレハナリ今本員ハ印刷ノ職工ト其ノ長タル人々ノ勤労ニ就キテ言ハント欲スルノミ

本員ハ永年ノ経歴ニ於テ幾多ノ会議及外交上ノ集会ニ列席シタルモ未タ今回ニ於ケルカ如キ驚嘆スヘキ印刷作業ニ出会シタルコトアラス

吾人ニ配付セラレタル印刷物ノ数量ハ実ニ莫大ナリ公文書中ニハ五回六回或ハ十回以上モ印刷セサルヘカラスシテ昼夜ヲ分タス之ニ従事スルヲ要シタルモノアリ是等ノ作業カ周到ニ且迅速ニ遂行セラレタルハ至大ノ賛辞ヲ呈スルノ価値アリトス而シテ其ノ能ク斯クノ如クナルコトヲ得タルハ吾人ノ既ニ知ルカ如ク独リ我書記局ノ精励ヲ證スルノミナラス印刷局ノ長官及局員ノ至大ナル名誉ヲ表彰スルモノナリ

幾回トナク文書ノ印刷ヲ重ネタルハ吾人カ誠意事業ニ当レルノ證左ナルモ同時ニ亦右等印刷者ノ忍耐ノ證拠ナリ

印刷局職工及職工長ハ或点マテハ吾人ノ協同執務者ナリト謂フコトヲ得ヘシ是レ吾人ノ為シ得ヘキ最良ノ賛辞ナリ

本員ハ本会議カ右ノ賛辞ヲ承認セラレンコトヲ提議ス

（喝采）

○ヨンクヘール・ファン・カルネベーク君　スタール君及ニーグラ伯爵カ和蘭国国立印刷局局員ノ為ニ述ヘラレタル賛辞ニ対シテ感謝ノ意ヲ表シ該局ノ職工一同ハ必スヤ深ク之ニ感銘スヘキ旨ヲ述フ

散会

八、七月二十五日第七回総会議議事録附属書

第三委員会報告書

露国皇帝陛下ノ宸翰ハ「一般平和ノ維持」ノ為ニ協力センカタメ各国ヲ招請セリ同宸翰中ニハ「平和ノ保持ハ国際的政略ノ目的トシテ提供セラレタルコト」ヲ述ヘ「此高尚ナル目的ハ列国ノ最モ主要ナル利益ト最モ正当ナル希望トニ適応スルコト」ヲ言明セリ

居中調停及仲裁裁判ハ平和ヲ組成シ及之ヲ鞏固ナラシムル最優等ノ制度ナリ千八百九十八年十二月三十日附露国外務

大臣伯爵ムウラヴィエフ閣下ノ廻章及千八百九十九年四月六日附和蘭国外務大臣ド・ボーフォール閣下ノ廻章ハ右ノ二者ヲ平和会議ノ議題トシテ掲記シ又高貴ナル本会議開会ノ始メニ於テスタール閣下ノ述ヘラレタル演説ハ亦二者ノ主要ナルコトヲ指示シテ余ス所ナシ該二件ノ下調査ヲ付託セラレタル特別委員会（註、参照）ハ或ル程度マテ宸翰中ノ希望ニ遵ヒ「国安民福ノ基礎タル公平正理ノ原則ヲ連帯的ニ定立スル」ヲ目的トセル国際的協商ノ成立ヲ期スルタメ之カ準備ニ尽力シタリ

（註）第三委員会ハ千八百九十九年五月二十六日会議ニ於テ特別委員トシテ左ノ諸君ヲ指名セリ

アッセル。シュヴァリエー・デカン。男爵デツールネル・ド・コンスタン。ホルス。ランマシュ。ド・マルテンス。オヂエー。ツォルン

シュヴァリエー・デカン君ハ委員会議長兼報告者ニ、男爵デツールネル・ド・コンスタン君ハ書記官ニ選定セラレタリ

第三委員会議長ブールジョア、同名誉議長伯爵ニーグラ閣下、同「サア」、ジュリアンポーンスフオート閣下及本会議議長スタール閣下同副議長ヨンクヘール・ファン・カルネベークノ諸氏モ特別委員会ノ事業ニ参与セリ

ブールジョア君及デカン君ハ議長ノ職務ヲ行ヒ大使館附ジアルッス・ド・シヤック君ハ書記官補ノ職務ヲ行ヘリ

特別委員会ニ於テ仮ニ審査ノ結果ハ本会議ニ提出セラルル前第三委員会ニ差出サレタル條約案是レナリ

特別委員会ハ其ノ編纂シタル国際的文書ニ「国際紛争平和的処理條約」ト命名シ得ヘキモノナリト認メタリ

此文書ハ左ノ四章ヨリ成ル

第一章　一般平和ノ維持

第二章　周旋及居中調停

第三章　国際審査委員

第四章　萬国仲裁裁判

此末章ハ仲裁裁判常設仲裁裁判所仲裁裁判手続ノ三節ヨリ成レリ

尚ホ本條約ノ末尾ニハ批准加盟及廃棄ニ関スル総則数箇條ヲ掲記セリ

特別委員会ハ其ノ注目シタル幾多ノ問題ヲ審査スルニ当リテハ第三委員会議長レオン・ブールジョア君カ同委員会開会ノ始ニ明示シタル一般ノ順序ニ遵拠セリ

周旋及居中調停ハ当然委員会審査事項中ノ冒頭ニアリ特別委員会ハ此等ノ問題ヲ考究スルニ当リテハ「海牙会議ニ賛同シタル諸国ノ間ニ締結スヘキ條約案制定ノ要素」ナル名義ニテ露国委員ヨリ本会議ニ送附シタル有名ナル案ヲ以テ審査ノ基礎ト為シ此豫定案ニ数多ノ新規定ヲ増補シ且各條ノ順序ヲモ変更セサルヲ得サリシナリ

国際紛争ノ平和的処理

前　文

国際紛争平和的処理條約ノ前文ハ本報告書主任者カ起草委員総会（註、参照）ノ請求ニ依リ起稿シタル案文ノ通リ可決セラレタリ但シ第五項ニ於テハ「自由裁判所」ナル文字ニ換ユルニ「各国ノ頼ルヲ得ヘキ常設仲裁裁判制度」ナル文字ヲ以テスルコトトナレリ

（註）起草委員総会ハ左ノ諸君ヲ以テ之ヲ組織セリ

アッセル（議長）。シュヴァリエー・デカン。ド・マルテンス。メレー・ド・カポス・メール。ニーグラ伯爵。セッス・ロウ。ド・ステンゲル男爵。ラファロヴィッチ（書記官）。

ヨンクヘール・ロシュスセン君ハ書記官補ノ職務ヲ行ヘリ

同前文則チ左ノ如シ

一般ノ平和ヲ維持スルコトニ協力セムコトヲ切ニ希望シ
全力ヲ竭シテ国際紛争ヲ平和的ニ処理スルコトヲ幇助スルニ決シ
文明国団ノ各員ヲ結合スル所ノ連帯責務ヲ識認シ
法ノ領域ヲ拡張スルト共ニ国際的正義ノ感ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ
諸独立国ノ間ニ各国ノ頼ルヲ得ヘキ常設仲裁裁判制度ヲ置クコトハ前記ノ目的ヲ達スルニ最モ有効ナルヘキヲ確信シ
仲裁手続ニ関スル一般且正則ノ組織ヲ設クルノ有益ナルヲ察シ
萬国平和会議ノ至尊ナル発議者ト共ニ国安民福ノ基礎タル公平正理ノ原則ヲ国際的協商ニ依リテ定立スルノ須要ナルヲ認メ
之カ為ニ條約ヲ締結セムト欲シ各各左ノ全権委員ヲ任命セリ云々

第一章　一般平和ノ維持

第一條　列国間ノ関係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク制止セムカ為ニ記名国ハ国際紛議ヲ平和ニ処理スルコトニ其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

周旋及居中調停ニ依頼スルヲ以テ一般ニ正当トスル理由ハ文明国ヨリ成レル国際団ノ各員ヲ連絡スル所ノ関係ニ在リ、国際紛議ヲ解決スルノ方法トシテ兵力ニ訴フルハ極端ノ手段タルニ在リ、平和ノ維持ハ一般利益ノ繋ル所タルニ在ルナリ、実ニ近時ノ戦争カ各国ノ関係ニ影響ヲ及ホスノ深且大ナルコトハ今日ニ於テ武装的紛争ヲ豫防シ若ハ融和スルカ為ニ周旋及居中調停ニ頼ルヘキノ必要ヲ益々強カラシム

周旋ハ或点ニ於テ居中調停ト異ナレリ実際ニ在リテハ此二者ハ其ノ性質ニ於テ相異ルヨリモ其ノ友誼的融和ノ範囲ニ立入ルノ程度ニ於テ区別ヲ生スルモノナレトモ前者ニ次ク ニ後者ヲ以テスルハ往々見ル所ニシテ此場合ニ於テハ紛争国ノ間ニ談判ノ緒ヲ開キタル第三国ハ明カニ右談判ニ参与シ又ハ之ヲ指導スルコトアルモノトス故ニ本案ニ於テハ此区別ニ拘ラス一ノ和解的仲介ニ二種ノ様式アルモノトシテ規定ヲ設ケタリ

周旋及居中調停ハ好意上ノ仲介ニシテ友誼的調停ノ範囲内ニ於テ行動スルモノニ外ナラス故ニ此方法ハ一方ニ於テ其ノ提供ヲ受ケタル各国ノ独立ニハ毫モ手ヲ独ルルコトナキト同時ニ他ノ一方ニ於テハ単ニ権利上ノ紛争ヲ処理スルニ

本條ノ趣旨ハ汎ク平和ヲ鞏固ニセントスルニ在リテ之ニ依リテ各国ハ国際間ノ関係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク制止セントスル共同ノ意思アルコトヲ證明シ国際紛議ヲ平和的ニ処理センカ為ニ其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定スルモノナリ

各国ハ相互ノ好意及友誼的協商ノ精神ニ依リテ本條ノ目的ヲ達スルコトヲ怠ラサルヘシ又各国ハ其ノ希望シタル結果ヲ収メ得ヘシト思料スル協助ヲ自ラ決定スルモノニシテ此協助ノ為ニ一国カ他ノ一国ニ対シテ特別ノ協約ヲ為シタリト看做サルルコトナキモノトス

特別委員会ハ伯爵デ・マセーヅ君ノ注意ニ由リ第一條ノ規定ニ最モ広汎ナル趣旨ヲ与フルヲ以テ然ルヘシト認メタリ「記名国ノ間ニ生スルコトアルヘキ紛争」ナル狭義ノ字句ニ代フルニ「国際紛議」ナル文字ヲ以テシタルハ此趣旨ニ出ツ

第二章　周旋及居中調停

第二條　記名国ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ許ス限リ其ノ交親国中ノ一国若ハ数国ニ周旋又ハ居中調停ヲ依頼スルコトヲ約定ス

止マラスシテ利益上ノ紛争ヲモ調和スルコトヲ得ルモノトス而シテ此二様ノ長所アルカ故ニ周旋及居中調停ハ種々ノ便宜ナル調停手段ヲ供給シテ国際的平和ノ為ニ貢献スル所アリ得ヘキナリ

然リト雖モ之ヲ以テ右ノ二方法ハ無限ニ適用シ得ヘキモノナリト速断スルハ非ナリ周旋及居中調停ノ力ヲ及ホスヘキ区域ハ平和的関係ノ維持ヲ危フスル重大ナル不和ノ範囲内ニ在リ若シ此限界ヲ起ユルニ於テハ或ハ不当ノ干渉ニ流レ却テ危険ノ虞ナシトセサルナリ

第二條ハ各国カ周旋又ハ居中調停ニ依頼シ得ヘキ国際紛議ノ特質ヲ示シ「重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ」「兵力ニ訴フルニ先チ」云々ト規定セリ

国際関係ニ於テ第三国ノ友誼的仲介カ好結果ヲ奏シタルノ実例ハ多々之アリ周旋及居中調停ノ採用ハ千八百五十六年三月三十日巴里條約第八條及千八百八十五年二月二十六日伯林会議一般議定書第十一條第十二條ノ特定事項タリ又国際紛議ヲ調停センカ為ニ右ノ方法ニ依頼スルコトハ千八百五十六年巴里会議議定書第二十三ニ登載シタル広汎ナル希望ノ目的タリシナリ而シテ右等ノ国際的文書ハ一層重要ナル進歩ノ鞏固ナル支持点トナリ最初二三ノ国際的文書中ニ

或ル希望若ハ特定義務トシテ記載セラレタル居中調停ノ原則ハ今日ニ至リテハ益々正当ノ発達ヲ遂ケ各国ハ国際紛争ヲ平和ニ処理センカ為ニ一致協力スヘシトノ條約ヲ締結シテ自ラ之ヲ適用セントスルノ程度ニ進メリ

各国ノ協定シタル右ノ約束ニ斟酌ヲ加ヘ置クノ必要アル乎、元来制裁ノ後援ヲ有セサル義務ニ対シテ更ニ除外例ヲ設クルニ於テハ益々之ヲ薄弱ナラシムルノ虞アラサル乎、和蘭国委員アッセル君ハ特別委員会ニ於テ特ニ此点ニ就テ論述スル所アリタリ

然レトモ又説ヲ為ス者アリ（議長レオン・ブールジョア氏ノ如キ）曰ク本條ノ規定ニ付其ノ種々ノ適用ヲ豫定シ置クハ困難ナルヲ以テ斯クノ如キ約束ハ宜シク之ヲ実行スルニ当リテ條約全部ノ威信ニ動揺ヲ来スヘキ性質ノ抵抗ニ遭遇セサル様按排スルヲ以テ策ノ得タルモノト云フヘシト

於是乎実際上ノ必要ニ適スヘキ斟酌ヲ存セシカ為ニ数多ノ文案ハ続々提出セラレタリ就中次ノ二案ハ例外的性質ニ重キヲ置キテ本案ノ方法ニ依頼セサル場合ヲ定メタルモノニシテ其ノ一ハ「此方法ヲ明カニ不能ナラシムル格段ノ事情ナキ限リ」ト制限シ其ノ二ハ「格段ナル事情ノ之ヲ拒否スルコトナキ限リ」ト制限セリ而シテ露国案ハ千八百五十六

年ニ採用シタル除外例ニ依リ「事情ノ妨ケサル限リ」ト定メタレトモ結局「サー」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ノ発議ニ因リ「事情ノ許ス限リ」ナル案文ニ確定スルコトトナレリ蓋シ此斟酌ハ実際上生スルコトアルヘキ諸般ノ須要ニ適応スル為ニ採用セラレタルモノニシテ其ノ精神ニ至リテハ前顕諸種ノ案文ト相背馳スルコトナキモノナリ

第三條　記名国ハ右依頼ノ有無ニ拘ラス紛争以外ニ立ツ一国又ハ数国カ事情ノ許ス限リ自ラ進テ周旋又ハ居中調停ヲ紛争国ニ提供スルコトヲ有益ト認ム

紛争以外ニ立ツ国ハ交戦中ト雖其ノ周旋又ハ居中調停ヲ提供スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ右権利ノ行使ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得ス

本條ハ一ノ主要ナル事項ヲ載セタリ、周旋及居中調停ノ提供是ナリ此提供ハ或ハ人道ノ使命ヲ遂行シ或ハ文明国団附随ノ義務ヲ一定ノ條件ニ依リ履践スルモノト看做スコトヲ得ヘシ後ニ掲クル第二十七條ノ有名ナル規定ハ特ニ此第二ノ観念ニ基因スルモノナリ

周旋ヲ提供スルノ権力ハ畢竟各国ノ自由ヲ基礎トセル一ノ権利ニシテ多クノ場合ニ於テハ各国カ平和的国民団ノ一員

トシテ自国ノ利益幸福ヲ図ルノ権利ト符合スルモノナリ此提供権ヲ牽制セント欲セハ敢テ権利其ノモノノ存否ヲ争フヲ要セス須ラク此権利ニ対シ提供ヲ受ケタル国ニ拒絶ノ権能アルコトヲ考察スヘキナリ

此拒絶ノ権能ハ如何ナル場合ニ於テモ存在セサルコトナシ然ルニヴェリコヴィッチ君ハ此点ヲ一層明確ニセンカ為ニ本條約ノ正文中周旋ノ提供ト「承諾ノ拒絶」トヲ並ヒ掲ケ承諾ノ拒絶ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得サル旨ヲ明ニ規定スヘシト発議セリ委員会ハ氏ノ説ノ理由アルコトハ之ヲ認メタルモ結局斯カル不慮ノ場合ニ就キテ左マテニ立入ルヘキ必要ナカラント云フニ帰着セリ

紛議ヲ醸シタル或国ノ間ニ於テ或ル居中調停者ニ依頼スルコトニ就キ協議纏マリ難キコトアリトセハ斯クノ如キ場合ニ武装的紛争ヲ豫防スルノ手段トシテ他ノ方面ヨリ友誼的仲介ヲ提供スル者アラハ此提供ノ重要ナルコトハ何人モ首肯スル所ナルヘシ

不幸ニシテ此提供自体ニモ亦屢々次ノ如キ障碍ノ来ルコトヲ免レス他ナシ

平和ノ保持ニ協力センコトヲ最モ誠実ニ希望スル諸国ト雖モ稍モスレハ袖手傍観相関知セサルノ態度ヲ守ラントスル

ノ傾向是ナリ故ニ国際間ノ武装的争闘ヲ豫防スルカ為ニ決行セラルヘキ勇敢正大ナル同事業ノ有益ナル性質ヲ豫メ且正面ヨリ各国ノ名ニ於テ承認シ置クコト極メテ緊切ナリトス斯クノ如クシテ始メテ各国ノ善意ヲ萎靡セシムルコトナキヲ得ヘク又幾分カ其ノ冷視黙過ノ弊ニ陥ルヲ防クコトヲ得ヘシ果シテ然ルトキハ調停者ノ地位ハ能ク各国ノ諒知スル所トナリ一般平和ノ利益ハ第一ニ其ノ恵沢ニ浴スルコトヲ得ヘシ

茲ニモ亦原則ノ規定ニ対シテ実際上ノ斟酌ヲ設ケ「事情ノ許ス限リ」ナル保留ヲ為セリ是レ慎重、好時機、事件観察ノ明、及平和ノ真誠ナル願望、ト相副ハサル無益ノ斡旋ノ生スヘキ余地ヲ存セサルコトヲ明示シタルモノナリ

塞爾比亜国委員ハ第三條第一項ノ末段ニ「紛争国」トアルヲ「相互間ノ平和関係ヲ破壊スルニ立至ルノ虞アル重大ナル紛争ヲ生シタル国」ト修正センコトヲ希望シタルモ特別委員会ハ周旋及居中調停ニ依頼スヘキ紛争ノ性質ニ関シテハ第三條モ第二條ト同一ノ場合ニ就キテ規定セルモノニ外ナラサルコトヲ弁明シ以テ右ノ修正説ニ満足ヲ与ヘタリ

露国案ハ周旋及居中調停ヲ以テ武装的紛争ノ豫防手段タルニ止ムルコトヲ其ノ主眼ト為シタルモニーグラ伯爵閣下ノ

発案ニ基キ交戦中ト雖モ友誼的仲介ヲ為スノ権利アルコトヲ定メタル一項ヲ追加スルコトトシ更ニ一項ヲ増加シ以テ此種ノ調停ハ啻ニ有益ノ斡旋タルノミナラス又「紛争国ハ之ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得サル」旨ヲ明カニセリ伊国第一委員カ此末項ノ規定ヲ以テ調停ヲ為サント欲スル諸国ノ好意ヲ冷却セシメサランカ為メ豫メ担保ヲ与ヘタル極メテ重要ノモノナリト云ヘルハ至当ノ言ト云フヘシ

第四條　居中調停者ノ本分ハ紛争国双方ノ申分ヲ和解シ且其ノ間ニ生スルコトアルヘキ悪感情ヲ融和スルニ在ルモノトス

本條ハ居中調停者ノ本分ノ大要ヲ定メタルモノナリ此本分ハ「和解及融和」ノ二語ニ外ナラス双方ノ申分ヲ和解シ及紛争ヨリ生スルコトアルヘキ悪感情ヲ融和スルコト即チ是ナリ

第五條　居中調停者ノ職務ハ其ノ提出シタル和解方法ノ採納セラレサルコトヲ紛争国ノ一方又ハ調停者自ラ宣言シタルトキ直ニ終止スルモノトス

居中調停者ノ職分其ノ功ヲ奏シタル時ニハ最早何等問題ノ生スヘキ恐ナキモ萬一ノ場合ヲ豫想シテ居中調停者カ其ノ引受ケタル任務ヲ離脱スルノ時期ヲ確定シ置クハ蓋シ不必要ノコトニアラサルヘシ故ニ本條ニ於テハ「居中調停者ノ職務ハ其ノ提出シタル和解方法ノ採納セラレサルコトヲ紛争国ノ一方又ハ調停者自ラ宣言シタルトキ直ニ終止スル」旨ヲ宣言セリ

第六條　周旋及居中調停ハ紛争国ノ依頼ニ由ルト紛争以外ニ立ツ国ノ発意ニ出ツルトニ論ナク全ク勧告ノ性質ヲ有スルニ止リ決シテ拘束ノ効力ヲ有セサルモノトス

第六條ハ周旋及居中調停ノ主要ナル性質ヲ規定セリ此性質トハ単純ナル勧告タルコト是ナリ

居中調停ハ仲裁裁判ニ非ラス仲裁裁判官ハ則チ裁判官ニシテ拘束力アル宣告ヲ為ス者ナレトモ居中調停ハ一国ノ内治若ハ外交ニ向テ権力ノ名義ヲ以テスル一ノ干渉ニ非ラサルナリ

彼ノ「武装的居中調停」ト称スルモノハ居中調停ニ非ラス調停ト強制トハ両立セサルナリ

列国ハ周旋及居中調停ニ関スル本條約ノ規定ニ依リ如何ナル名義ヲ以テスルモ他国ニ対シテ一ノ最上権ヲ行ヒ拘束又ハ抑制ノ方法ニヨリテ単独若ハ集合ノ意思ヲ強行セントスルコトヲ得ス居中調停ノ行動ノ範囲ハ友誼的ニ提供セラレ

若ハ請求セラルル勧告、自由ニ受諾セラレ若ハ忌避セラルル勧告ノ範囲内ニ止マラサルヘカラス

第七條　反対ノ約束アル場合ノ外ハ居中調停ヲ承諾シタルカ為動員其ノ他ノ戦闘準備ヲ中止シ遅延シ又ハ障碍スルノ結果ヲ生スルコトナシ

若戦闘開始ノ後ニ於テ居中調停起リタルトキハ反対ノ約束アル場合ノ外之カ為進行中ノ軍事的動作ヲ中止スルコトナシ

第七條ハ承諾セラレタル居中調停ノ効果ヲ規定シ伯爵ニーグラ閣下ノ発議ニ基キ居中調停承諾ノ直接ノ結果ヲ幾分カ軽微ナラシメ以テ此承諾ヲ容易ナラシメンコトヲ期セリ

若シ居中調停ノ承諾カ戦闘開始前ニ在ルトキハ軍事的動作ノ準備計画ヲ中止スヘキモノトシ戦闘開始ノ後ニ在ルトキハ戦闘的動作ノ進行ヲ中止スヘキモノトセハ稍モスレハ或国ノ此方法ニ依頼スルヲ好マサルモノアラン特ニ軍事上ノ強国ハ此点ニ於テ其ノ動作ヲ羈束セラルルコトヲ承諾セサルヘシ故ニ居中調停ノ効果ヲ甚タシク苛重若ハ危険ナラシムルコトヲ避ケ以テ之カ承諾ノ途ヲ平易ニシ且終局ノ目的ヲ達セシカ為ニ幾分カ一時ノ結果ヲ犠牲ニ供スルノ必要アリトス然レトモ若シ紛争国ニシテ居中調停ノ承諾ニ普通ノ結果ヨリモ更ニ重大ナル効果ヲ附スルヲ以テ便宜ナリトスルトキハ之ヲ為シ得ルノ自由ヲ存シタリ「反対ノ約束アル場合ノ外」ナル文字ハ正ニ此自由アルコトヲ示スモノナリ

於是乎伊国第一委員ノ発議ハ一切ノ必要ニ適シ有ラユル不慮ノ場合ニ応スルニ足ルモノト認メラレタリ

第八條　記名国ハ事情ノ許ス限リ左ノ手続ヲ以テスル特別居中調停ノ適用ヲ可トスルコトニ同意ス

平和ヲ破ルノ虞アル重大ナル紛議ヲ生シタル場合ニハ紛争国ハ平和ノ破裂ヲ豫防スル為各各一国ヲ選定シ他ノ一方ノ選定シタル国ト直接ノ交渉ヲ開クノ任務ヲ附託ス

右附託ノ期間ハ反対ノ規約アル場合ノ外三十日ヲ超エサルモノトシ期間中紛争事件ニ関スルコトハ調停国ニ一任シタルモノト看做シ紛争国ハ自ラ直接ノ交渉ヲ為スコトヲ中止ス右調停国ハ紛議ヲ処理スルニ全力ヲ竭スヘキモノトス

平和ノ既ニ破レタル後ト雖右調停国ハ平和ヲ回復スルノ機会アル毎ニ之ヲ利用スルノ共同任務ヲ負フモノトス

第八條ハ亜米利加合衆国委員ホルス君ノ発議ニ係レリ本條ハ極メテ有望ナル特別形式ノ居中調停ヲ規定ス特別委員会ハ右ホルス君ノ発議セル規定ヲ特ニ独立ノ一個條ト為シテ

其ノ特異ノ性質ヲ明カニシ其ノ適用ヲ受クヘキ事情ノ生シタル場合ニハ特ニ之ニ依頼スルノ可ナルコトヲ明示シタリ則チ本條ハ紛争国ノ自ラ選定シタル保證国若ハ補導国カ遠ク前途ニ横ハレル平和的解決ヲ得ンカ為ニ行フ所ノ共同ノ居中調停ヲ規定シタルモノナリ

亜米利加合衆国委員ノ発議ハ実際的ノ観察ニ基クモノニシテ将ニ凶事ニ終ラントスル談判ニ入ルノ前各紛争国ヲシテ勢ノ趨ク処ニ従ヒ討議ヲ継続セシムルヨリハ互ニ其ノ信任アリ且当事国ヨリモ能ク感情ノ強制ヲ避クルニ適セル保證国若ハ補導国ヲ選定シテ之ニ争点ノ討議ヲ一時付託スルヲ以テ策ノ得タルモノトスト云フニアリ

紛争国共同ニテ一人ノ調停者ヲ選定スルハ時トシテ協議ノ纏リ難キコトアリ本條ノ「共同居中調停」ハ斯クノ如キ協議ヲ避ケ得ルノ一大長所ヲ有ス

又他ノ一方ニ於テ本條ノ居中調停ハ紛争国間ノ訴訟手続中ニ一ノ新タナル審級ヲ設定シタルモノナリ則チ発案者ノ説明スル所ニヨレハ一国カ其ノ対手国ニ向ヒテ「一歩ヲ進メンカ、唯戦争アルノミ」ト言ハサルヲ得スト思料スルノ場合アルヘシ此時ニ当リ「一歩ヲ進メンカ補佐国ヲ指定セサルヲ得ス」ト云フコトヲ得セシメハ為ニ平和ノ利益ヲ保護スルコト蓋シ尠少ナラサルナリ此特別居中調停ノ任務ニ付キテハ紛争国カ係争事項ニ就キテ一切ノ直接交渉ヲ停止スヘキ期間ヲ定ムルヲ要ス依テ第八條ニ於テ下ノ如ク規定セリ

「右附託ノ期間ハ反対ノ規約アル場合ノ外三十日ヲ超エサルモノトシ期間中紛争事件ニ関スルコトハ調停国ニ一任シタルモノト看做シ紛争国ハ自ラ直接ノ交渉ヲ為スコトヲ中止ス右調停国ハ紛議ヲ処理スルニ全力ヲ竭スヘキモノトス」

終リニ第八條ハ平和関係ノ既ニ破レタル場合ヲ規定シ（是レ重大ノ点ナリ）居中調停ノ委託ヲ受ケタル各国ハ「平和ヲ回復スルノ機会アル毎ニ之ヲ利用スルノ共同任務ヲ負フ」コトヲ明定セリ

以上各種ノ方法ハ其ノ用方宜シキヲ得ハ各国間ノ平和関係ヲ維持シ若ハ之ヲ速ニ回復スルニ適切ノ効力アルヘシ

ドルネーラス・ヴァスコンセーロス君ノ請求ニ依リ居中調停ノ効果ニ関スル第七條ノ規定ハ第八條ノ特別居中調停ニモ適用セラルルモノナルコトヲ明ニ認定セリ

他ノ一方ニ於テ本報告起草者ノ意見ニ依リ或国ハ或種類ノ紛争ニ就テハ居中調停者及仲裁裁判官ノ選定ニ当リテ特別ノ地位ニ立ツコトアルヘキ旨ヲ確認セリ是レ即チ白耳義国ノ独立其ノ領土其ノ中立及千八百三十九年四月十五日附條約中ノ他ノ箇條ニ変更ヲ来タスヘキ紛議ニ関シ同国ト其ノ担保国トノ関係ノ場合ナリトス

ミヤトヴィッチ君ハ次ノ宣言ヲ為シテ之カ登載ヲ請求セリ

「吾人ハ塞爾比亜王国政府ノ名ニ於テ下ノ如ク宣言スルノ栄誉ヲ有ス吾人ハ周旋及居中調停ノ原則ヲ採用スト雖モ右等ノ方法ハ本来微妙ノ性質ヲ有スルカ故ニ極度ノ節制ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ用ユルノ権ヲ第三国ニ承認スルコトヲ欲セス

吾人ハ周旋及居中調停ニ純粋ナル友誼上ノ勧告タル性質ヲ充分ニ且完全ニ保有セシムルニ非ラサレハ決シテ之ヲ認容セサルヘク干渉ノ性質ヲ表ハシ得ヘキ形式及場合ニ於テハ断シテ之ヲ承諾スルコト能ハサルナリ」

第三章　国際審査委員

第九條　名誉又ハ重要ナル利益ニ関係セス単ニ事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛争事件ニシテ外交上ノ手段ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ紛争国ハ事情ノ許ス限リ国際審査委員ヲ設ケ之ヲシテ公平誠実ナル審査ニ依リテ事実問題ヲ明カニシ紛争ノ結了ヲ幇助スルノ任ニ当ラシムルヲ以テ記名国ハ有益ナリト認ム

国際審査委員ヲ設クルノ問題ハ特別委員会ニ於テハ本会議ノ目的上頗ル重要ノモノトシテ之ヲ考察シ此種ノ委員制度ヲ設クルノ利益ニ付キテハマルテンス君特ニ之ヲ説明セリ

露国ノ卓越セル委員マルテンス君ノ説ク所ニ依レハ国際審査委員会ハ敢テ新機軸ノ制度ニアラス善意ノ二箇国間ニ紛争ノ生シタル場合ニ於テ此種ノ委員会カ提供シ得ヘキ任務ニ付キテハ既ニ其ノ実證アリ例ヘハ境界問題ニ付両国間ニ紛議ヲ生シクリトセンニ若シ其ノ紛議不意ニ出テ其ノ事情愈々精知セラレサルトキハ輿論ハ益々沸騰ノ度ヲ高ムヘシ是レ其ノ紛争ノ起因ヲ知ラサルカ為ニ徒ニ一時ノ感情ニ制セラレテ屢々民心ヲ激昂セシムルニ由ルノミ吾人カ主トシテ紛議ノ真因ヲ闡明シ及事実ノ真相ヲ発揮スルノ目的ヲ以テ一ノ委員会ヲ組織セント欲スルハ斯ル禍根ヲ除クノ趣旨ニ出ツ而シテ同委員会ノ重モナル任務ハ一ノ報告ヲ為スニアリテ当事者ヲ羈束シ得ヘキ決定ヲ為スニアラサルナリ

然レトモ委員会カ報告ヲ調製セント努ムル間ニ時ヲ経過スヘシ是レ即チ吾人ノ第二ノ目的ノ在ル所ニシテ其ノ間ニ於

テ民心ハ自ラ平穏ニ帰シ紛議モ亦危急ノ状態ヲ存セサルニ至ルヘキナリ

右重要ナル実際上ノ結果ハ一ノ條件ニ従フニアラサレハ之ヲ収ムル能ハサルナリ他ナシ各関係国政府カ此種ノ委員会ヲ設置スルノ約束ヲ為スコトニ互ニ一致スルヲ要スルコト是レナリ然レトモ之ニ付託スヘキ問題ニ至リテハ紛争国ノ名誉及生存上ノ利害ニ関係セサルヘキモノタルコトハ言ヲ俟タサルナリ

審査委員ノ設置ニ拘束的ノ性質ヲ賦与シタルコトハ議論ノ目的ト為リ塡地利洪牙利国委員ランマシュ君ハ特別委員会ニ於テ反対論ノ要点ヲ説明シ此制度ノ有益ニシテ且勧告スヘキ性質ノモノタルコトハ之ヲ認ムルモ之ヲ採用スルト否トニ至リテハ任意的ノモノタルニ止マラシムヘシト提議セリ而シテ特別委員会ハ「事情ノ許ス限リ」ナル緩和條件ノ下ニ依然トシテ拘束主義ヲ存セリ

最初特別委員会ノ可決シタル第九條ニハ二様ノ保留ヲ存シタリ則チ其ノ一ハ関係諸国ノ名誉若ハ生存上ノ利害ニ関スル場合ニシテ他ノ一ハ国際審査委員ノ設置ヲ許スヘキ事情アルヤ否ヲ判定スルノ権力ヲ右ノ関係諸国ニ一任シタルコト是ナリ

勃爾牙利国委員ハ国際審査委員カ純然タル新制度タルコトハ之ヲ認メサルモ之カ設置ニ就キテハ今一層任意的ナラサルヘカラスト云フノ意見ヲ表明シタリ

邏羅国委員ローラン君ハ同国政府カ国際審査委員会ニ関シテ為サントスル約束ノ範囲ニ就キ其ノ政府ノ名ニ於テ左ノ趣旨ノ宣言ヲ為セリ

「吾人ハ国際審査委員会ニ依リ直接協商ノ功ヲ奏セサル場合ニ於テハ之ニ尋テ自然、仲裁裁判ノ開設ヲ見ルヘキモノナラント思料ス

以上ノ所信ヲ以テ吾人ハ邏羅国政府カ常設仲裁裁判制度換言スレハ仲裁契約ヲ豫メ締結シ得ヘキ重モナル場合ハ必スヤ国際審査委員会ヲシテ吾人ノ版図内ニ就キテ紛争事実ヲ審理セシメ得ヘキ場合ナリト思料スル旨ヲ宣言ス」

討論久シキニ亙リ一方ニ於テハベルヂマン君ヴェリコヴィッチ君他ノ一方ニ於テハド・マルテンス。シュヴァリエー・デカン。アイシェン。ツォルン。アッセル・スタンショッフノ諸君之ニ与リ而シテ最初ノ二君ハ第九條ヨリ第十三條マテノ廃棄ヲ請求セリ

又アイシェン閣下ハ右ノ諸條中ニ包含セル保障ニ加フルニ

其ノ條文左ノ如シ

地方的證明問題タリ得ヘク且関係諸国ノ名誉又ハ生存上ノ利害ニ関係セス単ニ事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛争事件ニシテ普通ノ外交手続ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ此等関係諸国ハ公平誠実ナル審査ニ依リ其ノ場処ニ就キテ総テノ事実問題ヲ明カニセンカ為メ事情ノ許ス限リ国際審査委員ヲ設クルノ手段ニ頼ルヘキコトヲ約定ス

国際審査委員ノ制度ハ委員会ニ於テ羅馬尼亜国委員ヨリ烈ケシク論難セラレタリ則チベルヂマン君ハ之ヲ以テ国家主権ト相容レサル一ノ新制度ナリトシ特ニ之ニ拘束的ノ性質ヲ賦与シ若ハ少クモ斯クノ如キ性質アリト看做サルルノ傾向アリトセハ幾多ノ危険ヲ惹起スモノナリト為セリ

塞爾比亜国委員ハ制度其ノモノニハ反対ヲ表セサルモ国際審査委員ハ紛争国ノ現場ニ就キテ其ノ職務ヲ執行スルニ依リ或点ニ於テハ外国ノ機関タルカ如ク又大国ト小国トノ間ニ取扱ノ不同ヲ生スルノ源因ト為ルノ缺点アルコトヲ指示セリ

希臘国委員ハ全会ノ希望スル協定ヲ得ンコトヲ望ム旨ヲ述フルト同時ニ自ラ数箇ノ保留ヲ為セリ

更ニ仲裁裁判手続ニ対シテ存スルト同様ノ新保障ヲ以テセンコトヲ提議セリ

以上諸種ノ提案ハ特別委員会ノ審査ニ付託セラレ特別委員会ハ第九條ニ就テ左ノ新案ヲ採用セリ

「事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛争事件ニシテ外交上ノ手段ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ紛争国ハ公平誠実ナル審査ニ依リテ一切ノ事実問題ヲ明カニシ紛争ノ結了ヲ幇助スル為ニ国際審査委員ヲ設クルコトヲ以テ記名国ハ有益ナリト認ム」

特別委員会ハ此條文ヲ以テ国際審査委員会ニ任意的ノ性質ヲ附シ得タルモノトシ従テ前條文ニ掲ケタル二箇ノ保留ヲ無用ナリト為セリ

又特別委員会ハ国際審査委員ニ付託セラルヘキ事実ニ関スル「地方的證明問題タリ得ヘク」ナル文字ヲ以テ其ノ意義精確ナラサルノミナラス必スシモ常ニ適用セラルヘキモノニアラスト認定シタルヲ以テアッセル君ノ請求ニ依リ同條ノ末尾ニ於ケル「其ノ場処ニ就キテ」ノ文字ト倶ニ之ヲ削除センコトヲ提議シタリ

特別委員会ノ会議ニ次テ開カレタル委員会ノ議事ニ於テ塞

爾比亜国及希臘国ノ委員ハ右特別委員会ノ提案ニ賛同セント欲スル旨ヲ宣言セリ

羅馬尼亜国委員ハ第九條ニ就キ左ノ如キ新案文ヲ提出セリ

「名誉又ハ重要ナル利益ニ関係セス単ニ事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛争事件ニシテ外交上ノ手段ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ紛争国ハ事情ノ許ス限リ国際審査委員ヲ設ケ之ヲシテ公平誠実ナル審査ニ依リテ事実問題ヲ明カニシ紛争ノ結了ヲ幇助スルノ任ニ当ラシムルヲ以テ記名国ハ有益ナリト認ム」

此條文ハ原案ニ掲ケタル二個ノ保留ヲ更ニ特別委員会ノ採用シタル新案中ニ加ヘタルモノナリ又原案中「生存上ノ利害」ナル文字ニ換フルニ「重要ナル利益」ナル文字ヲ以テセリ

委員会ハ此條文ヲ以テ諸説ヲ折衷調和シタルモノトシ遂ニ之ニ同意スルコトト為セリ

尚ホアイシェン閣下ノ提案ハ其ノ意義ヲ一層精確ニシ且之ヲ拡張シテ本條約ノ第十條ト為セリ今該條ノ下ニ於テ其ノ提案ヲ掲クヘシ

第十條　国際審査委員ハ紛争国間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ設置ス

審査條約ハ審査スヘキ事実及委員ノ権限ヲ明瞭ニ規定ス

審査條約ハ審査手続ヲ規定ス

審査ハ雙方対審ノ上之ヲ行フ

遵守スヘキ方式及期限ニシテ審査條約ニ規定ナキモノハ委員自ラ之ヲ定ム」

此ノ條文ハ特別委員会ニ於テ全会一致ヲ以テ可決セラレタリ

第十一條　国際審査委員ハ反対ノ規約ナキ限リ本條約第三十二條ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ設置ス

露国案第十五條ハ国際審査委員ノ任命ニ就キテ仲裁裁判手続中仲裁裁判所員ノ任命ニ関シテ設定シタルト同様ノ方法ヲ指定セリ

特別委員会ハ唯単純ニ之ヲ本條約第三十二條ニ譲リ同時ニ当事国カ国際審査委員ノ構成ニ就キ相一致シテ或ル他ノ方法ヲ採用セサリシ場合ニアラサレハ之ヲ適用スヘカラサルモノト為スヲ以テ利益アリト認メタリ

伯爵ニーグラ閣下ハ国際審査委員ノ設置ニ関シテモ亦仲裁契約ノ仲裁裁判ニ於ケルカ如ク必スヤ特別條約ノ締結ヲ要スル旨ヲ掲記セサルヘカラスト主張セリ

右ノ結果トシテ確定條文ヲ起案セルコト左ノ如シ

「国際審査委員ハ紛争国間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ設置ス

審査條約ハ審査スヘキ事実及委員ノ権限ヲ明瞭ニ規定ス

審査條約ハ審査手続ヲ規定ス

審査ハ雙方対審ノ上之ヲ行フ

遵守スヘキ方式及期限ニシテ審査條約ニ規定ナキモノハ委員自ラ之ヲ定ム」

第十一條　国際審査委員ハ反対ノ規約ナキ限リ本條約第三十二條ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ設置ス

露国案第十五條ハ国際審査委員ノ任命ニ就キテ仲裁裁判手続中仲裁裁判所員ノ任命ニ関シテ設定シタルト同様ノ方法ヲ指定セリ

特別委員会ハ唯単純ニ之ヲ本條約第三十二條ニ譲リ同時ニ当事国カ国際審査委員ノ構成ニ就キ相一致シテ或ル他ノ方法ヲ採用セサリシ場合ニアラサレハ之ヲ適用スヘカラサルモノト為スヲ以テ利益アリト認メタリ

審査條約ハ審査手続ヲ規定ス

審査ハ雙方対審ノ上之ヲ行フ

遵守スヘキ方式及期限ニシテ審査條約ニ規定ナキモノハ委員自ラ之ヲ定ム

本條ハアイシェン閣下ノ発案ニ由リ追加シタル新條文ニシテ其ノ趣旨ハ国際審査委員ノ任務執行上ニ若干ノ保障ヲ設ケントスルニ在リ其ノ最初委員会ニ提出セラレタル原文ハ左ノ如シ

「特別ノ規約ナキトキハ審査手続ハ仲裁裁判手続ニ関スル第三十條以下ニ掲ケタル規定中ノ原則ヲ其ノ国際審査委員ノ制度ニ適用シ得ヘキ限度ニ於テ準用スヘシ」

本條ノ審査ヲ付託セラレタル特別委員会ノ議事ニ於テアイシェン閣下ハ其ノ設定ヲ主張セル保障ノ要領ヲ示スコト左ノ如シ

第一　審査條約書ハ審査スヘキ事実ヲ明瞭ニ規定スルコト（事実ヲ箇條書ニスルコト）

第二　審査手続ハ対審タルヘキコト（相手方ハ総テ反対ノ申分ヲ知了シ得ヘキコト）

第三　遵守スヘキ形式及期限ヲ定ムルハ審査委員ニ於テスルコト

亜米利加合衆国委員ホルス君ハ本件ニ関シ各紛争国所属ノ者ヲ以テ委員ヲ組織シ中立国ヨリ出テタル一人ノ委員長ヲ加ヘテ僅ニ可否同数タルコトヲ免レントスルカ如キ不都合ノ場合無キニシモアラサルヘキ旨ヲ戒告シ三名ノ委員共ニ之ヲ中立国ヨリ出スニ於テハ必スヤ審査委員ノ事業ノ結果ニ一層大ナル勢力ヲ与フヘシト論断セリ

第十二條　紛争国ハ係争事実ヲ完全ニ知悉シ且精確ニ会得スルニ必要ナル一切ノ方法及便宜ヲ其ノ為シ得ヘシト認ムル限リ充分ニ国際審査委員ニ提供スルコトヲ約定ス

右第十二條ニ該当セル露国案第十六條ニ対シテハ特別委員会ニ於テ多少ノ疑惧ヲ生シタルアリ蓋シ露国案ニ掲ケタル約定ト雖モ或ル国ニ対シ自国ノ安全ヲ傷ケントスルノ虞アル諸報告ヲ提供スルノ義務ヲ包含スルモノニ非ルハ疑ヲ容レス然レトモ特別委員会ハ甚タシキ専擅ノ解釈ヲ下サントスル萬一ノ場合ニ備ヘンカ為メ「其ノ為シ得ヘシト認ムル限リ」ナル保留ヲ加ヘ以テ第十六條ニ掲ケタル広汎ナル約束ヲ緩和シタリ

此保留ノ文辞ハ之ヲ千八百九十年七月二日比律悉会議ノ一般議定書第八十一條ニ取レリ

第十三條　国際審査委員ハ各委員ノ記名シタル報告書ヲ紛争国ニ提出ス

本條ハ露国案第十七條ニ該当シ国際審査委員ノ権限ニ屬スル職務ノ性質ヲ明確ニ規定シタルモノナリ則チ同委員ハ委員全躰ノ記名シタル報告書中ニ事実ニ関スル審査ノ結果ヲ記述スルニ止マルモノトス

第十四條　国際審査委員ノ報告書ハ単ニ事実ノ記述ニ止ルモノニシテ決シテ仲裁宣告ノ性質ヲ有セス此ノ記述ニ対シ如何ナル結果ヲ付スヘキヤハ全ク紛争国ノ自由タルヘシ

本條ハ露国案第十八條ヲ採用シ之ニ二個ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

露国案ニ於テハ国際審査委員ノ報告後仲裁裁判ニ依頼シ得ルハ勿論尚ホ居中調停ニ依頼シ得ルノ趣旨ヲモ指定セリ

同條ノ末尾ニ於ケル「尚ホ又国際間ノ関係ニ於テ許容セラレタル事実上ノ手段ニ依頼スルヤハ」ノ文字ハ男爵デツーネル、ド、コンスタン君ノ発議ニ依リ特別委員会ニ於テ之ヲ廃棄シタリ蓋シ特別委員会ハ右ノ文字ヲ以テ交戦権ノ特別保留ヲ表明スルモノトシ斯クノ如キ保留ヲ平和会議ノ文書中ニ掲記スルヲ以テ無益ノ業ト認メタリド、マルテンス君ノ説明ニ依レハ右露国案ノ趣旨ハ平和ノ状況ニ適合シ且国際法上ニ許サレタル所ノ或ル事実上ノ手段ヲ指スモノニ外ナラサルナリ然レトモ特別委員会ハ遂ニ其ノ可決シタル案文ヲ以テ優レルモノト信シタリ

国際審査委員会ニ関スル箇條ハ委員会ニ於テ討議ノ末再ヒ特別委員会ニ付託セラレタルニ、スタンショッフ君ハ本條ノ下部ヲ左案ノ如クセンコトヲ提議セリ

「国際審査委員ノ報告ハ紛争国カ右報告書ニ基キテ或ハ友誼的協商ヲ締結シ或ハ該報告書ヲ無効ト看做スノ権能ヲ妨クルコトナシ」

特別委員会ハ別ニ異議ノ生セサル一ノ自由権ニ対シ右ノ如キ強力ナル條文ヲ設クルニ及ハサルヘシト思考シ遂ニオヂエー君ノ提出シタル左記ノ案ニ賛成セリ

「国際審査委員ノ報告書ハ単ニ事実ノ記述ニ止ルモノニシテ決シテ仲裁宣告ノ性質ヲ有セス此ノ記述ニ対シ如何ナル結果ヲ付スヘキヤハ全ク紛争国ノ自由タルヘシ」

第四章　萬国仲裁裁判

人類ノ進歩ハ屢々トシテ停止スルトコロナク而シテ日ニ益々法ノ尊重ヲ以テ其ノ組織ノ基礎ト為スノ傾向アリ今ヤ文明国団ハ其ノ共同ノ準則タル法規及原則ノ存在ヲ認ムルニ至レリ国際法即チ是レナリ此法ノ保護ノ下ニ各国ハ人民ノ活気ト挙国ノ資力トニ依頼シ其ノ版図内ニ於テ各自長所ヲ切瑳琢磨シ以テ其ノ固有ノ生命ヲ保有スルニ力メ其ノ有形上及無形上ノ幸福ヲ増進シ並ニ一切ノ事物ノ正当ナル発達ヲ確保スルニ励ム蓋シ列国ノ自主権ヲ守持スルハ此目的ニ外ナラサルナリ然レトモ亦同時ニ各国ハ国際団中ノ他ノ諸国ト相協力スルモノタルコトヲ自認セリ

国際法益々発達シ其ノ国民団ニ浸潤スルコト愈々深キニ従ヒ仲裁裁判カ該団ノ構成ニ密接ノ関係アルコト益々顕著ナルヲ致セリ

抑モ仲裁裁判所ノ要旨ハ国際紛議ヲ平和的且法律的ニ結了セントスルニ在リ是レ蓋シ各国ノ品位ヲ傷クス而モ各国ノ権利ヲ確保スルニ適セル要具ナリトス

此裁判権ノ設置ト権限トハ皆任意的ノモノナルヲ以テ正シク国家主権ノ要素ト適合シ畢竟主権行使ノ一ノ明白ナル場合タルニ外ナラス何トナレハ列国ヲシテ一ノ裁判官ニ服従セシムヘキ何等ノ優勝権存在セスト雖モ列国カ其ノ紛議ヲ処理スルカ為ニ互ニ一致シテ仲裁者ヲ選任シ以テ他ノ射倖的ニシテ而モ費用ヲ要スルコト多キ方法ヲ棄テテ幾分カ完全ナル裁判方法ヲ選択スルニ向テ何等ノ反対者モ有ルコトナケレハナリ

第一節　仲裁裁判

第十五條　萬国仲裁裁判ハ紛争国ノ選定セル裁判官ヲシテ法ヲ尊重スルノ基礎ニ拠リ国ト国トノ間ニ生シタル紛議ヲ処理セシムルコトヲ以テ目的トス

萬国仲裁裁判ハ直接談判ヲ無視セントスルモノニアラス唯外交上ノ手段ニ依リ処理シ得サル紛争ニノミ適用セラルヘキモノナリ

又仲裁裁判ハ居中調停ヲ廃罷セントスルモノニアラス居中調停ハ互譲及和解ヲ基礎トスルヲ以テ仲裁裁判ニ存セサル便宜協商ノ余地ヲ有ス

仲裁裁判ハ国際間ノ紛議ヲ平和的ニ結了スヘキ方法中ニ在リテ一種特別ノ地位ヲ占メ又固有ノ躰様ヲ保有ス第十五條ハ右等ノ特徴ヲ明記セリ

萬国仲裁裁判ハ委託ヲ受ケタル国際紛争ヲ処理ス（詳言スレハ該紛争ヲ確然結了ス）

萬国仲裁裁判ハ正義ノ要求ニ従ヒ法ノ尊重ヲ基礎トシテ紛争ヲ処理ス

萬国仲裁裁判ハ紛争国各自一致ノ上選任シタル裁判機関ニ依リテ紛争ヲ処理ス

以上ヲ仲裁裁判ノ根本的特質トス

第十六條　法律問題就中国際條約ノ解釈又ハ適用ニ関スル問題ニ就テハ記名国ハ外交上ノ手段ニ依リ結了スルコト能ハサリシ紛議ヲ処理スルニハ仲裁裁判ヲ以テ最モ有効ニシテ且最モ公平ナル方法ト認ム

第十六條ハ仲裁裁判固有ノ権限ニ屬スル係争問題ノ種類ヲ定ム法律上ノ問題ハ右ノ種類ニ屬シ特ニ條約ノ適用及其ノ解釈ニ関スル問題ヲ以テ其ノ重モナルモノトス蓋シ仲裁裁判制度ト国際條約上ノ善意ノ原則ヲ扶持スル事トノ間ニ密接ノ関係アルヲ見ルハ敢テ難キニアラサルナリ

仲裁委員ハ裁判官タルノ性質ヲ有シ法律ニ依リテ紛議ヲ処理スト云フハ取リモ直サス仲裁裁判ハ国際間ノ紛議ノ種類ノ何タルヲ問ハスシテ総テ之ヲ裁定スルモノニアラスト云フニ等シ抑モ当事国双方ノ主張カ法律的ニ表明スルコト能ハサル種類ニ屬スルトキハ斯ル紛議ノ「法ヲ陳述」スヘキ一制度ノ権限ニ漏ルルハ当然ノコトト云フヘシ

蓋シ利益ノ衝突及政治上ノ不和ハ本来仲裁裁判ヲ開始セシムヘキモノニアラス

然レトモ法律上ノ紛議タル性質ヲ有シ且普通ノ外交手段ニ依リ結了ニ至ラサリシ紛議ニ対シテハ第十六條ハ仲裁裁判ヲ以テ平和的結了ニ到達スヘキ最モ有効ニシテ且最モ公平ナル方法ト認ムル蓋シ仲裁裁判ハ係争問題ヲ確定的ニ結了ス故ニ最モ有効ナリ又仲裁裁判ハ権利上帰屬スヘキモノヲ帰屬スヘキ人ニ賦与ス故ニ最モ公平ナリ

然リト雖モ第十六條ハ仲裁裁判ニ付スヘキ問題ヲ概括的ニ規定スルニ止マリ某国ト他ノ一国トノ間ニ於ケル云々ノ紛争ヲ仲裁裁判ニ付託スヘシト云フカ如キ積極的ノ約束ヲ掲ケタルモノニアラス此点ニ就テハ各国ハ本條約ノ下ニ於テ云々ノ事項ヲ仲裁裁判ニ附スヘキカヲ主権的ニ決定スルモノトス但シ他ノ條約ニ依リ特ニ仲裁裁判ニ付託スルノ義務ヲ約シタルトキハ此限ニ在ラサルナリ

以上ヲ以テ第十六條ノ範囲トス

ベルヂマン君ハ左ノ宣言ヲ議事録ニ登載セラレンコトヲ請求セリ

「羅馬尼亜王国政府ハ任意的仲裁裁判ノ原則ヲ充分ニ認了シ其国際関係ノ上ニ於テ極メテ重要ノモノナルコトヲ認ムト雖モ第十五條（現在ノ第十六條）アルノ故ヲ以テ直チニ同條ニ定メタル一切ノ場合ニ仲裁裁判ヲ承諾スル

ノ約束ヲ為セルモノト看做サス従テ此点ニ就キ明示ノ保留ヲ為ササルヘカラスト信ス

依テ右ノ保留ヲ以テスルニアラサレハ本條ニ賛成ヲ表スルコトヲ得ス」

第十七條　仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル紛議又ハ将来生スルコトアルヘキ紛議ノ為ニ締結ス仲裁裁判條約ハ総テノ紛議又ハ特ニ指定シタル種類ノ紛議ノミニ関スルコトヲ得

第十七條ハ列国ノ為ニ如何ナル約束ヲモ設定シタルモノニアラス然レトモ仲裁裁判條約ヲ拡充シ得ヘキ程度ヲ有要ナル方法ヲ以テ指定セリ

仲裁裁判條約ハ一個若ハ数個ノ紛議ノ生シタル後ニ於テ之カ法律的処理ヲ得ンカ為ニ締結セラルルコトヲ得是レ所謂仲裁契約ナリ

仲裁裁判條約ハ又未来ノ紛議則チ単ニ将来生スルコトアリ得ヘシト予想セラレタル紛議ニ関スルコトヲ得是即仲裁約款ナリ

国法上ニ於テハ各国皆其ノ成文法ニ依リ未来ノ紛議ニ関スル仲裁約款ノ如キモノヲ認メタルニアラス従テ斯クノ如キ約款ニ関スル裁判管轄モ到ル処一定シ居ルニアラサレトモ国際法上ニ於テハ疑ヲ挟ムノ余地ナキニ似タリ茲ニ所謂仲裁約款ハ内国裁判権ト並立スヘキ一制度ヲ創定セントスルモノニアラスシテ裁判制度ノ缺欠セル領域内ニ於テ裁判機関ヲ設定スルモノナリ

仲裁約款ハ特定ノモノタルコトアリ則チ国際間ノ法律的紛議ノ一団中ニ就キ一個若ハ数個ノ格段ナル紛争事項ニ関スルコトヲ得ヘシ此種ノ約款ノ効益ハ頗ル顕著ナルモノアリ之ニ依リテ各国ハ紛争ノ生スル前ニ平和的ニ結了スルノ方法ヲ採用シ且国際関係ノ或ル範囲内ニ於テ條約ニ依リ豫見シ得ヘキ平和ヲ設定シ以テ将来ニ於ケル自動的趨勢ヲ自ラ警戒ス

仲裁約款ハ亦一般的タルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ国際間ノ紛議ノ全部又ハ少クトモ要部ヲ包含スルモノトス是レ即一般的仲裁條約ニシテ真ニ法律的平和ヲ構成スルノ契約ナリト云フヘク又仲裁裁判カ国際紛争ヲ解決スルカ為ニ豫メ採用セラルヘキ妥当適正ノ方法ナルコトヲ積極的ニ是認シタルモノト云フヘシ

国際法ノ現状ヲ観察スルニ仲裁條約拡張ノ趨勢実ニ左ノ如キモノアリ

一、既ニ生シタル紛議ニ仲裁裁判ヲ適用スル仲裁契約ノ数

ハ屢々トシテ増加セリ蓋シ英国及合衆国ノ條約ハ此種ノ紛議ニ対シテ締結セラレタル仲裁契約ノ例ヲ示スコト最モ饒多ナリ

二、将来生スルコトアルヘキ紛議中稍ヤ多数ノ特定事項ニ対スル仲裁約款モ亦其ノ数ヲ増加セリ吾人ハ第三委員会ノ請求ニ由リテ作成セラレタル「居中調停及仲裁裁判ノ約款要報」（第七回会議議事録附属書ホ号）中ニ是等ノ仲裁約款ヲ掲記セリ右約款ノ過半ハ両国間特別ノ條約ニ屬シ其ノ或者ハ萬国郵便聯合條約中ニ包含セル仲裁約款ノ如ク萬国若ハ列国中多数ノ団体ニ共通ノモノタリ

三、何等ノ除外例ヲモ設ケスシテ国際間ノ紛議ヲ悉皆仲裁裁判ニ附センコトヲ約シタル者アリ或ハ又仲裁裁判ニ附スルコトヲ得サル種類ノ紛争ニ対シテ必要ト思料セル保留ヲ為シ其ノ余ノ一切ノ紛議ニ仲裁約款ヲ及ホスノ條約ヲ締結シタル者アリ

千八百九十四年七月五日和蘭国ト葡萄牙国トノ間ニ為サレタル宣言ハ保留附中裁約款ヲ掲載セリ其ノ本文左ノ如シ

「本宣言ノ解釈若ハ執行ニ関スル一切ノ問題及紛議並両国間ニ生スルコトアルヘキ其ノ他ノ一切ノ問題ハ両国ノ自主若ハ独立ニ触レサル限リ且友誼的ニ処理セラレサル場合ニ於テハ之ヲ両国政府ヨリ一名宛指定セル二名ノ仲裁者ノ裁定ニ附スヘシ、両仲裁者間ニ意見ヲ異ニシタル場合ニ於テハ其ノ一致ノ協諾ヲ以テ指定セル第三仲裁者之ヲ決定スヘシ」

千八百九十八年七月二十三日伊太利国ト亜爾然丁国トノ間ニ締結セラレタル仲裁條約ハ無保留ノ仲裁約款ヲ含ム其ノ條文左ノ如シ

「第一條　両締盟国ハ両国ノ間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛争ニシテ直接ナル外交上ノ手段ニ依リ友誼的ニ処理シ得サルトキハ其ノ性質及源因ノ如何ヲ問ハス之ヲ仲裁裁判ニ付託スヘキ義務アルモノトス此仲裁約款ハ本條約ノ締結前ニ其源因ノ存シタル紛争ニモ亦之ヲ及ホスヘシ」

平和会議ニ賛同シタル或国ノ間ニ於テ協議ヲ経タルモ未タ草案トシテ存在セル一般仲裁條約ノ中千八百八十三年七月二十四日瑞西国聯邦参事院ニ於テ可決シ合衆国政府ニ提出セラレタル案、千八百八十九年十月二日ニ開始シ千八百九十年四月十九日ニ閉会シタル華聖頓府全亜米利加会議ニ於テ制定セラレタル案、千八百九十七年四月十一日華聖頓ニ於テ記名セラレタル合衆国及大不列顛国間ノ條約案、等ヲ挙ケサルヘカラス

以上諸種ノ公文書ハ討議ノ進行中屢々引用セラレタリ

委員会ニ於テ第十七條討議ノ際ベルヂマン君ハ次ノ宣告ヲ議事録ニ登載センコトヲ請求シタリ

「羅馬尼亜王国政府ハ如何ナル場合ニ於テモ本條約締結前ノ争議若ハ紛争ニ対シテ萬国仲裁裁判ヲ承諾セサルコトニ決定シタル旨ヲ議事録ニ登載シ明カニ保留スルニアラサレハ第十六條（即現在ノ第十七條）ニ同意スルコトヲ得サル旨ヲ宣言ス」

第十八條　仲裁裁判條約ハ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

仲裁裁判ニ於テハ紛争国カ合意ニ依リ其ノ争議ノ決定ヲ当事国ノ為メニ「法ヲ陳述ス」ルノ任アル一人若ハ数人ノ裁判ニ委託シタルモノナリ

此故ニ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルハ自ラ締結シタル仲裁裁判條約中ニ包含セル積極的ノ義務ナリトス仲裁裁判ノ特質ハ正シク各国カ其ノ選任シタル裁判官ニ一様ニ服従スルニ在リテ存シ而シテ誠実ニ宣告ニ服従スルノ約束ハ之カ当然ノ効果ナリトス蓋シ仲裁契約中仲裁宣告ニ或ル特定ノ効果ヲ附シタル特別ノ規定存スルカ若ハ正当ナル上告手段ヲ使用スルニアラサル以上ハ仲裁裁判官ノ決定ヲ履行セサルハ法建上所謂契約違反ト均シク到底許スヘカラサルモノトス何トナレハ此不履行タル取リモ直サス契約ノ違反タレハナリ

第十八條ノ原案ハ左ノ如シ

「仲裁裁判條約ハ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包有ス」

ローラン君ノ発議ニ由リ「包有ス」ナル文字ニ代ヘタル「包含ス」ナル文字ハ吾人ノ論述シタル点ヨリ見レハ仲裁裁判條約ノ性質及結果ヲ鮮明ニ表ハスモノナリ

第十九條　仲裁裁判ニ依頼スヘキ義務ヲ記名国ニ対シテ現ニ規定シタル一般若ハ特別條約ノ有無ニ拘ラス記名国ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思料スル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシメムカ為本條約批准前又ハ其ノ後ニ於テ一般若ハ特別ノ新規定ヲ為スノ権利ヲ保留ス

本條ハ露国委員提出案第八條ヨリ第十二條マテニ代リタルモノナリ、露国案ノ重モナル要素ハ採納セラレタリ而シテ

該案ニ於テハ先ツ紛争国ノ名誉若ハ生存上ノ利害ニ関スル法律問題ハ全然之ヲ除外セリ

次ニ該案ニ於テハ其ノ他ノ紛争問題ヲ二種ニ分チ其ノ一ニ関シテ明カニ之カ特質ヲ指定シ此特質アルモノ即義務的仲裁裁判ノ支配ヲ受クヘキモノト為セリ又他ノ一ハ其ノ数最モ多キモノニシテ此種ノ問題ニ関シテハ仲裁裁判ヲ勧告シタリト云ハンヨリモ寧ロ之ヲ任意的仲裁裁判ノ支配ニ属セシメタルモノナリ

露国委員ハ其ノ有名ナル説明書（第七回会議議事録附属書イ号）中ニ於テ自己ノ提出ニ係ル制度ヲ左ノ如ク弁明セリ

国際的生活ノ間ニ於テ常ニ且絶対ニ仲裁裁判ニ依リテ解決シ得ヘキ紛議ヲ生スルコト稀ナリトセス蓋シ専ラ法律上ノ特殊ナル諸点ニ関係シ而モ各国ノ生存上ノ利害ニモ国家的名誉ニモ接触セサル諸問題即是レナリ是等ノ問題ニ関シ平和会議ニ於テ仲裁裁判ヲ以テ常設的且義務的ノ解決方法タラシムルハ豈ニ賀スヘキノコトニアラストセンヤ

抑モ仲裁裁判ニ付スルノ義務ヲ認ムルハ縦令極メテ制限セラレタル範囲ニ止マルト雖モ尚ホ克ク国際間ノ関係ニ於テ法律ノ原則ヲ確定シ之カ違犯及侵害ニ対シテ担保ヲ供シ国際法ノ広大ナル範囲内ニ於テ多少中立ノ部分ヲ作ルモノト云フモ不可ナカルヘシ蓋シ義務的仲裁裁判ハ各国間ニ於テ極メテ夥多ニシテ且障害多キ誤解ヲ避クル為メ各国ニ対シ便宜ナル方法ナリトス右等ノ誤解ハ左ノミ重大ノコトナラサルニ拘ラス徒ニ外交上ノ関係ヲ傷クルコト稀ナラサルモノナリ又義務的仲裁裁判ニ依リテ各国ハ容易ニ其ノ正当ノ主張ヲ伸張スルコトヲ得ヘク且特ニ重要ナル点ハ之ニ依リテ理由ナキ口実ヲ一層容易ニ避止スルヲ得ルニ在リ

義務的仲裁裁判ハ一般平和ノ為ニ効アルコト測ルヘカラサルモノアリ、素ヨリ専ラ此方法ヲ適用スヘキ第二流ノ問題カ戦争ノ源因タルコトハ極メテ稀有ノコトタルハ明白ナリ、然リト雖モ国ト国トノ間ニ於テ紛議頻繁ナルトキハ縦令其ノ紛議ハ第二流ノ問題ニ関シ平和ノ維持上毫モ直接ノ危害ヲ及ホスヘキモノニアラスト雖而モ国際間善良ノ関係ヲ一変シテ猜疑及敵愾ノ気ヲ醸生シ一朝機ニ触レテ恰モ電光ノ如ク意外ニ戦争ノ爆発スルヲ見ルニ至ルコト決シテ之無シト云フヘカラサルナリ

義務的仲裁裁判ハ紛争ニ関係アル諸国ヲシテ其ノ紛争ニ如何ナル決定ヲ与フヘキヤニ付一切ノ責任ヲ免レシムルノ効

能ヲ有スルカ故ニ是等関係諸国間ノ友誼的関係ヲ維持スルニ与リテ力アルヘク且之ニ依リテ最モ重要ナル相互間ノ利益ニ就キテ発生スル最モ重大ナル紛議ノ平和的解決ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘキナリ

露国案ノ起草者ハ義務的仲裁裁判ノ勢力区域ヲ以上ノ如ク指示スルト同時ニ之カ適用ノ範囲ヲ正確ニ且区劃的ニ決定スルノ必要ヲ認メタリ

右ノ決定ヲ為スニ当リ義務的仲裁裁判ノ適用セラルヘキ国際紛議問題ハ之ヲ左ノ二種ニ限定セリ

第一、不法ノ損害ニ基ク金銭上ノ要求、蓋シ「国際関係史ノ證スル所ニ依レハ仲裁裁判ノ目的タリシ場合ノ大半ハ損害賠償ノ請求是レナリトス」「此故ニ該金銭上ノ問題カ一国ノ破産ニ関係アルカ如キ国家ノ利害上第一位ノ重要ナル性質ヲ表ハスニ於テハ各国ハ其ノ国家的名誉若ハ生存上ノ利害ヲ援用シ其ノ紛争ノ解決手段トシテ仲裁裁判ヲ避却シ得ヘキヤ亦言ヲ俟タサルヘキナリ」

第二、政治上ノ性質ヲ有セサル或ル国際条約及特ニ萬国聯合ノ名目ヲ有スル諸条約ノ解釈及適用、「此第二種以外ノ条約ハ概シテ反対セル利益ヲ人為的ニ調和セル和解ノ約束ニ外ナラスト雖萬国的条約ハ常ニ必ス均一ニシテ共通ナル利益ノ調和ヲ定ムルモノナリ是レ即此種ノ条約ノ基礎ノ上ニ国家的性質ヲ有シ其ノ利害ノ彼我互ニ相容レサルカ如キ紛争及重大ニシテ動カスヘカラサルカ如キ紛争ヲ生スルコトナク又生スル能ハサル所以ナリトス此種ノ条約ノ解釈ニ係ル一時ノ行違ヒニ就キテハ各国ハ喜ンテ其ノ解釈ヲ仲裁裁判所ニ委任スヘキナリ蓋シ其ノ条約カ重要ニシテ永久ナル必要ニ満足ヲ与フル唯一ノ方法トシテ且広大ニシテ複雑ナル国際的制度ノ基礎ヲ為セルモノトシテ是等諸条約ノ依然トシテ不可侵ノ地位ヲ持続スルコトニ関シ列国皆同一ノ利益ヲ有スルヲ以テナリ

国際間ノ実際ニ於テ始メテ義務的仲裁裁判ノ制度ヲ誘入シタルハ正シク千八百七十四年ノ郵便同盟ニ関スル萬国的ノ条約ニ依レリ即該条約第十六条ニ於テ該条約ノ解釈及適用ニ関シテ起ルヘキ一切ノ紛議ノ解決ノ為ニ義務的仲裁裁判ノ制度ヲ設ケタリ

由是観之海牙会議ハ「ベルヌ」条約第十六条ノ規定ヲ該条約ト全然類似セル総テノ萬国的条約ニ推及セントスルコトニ就キ充分ノ根拠ヲ有スルモノト云フヘシ」

露国委員ノ提議ニ係ル制度ハ大体特別委員会ノ賛成ヲ得該委員会ハ右露国委員ノ提出シタル草案第十条ニ付細密ノ研究ヲ為セリ

金銭上ノ請求ナル事項ニ関シテハ特別委員会ハ或程度ヲ超過セサル請求金額（英米條約草案中ニ斯クノ如キ規定アリ）若ハ賠償ノ原則ヲ当事国カ認定シタル場合ヲ限リトシ義務的仲裁裁判ヲ適用セシムヘキヤニ就キテ審査ヲ遂ケ終ニ後者ヲ仮リニ採用スルコトトセリ

又條約中其ノ解釈若ハ適用ヲ常ニ義務的仲裁裁判ニ付託スヘキモノノ中ニ貨幣條約、及国際河川並海洋間ノ運河通航ニ関スル條約ヲモ存置スルコトニ就テハ特別委員会ニ於テ全会一致ノ承諾ヲ得ル能ハサリシニ付一時是等ノ諸條約ヲ取除クコトトセリ、民事訴訟手続ニ関スル條約及貧困病者ノ無料扶助ニ関スル相互條約ハ更ニ原案中ニ追加セラレ而シテ通商條約及「ジェネヴァ」條約ヲモ亦同シク追加セントノ議提出セラレタルモ遂ニ可決ニ至ラサリキ、其ノ他原案列記ノ諸條約ハ悉ク維持セラレ結局露国案第十條ハ修正ノ結果左ノ如キモノトナレリ

「下記ノ場合ニ於テハ紛争国ノ生存上ノ利害及国家的名誉ニ牴触セサル限リ仲裁裁判ハ前記諸締盟国間ニ於テ義務的ノモノトス」

（一）　左ニ列記シタル諸條約ノ解釈及適用ニ関シテ紛争ノ生シタルトキ

一　郵便條約電信條約及電話條約
二　海底電信保護ニ関スル條約
三　鉄道ニ関スル條約
四　海上ニ於ケル船舶衝突豫防方法ニ関スル條約及規則
五　文学及技術上ノ著作物保護ニ関スル條約
六　工業所有権（発明特許権、製造標、商標及商号）保護ニ関スル條約
七　度量衡ノ制式ニ関スル條約
八　貧困病者無料扶助ニ関スル相互條約
九　衛生ニ関スル條約、獣疫「フィロクセラ」及其ノ他類似ノ災害ニ関スル條約
十　民事訴訟手続ニ関スル條約
十一　犯罪人引渡條約
十二　純粋ナル専門的問題タルニ止マリ政治上ニ関係ナキ限度ニ於ケル境界條約

（二）　損害ニ基ケル金銭上ノ請求ニ関スル紛争ニ就キテ当事国カ賠償ノ原則ヲ認定シタルトキ」

露国案第八條乃至第十二條ハ第一読会ニ於テ確定草案タラサルノ條件ヲ以テ可決セラレタリ、第二読会ニ於テ独逸国

委員ツォルン博士ハ第十條廃止ノ請求ヲ提出シ陳ヘテ曰ク独逸国政府ハ現ニ義務的仲裁裁判ヲ認メタル諸條約ヲ変改スルヲ好マス則チ今ノ時ニ当リテ是等ノ條約ニ一層一般ニシテ急激ナル拡張ヲ施サントスルニハ未タ以テ経験ノ充分ナラサルモノアリト思考スト且曰ク、国際法中ニ義務的仲裁裁判ヲ誘入スルコト早キニ失スレハ国際間ノ平和ニ利スル所アルヨリモ寧ロ之ニ害スル所多カルヘシト、尋テ提出セラレタル露国ノ新案ハ既存ノ條約ニ依リテ既ニ各国一致ノ證左アル或ル場合ニ対シテノミ義務的仲裁裁判ヲ確認シ而シテ第一読会ニ於テ可決セラレタル其ノ他ノ列記事項ニ対シテハ特ニ仲裁裁判ニ依頼スヘキコトヲ勧告セントスルニ止マリタルモ是亦諸種ノ議論ヲ惹起シ全会ノ賛成ヲ得ル能ハサリキ右ノ次第ナルヲ以テ特別委員ハ其ノ意見ヲ確立スルニ至ラサリシモ結局露国案第八條乃至第十二條ノ代リニ二段ノ規定ヲ包含スル一箇條ヲ採用シ得ヘシト認メタリ第一段ノ規定ハ記名国ニ対シテ現今既ニ仲裁裁判ニ依頼スルノ義務ヲ設定セル一般條約及特別條約ノ存在セルコトヲ示シ第二段ノ規定ハ記名国ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思料スル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシメムカ為本條約ノ批准前又ハ其ノ後ニ於テ一般若ハ特別ノ新協定ヲ為スノ権利ヲ保留スルコトヲ宣言シタルモノナリ、故ニ義務的仲裁裁判ノ範囲ヲ著ルシク拡張スルコトニ就テハ協議纏マラサリシト雖モ列国ハ独リ両国間ノ特別條約ニ依リテノミナラス能フ限リ一般的ノ條約ヲ以テ此点ニ関スル希望ヲ実施スヘキ最大ノ余地ヲ存留シタルコトハ特ニ注目ヲ要スルノ事項トス、由是観之義務的仲裁裁判ノ前途ニ於テ諸般ノ進歩ヲ遂クヘキノ希望豁然トシテ開ケタルト謂フヘキナリ、而モ此進歩ノ実行タルヤベルヂマン君及ヴェリコヴィッチ君ノ弁論中ニ述ヘタルカ如ク全然任意的ノモノタルニ止マルナリ

以上ノ状況ノ下ニ決議セラレタルヲ以テ第十九條ノ表決ハ委員会ニ提出スヘキ提案ヲ全会一致ニテ可決セント欲スル調和的表決ノ性質ヲ有スルモノナルコトハ亦特別委員会ノ全会一致ヲ以テ認メタル所ナリ

第二節　常設仲裁裁判所

常設仲裁裁判所設立案ノ如ク同情ヲ以テ迎ヘラレタル案件ハ未タ曾テ其ノ例ヲ見サル所ナリ、而シテ本件ニ関シ「サア」ジュリアン、ポーンスフォート閣下ノ為シタル発言ハ我カ第三委員会開会ノ始メニ於テ燦然タル光輝ヲ放テリ茲ニ閣下ノ此ノ紀念トスヘキ豊富ナル発案ヲ登載スルハ正

義ノ命スル所ヲ尽ス所以ナルト同時ニ本件ニ関シ吾人カ執掌シタル全事業ノ大体ノ傾向ヲ示スモノナリ

千八百九十九年五月二十六日第三委員会ノ議事ニ於テ「サー」ジュリアン、ポーンスフォート閣下ハ左ノ如ク陳述セリ

「議長、本項ノ審査ヲ進ムルニ先チ本員カ最重要問題ナリト信シ且嘗テ議長ノ演説ニ於テモ論及セラレタル常設萬国仲裁裁判所設立ノ件ニ関シ玆ニ豫メ委員会審査ノ基礎ヲ整正スルハ必スシモ無益ノ業ニアラサルヘシ

仲裁裁判法典及其ノ訴訟手続ニ関スル規則ハ従来世ニ存シタルモノ多カラストセス然レトモ其ノ訴訟手続ハ今日ニ至ルマテ仲裁者ノ定ムル所ニアラスンハ一般又ハ特別ノ條約ヲ以テ設ケタルモノナリ

然ルニ仲裁裁判ニ関スル新法典及新規則ハ其ノ効力如何ニ大ナリトスルモ吾人ヲ此処ニ招集シタル平和ノ大旨義ニ益スル所甚タ多カラサルカ如シ

此故ニ若シ更ニ一歩ヲ進メント欲セハ紛争国ノ訴求ニ応シ直チニ開廷シ得ヘキ常設萬国仲裁裁判所ヲ構成スルノ絶対ニ必要ナルコト予ノ深ク信スル所ナリ、苟モ此原則ニシテ確立セハ細目ニ就テ協商ヲ遂クルコト甚タ難カラサルヘシ、此種ノ裁判所ノ必要ナルコト及利益アルコト竝其ノ仲裁裁判制度ノ発達ヲ扶助スルノ大ナルコトハ吾人ノ同僚タルデカン君カ其ノ有益ナル「仲裁裁判論」ニ於テ雄健明快ノ達筆ヲ以テ論述シタル所ナリ而シテ其ノ大要ハ和蘭国政府ヨリ平和会議ニ提供シタル書類中ニ掲ケタルヲ以テ余ハ此事ニ就キテ一モ言フ所ナカルヘク唯本件議事ノ進行ニ先チ願クハ余カ常設萬国仲裁裁判所ニ関シテ委員会議長ニ差出シタル提案ニ就キテ第三委員会ノ意嚮及感情如何ヲ審明セラレナハ余ノ幸甚トスル所ナリ」

大不列顛国第一委員ハ其ノ提議ニ係ル構成制度ヲ呼フニ「常設仲裁裁判所」ノ名ヲ以テセリ

博士ツォルン君ハ「仲裁者法院」ナル名目ヲ採用センコトヲ勧告シ、特別委員会ハ常設仲裁裁判所ナル名目ヲ確定的ニ採用スルコトトセリ、又裁判ノ為ニ招集セラレタルトキハ何時ニテモ仲裁者トシテ其ノ任務ヲ尽スヘキ裁判部ノ構成員ヲ指示スル為ニ「仲裁法院」ノ名目ハ一時是非トモ之ヲ存置セサルヘカラサルノ模様アリシモ終ニ「仲裁裁判部」ナル語ハ既ニ実際ニ使用セラレ従テ容易ニ列国ノ認容スル所ト為ルヘシトノ理由ヲ以テ採択スルコトトナレリ

常設仲裁裁判所ノ設立ハ文明国民最深ノ希望ニ投合シ国際関係ノ間ニ実行セラレタル進歩、近時ニ於ケル国際争訟ノ発達、永続スヘキ平和中ニ在リテ利用シ易キ裁判権ヲ求メサルヲ得サルニ至レル当代国民ノ需要ニ対応スルモノナリ

此広大ナル制度ハ必スヤ世界ニ於ケル法ノ感念ヲ確立スル為ノ有力ナル後援タルヘシ

蓋シ萬国国際団体ハ一ノ協力団体ニシテ附庸的ノモノニアラス従テ国際裁判ノ新機関ヲシテ「各独立国間ニ於ケル自由裁判所」タルノ性質ヲ保持セシムヘシトノ原則ヲ確守スル以上ハ此裁判所設定ノ前途敢テ排除シ難キ障礙ニ遭遇スルコト無カルヘシ

比律悉議会院内会議ニ於テ制定シタル案ハ此基本的必須ニ応センコトヲ力メタリ

三大国ノ委員ヨリ海牙会議ニ差出シタル各案ハ皆其ノ進路ヲ異ニスルモ結局同一目的ノ遂行ニ帰着スルモノナリ

就中「サー」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ノ案ハ露国案及米国案各起草者ノ承認ヲ得タル上特別委員会ニ於ケル起草事業ノ基礎トシテ用キラレタリ

右英国案（附属書ロ号）ノ基本タル要点ハ左ノ如シ

一　裁判所裁判官ノ名簿ヲ以テ総名簿ニ記入セラルヘキ仲裁裁判官ノ同数ヲ記名国各自ニ於テ指定スルコト

二　仲裁裁判ノ依頼アル毎ニ職務ノ執行ニ当ルヘキ裁判部ヲ構成スヘキ仲裁裁判官ハ右ノ名簿中ヨリ自由ニ之ヲ選任スルコト

三　裁判所書記局ノ任ニ当リ且諸般ノ行政事務ヲ取扱フヘキ一ノ萬国事務局ヲ海牙ニ設置スルコト

四　海牙ニ駐在スル列国外交官ヲ以テ組織シ和蘭国外務大臣ヲ議長トスル高等監督及処務管理ノ常設評議会ヲ設置スルコト

露国委員ノ提案（第七回会議議事録附属書イ号第三）ハ次ノ諸項ヲ以テ其ノ基礎トセリ

一　本会議ハ新タニ萬国会議ヲ開設セラルルマテノ期間内ニ於テ五個国ヲ指定シ之ヲシテ仲裁裁判ノ請求アリタル場合ニ自国民中ヨリ若ハ其ノ国民以外ヨリ各一人ノ裁判官ヲ任命セシムルコト

二　仲裁裁判ノ申請アル毎ニ之ヲ五個国ニ通知スルノ任務ヲ有スル常設事務局ヲ海牙ニ設置スルコト

米国案（第七回会議議事録附属書ハ号ノ二）ハ主トシテ左ノ特徴ニ依リ他ノ案ト区別セラル

一　各国ノ最高等法院ヲシテ萬国裁判所員一名宛ヲ任命セシムルコト

二　九個国ノ加盟アリ次第該裁判所ノ構成ヲ確定スヘキコト

三　紛争国間ニ締結セラルヘキ條約ニ従ヒ各特別ノ場合ニ開廷スヘキ裁判部ヲ組織スルコト、是等條約ニ於テハ萬国裁判所ノ全員若ハ奇数ノ若干名（少クモ三名）ヲ出廷セシムルコトヲ得若シ此裁判部員三名ヲ蹤ヘサルトキハ其ノ三名ハ凡テ当該訴件ニ利害関係ヲ有スル国ノ出身者、臣民若ハ公民タラサルコトヲ要ス

四　或ル一定ノ場合ニハ若干ノ期間内ニ於テ争訟国ハ同一裁判官ニ同一事件ノ再審ヲ請求スルノ権利ヲ有スルコト

常設仲裁裁判所設立ニ就テノ大躰論ハ特別委員会ニ於テ特ニ重大ノ問題トシテ討議セラレタリ

仏国委員ハ右ニ摘載シタル各案中平和会議討議ノ基礎タリ得ヘキ原則及意見ノ共通ナルモノ在ルヲ認メタルヲ以テ該員自ラ敢テ一箇ノ案ヲ提出スルノ必要ナシト信スル旨ヲ宣言シ且常設裁判所ニ訴求スルノ自由ナルコト及仲裁裁判官選任ノ自由ナルコトノ二重ノ保障ノ存スル以上ハ先ツ以テ新制度ノ設立ニ加盟スルコトヲ躊躇セサルヘシト為セリ

二個国若ハ数個国間ニ紛議ノ生シタル場合ニ於テ其ノ事件ニ関スル本條約ノ箇條及仲裁裁判ニ依頼スルノ権能換言スレハ自ラ承認シタル義務ノ存在スルコトヲ紛争国ニ申告スルノ権ヲ該常設事務局ニ委任スルニ於テハ此常設事務局ハ則チ紛争国ノ間ニ立チテ仲裁裁判手続ノ開始ヲ促シ仲裁裁判所ニ出訴スルノ途ヲ容易ナラシムル媒介者タルヘキナリ抑モ両紛争国カ平和的協商ノ手段ニ依頼スルヲ避クルハ其ノ正当ノ所為ニシテ且最モ高潔ナル感念ニ基因スルコト稀ナリトセス何トナレハ今日輿論ノ趨勢ヲ察スルニ両紛争国政府ノ執レカ最初ニ仲裁裁判ヲ請求シタルモノニ対シ其ノ国民ハ之ヲ以テ政府カ権利ノ自信ヲ有スル證拠ト看做スコトヲセスシテ却テ一ノ怯懦ナル行為ナリト認メントスルノ虞アルヲ以テナリ

常設事務局ニ与フルニ特ニ仲裁裁判発議ノ義務ヲ以テセハ右ノ如キ見解ヲ防クコトヲ得ヘシト信ス而シテ第三委員会カ一層重大ナル一般ノ場合ニ居中調停ヲ提供スルノ権利ヲ中立国ニ認ムルコトヲ躊躇セス且此権利ノ実行ヲ奨励スル為ニ該調停ノ行為ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト看做スヲ得サルコトヲ宣明シタルハ亦前陳ノ如キ疑惑ヲ防止セントスルニアルヘシ況ンヤ本條約ニ於テ仲裁裁判手続ノ途ヲ開設

則チレオン・ブールジョア君ハ曰ク「此二重ノ保障アル以上ハ海牙会議ニ参同シタル諸国ノ間ニ協定セラレタル諸規則及訴訟手続ヲ適用遂行スルノ任務ヲ有スル何時ニテモ出訴シ得ヘキ常設営造物設置ノ観念ヲ援助スルニ躊躇セス従テ吾人ハ仲裁裁判所ノ書記局、官房及記録ノ事務ヲ間断ナク執行セシムル為ニ一ノ萬国事務局ノ設立セラルルコトヲ承認ス蓋シ此等執務ノ継続的ナルコトハ啻ニ各国間通信ノ共通点ヲ保持シ訴訟手続及将来判決例ノ一致ヲ一層確実ナラシムルノミナラス露国皇帝陛下ノ招集ニ由リ文明諸国ヲシテ協同実行ニ当ルコトヲ得セシメタル法及人道ノ高尚ナル観念ヲ断エス各国人民ノ精神中ニ喚起スル為メ具体的ニシテ且尊重ヲ受クルニ足ルヘキ一ノ標識ヲ設立スルコトハ全ク有要ナリト信スルモノナリ」ト

仏国委員ハ更ニ一歩ヲ進メテ曰ク「此常設営造物ニ賦与スルニ一層有力ナル任務ヲ以テスルコトスラモ能ハサルノ事ニアラス則チ許多ノ場合ニ於テ各国ヲシテ仲裁裁判ニ依頼スルコトヲ容易ナラシメンカ為メ該事務局ニ向テ萬国ノ委任ヲ与ヘ明瞭ニ限定セラレタル範囲内ニ於テ仲裁裁判発議ノ権ヲ執ラシムルモ亦不可ナキナリ蓋シ本條約ニ於テ仲裁裁判ニ依頼シ得ヘキモノト認メタル事項ニ関シ記名国中ノセラレタル特定ノ場合ニ就キテ常設事務局ニ与フルニ明瞭ニ限定セラレタル委任発議権ヲ以テスルハ出来得ヘキノコトタリ、斯クノ如クシテ此事務局ハ紛争国ヲシテ不和ヲ生スルニ至ラシメタル事件ノ該当セル條約ノ箇條ヲ紛争国ニ向テ指定シ結局紛争国自ラ豫期シタル條件ニ遵ヒテ仲裁裁判手続ニ依頼スルコト換言スレハ其ノ自ラ締結シタル約束ノ実行ヲ承認スルヤ否ヤヲ問合ハスルノ任務ヲ有スルモノナリ、而シテ右ノ如キ問合セアリタルトキハ之ニ応スルハ容易ニシテ又仲裁裁判ノ依頼ヲ防止スヘキ国威上ノ疑惧モ自ラ消滅スヘキナリ、近代ノ科学カ依リテ以テ世界ヲ改善セル是等有力ナル機関ノ一ヲ運転センカ為ニハ唯其ノ接触点ニ向テ一指ヲ触ルルヲ以テ足レリトス而モ此一指ノ労ト雖モ尚ホ何人カ其ノ任ニ当ル者アルコトヲ要ス

仏国委員タル余ハ此萬国ノ委任ヲ受ケタル営造物カ歴史上ニ於テ高尚有益ノ任務ヲ尽スモノタルコトヲ信ス」

以上仏国委員ノ陳述シタル弁論ハ後ニ至リテ一ノ提案トナリ本條約ノ第二十七條ヲ形成セリ

常設仲裁裁判所ノ設立ニ関スル三大国提出案ノ極メテ重要ナルコトヲ指定セル報告者ノ演説ト共ニ大躰ノ討議ハ開始セラレタリ報告者ハ現在ノ提案ニ最モ近似セル先例ヲ援用

シ平和ニ関スル制度組織ヲ拡張シ鞏固ニスルノ必要ヲ主張セリ

独逸国委員博士ツォルン君ハ萬国常設裁判所ノ設立ヲ以テ時期尚ホ早キニ失シ且ツ平和会議ノ立案権限ニ乖離スルコト少ナカラサルモノアリトシ和蘭国委員アッセル君ハ臨時仲裁裁判ニ関シテハ既ニ経験ヲ了シタリ今ヤ残ル所ハ正シク討議中ノ案ニ関シテ経験ヲ始ムルニ在リト抗論セリ

ニーグラ伯爵閣下モ亦本問題ノ如キ人類全体ノ利害ニ係ル容易ナラサル事項ノ決定ヲ拒否スルノ危険ナル所以ヲ陳弁シテ曰「輿論カ本会議ノ事業ノ結果ヲ鶴首翹望スルノ切ナルヤ仲裁裁判所ノ件ヲ否決スルノ転夕危険ナルモノアルヲ思ハシムルモノアリ、若シ平和会議ニシテ輿論ノ此熱望ニ対シ或ハ「吾人之ヲ能クセス」ト云ヒ或ハ之ニ与フルニ不充分ナルヲ満足ヲ以テセンカ蓋シ輿論ト本会議トノ齟齬ハ容易ナラサルモノアリテ存セン此場合ニ於テ本会議ハ歴史ニ対シ又諸国ノ人民及露国皇帝陛下ニ対シ重大ノ責ヲ負ハサルヘカラサルヘシ」ト

瑞西聯邦委員オジエー君ハ伯爵ニーグラ閣下ノ所論ヲ援助シ本件カ全世界ニ向テ希望ヨリモ更ニ一歩ヲ進メテ寧ロ期待ノ念ヲ喚起シクルコトヲ明カニシ且曰「本会議ノ討議ヨリ重要ノ結果ヲ生スルハ特ニ仲裁裁判ノ件ニ関シテ然ルナラントハ是レ輿論ノ信頼スル所ナリ此時ニ方リ進歩ノ道途ニ於テ決然一歩ヲ進ムルコトハ全ク吾人カ独立ノ権内ニ在ルハ蓋シ何人ト雖之ヲ否認スルモノナカルヘキナリ若シ吾人ニシテ世人ノ期待セル革新ノ範囲ヲ不当ニ減少萎縮セシムルニ於テハ世界ノ非難ハ吾人及吾人カ政府ノ上ニ集中スヘシ、蓋シ実際ノ進歩ヲ世人ノ眼前ニ発表シ知覚シ得ヘキモノタラシムル常設機関ヲ構成スルハ吾等カ人道ノ為ニ提供シ得ヘキ最大ノ革新ナリ」

塊地利洪牙利国委員ランマシュ君ハ其ノ政府カ常設裁判所ノ設置ニ同意セントスル旨ヲ宣言スルコト能ハサルモ「サア」ジュリアン、ポーンスフォート閣下ノ案ヲ以テ準備的討議ノ基礎ト為シ得ヘシト信スル旨ヲ陳述シタリ

ド、マルテンス君ハ常設仲裁裁判所ノ性質ノ自由ナルコト及仲裁裁判ニ関スル露国政府最初ノ諸提案ヲ引用シ以テ該政府意思ノ在ル所トヲ闡明セリ

「サア」ジュリアン、ポーンスフォート閣下モ亦其ノ提出案ニ於テ全然且明瞭ニ当事国ノ自由ヲ存置シタル旨ヲ弁明セリ

ホルス君ハ合衆国カ露国皇帝陛下ノ発意ニ対シテ熱心ナル同情ヲ表シタルハ何レノ国ニモ劣ラサル旨ヲ述ヘタル後常設裁判所設置ノ件ハ独リ人類ノ利益ト云ヘル高尚ナル点ヨリノミナラス実際上及経験上ヨリシテ必要ナルコトヲ主張セリ、君ハ輿論憂虞ノ状態ヲ證明シ且吾人ニシテ若シ常設仲裁裁判所ヲ設定セスシテ分袂スルニ至ラハ積極的ノ点ヨリ見レハ吾人ハ何等ヲモ成ササルニ帰着スヘシト論結シタリ

第二十條　外交上ノ手段ニ依リテ処理スルコト能ハサリシ国際紛議ヲ直ニ仲裁裁判ニ付スルニ便ナラシムルノ目的ヲ以テ記名国ハ何時タリトモ依頼スルコトヲ得ヘキ旦紛争国間ニ反対ノ規約ナキ限ハ本條約ニ掲ケタル手続ニ依リテ其ノ職務ヲ行フヘキ常設仲裁裁判所ヲ構成スルコトヲ約定ス

特別委員会ヨリ提出シタル案ノ第二十條（即本條）ハ二三些細ノ点ヲ除キ常設仲裁裁判所ニ関スル英国案第一條ヲ其ノ儘採用シタルモノナリ

本條ハ該裁判所設置ノ一般目的ヲ明白ニ定メタリ則チ「外交上ノ手段ニ依リテ処理スルコト能ハサリシ国際紛議ヲ直ニ仲裁裁判ニ付スルニ便ナラシムルコト」是ナリ

本條ハ又常設仲裁裁判所ヲ構成スヘシトノ記名国間ノ約束ヲモ包含ス

又本條ハ此新設制度ニ於テ遵守スヘキ一般ノ訴訟規則ヲ指定ス則チ第二十條乃至第三十條ニ於テ定メラレタル仲裁裁判所ノ組織ニ適応スヘキ仲裁裁判手続ノ章ニ掲ケタル規則是レナリ、但紛争国間ニ於テ他ノ規則ヲ協定スルノ権ヲ妨ケス

第二十一條　常設仲裁裁判所ハ紛争国ノ間ニ特別ノ裁判所ヲ設置スルノ協約アル場合ノ外一切ノ仲裁事件ヲ管轄スルモノトス

本條ハ二箇ノ点ヲ明ニ確定センカ為メ露国委員ヨリ提出シタルモノナリ則チ義務ニ基キテ依頼スル仲裁裁判タルト任意的仲裁裁判タルトヲ問ハス総テノ場合ニ対シテ常設仲裁裁判所カ汎ク一般ニ権限ヲ有スルコト及該裁判所ト区別アル特別ノ裁判所ヲ設定スルノ自由ヲ列国ニ保有セシメタルコト是ナリ

此規定ハ既ニ前ニモ掲ケタル「独立国ノ間ニ於ケル自由裁判所」ナル基本的格言ヲ国際法上ノ規則ニ化成セシメタルモノト云フヘシ

爰ニ伯爵デ、マセーゾ君ハ「他ノ特別裁判所ヲ設置センヨリハ寧ロ事情ノ許ス限リ記名国ハ常設仲裁裁判所ノ権ニ依

頼スルコトニ一致シタル」旨ヲ宣明スル一箇條ヲ採用センコトヲ発議シタリ此案文ハ大ニ同情ヲ以テ迎ヘラレタルモ其ノ本條約中ニ記入セラルルニ至ラサリシ所以ノモノハ蓋シ一方ニ於テハ各国ノ自由ニ対シ余リニ直接ノ働キヲ加フルコトヲ避ケント欲シ他ノ一方ニ於テハ第二十一條ニ依リ常設仲裁裁判所ノ一般権限ヲ確立シタル以上ハ列国ノ意思ノ存スル所ヲ表明シテ余リアリト信シタレハナリ

伯爵デ、マセーヅ君ハ此意見ニ全ク同意セシニハアラサリシモ強イテ其ノ発議ヲ固執セサルヘシト宣言セリ

第二十二條　海牙ニ萬国事務局ヲ設置シ仲裁裁判所書記局ノ事務ニ当ラシム

右事務局ハ裁判所ノ開廷ニ関スル通信ノ媒介者トス

事務局ハ記録ノ保管ヲ掌リ一切ノ行政事務ヲ処理ス

記名国ハ相互ノ間ニ定メタル一切ノ仲裁裁判規約ノ認證謄本竝其ノ当事者タル場合ニ特別裁判所カ下シタル仲裁宣告ノ認證謄本ヲ海牙萬国事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

記名国ハ仲裁裁判所ノ下シタル宣告ノ執行ヲ證明スルコトアルヘキ法律規則及文書モ亦同シク右事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

第一ニ紛争国ノ権利ニ重キヲ置クヘキモノナリト認メ而シテ此限界内ニ於テ第二十二條ノ一般規定及是等規定ノ効力ヲ補充スヘキ諸規則ニ依リ米国委員ノ表明シタル希望ニ充分正当ノ満足ヲ与ヘ得ヘキモノナリト思考シタリ

第二十三條　各記名国ハ本條約批准後三箇月以内ニ国際法上ノ問題ニ堪能ノ名アリテ徳望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意アル者四名以下ヲ指定スヘシ

右指定ヲ受ケタル者ハ仲裁裁判所裁判官トシテ名簿ニ記入シ事務局ヨリ之ヲ各記名国ニ通知スヘシ

仲裁裁判官ノ名簿ニ異動アル毎ニ事務局ヨリ之ヲ記名国ニ通知ス

二国若ハ数国相約シテ共同ニ一名又ハ数名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトヲ得

同一人ニシテ数国ヨリ指定セラルルコトヲ得

仲裁裁判官ハ其ノ任期ヲ六箇年トス但シ再任セラルルコトヲ得仲裁裁判所裁判官中死亡又ハ退職スル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

本條ノ基本的規定ハ是亦「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ノ提案第三條ニ掲ケタルモノニシテ各国ハ同数ノ仲裁裁判官ヲ指定シ其ノ指定セラレタル人ノ氏名ヲ仲

本條ハ英国案第二條ニ該当シ大部分ハ同案ヲ採録シタルモノナリ

英国案中「中央事務局」ノ名称ハ特別委員会報告者ノ請求ニ依リ「萬国事務局」ノ名称ヲ以テ之ニ代ヘタリ

常設仲裁裁判所書記局ノ事務ニ当ルヘキ萬国事務局ヲ海牙ニ設立スルノ提議ハ最モ熟心ナル同情ヲ以テ迎ヘラレタリ

特別委員会ハ一般若ハ特別ナル総テノ仲裁裁判所ノ運用ニ関スル最モ重要ナル記録類ヲ海牙ニ蒐集シ以テ一ノ豊富ナル保管所ノ如クナラシムルハ能フヘキノ事ト認メタリ

和蘭国委員アッセル君及露国委員マルテンス君ノ提出シタル二箇ノ規定ハ右ノ目的ヲ以テ特別委員会ノ採用スル所ト為リ第二十二條末尾ノ二項ト為レリ

斯クノ如キ方法ニ依リテ拡張セラルル海牙萬国事務局ノ記録部ハ最枢要ニシテ最有益ノモノト為ルヘシ

ローラン君ハ第四項中「謄本」ナル文字ニ「認證」ノ二字ヲ加ヘンコトヲ請求シ特別委員会ノ容ルル所ト為レリ

米国委員ハ裁判所書記局ノ供託ヲ受ケテ保管スヘキ書類ハ其ノ形式ノ何タルヲ問ハス汎ク諸般ノ種類ニ及フヘキモノト為サンコトヲ主張シタリ、特別委員会ハ本問題ニ就テハ裁裁判所員トシテ総名簿ニ記入スルモノナリ

今特別委員会ニ於テ原案即英国案ニ加ヘタル修正左ノ如シ

原案ニ於テハ各国ハ二名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトト為セルモ独逸国委員ツォルン博士ノ発議ニ依リ此数ヲ四名ニ増加セリ此條件ニ依リ各国ハ其ノ仲裁裁判ヲ委任セル者ニ多種ノ技能ヲ具備セシメントスルノ希望ヲ一層容易ニ達シ得ヘキナリ然ルニ各国ノ指定スヘキ仲裁裁判官ノ数ヲ増加スルコトニ就キテハ特別委員ノ多数ハ之ヲ喜ハス種々ノ点ヨリシテ其ノ実際ニ不便ナルコトヲ指摘シ伯爵デ・マセーヅ君ノ如キハ原案ノ数ニ復帰センコトヲ発議セリ然レトモ仲裁裁判官ノ数ヲ四人トスルコトハ結局調和ノ目的ヲ以テ承認セラレタリ

原案ハ仲裁裁判官ノ任期ヲ確定セサリシモ特別委員会ニ於テハ六箇年ノ期限ヲ付スルヲ以テ然ルヘシト信シ併セテ此委任期限ヲ更新シ得ヘキモノト為セリ

二国相約シテ共同ニ一名又ハ数名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトヲ得又同一人ニシテ数国ヨリ指定セラレ得ルコトヲ認メタリ

特別委員会ノ報告者ヨリ提出シタル以上ノ諸規定ハ比律悉議会院内会議ノ案ヨリ採用シタルモノナリ

仲裁裁判所裁判官中死亡又ハ退職スル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺スル而シテ「退職」ノ文字ハ汎ク一切ノ事故ヲ包含スル広義ノ意味ト解スヘキモノト認メタリ

スタンショッフ君ハ国籍ニ就テハ仲裁裁判官ノ選任ニ関スル各国ノ自由権ニ対シ本條中如何ナル制限ヲモ設定セラレサリシ旨ヲ特ニ言明セリ

第二十四條　記名国ハ其ノ相互ノ間ニ生シタル紛議ヲ処理セムカ為常設仲裁裁判所ニ訴ヘムト欲スルトキハ其ノ紛議ヲ裁定スヘキ当該裁判部ヲ組織スル仲裁裁判官ノ選定ハ仲裁裁判所裁判官総名簿ニ就テ之ヲ為スヘシ

仲裁裁判部ノ構成ニ関シ紛争国相互間ニ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半ハシタル場合ニハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ雙方ニ於テ各々異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

右ノ如ク仲裁裁判部ノ構成ヲ了リタルトキハ雙方ヨリ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ決意及仲裁裁判官ノ氏名ヲ事務局ニ通知ス

仲裁裁判部ハ雙方ノ定メタル期日ニ開廷ス

仲裁裁判所裁判官ハ外国ニ在リテ其職務ヲ執行スルニ方リ外交官ノ特権及免除ヲ享有ス

本條ハ「サア」ジュリアン・ポーンスフオート閣下ノ提案第四條第一項ニ該当シ該案中裁判所ヲシテ訴件ヲ受理セシムルマテノ手続ニ就テ稍ヤ変更ヲ加ヘタリ」

原案ニ依レハ裁判所ニ出訴セント欲スル諸国ハ其ノ旨ヲ萬国事務局書記官ニ通知シ書記官ハ該諸国ニ裁判所員ノ名簿ヲ送附シ次ニ該諸国ハ事件ヲ処理スヘキ仲裁裁判部ノ構成ニ着手スヘキモノト為セリ

然ルニ結局左ノ如キ諸規則ヲ採用スルヲ以テ優レルモノト認メラレタリ

仲裁裁判官ノ名簿ニ異動アル毎ニ事務局ヨリ之ヲ記名国ニ通知スルコト是即第二十三條第三項ニ掲ケタル所ナリ

各国カ其ノ相互ノ間ニ生シタル紛議ヲ処理センカ為ニ仲裁裁判所ニ訴ヘント欲スルトキハ右ノ方法ニ依リテ通知セラレタル総名簿中ヨリ仲裁裁判官ヲ選任スヘキコト

苟モ紛争国一致ノ協定ニシテ成立センカ仲裁裁判部ハ一挙シテ構成セラルヘク何等困難ノ存スルモノアルコトナシ

然レトモ萬一右ノ如キ協定ノ成立セサル場合ヲ豫想シテ仲裁裁判部ヲ構成シ得ヘキ確実ニシテ容易ナル方法ヲ決定シ置クハ極メテ重要ノ事ナリ

其ノ方法ノ第一則ハ特ニ明示スルマテモナク各紛争国ヲシテ同数ノ仲裁裁判官ヲ任命セシメ右ノ仲裁裁判官ヲシテ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定セシムルニ在リ而シテ該上級裁判官ノ任務ハ可否同数ノ場合ニ於テ重要ナルモノトス

右規則ハ適当ノモノナルモ未ダ全タシト謂フヘカラス何トナレハ上級仲裁裁判官ノ直接選定ニ付一致ノ成立セサル場合ニ関シ豫メ規定スル所ナケレハナリ於是乎第一則ノ補充トシテ直接選定ニ代フルニ協議ノ上指定セラレタル第三国ニ此選定ヲ委託スヘシトスル第二則ヲ必要トス

此規則亦可ナリ然レトモ尚ホ未タ不充分タルヲ免レス蓋シ第三国ヲ選定スルニ当リ当事国ノ一致ヲ得ル能ハサルコト有ルヘキナリ於是乎尚ホ補充的ノ性質ヲ有スル第三則ヲ必要トス

ランマシュ君ハ此場合ニ於ケル上級仲裁裁判官ノ選定ヲ中立国ノ国長ニ委託スヘキモノトナサンコトヲ発議セリ

特別委員会ハ露国委員ト其ノ意見ヲ同フシ此場合ニ於テ採用スヘキ最モ実際的ノ手段ハ各紛争国ヲシテ各々異リタル一箇国ヲ指定セシメ其ノ指定セラレタル国ニ共同シテ一人ノ上級仲裁裁判官ヲ任命スルノ権ヲ委託スルニ在リト認メタリ

仲裁裁判ニ関スル右ノ手続ハ恰モ特別居中調停ニ就キホルス君ノ発議ニ由リテ採用セラレタル手続ニ該当シ理論上間然スル所ナシトハ謂フヘカラサルモ能ク実際上ニ豫期シ得ヘキ萬般ノ場合ニ適応スヘキモノト認メラル

以上直接ノ協定ナキ場合ニ於ケル仲裁裁判官選定ノ諸規則ハ後ニ仲裁裁判手続ノ條項ニ掲ケタルモノト全ク同一ナリ

男爵ド・ビルト君ハ仲裁裁判官ノ選任スヘキ上級仲裁裁判官ニ関シ場合ニ依リテハ之ヲ除斥スル権ヲ各国ニ賦与センコトヲ発議シ之カ為ニ左ノ如キ修正案ヲ提出シタリ

「雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

但シ右ノ選定ニ就キテハ紛争国ノ認可ヲ請フヘク紛争国ハ雙方共ニ理由ヲ示サスシテ之ヲ除斥スルノ権ヲ有ス

選定ニ関シ投票相半ハシタル場合若ハ除斥ノ場合ニ於テハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス」

右ノ如キ方法ヲ積極的ニ確認スルハ不便ナキコト能ハス特別委員会ハ之ヲ以テ紛争国ノ権利ヲ防護スル為メ実際必要ナラスト認メタリ

尚ホ又アッセル君及ホルス君ハ仲裁裁判部ノ構成ニ至ルマテハ仲裁裁判官タルモノハ各其ノ政府ノ委任者ト看做サレサルヘカラサルモノナリト主張シ男爵ビルト君ハ右ノ解釈ニ同意ヲ表シタリ

仲裁裁判所裁判官ニ与フルニ其ノ職務ノ執行中外交官ノ特権及免除ノ享有ヲ以テスルノ提議ハ原案ニ対スル適好ノ追加ト認メラレタリ則チ之ニ依リテ仲裁裁判官ノ高貴ナル地位ヲ顕揚シ且其ノ缺クヘカラサル威厳ヲ発揮スルノ利益アリ

白耳義国委員ド・グレル・ロジエー君ハヨンクヘール・ファン・カルネベーク君ノ賛成ヲ得テ右追加條項適用ノ範囲ノ明確ニ限定セラレンコトヲ請求シタリ依テ外交官ノ特権及免除ノ享有ハ仲裁裁判官カ実際ニ裁判官タルノ任務ヲ執行スルトキニ限ラルヘク従テ外国ニ在ル仲裁裁判部裁判官ニ本條ハ概括的ニ仲裁裁判所ノ所在地ヲ定メタル第三十六條ト相対応ス

第二十六條　海牙萬国事務局ハ其ノ庁舎及局員ヲ記名国ノ為特別仲裁裁判所ノ用ニ供スルコトヲ得

常設仲裁裁判所ノ管轄ハ雙方ニ於テ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ協定シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ従ヒ之ヲ非記名国間又ハ記名国ト非記名国トノ間ニ生シタル紛議ニ及ホスコトヲ得

本條第一項ハ「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下及アッセル君ノ発議ニ成レル新規定ニシテ特別裁判所ヲ構成シタル各国ニ許スニ其ノ望ニ由リ海牙ニ設置セラレタル庁舎及同処ニ於テ執務セル局員ヲ使用シ得ルコトヲ以テセリ本條約ニ記名セサル諸国ハ特別裁判所ヲ構成スルトモ右ト同一ノ便宜ヲ享有セサルモノナリ然レトモ非記名国ノ為ニモ尚ホ常設仲裁裁判所ノ裁判権ニ依頼スルノ途ヲ設クルヲ以テ宜シトス既ニ「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ノ案ハ此場合ニ就キ概括的ノ規定ヲ掲クタルモルノール君ノ修正ニ依リ之ヲ下文ノ如ク限定シタリ曰ク「常設仲裁裁判所ノ管轄ハ雙方ニ於テ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ協定シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ従ヒ之ヲ非記名国間

非レハ此享有ヲ認メラレサル旨宣言セラレ之ヲ法文中ニ明定セリ

「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ハ仲裁裁判官ニシテ其ノ任命後仲裁裁判所所在地ニ向テ赴任中ノ者及其ノ職務ヲ終リタル後帰国ノ途ニ在ル者ニモ尚ホ外交官ノ免除ヲ賦与シ得ヘシト論定シタルモ此点ハ寧ロ国際礼式ノ実際ニ屬スルモノト認メラレタリ

第二十五條　仲裁裁判部ハ通常之ヲ海牙ニ設置ス

仲裁裁判部ハ不可抗力ノ場合ノ外雙方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ其ノ所在地ヲ変更スルコトヲ得ス

本條ハ「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ノ案第四條第三項ニ該当シ、仲裁裁判部ノ開設地ヲ通常海牙ト定メ且該裁判部ニ許スニ紛争国ノ承諾ヲ経テ其ノ他ノ場処ニ開設スルコトヲ以テセリ而シテ尚ホ亦不可抗力ノ場合ニ於テハ裁判部自ラ所在地変更ヲ行フノ権ヲ認メラル

原案ニ於テハ仲裁裁判部ニ認ムルニ「事情又ハ便宜ノ為メ若ハ紛争国ノ便宜ニ応シテ」其ノ所在地ヲ変更スルノ権ヲ以テシタルモ所在地変更ノ決定権ヲ斯クノ如ク全然紛争国ノ関与以外ニ置クヲ不可トシ則テ紛争国雙方ノ承諾ヲ経ヘキ規則ヲ認ムルヲ以テ必要ト信シタリ

又ハ記名国ト非記名国トノ間ニ生シタル紛議ニ及ホスコトヲ得」ト

ルノール君ハ尚右ノ場合ニ於ケル手数料額ニ関シ料金表ヲ制定スルコトニ就キテハ全ク之ヲ常設評議会ノ自由ニ一任シ置クヲ以テ適当ナラント論シ伯爵ニーグラ閣下ハ出来得ル限リ汎ク仲裁裁判所ノ門戸ヲ開放シ置クヘシトノ意見ヲ陳述シタリ

第二十七條　記名国ハ其ノ二国又ハ数国ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラムトスル場合ニハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ紛争国ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認ム故ニ記名国ハ紛争国ニ向テ本條約ノ規定アルコトヲ注意シ且平和ノ大切ナル利益ヲ保タムカ為常設仲裁裁判所ニ訴フヘキコトヲ勧告スルハ全ク周旋ノ行為ニ外ナラサルモノト看做スヘキコトヲ宣言ス

本規定ハ仏国委員ノ発議ニ係リ特別委員会全員ノ同情ヲ以テ迎ヘラレタリ」相互ノ間ニ重大ナル不和ヲ生シタル二個国ニ対シ多クノ場合ニ於テ其ノ仲裁裁判ニ依頼スルコトヲ阻害スヘキ障礙物ハ他ニアラス与論ノ現状即是ナリ

故ニ仲裁裁判ニ依頼スルノ困難ナルニ従ヒ益々其ノ依頼ヲ望マサルヲ得サル場合ニ対シ豫メ其ノ途ヲ開キ置クハ平和

ノ利益ヲ維持センカ為メ最モ緊要ノ事タリ

苟クモ平和会議ニシテ結果ノ豊富多望ナル一事業ヲ為スニ意アラハ宜シク此実際的方面ヨリシテ平和問題ヲ観察セサルヘカラサルナリ

於是乎各国カ或時期ニ於テ激烈ナル紛争ニ陥リタル場合ニ本條約ノ規定ノ存在ト何時ニテモ常設裁判所ニ依頼スルノ途アルコトヲ注意スルノ国際的委任ヲ明瞭ニ限定セラレタル範囲内ニ於テ海牙事務局ニ賦与スルハ果シテ出来得ヘキノ事ナルカ

男爵デツールネル・ド・コンスタン君ハ之ヲ以テ権利ノ執行ヨリモ一歩ヲ進メ寧ロ尽クスヘキ義務ナリトノ意見ヲ固執シ此義務ヲ履行シテコソ始メテ海牙條約ノ無形上ノ価値ト勢力トヲ完全ナラシメ得ヘシト主張シ依テ左ノ規定ヲ採用センコトヲ特別委員会ニ提議セリ

「記名国ハ其ノ一国又ハ数国ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラムトスル場合ニハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ紛争国ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認メ右ノ場合ニ於テ各紛争国ノ和蘭国駐在代表者ニ対シ何時ニテモ其ノ申込ヲ受クヘキ旨ヲ文書ヲ以テ通知スルノ権ヲ事務局書記官長ニ委任ス

此ノ委任権ノ行使ヲ以テ友誼ニ戻レルモノト看做スコトヲ得ス」

右提案ノ趣旨ハ恰モ自働的機関ヲ設定スルカ如キ利益ヲ有シ而シテ此機関ノ運動ハ微弱ナリト雖モ確実ニシテ能ク紛争国ノ猜疑ヲ招クコトナク希望ノ目的ヲ達スルニ適セルモノノ如シ

然レトモ他ノ点ヨリ観察スレハ該案モ亦缺点ナキ能ハス特別委員会ハ遺憾ナカラ之ヲ廃棄セサルヘカラスト信シタリ

右ノ国際的委任ヲ原則トシテ中立国ニ与フヘシトノ観念モ亦容易ナラサル抗論ヲ生シタリ

特別委員会議長レオン・ブールジョア君ハ男爵デツールネル・ド・コンスタン君ノ提案ヲ可トシ得ルノ理由ヲ指定シ更ニ同一ノ目的ヲ他ノ方法ニ依リテ達シ得ル旨ヲ注意セリ、他ノ方法トハ則チ本條約第三條ニ定メタル周旋ヲ提供スルノ権利ヲ此特別ノ場合ニ応用スル是レナリ、而シテ尚ホ此提供ノ行為ニ附スルニ義務タルノ性質ヲ以テスルノ特ニ重要ナル所以ヲ論述セリ

蓋シ右ブールジョア君ノ提議タル伊国第一委員伯爵ニーグラ閣下カ嘗テ特別委員会開会ノ始メ居中調停ニ関シテ提出シタル原則ヲ更ニ拡張シタルモノト云フヘク而シテニーグラ閣下ノ真意ト雖モ必スヤ其ノ原則ヲ仲裁裁判ニマテ及ホサントスルニ在リタルヤ亦疑ヲ容レサル所ナリ

ブールジョア君ノ提議ニ対シ最初ハ多少異見ヲ懐キタル者アリシニモ拘ラス特別委員会ハ遂ニ全員一致ヲ以テ之ヲ可決シ以テ第二十七條ヲ制定スルニ至レリ、蓋シ特別委員会ハ斯クノ如キ重大ナル案件ノ眼前ニ横ハレルニ当リ須ラク努力奮励シ以テ列国ガ海牙会議ニ於テ遂行スル事業ト直接関係アル高貴有要ノ任務ヲ尽スノ道途ニ勇進ヲ試ミサルヘカラサルモノト信シタリ

第二十七條ノ討議ハ委員会ニ於テ特ニ高論雄弁百出ノ状況ヲ呈シタリ

ベルヂマン君及ヴェリコヴィッチ君ハ「其ノ義務ナリト認ム」トアルヲ「有益ナリト認ム」ニ変更センコトヲ提議シタリ

ベルヂマン君ハ右ノ修正説ヲ以テ羅馬尼亜国政府ノ賛成シタル任意的仲裁裁判ノ主義ニ適従スルモノト為セリ

ヴェリコヴィッチ君ハ亦塞爾比亜国政府カ義務的仲裁裁判ノ主義ニ対シテ同情ヲ有スル旨ヲ確言シ第二十七條ノ規定ハ第一條及第三條ノ存在スル以上ハ其ノ必要ヲ見ルコトナカルヘク又該規定事項タル許多ノ保留ヲ要スヘキ難問ニ係リ加之ナラス結局大小ノ国ニ対シテ不同ノ適用ヲ来タスヘキモノナルヲ以テ寧ロ全ク其ノ規定ナキノ優レルニ若カスト論述シタリ

男爵デツールネル・ド・コンスタン君ハ亦本件ニ就キ各国ハ啻ニ権利ヲ有スルノミナラス進ンテ義務ヲ有スル旨ヲ明言スルノ必要アルコトヲ論述セリ

ニーグラ伯爵閣下ハ本会議カ全然同等ナル各国政府ヲ代表シ相互ニ独立不羈ノ態度ニ依リテ協議シ以テ平和ノ為ニ有要ナル一事業ヲ成効セントノ唯一ノ希望ヲ抱キテ相会シタル代表者ヨリ成立セルモノタルコトヲ弁明シ以テ原案ノ維持ニ力メタリ

博士ツォルン君ハ独逸国政府カ義務的仲裁裁判ニ関スル提議ニ賛同スルヲ得スト認メタル理由ヲ報告シタル後独逸国ハ平和ノ為ニ其ノ全力ヲ尽サンコトヲ欲シ且此趣旨ニ依リ同国ハ第二十七條ニ対シテ何等ノ異議ヲモ挟マサルコトヲ宣言シタリ

オデエー君ハ新時代ニハ必スヤ之ニ相応スル新義務在リ則チ今日ノ時代ニ於テハ中立国タルモノハ新熟語ノ所謂「平和管理者」クラサル可ラストノ趣旨ヲ述ヘタリ

ホルス君ハ各国ヲ結合スル連帯的責務ノ存在ヲ識認スル以

上ハ其ノ当然ノ推論トシテ各国ノ徳義上ノ一義務ヲ確認スルノ有要ナル旨ヲ説クリ

スタンショッフ君ハ若シ常設裁判所ノ存在スルコトヲ注意スルヲ以テ一ノ義務ナリト認ムル以上ハ（而シテ此義務ハ必ス善事タルニ相違ナシ）宜シク之カ履行ノ方法ヲ指定セサルヘカラスト主張セリ

委員会議長レオン・ブールジョア君ハ第二十七條ノ範囲ヲ精確ナラシメンカ為メ「第二十七條ニ於テ豫期セル紛議ハ平和ヲ危フカラシムヘキモノヲ指スモノ」タルコトヲ弁明シ且曰ク「塞爾比亜国委員ハ強国カ弱国ノ事務ニ干渉ヲ試ミル為ニ第二十七條ヲ濫用スルノ虞アルヘキコトヲ憂慮セラレタルカ如キモ若シ一国ニシテ斯クノ如キ挙動ニ出テンカ独リ其ノ第二十七條ヲ援用スルノ権利ヲ有セサルノミナラス斯クノ如キ行動ハ寧ロ同條ノ目的ト精神トニ全然反対スルモノナリト断定セサルヘカラス若シ同條ニシテ斯クノ如キ結果ヲ惹起シ得ヘキモノトセハ吾人ハ曾ニ之カ発案ノ労ヲ執ラサリシノミナラス縦令他人ヨリ之ヲ提出シタリトモ極力之ヲ攻撃シ以テ之ニ可決ノ投票ヲ為スコトヲ拒否スヘキナリ」ト

尋テ議長ハ第二十七條ノ実際上ノ必要ヲ論定シ「本條約ノ

第一條ニ記名国ハ国際紛議ヲ平和ニ処理スルコトニ全力ヲ竭サムコトヲ約定スト言ヘル原則ヲ仲裁裁判ノ為ニ再掲スルノ必要ナル旨」ヲ弁明セリ蓋シ此原則ハ既ニ周旋及居中調停ノ提供ニ関スル條文ニ於テ其ノ第一回ノ適用ヲ見タリ第二十七條ハ同一原則ヲ再ヒ適用スルモノニ外ナラス

議長ハ更ニ語ヲ継テ曰ク「然レトモ此規定タル曾ニ実際上ノ利益ニノミ止マルモノニアラス吾人カ斯ク熱心ニ之ヲ弁護スルニ決心シタル所以ノモノハ蓋シ我平和会議ノ結了後日月ヲ経ルニ従ヒ該規定カ徳義上ニ於テモ亦偉大ノ利益アルコトヲ認メラルルニ至ルヘシト深ク信スルニ由ラスンハアラス蓋シ第二十七條カ徳義上ニ貢献スル所アルノ證左ハ其ノ規定カ人類ノ平和ヲ維持スル為ニ各国間共通ノ義務ノ存在ヲ承認シ確定シタルノ一事ヲ以テ之ヲ表示シテ余リアリトス抑モ此平和会議ハ理論家及哲学者カ自己単独ノ責任ヲ以テ自由ニ討議スル場処ニ非スシテ殆ト総テノ文明国ノ政府カ公然代表セラルル一ノ公会タルニ於テハ此会議ニ於テ此国際義務ノ存在ヲ宣言シ之ニ依リテ此義務ノ観念カ将来常ニ各国民ノ良心ニ存留シ永ク各国政府及各国民ノ行為ヲ支配シ得ヘキコトヲ思ハハ誰カ此徳義上ノ利益ヲ些細ナリト為スモノアランヤ

斯クノ如キ国際的制度ハ強者ニ対スル弱者ノ保障ナリ、腕力ノ争ニ於テ筋肉ヲ鍛ヘ鋼鉄ヲ装ヒタル兵士ヲ戦線ニ配置スルニ当リテハ則チ大国小国強国弱国ノ区別アルヘシ、今夫レ権衡ノ両皿ニ上スニ剣ヲ以テセハ其ノ一方或ハ重ク他ノ一方或ハ軽キコトアルヘキナリ然レトモ之ニ上スニ理想ト権利トヲ以テセンカ不平等即チ息ミ極小極弱ノ権利ト最大者ノ権利ノ重量トハ正ニ相平均スヘキナリ

吾人カ案文ヲ起草シタルハ実ニ右ノ精神ニ基キ特ニ弱者ノ為ニ深ク考慮ヲ費セリ冀クハ吾人カ真意ノ在ル所ヲ理解シ人類ノ将来ヲ処理スルニ就キ益々法律ノ力ニ依ルコトヲ得セシメンカ為ニ吾人ノ拮据経営シタル所ニ替同シ以テ吾人ノ希望ヲシテ空シカラシメサランコトヲ」ト

右ノ演説畢ルヤ全会ノ拍手ハ暫ク止マス尋テ第二十七條全部ハ全会一致ヲ以テ維持可決セラレタリ

第二十八條　少クトモ九箇国ニ於テ本條約ヲ批准シタル後ハ成ルヘク速ニ常設評議会ヲ海牙ニ設置シ同府ニ駐剳スル記名国ノ外交代表者及和蘭国外務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ和蘭国外務大臣ヲ推シテ其ノ議長トス

評議会ハ萬国事務局ヲ創設組織スルノ任務ヲ有シ並之ヲ指揮監督ス

評議会ハ仲裁裁判所ノ構成ヲ各国ニ通知シ及其ノ開庁ノ設備ヲ為ス

評議会ハ其ノ事務章程及其ノ他必要ナル諸規則ヲ定ム

評議会ハ仲裁裁判所ノ職務執行ニ関シテ生スルコトアルヘキ行政事務上一切ノ問題ヲ決定ス

評議会ハ俸給及手当ヲ定メ並全般ノ経費ヲ監督ス

評議会ハ正当ニ招集セラレタル会合ニ於テ五名以上ノ出席者アルトキハ有効ノ評議ヲ為スコトヲ得決議ハ投票ノ多数ニ依ル

評議会ハ其ノ制定シタル諸規則ヲ速ニ記名国ニ通知シ且毎年仲裁裁判所ノ事業行政事務ノ執行及経費ニ関スル報告書ヲ記名国ニ提出ス

英国委員ノ原案ニ於テハ仲裁裁判所開設地トシテ選定セラレタル国ノ政府ヲシテ評議員五名及書記官一名ヨリ成リ且萬国事務局ヲ創設構成シ並仲裁裁判所執務上ノ問題ヲ処理スルノ任務ヲ有スル常設評議会ヲ任命セシムヘキコトヲ規定セリ

然ルニ右制度ノ利害討論中「サア」ジュリアン・ポーンス

フォート閣下ハ更ニ原案ニ対スル修正案ヲ提出シ右ノ常設評議会ハ海牙ニ在留スル記名国ノ外交代表者ヲ以テ組織シ和蘭国外務大臣ヲ以テ之ニ議長タラシムヘシト発議シ此良好ナル改正案ハ全会ノ同意スル所トナレリ

而シテ右修正案中「海牙ニ在留スル」ノ語ニ就キテハ男爵ビルト君ノ発議ニ依リ一層意義ノ広キ「海牙ニ駐剳セル」ナル語ヲ以テ之ヲ換ユルコトトナレリ、但シ海牙ニ在留セサル外交官ハ一切ノ通知特ニ招集状ハ海牙宛ニテ差出シ得ヘキ様豫メ常設評議会ト打合セ置クヘキモノトス

其ノ他評議会ノ構成ニ関スル原案ノ趣旨ハ大半採用セラレタルノ外尚ホ該評議会ノ任務トシテ仲裁裁判所ノ構成ヲ各国ニ通知シ及其ノ開庁ノ設備ヲ為スノ件ヲモ新ニ加ヘタリ

此種新任務ニ関スル条項ハ常設仲裁裁判所ノ高貴ナル品位ヲ一層発揚スルモノナラサルハナク又海牙ニ於ケル各国外交代表者ニ格段ノ権力ト威信トヲ与フルモノナリ

伯爵ヴェルセルスハインブ閣下ハ特ニ評議会カ仲裁裁判ノ職務執行ニ関シテ有スル権限ノ点ヨリシテ評議会ノ主トシテ行政機関タル性質ヲ明カニセリ

評議会ハ常設評議会ノ名称ヲ有スヘキモノトス

評議会カ其ノ制定シタル諸規則ヲ各国ニ通知スルモ之ニ依リテ該規則ニ対シ各国ノ承認ヲ求メントスルモノニアラス

又常設評議会ハ少クトモ九箇国ニ於テ本条約ヲ批准シタル後ハ成ルヘク速ニ設置セラルヘキモノト定メラレタリ

第二十九条　萬国事務局ノ経費ハ萬国郵便聯合事務局ノ為ニ定メタル比例ニ依リ記名国ニ於テ之ヲ負担ス

萬国郵便聯合事務局ノ経費ニ関シ各国ノ採用シタル分配規則ハ公平ナルモノト看做サレ其ノ後屢々類似ノ条約ニ適用セラレタリ

特別委員会ハ爰ニモ亦其ノ適用ニ毫モ困難ヲ生セサル右ノ規則ヲ単純ニ採用スルヲ以テ最良ノ決定ト認メタリ

第三節　仲裁裁判手続

現今仲裁裁判手続ニ関シ各国協同ニテ承認シタル一般法規ハ存在セス是レ渋滞、不確実、故障等ノ続出シ以テ仲裁者ニ附託セラレタル事件ノ良好迅速ナル処分ヲ阻害スル所以ナリ右ノ欠点ハ個々ノ特別仲裁裁判条約ヲ以テ或ル程度マテ之ヲ補ヒ得ルハ疑ナキ所ニシテ且実際国際仲裁裁判ノ歴史上此目的ヲ達シ得タル規定少ナカラスト雖モ仲裁裁判ニ依頼スヘキ場合益々増加シ諸条約中ニ於ケル仲裁約款ノ益々拡張セラルルニ従ヒ仲裁者ノ遵守スヘキ手続ニ関シ一般原則ノ欠缺セルコトハ益々憂フヘキ結果ヲ生スルニ至ルヘシ

国際法学会ハ曩ニ此方面ニ向テ先鞭ヲ著ケ千八百七十四年「ジェネヴァ」ニ於テ仲裁裁判手続法案ヲ制定シタル後千八百七十五年四月二十八日海牙ニ於テ確然此案ヲ採用シ之ニ附スルニ左記ノ前文ヲ以テセリ

「本学会ハ文明国民カ国際紛争ヲ結了スル為ニ益々仲裁裁判ニ依頼センコトヲ切望シ仲裁裁判所ノ為ニ次ノ仮規則ヲ提議シ以テ此進歩ノ実行ニ裨補センコトヲ欲シ仲裁裁判条約ヲ締結セントスル諸国ニ向テ此規則ノ全部若ハ一部ノ採用ヲ勧告スルモノナリ」

仲裁裁判手続法規ノ制定ハ国際法学会ノ事業中頗ル顕著ナルモノニ属ス爾後法律学ノ諸大家続々之ヲ補充シ過去二十五年間ニ於ケル国際仲裁裁判ノ実行ハ益々其ノ開発ヲ助ケタリ今ヤ学術ト経験トノ二重ノ根拠ニ依リテ仲裁裁判事件ノ審理及判決ニ関スル規則一篇ヲ承認シ得ヘク而シテ此規則ハ必ス一般ノ賛成ヲ買フニ足ルモノナルヘシ

此種ノ規則ノ範囲ハ単ニ基本タル諸点ニ止メサルヘカラス若シ詳細ニ失スルトキハ必ス故障ヲ生シ且危険ナルヘシ然レトモ其ノ適当ナル限界ヲ踰ヘサルニ於テハ屢々突然ニ事件ヲ受理スルコトアルヘキ仲裁裁判所ノ為ニ重要ノ任務ヲ為スコトアルヘシ加之ナラス是等ノ規則ハ孰レノ場合ニ於テモ補助的規則タルノ性質ヲ失ハス従テ紛争国ハ何時ニテモ任意ニ之ヲ取捨変更スルコトヲ得ヘシ

特別委員会ハ仲裁裁判手続ヲ制定スルニ当リ露国委員ヨリ平和会議ニ提出シタル仲裁裁判法典案（第七回会議議事録附属書イ号第四）ヲ以テ原案ト為セリ該法典ハ斯道ノ専門家就中国際仲裁裁判制度発揮ノ功績顕著ナル法律家ニ依リテ起草セラレタルモノナルヲ以テ賢明ナル経験ノ證印ヲ有スルヤ亦疑ヲ容レサルナリ而シテ其ノ規定ハ現ニ大不列顛国及「ヴェネズェエラ」国間ノ紛争ヲ処理スル為ニド、マルテンス君ヲ議長トシ巴里ニ開設セル仲裁裁判所ノ採用シタル仲裁裁判訴訟規則（第七回会議議事録附属書イ号第五）ト或点ニ於テ最モ相近似スルモノトス

第三十條　仲裁裁判ノ発達ヲ助クルノ目的ヲ以テ記名国ハ紛争国カ別段ノ規則ヲ協定セサル場合ニ於テ仲裁裁判手続ニ適用スヘキ左ノ規則ヲ定ム

本條ハ露国提出案第十九條ニ該当ス露国提出案ノ同條ハ此種ノ規則ニ二様ノ性質ヲ指定スルヲ以テ目的トセリ

右二様ノ性質トハ仲裁裁判ノ依頼ヲ容易ナラシムヘキ補助的規則タルコト及紛争国ノ一致ヲ以テ何時ニテモ変更シ得ヘキ任意的規則タルコト是ナリ

本條約第三節ニ於テモ亦右二様ノ趣旨ヲ襲踏セリ

第三十一條　仲裁裁判ニ依頼スル諸国ハ其ノ係争事件ノ趣旨並仲裁裁判官ノ権限ヲ明瞭ニ確定シタル特別條約（仲裁契約）ニ記名ス右條約ハ雙方ニ於テ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

国際仲裁裁判條約ハ既ニ生シ若ハ将来生スルコトアルヘキ国際紛議ヲ紛争国ノ選定シタル裁判官ヲシテ法律的ニ処理セシムル為ノ国際協約ナリ

右ノ條約ハ仲裁裁判ニ付託セラルヘキ紛議ト其ノ紛議ヲ処理スルノ任ヲ負ヘル裁判所トヲ明確ニ指定スルモノトス

将来生スルコトアルヘキ紛議ハ其ノ種類ヲ指示セラルルニ依リ充分確定スヘク又仲裁裁判所ハ其ノ構成手続ヲ指定セラルルニ依リ確定スルモノトス

当事国カ将来生スルコトアルヘキ紛議ノ為ニ仲裁裁判條約ヲ締結スルニ当リテハ実際仲裁裁判ニ依頼スヘキ各場合ニ対シ其ノ依頼スヘキ紛議ノ範囲ニ入ルヘキ諸点並仲裁裁判官ニ賦与スヘキ権限ニ就キテハ後日更ニ特別條約ニ依リテ更ニ一層適当ナルヘシト認メ則チ千八百九十八年七月二十三日伊太利亜爾然丁間一般仲裁條約第二條ニ掲ケタル條文ト最モ近似ノモノト為スニ至レリ

露国案中仲裁契約ニ於テハ「当事者雙方共仲裁宣告ニ対シ善意ヲ以テ服従スル旨ノ約束ヲ掲クヘシ」トノ規定ハ亦本案第三十一條下半部ノ規定ト為レリ然ルニ此件ニ関シテハ本案第十七條及第十八條ニ於テ既生ノ紛議ノ為ニ締結セラルル仲裁裁判條約ニ関シ同一ノ趣旨ヲ掲ケタル以上ハ第三十一條ニ於テモ亦故ラニ特異ノ字句ヲ使用スル理由ナキモノト認メラレタリ

於是乎特別委員会ハ第三十一條ニ於テ第十八條ト同一ノ字句ヲ採用スルコトトシ「右條約ハ雙方ニ於テ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス」ト規定シタリ

第三十三條　仲裁ノ職務ハ双方ニ於テ随意ニ指定シ若ハ本條約ニ依リテ設置シタル常設仲裁裁判所ノ裁判官中ヨリ雙方ノ選定シタル一名又ハ数名ノ仲裁者ニ委託スルコトヲ得

紛争国相互間ニ仲裁裁判所ノ構成ニ関シ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半ハシタル場合ニハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ雙方ニ於テ各々異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

本條ハ多数ノ仲裁裁判官ヲ以テ裁判所ヲ組織セントスルニ当リ先ツ種々ノ手段ヲ尽スモ其ノ協議纏リ難キ場合ニ対シ仲裁裁判所構成ノ最良方法ヲ決定スルヲ重モナル目的トスルカ故ニ極メテ重要ノ箇條ナリトス

仲裁裁判官選定ノ事タル紛争国利害ノ最モ繋ル所ナリ

今仲裁裁判官ノ数ヲ単ニ一名ニ止マルモノトセハ其ノ付託事件ノ重大ナル場合ニ於テハ責任ノ重キニ失スルノ虞アルヘシ況ンヤ現今ノ実際上仲裁裁判ノ既判事項ニ対シ上告ノ途ナキニ於テヲヤ

於是乎紛争国雙方カ単数裁判官ノ制ヲ避ケ合議裁判官ノ制ヲ選定セントスルニ当リテヤ其ノ構成上協議或ハ全然成立スルコトアルヘク然ルトキハ能ク一切後日ノ紛議ヲ豫防シ得ヘシ然レトモ右仲裁裁判所ノ構成ニ関シ紛争国間ニ直接ノ協定ヲ得サル場合ニ対シ其ノ構成上ノ準則ヲ定メ置クノ

明定スルコトアルヘキ旨ノ保留ヲ為スコトヲ得

当事国ハ亦仲裁裁判官ノ任命ニ至ル為メ最後ノ必要処分ヲ為スコトアルヘキ旨保留スルヲ得ヘシ

当事国カ所謂仲裁契約ヲ締結スル時換言スレハ或ル既生ノ紛議ヲ仲裁裁判ニ依リ処理スヘキコトヲ協約スルニ当リ該條約中ニ於テ仲裁裁判官ニ付託スヘキ諸点及之カ審理ヲ為スヘキ裁判所ノ構成方法ヲ明瞭ニ確定スルハ当事国ノ義務ナリトス

原案即露国提出仲裁裁判法典案ニ於テハ仲裁契約ノ該二要素ヲ別々ノ個條ニ掲記セリ

右ノ第一要素ヲ缺クニ於テハ其ノ仲裁契約ハ全ク基礎ヲ失フモノタルヘシ、是ニ関スル仲裁裁判法典案第二條ニ於テハ「仲裁者ノ裁定ニ附シタル問題及之ニ関聯セル事実及法律点ノ全部」ヲ云々ト規定シタルモ該規定ニ就キテハアッセル君ノ異議ヲ唱ヘタルアリ特ニ仲裁契約ニ於テ「仲裁裁判官ノ裁定ニ附セラレタル問題ニ関聯セル事実ノ全部」ヲ指定スル如キハ望ムヘカラサル事ナリト蓋シ寧ロ之ヲ「仲裁裁判官ノ裁定ニ附セラレタル事実点及法律点」ト規定スルノ可ナルニハ若カサルヘク而シテ特別委員会ニ於テハ「係争事件ノ趣旨並仲裁裁判官ノ権限」ト規定スルヲ以テ

必要アリトス是即第三十二條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ此規定ハ全ク第二十四條ニ掲ケタルモノト異ナルコトナク之カ要旨ハ既ニ同條ノ下ニ於テ一言シタル所ナリ

第三十三條　君主其ノ他国ノ元首ニシテ仲裁者ニ選定セラレタルトキハ仲裁裁判手続ハ仲裁者自ラ之ヲ定ム

選定セラレタル仲裁者カ国ノ元首ナルトキハ其ノ尊貴ナル地位ニ対シ之カ裁定以外ノ裁判手続ヲ執行スヘキモノニアラス第三十三條ハ則チ此原則ヲ確立シタルナリ

第三十四條　上級仲裁裁判官ハ当然裁判長タルヘシ

仲裁裁判所ニ上級仲裁裁判官ナキトキハ裁判所自ラ其ノ裁判長ヲ指定ス

裁判長ノ職務任補ノ問題ヲ特殊ノ條項ニ於テ完全ニ決定シ置クヲ必要ト認メタリ

仲裁裁判所ニ上級仲裁裁判官在ル場合ニハ之ヲ以テ当然裁判長ニ充ツルコトヲ要ス

反対ノ場合ニ於テハ裁判長ノ選任ハ之ヲ仲裁裁判所ニ一任スルヲ可トス

第三十四條ハ右二種ノ原則ヲ確立シタルナリ

本條ニ対シ羅馬尼亜国委員パピニウ君ハ偶数ノ仲裁裁判官ヲ以テ仲裁裁判部ヲ構成スル場合若ハ判決ノ際偶然是ト同様ノ状態ヲ来タシタル場合ニ諸種ノ難問ヲ生シ得ヘキコトニ就キテ委員会ノ注意ヲ喚起セリ

委員会ハ勿論奇数ノ仲裁裁判官ヲ以テ裁判所ヲ構成スルヲ全然重ンスヘキコトナリト認メタルニ依リ既ニ本條約ニ掲ケタル一般ノ構成方法ニ於テモ始メヨリ此方針ヲ採用シタルナリ

第三十五條　仲裁裁判官中死亡シ辞職シ又ハ原因ノ如何ニ拘ハラス故障ヲ生シタル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

仲裁裁判官ノ死亡シ辞職シ又ハ特別ノ源因ニ依リ故障ヲ生シタルトキニ如何ノ結果ヲ付スヘキヤノ問題ハ特別委員会ニ於テ盛ニ討議セラレタリ

露国案ニ於テハ此場合ニ対シ紛争国間ニ豫メ締結シタル反対ノ規約ナキ限リハ仲裁契約ノ全部ヲ無効タラシムヘシト為セリ

而シテ右ノ規定ヲ可トスル者ハ曰ク仲裁裁判官ノ選定ハ一身上ノ信用ト密接ノ関係ヲ有スルニ由ルト、又代理人缺欠シタルトキハ代理関係ハ最早存在スルモノニアラストノ法律論ヲ援用シ、仲裁裁判ノ手段ニ倚ルコトヲ約束シタル国ニ最モ大ナル保障ヲ与ヘンカ為ニ其ノ必要ナル所以ヲ論スル者アリ

又一説ニ依レハ上級仲裁裁判官ハ仲裁裁判権ノ執行上特ニ重要ノ任務ヲ執ル者ナルヲ以テ少クトモ其ノ死亡シ辞職シ又ハ故障アル場合ニ就テハ露国委員ノ発議シタル規則ニ準拠スルヲ以テ可ナリトスト

然レトモ以上ノ諸説ハ遂ニ特別委員会ノ採用スル所ト為ラス、仲裁契約ヲシテ偶然ノ事情ノ為ニ成ル可ク過度ノ影響ヲ蒙ラシメサル様其ノ存立ト効果トヲ確保スルノ必要ナルコトヲ認メタリ、蓋シ雙方ノ政府カ仲裁裁判ヲ開設スル為ニ相一致スルニ至リタル以上ハ不慮ノ事件ノ為ニ雙方尽力ノ結果ヲ挙ケテ水泡ニ帰スルコトナカラシムルヲ以テ大ナル利益アリトス

又他ノ一方ニ於テハ前任者ノ任命ノ為ニ定メラレタル方法ニ拠リテ補缺スヘキモノト定ムルトキハ最初定メタル保障ヲ実際毫モ傷クルノ憂ナキヲ得ヘシ」

右ノ論拠ハ仲裁裁判ノ維持ニ稗益アル規則ヲ確立セシムルニ足ルモノト認メラレ遂ニ特別委員会ノ採用スル所ト為レリ然レトモ紛争国雙方ハ其ノ欲スル所ニ従ヒ仲裁契約ノ無効タルヘキコトヲ約束スルノ自由ヲ保有スルモノトス

第三十六條　仲裁裁判所ノ所在地ハ双方ニ於テ之ヲ指定ス其ノ指定ナキトキハ海牙ヲ以テ所在地トス

前項ノ所在地ハ不可抗力ノ場合ノ外双方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ仲裁裁判所ニ於テ之ヲ変更スルコトヲ得ス

裁判所所在地ノ問題ハ紛争国ノ為ニハ諸種ノ点ニ於テ大ナル利害関係ヲ有スルニ依リ之カ指定ハ第一ニ之ヲ紛争国ニ一任セサルヘカラス

尚ホ又所在地変更ノ問題ニ関シテモ紛争国ハ全然之ヲ度外視スルモノナリト豫メ断定スルヲ得サルナリ

故ニ第三十六條ニ於テハ右ノ場合ニ於テモ不可抗力ノ場合ノ外双方一致ノ承諾ヲ要スルコトヲ規定セリ

若シ紛争国双方ニ於テ豫メ何等ノ協定ヲ為ササリシトキハ常設仲裁裁判所所在地ヲ以テ之ニ充ツルハ選定上最モ其ノ当ヲ得タルモノナラン、第三十六條ハ此実際的観察ニ基ケル規則ナリトス、而シテ常設仲裁裁判所ニ関シテハ第二十五條ニ於テ原則トシテ其ノ所在地ヲ通常海牙ト定メタリ

第三十七條　紛争国ハ自国ト仲裁裁判所トノ間ニ在リテ媒介者タル任務ヲ帯フル所ノ委員又ハ特別代理人ヲ該裁判所ノ下ニ派遣スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ尚顧問又ハ弁護人ヲ任命シ仲裁裁判所ニ於テ其ノ権利及利益ヲ弁護セシムルコトヲ得

双方ノ委員若ハ特別代理人ハ仲裁裁判手続中重要ノ任務

ヲ為ス則チ紛争国ト仲裁裁判所トノ間ノ媒介者タルモノナリ

国際法学会ニ於テ制定シタル規則第十三條ニ曰ク「双方各々一名若ハ数名ノ代表者ヲ仲裁裁判所ノ下ニ派遣スルコトヲ得」ト

右ノ如キ代表者ヲ設クルコトハ実際ニ於テハ屢々行ハル、而シテ第三十七條ニ於テハ是等主タル公認代理人及其ノ他之ト地位ヲ異ニセル所ノ補助員タル顧問竝弁護人ノ区別ヲ為シ以テ此代理制度ヲ確認セリ

セッス・ロウ君ハ常設仲裁裁判所裁判官ノ職務及該裁判所ノ特別代理人若ハ弁護人ノ職務ニ関シテ生シ得ヘキ兼任問題ニ就キテ委員会ノ注意ヲ喚起セリ、此問題ノ審査ヲ付託セラレタル特別委員会ハ凡ソ仲裁裁判所裁判官タルモノハ一仲裁裁判部ノ一員トシテ其ノ職務ヲ執行スル間ハ他ノ仲裁裁判部ニ於ケル特別代理人若ハ弁護人タル委任ヲ受諾スルヲ得ストノ意見ヲ発表シタリ、特別委員会ハ兼任問題中各国ヲ覊束スヘキ方面ニ向テハ最早此上其ノ歩武ヲ進ムルヲ得サルモノト信シタリ

右ノ「仲裁裁判部」ナル文字ハ常設仲裁裁判所内ニ構成セラレタル裁判部ヲ指スモノニ外ナラス、アッセル君ノ請求ニ依リ特ニ此旨ヲ明言ス

「サア」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ランマシュ君及ホルス君ハ常設仲裁裁判所裁判官タル職務ト該裁判所ニ於ケル特別代理人若ハ弁護人タル職務トノ間ニハ弁護人若ハ特別代理人トシテ単ニ其ノ仲裁裁判官ヲ任命シタル国ノミヲ代表シ得ヘシトノ例外ヲ設クル外一般ニ両者相兼ヌルコトヲ得サルノ原則ヲ設定スルヲ有要ナリト論定シタリ

第三十八條　仲裁裁判所ハ法廷ニ於テ自ラ使用シ及其ノ使用スルコトヲ許スヘキ国語ヲ選定ス

種々ノ紛議ヲ避止シ及或場合ニ於ケル仲裁裁判所職務ノ執行ヲ可能ナラシムル為ニハ仲裁裁判所ニ於テ使用ヲ許サルヘキ国語ノ問題ヲ規定シ置クハ必要已ムヲ得サルコトトス

此点ニ於テ其ノ必要ト思料スル処置ヲ施スコトハ之ヲ裁判所ノ権内ニ存セサルヘカラス是第三十八條ニ於テ明定シタル所ナリ

伊国第一委員カ最初特別委員会ニ於テ可決シタル條文ヲ増補スル為メ発議セル修正案ハ裁判所ニ認ムルニ其ノ自ラ使

用スヘキ国語特ニ其ノ下スヘキ判決ニ使用スヘキ国語ヲ選定スルノ権ヲ以テセリ

第三十九條　仲裁裁判手続ハ大体ニ於テ之ヲ準備書面ノ提出及口頭弁論ノ二種トス

準備書面ノ提出トハ双方ノ派遣員ヨリ印刷シ又ハ筆記シタル一切ノ公文及訴訟上援用スル理由ヲ掲ケタル一切ノ書類ヲ仲裁裁判所裁判官及相手方ニ提出スルヲ謂フ右書類ノ提出ハ本條約第四十九條ノ規定ニ基キ仲裁裁判所ニ於テ定メタル方式及期限ニ従ヒ之ヲ為スヘシ

口頭弁論トハ法廷ニ於ケル双方理由ノ口頭演述ヲ謂フ

判決ニ至ルマテノ訴訟手続ハ一般ニ二段落ヲ有シ之ヲ区別スルヲ可トス則チ準備書面ノ提出及口頭弁論是ナリ

前者ハ常ニ缺クルヘカラス後者ハ通常前者ノ必要ナル補充ナリトス

準備書面提出ノ終結ニハ重要ノ効果ヲ附セラルルモノトス

露国案ニ於テハ右仲裁裁判手続ノ二期ヲ指示スルニ「準備手続及本裁判」ノ語ヲ以テセリ

第四十條　紛争国ノ一方ヨリ提出シタル書類ハ総テ之ヲ他ノ一方ニ通知スヘキモノトス

特別委員会ハ「紛争国ノ一方ヨリ提出シタル書類ハ総テ之ヲ他ノ一方ニ通知スヘキモノトス」トノ訴訟上ノ規則ヲ独立ノ箇條ニ於テ絶対的ニ確定スルノ必要ヲ認メタリ

蓋シ仲裁裁判手続ノ一般法典中ニ於テ適当ノ場処ニ此原則ヲ確定シ置クハ最有力ノ保障ナリトス

第四十一條　口頭弁論ハ裁判長之ヲ指揮ス

口頭弁論ハ紛争国ノ承諾ヲ経テ為シタル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ公開セス

口頭弁論ハ裁判長ノ指定スル書記ノ作リタル調書ニ之ヲ記載シ此ノ調書ノミヲ以テ公正ナル性質ヲ有スルモノトス

第四十一條ニ於テハ口頭弁論ノ指揮ヲ裁判長ニ委任スルコト及口頭弁論ノ公開竝右弁論ヲ公正調書ニ収録スル件ヲ規定セリ

弁論ノ公開ニ関シテハ公開主義ヲ原則トシテ確立スルコトハ難キモノト認メラレタリ、然レトモ敢テ公開ヲ禁シタルニアラス是ニ附スルニ二個ノ條件ヲ以テシタルナリ則チ此点ニ関スル仲裁裁判所ノ決定及紛争国ノ承諾是レナリ而シテ萬国仲裁裁判手続中ニ於テ右ノ範囲内ニ於テ公開ヲ許ストキハ一層広汎ナル制度ヲ適用スルニ由リテ生スヘキ諸種ノ不便ヲ免レ得ヘシ

調書ニ関シテハ裁判長ノ指定スル書記ノ作リタル調書ニアラサレハ公正ノ性質ヲ有セサルモノト為スヲ実験上必要ト認メタルナリ

第四十二條　仲裁裁判所ハ準備書面ノ提出終結ノ後ハ紛争国ノ一方ヨリ他ノ一方ノ承諾ヲ得スシテ提出スル新ナル一切ノ公文又ハ書類ニ付論議スルコトヲ拒絶スルノ権利ヲ有ス

論議ノ公正ナルヘキコト竝裁判手続ノ一般ノ必要ヨリシテ準備書面ノ提出終結後ニ於テハ裁判所ヲシテ提出遅延ノ公文又ハ書類ヲ審理スルコトヲ或ル程度マテ拒絶スルノ権ヲ有セシメサルヘカラサルナリ

然レトモ特別委員会ニ於テハ露国案第十二條ニ掲ケタル規則ヲ以テ広キニ失スルモノト認メ裁判所ノ拒絶権ハ須ラク紛争国ノ一方ノ代表者カ他ノ一方ノ代表者ノ承諾ナクシテ裁判所ニ提出セント欲スル新ナル公文若ハ書類ニ限ラルヘキモノナリト為セリ、蓋シ相手方ニ於テ公然承認シタル真理発見ノ手段ヲ空シク裁判所ノ排斥スル所タラシムルハ決シテ容ルスヘキコトニアラス加之ナラス裁判所ノ拒絶権ノ認メラレタル範囲内ニ在リテモ之カ実行ハ重大ナル処置トシテ善意ヲ以テ為サレサルヘカラサルモノトス

諸種ノ権力中露国案ハ裁判所ニ認ムルニ「必要ト認メタル一切ノ公文及弁明書類ノ提出ヲ紛争国ノ派遣員ニ要求スル」ノ権ヲ以テセリ

特別委員会ハ無制限ニ此権ヲ確立スヘキモノニアラスシテ之ニ対シ正当ナル拒絶ヲ容ルスヘキモノナリト思料シタリ

裁判所ハ右拒絶ノ旨ヲ記録スルニ止マリ其ノ以上ニ出ツルコトヲ得サルモノトス第四十四條ニ於テハ右必要ノ制限ヲ明瞭ニ指定シタリ

第四十五條　双方ノ派遣員及顧問ハ其ノ訴訟ヲ弁護スル為ニ有益ナリト認ムル一切ノ理由ヲ口頭ニテ仲裁裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第四十五條ハ仲裁裁判所ニ開カレタル口頭弁論中ニ於ケル臨機ノ弁護権ヲ確立シタルモノニシテ毫ニ困難ヲ生スヘキ規定ニアラス

本條ハ露国案ニ掲ケタル條文ヲ殆ト其ノ儘採用シタルモノナリ

第四十六條　雙方ノ派遣員及顧問ハ抗弁ヲ為シ及中間ノ争ヲ起スノ権利ヲ有ス此点ニ関スル仲裁裁判所ノ決定ハ確定ニシテ更ニ之ヲ論議スルコトヲ許サス

第四十三條　仲裁裁判所ハ紛争国ノ派遣員又ハ顧問カ其ノ注意ヲ求ムルコトアルヘキ新ナル公文又ハ書類ヲ参酌スルノ自由ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ仲裁裁判所ハ右公文又ハ書類ノ提出ヲ要求スルノ権利ヲ有ス但シ其ノ趣ヲ相手方ニ告知スルノ義務アルモノトス

紛争国ノ派遣員又ハ顧問カ仲裁裁判所ニ於テ其ノ弁明中ニ用イタル公文又ハ書類ヲ参酌スルコトハ明ニ全然之ヲ裁判所ノ自由ニ委セサルヘカラス

裁判所カ前掲公文又ハ書類ノ提出ヲ要求スル権ヲ有スヘキコトモ亦同シク異議ヲ容ルル能ハサル所ナラン

又露国案ニ於テハ右提出ヲ要求シタル書類ニ関シ単ニ裁判所ニ認ムルニ是ヲ相手方ニ告知スルノ権ヲ以テセリ而シテ特別委員会ハ此点ニ関シ権能ヨリモ寧ロ義務ヲ設定スヘキモノナリト認メタリ即チ露国案ノ原文ハ此趣旨ニ従ヒテ修正セラレタリ

第四十四條　仲裁裁判所ハ尚ホ双方ノ派遣員ニ一切ノ公文ノ提出ヲ要求シ且必要ナル一切ノ説明ヲ請求スルコトヲ得若之ヲ拒ミタル場合ニハ其ノ旨ヲ記録ス

真理ヲ捕捉シ得ンカ為ニ仲裁裁判所ヲシテ保有セシムヘキ第四十六條モ亦露国案ヨリ採録シタルモノナレトモ其ノ條文ハ一層精確トナレリ

本條ハ一国ノ裁判所ニ於テ為シ得ル如ク萬国仲裁裁判所ニ向テ提起シ得ヘキ訴訟上ノ抗弁及中間ノ争ノコトヲ規定シタルナリ

斯クノ如キ権利ハ紛争国ノ為ニ宜シク保護セラレサルヘカラサルモノナリト雖モ他ノ一方ニ於テハ亦是等ノ点ニ関スル決定ヲ以テ確定的ニ問題ヲ決定スルモノタラシムルコトヲ要ス

第四十六條ハ此二様ノ必要ニ応シタルモノナリ

第四十七條　仲裁裁判所裁判官ハ雙方ノ派遣員及顧問ニ質問ヲ為シ且疑ハシキ事項ニ関シテ其ノ説明ヲ求ムルノ権利ヲ有ス

弁論ノ進行中仲裁裁判所裁判官カ為シタル質問又ハ注意ハ仲裁裁判所全体若ハ其ノ裁判官自己ノ意見ヲ表彰シタルモノト看做スコトヲ得ス

第四十七條ハ一見甚タ必要ナラサル当然ノ規定ナルカ如シト雖モ其ノ実際ニ重要ナルコトハ特別委員会ニ於テド・マルテンス君カ明瞭ニ説明シタル所ナリ

仲裁裁判所裁判官ノ審紀権及監督権ヲシテ有効ニ行ハシメ

ンカ為ニハ該裁判官カ必要ト信スル質問及注意ニ付スルニ稍モスレハ世人カ事件ノ真相ヲ発見スルニ缺クヘカラサル審問調書ニ与フルカ如キ効力ヲ以テセラルルコト無カラシムルヲ必要トス

於是乎仲裁裁判官ニ質問及注意ノ権ヲ認メタル上ハ其ノ弁論ノ進行中ニ為シタル是等質問及注意ハ裁判所全体又ハ其ノ裁判官自己ノ意見ノ表彰ト看做スコトヲ得サル旨ヲ明ニ宣言シ置クハ極メテ有要ノコトナリトス

右ハ第四十七條ノ目的及同條ノ起草セラレタル理由ナリ

第四十八條　仲裁裁判所ハ仲裁契約其ノ他紛争事件ニ関シテ援用セラルヘキ諸條約ヲ解釈シ且国際法ノ原則ヲ適用シテ自ラ其ノ権限ヲ定ムルコトヲ得

仲裁裁判所ニ認ムルニ仲裁契約其ノ他紛争事件ニ於テ援用セラレ得ヘキ諸條約ヲ解釈シ且国際法ノ原則ヲ適用シ以テ自ラ其ノ権力ノ範囲ヲ確定スルノ権ヲ以テスルコトヲ必要トス、若シ此決定権ヲ認メサルニ於テハ或ハ紛争国ニシテ裁判所カ云々ノ問題ヲ管掌スル能ハサルモノナリト主張スルコトアラハ其ノ主張ノ道理ニ反スルコトハ一目瞭然タルニ拘ラス其ノ都度裁判所ハ当該紛争事件ヲ其ノ権内ヨリ離シ各当事者ノ結論ヲ為スヘキ方式及期限ヲ定メ且證拠取扱ノ為適当ナル一切ノ手続ヲ履行スルノ権利ヲ有ス

露国案第十九條ニ掲クラレ延テ本條ニ収録セラレタル規定事項ノ重モナル点ハ元来国際法学会ノ仲裁裁判手続規則第十五條ニ基クリ

右ノ規定事項ハ訴訟取扱手続ニ関スル命令ヲ発シ各当事者ノ結論ヲ提出スヘキ方式及期限ヲ定ムルノ権利ニ関スルモノナリ

露国案第十九條ニ於ケルカ如ク「雙方ニ告知セラレタル提出書類ノ解釈ヲ定ムルノ権」ヲ指定スルハ必要ナキモノト認メラレタリ

然レトモ證拠取扱ノ為メ適当ナル一切ノ手続ヲ履行スルノ権利ニ就キテ規定スルハ必要ナキニアラスト思考セラレタリ蓋シ此重要ナル点ニ就キテハ仲裁裁判官ニ賦与スルニ最モ広濶ナル権力ヲ以テスルヲ要ス

第五十條　雙方ノ派遣員及顧問ヨリ各各其ノ訴訟ヲ弁護スル一切ノ説明及證拠ヲ提出シ了リタルトキハ裁判長ハ弁論ノ終結ヲ宣告ス

第五十條ハ弁論ノ終結ニ関スル規定ニシテ毫モ困難ナルモ

脱スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク従テ活動ノ能力ナキ裁判権タルノ状態ニ陥ルヘキナリ

仲裁裁判カ益々一般国際法上ノ制度タル性質ヲ帯フルニ従ヒ本條ニ掲ケタル認定権モ亦益々仲裁任務ノ要素及該任務執行上ノ必要ト密接ノ関係ヲ有スルニ至ルヘシ

素ヨリ紛争国タルモノハ其ノ欲スル所ニ従ヒテ仲裁裁判官ノ権力ヲ制限シ得ヘク則チ紛争国雙方ハ仲裁裁判官ノ権力ノ執行ニ対シテ其ノ必要若ハ便宜ナリト思料スル云々ノ保留ヲ設クルコトヲ得ヘシ、紛争国ハ若シ雙方之ヲ協定スルニ於テハ仲裁裁判官カ其ノ裁決ノ方針トシテ遵守スヘキ諸原則ヲモ提示スルコトヲ得ヘシ、然レトモ仲裁裁判官ノ権限内ニ入ルヘキ点ナリヤ否ヤ疑ハシキ場合ニ於テ之ヲ確定スルノ権ヲ仲裁裁判官ニ賦与スルヲ拒ムコトハ為シ難キコトナリト云フヘシ

是則チ第四十八條ニ於テ確立シタル原則ナリ

特別委員会ノ報告者ハ仲裁裁判官カ本條ニ依リテ権限問題ヲ処理スルニ当リテ遵守スヘキ規則ヲ掲ケタル一箇條ヲ設ケ以テ第四十八條ヲ補充センコトヲ求メタルモ此点ハ所謂仲裁裁判手続中ニ入ラサルモノト認メラレタリ

第四十九條　仲裁裁判所ハ訴訟取扱手続ニ関スル命令ヲ発ノアルコトナシ是レ露国案ニ掲ケタル規定ヲ殆ト其ノ儘採用シタルモノナリ

第五十一條　仲裁裁判所ノ評議ハ秘密会トス

決議ハ総テ裁判官ノ多数ニ依ル

裁判官中表決ノ数ニ加ハルコトヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨ヲ調書ニ記入スヘシ

第五十二條　投票ノ多数ニ依リテ決定シタル仲裁宣告ニハ其ノ理由ヲ付ス右宣告ハ書面ニ認メ各裁判官之ニ記名ス

裁判官中少数ニ屬シタル者ハ記名ノ際其ノ不同意ノ旨ヲ記入スルコトヲ得

露国案ニ於テハ宣告ニ関シ諸種ノ点ヲ規定シタルモ仲裁裁判官カ其ノ決定ニ対シテ理由ヲ付スルノ義務アルコトニ就キ敢テ一言ノ之ニ及フモノナカリシハ実際上ノ観察ニ拠レルモノナラン、宣告ニ理由ヲ付スルノ義務ハ実行上困難ニ

シテ特ニ判決ヲ以テ否定セラルヘキ国ノ裁判官ニ取リテハ一層難務タルヘキナリ

特別委員会ハ前説ノ価値ヲ充分ニ認メタルモ博士ツォルン君ノ提議ニ基キ且熟議ノ末第五十二條中ニ仲裁宣告ニ理由ヲ付スルノ義務ヲ掲クルコトヲ可決セリ、蓋シ宣告ニ理由ヲ付スルハ根本的ノ保障タルヲ以テ決シテ此事ヲ不問ニ付スヘカラサルノミナラス実際理由ヲ付セサル仲裁宣告ノ例ハ甚タ稀ナリトス、理由ヲ付スルノ義務ハ之ヲ免ル能ハサルモノトスルモ尚ホ前述ノ困難ヲ避クルニ足ルヘキ或程度ノ斟酌ヲ存シ得ヘシ

宣告ニ理由ヲ付スルノ義務ハ委員会ニ於テ再ヒ論争セラレタルモ結局此義務実行ノ形式及程度ハ実際上ニ於テ大ナル余裕ヲ存シ得ヘキモノナリトノ説ニ重キヲ置キ以テ之ヲ存置スルコトニ確定セリ

ローラン君ハ仲裁裁判官カ多数ノ説ニ反対セル投票ヲ為シタルトキハ之ニ理由ヲ付スルノ義務ヲ命スヘシトノ意見ヲ提出セリ、然レトモ是レ各事件ニ二様ノ判決アルカノ如キ状況ヲ呈シ且仲裁裁判官ノ間ニ於ケル異見ヲ以テ輿論ノ判断ニ付セントスルカ如キ虞アルヘシト論定セラレタリ

伯爵ニーグラ閣下ハ裁判所ニ与フルニ宣告執行ノ期限ヲ定ムルノ権ヲ以テセンコトヲ請求シ博士ツォルン君ハ此提議ヲ論駁セリ、各国政府ニ通知セラレタル一提出案ノ討議ヲ終ラントスルニ臨ミ此ノ新ラシキ点ニ就テ絶体的ノ規定ヲ設クルハ寧ロ之ヲ見合ハスノ優レルニ若カスト認メラレ而シテ伯爵ニーグラ閣下モ亦強テ其ノ発議ヲ固執セサル旨ヲ宣言シタリ

第五十三條　仲裁宣告ハ雙方ノ派遣員及顧問在廷シ又ハ之ニ対シ正当ノ呼出ヲ発シタル仲裁裁判所ノ公開廷ニ於テ之ヲ朗読ス

第五十三條ハ公開廷ニ於ケル仲裁宣告ノ朗読ニ関ス、露国案ニテハ「雙方ノ派遣員及顧問在廷ノ上」トアリシモ特別委員会ノ決議案ニ於テハ「又ハ其ノ正当ノ呼出ヲ受ケタル上」ノ字句ヲ追加セリ

然ルニ委員会ニ於テハオヂエー君ノ発議ニ由リ確定的ニ左ノ規定ヲ採用シタリ曰「雙方ノ派遣員及顧問在廷シ又ハ之ニ対シ正当ノ呼出ヲ発シタル」ト

第五十四條　正当ニ言渡ヲ為シ且雙方ノ派遣員ニ通知シタル仲裁宣告ハ確定ニシテ上告ヲ許サス

第五十四條ハ些細ナル字句ノ修正ヲ除ク外ハ正ニ露国案ノ該当條文ニ適合シ仲裁宣告ノ確定ニシテ上告ヲ許ササル性質ノモノタルコトヲ規定ス

第五十五條　紛争国ハ仲裁契約ニ於テ仲裁宣告ノ再審ヲ請求スルノ権利ヲ保留スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ再審ノ請求ハ反対ノ約束ナキ限リ最初宣告ヲ為シタル仲裁裁判所ニ之ヲ為スヘシ右ノ請求ハ口頭弁論終結ノトキ仲裁裁判所モ又再審ヲ要求シタル一方ノ紛争国モ共ニ覚知セサリシ新事実ニシテ其ノ性質宣告ニ断乎タル影響ヲ与ヘ得ヘキモノヲ発見シタル場合ノ外之ヲ為スコトヲ得ス

再審ノ手続ハ特ニ新事実ノ存在スルコトヲ確認シ其ノ事実ハ前項ニ掲ケタル性質ヲ有スルコトヲ識認シ且之カ為再審ノ請求ノ受理スヘキモノタルコトヲ宣言スル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ開始スルヲ得ス

再審ノ請求ヲ提出スヘキ期限ハ仲裁契約ニ於テ之ヲ定ム仲裁宣告再審ノ問題ハ先ツ特別委員会ニ於テ次ニ第三委員会ノ総会ニ於テ盛ニ討議セラレタリ

米国委員ノ提出シタル常設仲裁裁判所案ニ於テハ其ノ七ニ於テ下ノ如ク規定セリ曰ク「凡ソ一事件ノ審判ヲ萬国裁判所ニ付託シタル紛争国ハ若シ新証拠又ハ第一審ニ於テ提起セラレサリシカ或ハ決定セラレサリシ法律問題ヲ援用シ得ヘシト宣言スルトキハ其ノ判決ノ通知アリタル日ヨリ三ケ月以内ニ於テ同一ノ裁判官ニ其ノ訴件ノ再審ヲ求ムルノ権利ヲ有スヘシ」ト

米国委員ハ右規則ノ文句ニ適宜修正ヲ施シタル上之ヲ仲裁裁判手続中ニ編入センコトヲ提議セリ

於是乎特別委員会ニ於テ裁判上ノ原則トシテ再審ノ必要ナル所以ハ説明セラレ又是認セラレタルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ仲裁裁判ニ付託セラレタル紛争ヲ確定的ニ結了シ仲裁裁判官ノ為シタル宣告ノ効力ヲ動カス可ラサルモノト為スノ必要ナル所以モ亦弁護セラレタリ

然ル後特別委員会ニ於テハ遂ニ委員長レオン・ブールジョア君ノ提議ニ依リ再審ヲ管轄スル裁判所再審ノ理由ト為ルヘキ事実及其ノ受理期限ニ就キテ左ノ如キ制限ヲ設ケタル再審規則ヲ仲裁裁判手続中ニ掲クルコトヲ可決シタリ

再審ハ宣告ヲ為シタル裁判所ニ之ヲ請求セサルヘカラス

且口頭弁論終結ノ際仲裁裁判所並再審ヲ要求シタル一方ノ紛争国共ニ覚知セサリシ新事実ニシテ其ノ性質宣告ニ断乎タル影響ヲ与ヘ得ヘキモノヲ発見シタルニアラサレハ再審ノ請求ヲ為ス能ハサルモノトス

再審ノ請求ノ受理セラルヘキ期限ニ関シテハ最初三箇月ト定メラレ次ニ遅羅国委員コラヂオーニ・ドレーリ君及ロー

ラン君ノ発議ニ依リ六箇月ト改メラレタリ

伯爵ニーグラ閣下ハ最近ノ締結ニ係ル伊太利亜爾然丁間仲裁條約第十三條ノ規定ヲ採用センコトヲ提議セリ

於是乎和蘭国委員アッセル君ハ一ノ調停的提議ヲ為セリ其ノ趣旨ニ依レハ紛争国ハ仲裁契約中ニ於テ仲裁宣告ノ再審ヲ請求スルコトヲ保留シ得ヘク而シテ右保留ニ基キテ請求アル場合ニ応センカ為メ本條約仲裁裁判手続中ニ於テハ前記諸條件ニ従ヒ再審規定ヲ設クヘシト

然レトモ米国委員ハ再審ノ請求ヲ為スヘキ期間ハ之ヲ仲裁契約ノ定ムル所ニ一任スヘシトノ旨ヲ提議シ而シテ第三委員会ニ於テハ結局此提議ト併セテアッセル君ノ提議ノ一部ヲ採用シ以テ第五十五條ヲ確定セリ

仲裁宣告無効ノ原因ニ関シテハ露国案ニ於テ左ノ規定ヲ掲ケタリ曰ク「仲裁契約ノ無効ナルトキ又ハ仲裁裁判官中越権ノ処為アルトキ若ハ其ノ収賄ノ証明アリタルトキハ仲裁宣告ハ無効トス」ト而シテアッセル君ハ斯クノ如キ重大ナル裁定ヲ随意ノ決定ニ一任シ若ハ宣告ニ依リテ処罰セラレタル国ノ発意ニ一任スルカ如キコト無カラシメンカ為ニ特ニ宣告ノ無効ヲ宣言スルノ任ニ当ルヘキ権力ヲ他ニ求ムルノ道ナキヤ否ヲ質議論難セリ

セシムヘキコトヲ豫メ規定シ置クノ必要ナル旨ヲ論シタリ

紛争国以外ノ諸国ニシテ此権能ヲ利用シタルトキハ仲裁宣告中ニ掲ケタル解釈ハ是等諸国ニ対シテモ亦均シク効力ヲ及ホスモノトス

右アッセル君提議ノ趣旨ハ全会一致ヲ以テ之ヲ採用シタリ

第五十七條　紛争国ハ各々自国ニ係ル費用ヲ負担シ且ツ仲裁裁判所費用ヲ等分ニ負担ス

仲裁裁判所ノ運転ニ関スル費用ノ問題ハ現時ノ実際ニ依遵シテ規定セラレタリ

各紛争国ハ其ノ自国ニ係ル費用ノ外仲裁裁判所費用等ヲ等分ニ負担ス而シテ仲裁裁判官ノ手当金モ亦此費用中ニ包含セラルルモノトス

凡ソ費用中各事件毎ニ仲裁裁判所ニ於テスル外之ヲ定メ難キモノアリ其ノ然ラサルモノニ対シテハ常設評議会ニ於テ必要ニ応シ一定ノ料金表ヲ採用スルモ差支ナカルヘシ本件ニ関スル諸規則ヲ制定スルニ就キテハ亦慣習ニ参酌スル所ナカルヘカラス

総　則

国際紛争平和的処理條約ノ末尾ニ於テハ「総則」ナル章ノ下ニ批准加盟及廃棄ニ関スル数個條ヲ掲記セリ則チ左ノ如シ

特別委員会ニ於テハ無効ノ場合ヲ豫メ規定スル以上ハ之ト同時ニ該場合ヲ裁定スヘキ裁定者ヲ定メサルハ不都合ナリトノ理由ニ依リ仲裁宣告無効問題ノ審査ヲ停止セリ、但シ常設仲裁裁判所タル者ハ本問題ノ解決上各国ニ便宜ヲ供スルコトハ敢テ妨ナカルヘキナリ

第五十六條　仲裁宣告ハ仲裁契約ヲ締結シタル紛争国ニ対スルノ外効力ヲ有スルコトナシ

仲裁契約ニシテ紛争国以外ノ諸国カ加盟セル條約ノ解釈ニ関スルモノナルトキハ紛争国ハ其ノ締結シタル仲裁契約ヲ右諸国ニ通告スヘシ右諸国ハ各々訴訟ニ参加スルノ権利ヲ有ス若其ノ一国又ハ数国ニ於テ此ノ権能ヲ利用シタルトキハ宣告文中ニ記載シタル解釈ハ其ノ国ニ対シテモ亦均ク効力ヲ有スルモノトス

第五十六條ノ規定ハアッセル君ノ発案ニ係レリ

列国ノ加盟セル一條約ニ対シ二個国ノ間ニ解釈問題ヲ生スルコトアリ例ヘハ「萬国連合」ト呼ハルル諸條約ニ関スルトキノ如キ紛争国ハ通常全締盟国中ノ極メテ少数ナル一部分ヲ為スモノニ過キサルナリ

アッセル君ハ紛争国以外ノ諸国ヲシテ訴訟ニ参加スルヲ得セシメンカ為ニ紛争国ヲシテ是等ノ諸国ニ仲裁契約ヲ通知

第五十八條　本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ海牙萬国平和会議ニ賛同シタル各国ニ交付スヘシ

ルノール君ノ説述シタル如ク「本條ハ陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則及「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ掲ケラレタル同一種ノ規定ヲ転載シタルモノニ過キス全ク同一ニシテ相符合セル規定ナリ」

此規定タル批准ニ関スル普通ノ規定ニ過キサルモ批准書ノ保管ニ関スル形式ハ之ヲ簡略ナラシメタリ

議会ノ干渉ニ就キテ保留ヲ為シ置クコトハ必要ニアラス蓋シ如何ナル程度マテ條約ヲ批准スルノ自由アルヤヲ認定スルハ各国ノ君主又ハ元首タルモノノ権内ニ存スレハナリ

第五十九條　萬国平和会議ニ賛同シタル諸国ニシテ本條約ニ記名セサルモノハ他日之ニ加盟スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

第六十條　萬国平和会議ニ賛同セサリシ諸国カ本條約ニ加

盟シ得ヘキ條件ハ他日締盟国間ノ協商ニ依リテ之ヲ定ム

最終決議書起草委員会報告中ニ於テルノール君ハ左ノ如ク陳述セリ曰ク「第五十九條及第六十條ハ加盟ノ問題ヲ規定セリ、此二個條ハ本平和会議ニ於テ議定シタル他ノ二條約ノ該当條文ト異ナリ蓋シ他ノ二條約ハ其ノ一タル赤十字ニ関スル條約（「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約）ニ対シテ既ニ指定シタル特例ヲ除クノ外孰レモ絶対的ニ開放ノ主義ヲ採レリ

然ルニ本條約ニ於テハ二種ノ異ナリタル地位ヲ規定シ則チ平和会議ニ賛同シタル諸国ト賛同セサルモノトノ間ニ区別ヲ設ケタリ、第五十九條及第六十條ハ右二種ノ地位ニ対応スルモノトス

海牙会議ニ賛同シタル諸国ハ締盟国ト為ルニ二種ノ方法ヲ有ス則チ即時若ハ千八百九十九年十二月三十一日迄ニ自由ニ調印スルヲ得ヘク此日限以後ニ於テハ本條約ニ加盟スルノ手続ヲ踏マサルヘカラス然レトモ其ノ之ヲ為スハ権利タルヘキナリ故ニ賛同シタル国ニ就キテハ其ノ加盟ハ他ノ二條約ニ於ケルト同様ニ規定セラル即第五十九條ニ掲クル所ナリ

第六十條ニ於テハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ地位ニ就キテ

規定セリ、該規定ノ結果トシテ右ノ諸国ハ本條約ニ加盟シ得ヘキモ此加盟ノ條件ニ関スル問題ハ締盟国ノ他日ノ協商ニ付セラレタリ故ニ此等ノ諸国ハ本会議ニ賛同シタル諸国ニ認メラレタルト同一ノ権利ヲ有セサルモノトス

右ノ規定ハ極メテ単純ナリト雖モ之カ決定ヲ見ルニ至レルニハ必スシモ爾ク平易ナリシニアラス起草委員ハ之カ為ニ反覆討議ヲ竭クシ時トシテハ其ノ抗論弁駁極メテ激烈ニ彌リテ全ク其ノ平生ノ態度ヲ一変シ辞句文章起案ノ範囲ヲ逸出シテ外交、政治ノ問題ヲ議スルニ至レリ而シテ其ノ最後ノ会議ニ於テ議長アッセル君ノ為セル演説ハ第六十條ノ規定ニ伴ヘル一切ノ難関ヲ指摘シテ遺憾アルコトナシ故ニ報告者ハ玆ニ其ノ演説ノ全部ヲ報告スルヲ以テ委員会ニ於テ主張セラレタル各種ノ方案ヲ本会ニ示スノ最良ノ手段ナリト信ス、アッセル君ノ演説ニ曰ク

「諸君本会ノ如キ国際会議ノ議事ハ時ニ或ハ議会ノ討論ニ均シキ性質ヲ示シ時ニ或ハ外交談判ノ性質ヲ表ハスコトアリ

我カ起草委員会ニ於テ頃日来ノ議題ト為レル件ニ就キテハ吾人ノ討論ハ外交談判ノ性質ヲ現ハセリ

則チ一方ニ於テハ我カ委員会ノ各員及吾人ニ助力ヲ与フル

コトヲ承諾セル列国委員各自ノ意見ハ各々其ノ本国政府ノ裁可ヲ仰クノ必要アリ（蓋シ此必要ハ他種ノ問題ニ就キテヨリモ一層大ナリ）又他ノ一方ニ於テハ苟モ実際有効ノ結果ヲ収メント欲セハ必ス全会一致ノ協賛ヲ得サルヘカラス

右ノ二点ヨリ先日来ノ討論ヲ観察スルニ余ハ吾人カ皆（列国委員竝政府）平和会議ニ賛同セサル諸国ヲシテ国際紛争平和的処理條約ニ加盟スルヲ得セシメント欲スル者タルコトヲ認メタリ然レトモ其ノ加盟ノ権能ヲ絶対的ニ賦与スヘキカ将タ之ニ何等カノ條件ヲ設クヘキカ而シテ之ニ條件ヲ設クヘシトセハ其ノ條件ハ果シテ如何ナルモノナルヘキカノ問題ニ就キテハ其ノ意見大ニ相扞格スルモノアルコトヲ知得シタリ一方ニ於テハ吾人ノ審議ニ附シタル條約ヲ以テ既ニ本会議ノ議決ヲ経タル二個ノ條約ト同視センコトヲ熱心ニ主張スル者アリ且第三委員会ノ特別委員会ニ於テハ之ヲ同視スルノ決議ヲ為セリ

之ヲ同視スヘシト云フハ何レノ国ニ論ナク唯タ一ノ宣言ニ依リテ本條約ニ加盟スルコトヲ得ヘキ絶対的権利アルコトヲ認ムルモノナリ

将タ他ノ一方ニ於テハ或ハ締盟国ノ明示ノ承諾ニ依リ或ハ其ノ黙示ノ承諾ニ依リテ右ノ権利ヲ賦与センコトヲ主張ス

ル者アリ而シテ其ノ所謂ル黙示ノ承諾トハ一定ノ期限内ニ何レノ国モ加盟ニ反対ヲ唱フルモノナキトキハ其ノ加盟ヲ許シタルモノト看做スヲ云フナリ此他更ニ多数ノ承諾ニ依リテ加盟ノ権利ヲ与ヘンコトヲ主張スル者アリ多数ノ承諾トハ加盟ニ反対ヲ唱フモノアル場合ニハ海牙庭劄ノ列国公使全体ヨリ成レル常設評議会ノ投票ニ依リテ之ヲ裁決スルヲ云フナリ余カ我政府ノ名ニ於テ報告スルノ栄ヲ荷ヘル此提議ノ目的ハ本件ニ関スル不認可権ヲ唯タ一個国ノミニ賦与セサルニ在リ

最後ニ加盟ノ請求ニ反対アリシ場合ニハ其ノ加盟ハ唯之ヲ承諾シタル国ノミニ対シテ効力ヲ有スヘシトノ案ヲ提出シタル者アリ

余ハ今前記各種ノ方案ニ就キテ各々其ノ主張者ノ敷衍シタル論項ヲ一々爰ニ示スコト能ハス

余ハ単ニ吾人カ全会一致ノ協定ヲ遂クルノ立脚点ヲ発見スルニ苦ミ余ス所ノ時日極メテ僅少ナルニ加ヘテ許多ノ委員カ此件ニ就キテ明確ナル訓令ヲ受領セサリシ為此ノ如キ協定ヲ遂クルノ実際不可能ナリシ所以ヲ證明スルニ止マルヘシ

右ノ如クナルヲ以テ吾人ハ左記ノ二案ニ就キテ其ノ一ヲ択フノ外ナキナリ

本会議ニ賛同セサル諸国ノ加盟ニ関スル規定ヲ全然削除スルコト是レ其ノ一ナリ加盟権ノ原則ヲ採用スルト同時ニ加盟ノ條件ニ関スル規定ヲ諸国ノ間ノ他ノ協商ニ委スルコト是レ其ノ二ナリ

而シテ之ヲ討論ノ状況ニ徴スルニ第二ノ方案ヲ取ルニ若クハナキモノノ如シ

吾人ハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ為ニ門戸ヲ開クノ望ムヘキモノタルコトヲ認ムルニ於テ皆其ノ意見ヲ一ニシタリ然ルニ若シ條約ニ於テ此点ニ就キ一言モ載スルコトナクンバ是レ其條約ハ閉鎖主義ノ條約ニシテ吾人ノ齊シク欲セサル所ナリ之ニ反シテ若シ條約ニ於テ他日ノ協商ニ委スルコトヲ掲クルトキハ之ニ依リテ其協商成立ノ希望ヲ表彰スルモノナリ

吾人ハ皆諸国ノ政府カ鋭意其ノ事ヲ進捗セントスルニ力ムヘキヲ信ス然レトモ亦能ク一朝一夕ノ間ニ各国ノ批准ヲ得ルノ難キコトヲ知ル、故ニ吾人ハ諸国ノ政府カ本條約ヲ批准スルニ至ルマテノ間ニ能ク今日存在スル所ノ困難ヲ排除シ加盟ノ権利ヲ規定スルニ当リ務メテ寛大自由ナル方案ヲ採用スルハ最モ本條約ノ性質ニ適シタルモノタルコトヲ確認スルニ至ランコトヲ望マサルヘカラス

蓋シ本條約ノ目的ハ国際紛争ヲ平和的ニ処理スルコト竝ニ能ク此結果ヲ収ムルニ足ルヘキ方法ヲ確定スルニ在リ其レ爾リ故ニ本條約ノ制定者タルモノハ必スヤ当サニ本会議ニ賛同セサル国ト雖皆此公益ノ事業ニ加ハランコトヲ望マサルヘカラス

且本條約ニ於テ強制的仲裁ノ規定ヲ存セサル以上ハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ間ニ紛争ヲ生シ若ハ本会議ニ賛同セサル国ト之ニ賛同シタル国トノ間ニ紛争ヲ生シタル場合ニ際シ本條約ヲシテ締盟国間ニ紛議ヲ生シタル場合ト同一ノ結果ヲ収メシメンコトヲ希望セサルヲ得ス」

ルノール君ハ「右アッセル君ノ演説ヲ以テ其ノ自ラ述ヘント欲シタル所ヲ述ヘ尽シテ遺憾ナキモノナリトシ各種條約ノ総則ノ形式及趣旨ニ就キテハ更ニ解釈ヲ附加スヘキ余地アラス」ト云ヘリ

第六十一條　若締盟国中ノ一国ニ於テ本條約ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ

右通告ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通知シタル国ニノミ止マルモノトス

一国カ本條約ヲ廃棄スル場合ヲ仮定シタルハ特ニ此廃棄ヨリ極端ナル直接ノ効果ヲ生セシメサルノ保障ヲ与フルノ目的ニ外ナラス陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約ニ掲ケタル同一ノ條欵ヲ論スルニ当リルノール君ノ陳ヘタル所左ノ如シ

「於是乎廃棄ノ効果ヲ制限スヘキ條項ヲ設ケテ之カ手続ヲ決定シ突然ナル挙動ヲ避ケントスルモノニシテ決シテ廃棄ヲ奨励センカ為此ノ規定ヲ設ケタルニアラス且諸国ハ或ル時期ニ於テ約束ノ拘制ニ堪エサルコトヲ感スルニ当リ廃棄ニ関スル特別ノ條項存在セサルトキハ其ノ廃棄タル殆ント暴行ニ近キノ虞アルヘキモ本件ノ規定ヲ俟チテ克ク適法ニ廃棄ヲ為シ得ヘシトノコトヲ豫メ知ルニ於テハ其ノ約束ニ加盟スルコトモ亦自然容易ナルヘキノ道理ナリトス」

汎ク本條約一般ニ関シ米国委員及土耳其国委員ハ各左ノ宣言ヲ為セリ

亜米利加合衆国宣言

「亜米利加合衆国委員ハ萬国平和会議ニ於テ発議セラレタル国際紛争平和的処理條約ニ調印スルニ当リ左ノ宣言ヲ為ス

本條約中ノ如何ナル條項ト雖モ亜米利加合衆国カ外国ノ政治問題及政略若ハ内政ニ参与シ又ハ干渉スルコトヲ自ラ制止スヘシト云ヘル其ノ伝来ノ政治方針ニ乖離セサルヲ得サルカ如キ意味ニ解釈セラルルコトヲ得ス之ト均シク本條約中ノ如何ナル條項ヲモ合衆国ヲシテ純粋ナル亜米利加ノ問題ニ対スル同国伝来ノ態度ヲ廃棄セシムルカ如キ趣旨ニ解釈スルヲ得サルハ勿論ナリ」

土耳其国委員ノ宣言

「土耳其国委員ハ本会議ノ此事業タル本ト博愛公正ノ道ニ基キ各国ノ権利利益ヲ庇護シテ専ラ一般ノ平和ヲ確立スルヲ目的トスルニ在ルコトヲ思ヒ今般可決セラレタル議案ノ全部ニ次ノ條件ニ従ヒテ加盟スルコトヲ其ノ政府ノ名ニ於テ宣言ス

第一　周旋居中調停国際審査委員及仲裁裁判ニ依頼スルコトハ全ク任意的タルニ止マリ如何ナル場合ニ於テモ拘束的ノ性質ヲ有シ若ハ干渉ニ陥ルヲ得サルコトハ明白ニ承認セラレタルコト

第二　帝国政府ハ其ノ利益上前顕ノ手段ニ依頼シ得ヘキ

場合ナルヤ否ハ自ラ之ヲ判断スヘク其ノ之ニ依頼セス若ハ之ヲ拒絶スルコトアルモ記名国ハ之ヲ以テ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得サルコト

前顕各手段ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ内政上ノ問題ニ応用スルヲ得サルハ当然ナルコト」

玆ニ報告者ハ其ノ任務ヲ結了セリ元来短少ノ時日ニ於テ此業ヲ終ヘサルヘカラサリシカ故ニ始ニ希望シタルカ如キ完全ナル報告書ヲ調製スルノ遑アラサリシト雖モ専ラ誠実ナル報告ヲ掲クルコトヲ是レ力メタリ

特別委員会ノ達識ナル書記官カ其ノ議事録中ニ克ク多数ノ著名ナル討議ヲ集録セラレタルニ依リ為ニ当報告者ノ任務ヲ容易ナラシメタルコト蓋シ尠少ナラサルナリ而シテ本平和会議書記局ニ於テ屈指ノ技能ヲ備ヘ且挺身鞠躬セラレタル諸君ノ協助ニ依リ報告者ハ一層其ノ事業ノ煩労ヲ軽カラシムルコトヲ得タリ

第三委員会ハ其ノ遂行シタル事業全躰ノ上ニ一瞥ヲ投セハ其ノ能ク常ニ尊貴高尚ナル着眼ヲ維持シ克ク此精神ヲ以テ此目的ニ従事シタルコトヲ認識セラルルナルヘシ

各国ノ誠実ナル協力ニ依ル一般平和ノ維持、平和関係ヲ保持シ若ハ再興スル為ノ有力ナル機関トシテ制定セラレタル歴史ハ必ス海牙会議ニ感謝ノ意ヲ致スナルヘシ

何トナレハ此ノ高貴ナル会議ハ正義ノ典型中ニ平和ヲ確立シ且組成スルカ為ニ誠心尽力スヘケレハナリ

本会議ニ提出セラレタル条文

本条文ハ此儘採用セラレタリ、最初第一条ヨリ第五十七条マテヲ可決シ次ニ其ノ冒頭ニ前文ヲ設ケ末尾ニ批准加盟及廃棄ニ関スル第五十八条乃至第六十一条ヲ追加シタルナリ

国際紛争平和的処理条約

独逸国普魯西国皇帝陛下、墺地利国「ボヘミヤ」国洪牙利国皇帝陛下、西班牙国皇帝陛下竝同皇帝陛下ノ名ヲ以テスル摂政皇后陛下、亜米利加合衆国大統領、墨西哥合衆国大統領、仏蘭西共和国大統領、大不列顛及愛蘭聯合王国兼印度国皇帝陛下、希臘国皇帝陛下、伊大利国皇帝陛下、日本国皇帝陛下、盧森堡国大公ナッソー公殿下、「モンテネグロ」国公殿下、和蘭国皇帝陛下、波斯国皇帝陛下、葡萄牙国及アルガルヴ皇帝陛下、羅馬尼亜国皇帝陛下、全露西亜国皇帝陛下、塞爾比亜国皇帝陛下、遜羅国皇帝陛下、瑞典諾威国皇帝陛下、瑞西聯邦政府、土耳其国皇帝陛下及勃爾牙利国

周旋及居中調停、自由ヲ傷クルコトナク且重要ナル保障ヲ有スルコトヲ條件トシテ設置セラルヘキ国際審査委員、強制的ニアラスシテ汎キ権限ヲ認メラレタル仲裁裁判権、海牙ニ設立セル萬国事務局竝各国外交代表者ヨリ組織セラレタル常設評議会ト密着ノ関係ヲ有スル常設仲裁裁判所、基本的ノ諸点ニ於テ拡張セラレ且明確ニセラレタル仲裁裁判手続、以上ノ各事業タル正シク我カ世紀ニ於テ求メ得ヘキ最良ノ希望ニ副フモノタルヘシ

之ヲ国際法ノ歴史ニ顧フルニ頃者米国カ出生地ニ於テ奠儀ヲ執行シタル偉人グロシウス氏ノ努メテ此法ヲ確立シタル以来未タ曾テ海牙会議ノ記事ニ比較シテ能ク遜色ナキノ盛事ヲ見出スノ転タ難キヲ覚エスンハアラス

斯クノ如キ名誉ハ本会議ノ至尊ナル発議者タル露国皇帝陛下ニ之ヲ帰シ奉ラサルヘカラス

陛下ノ高貴ナル発議ニ基キ且ツ和蘭国皇帝陛下ノ寛仁ナル庇護ニ頼リテ企画セラレタル此ノ事業ハ将来必スヤ発達スヘキナリ、蓋シ「時ヲ経ル久シウシテ人益々此事業ノ重要ナルヲ感スルコト切ナルヲ致ス」ヘキコト実ニ第三委員会ノ議長カ嘗テ記臆スヘキ時期ニ於テ述ヘタルカ如ク爾リトス

公殿下ハ一般ノ平和ヲ維持スルコトニ協力セムコトヲ切ニ希望シ全力ヲ竭シテ国際紛争ヲ平和的ニ処理スルコトヲ幇助スルニ決シ文明国団ノ各員ヲ結合スル所ノ連帯責務ヲ識認シ法ノ領域ヲ拡張スルト共ニ国際的正義ノ感ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ諸独立国ノ間ニ各国ノ頼ルヲ得ヘキ常設仲裁裁判制度ヲ置クコトハ前記ノ目的ヲ達スルニ最モ有効ナルヘキヲ確信シ仲裁手続ニ関スル一般且正則ノ組織ヲ設クルノ有益ナルヲ察シ萬国平和会議ノ至尊ナル発議者ト共ニ国安民福ノ基礎タル公平正理ノ原則ヲ国際的協商ニ依テ定立スルノ須要ナルヲ認メ之カ為ニ條約ヲ締結セムト欲シ各各左ノ全権委員ヲ任命セリ云云

因テ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協定セリ

第一章　一般平和ノ維持

第一條　列国間ノ関係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク制止セムカ為記名国ハ国際紛議ヲ平和ニ処理スルコトニ其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

第二章　周旋及居中調停

第二條　記名国ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ許ス限リ其ノ交親国

中ノ一国若ハ数国ニ周旋又ハ居中調停ヲ依頼スルコトヲ約定ス

第三條　記名国ハ右依頼ノ有無ニ拘ラス紛争以外ニ立ツ一国又ハ数国カ事情ノ許ス限リ自ラ進テ周旋又ハ居中調停ヲ紛争国ニ提出スルコトヲ有益ト認ム

紛争以外ニ立ツ国ハ交戦中ト雖其ノ周旋又ハ居中調停ヲ提供スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ右権利ノ行使ヲ目シテ友誼ニ戻レルモノト為スコトヲ得ス

第四條　居中調停者ノ本分ハ紛争国雙方ノ申分ヲ和解シ且其ノ間ニ生スルコトアルヘキ悪感情ヲ融和スルニ在ルモノトス

第五條　居中調停者ノ職務ハ其ノ提出シタル和解方法ノ採納セラレサルコトヲ紛争国ノ一方又ハ調停者自ラ宣言シタルトキ直ニ終止スルモノトス

第六條　周旋及居中調停ハ紛争国ノ依頼ニ由ルト紛争以外ニ立ツ国ノ発意ニ出ツルトニ論ナク全ク勧告ノ性質ヲ有スルニ止マリ決シテ拘束ノ効力ヲ有セサルモノトス

第七條　反対ノ約束アル場合ノ外ハ居中調停ヲ承諾シタルカ為勤員其ノ他ノ戦闘準備ヲ中止シ遅延シ又ハ障碍スルハ事情ノ許ス限リ国際審査委員ヲ設ケ之ヲシテ公平誠実ナル審査ニ依リテ事実問題ヲ明カニシ紛争ノ結了ヲ幇助スルノ任ニ当ラシムルヲ以テ記名国ハ有益ナリト認ム

第十條　国際審査委員ハ紛争国間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ設置ス

審査條約ハ審査スヘキ事実及委員ノ権限ヲ明瞭ニ規定ス

審査條約ハ審査手続ヲ規定ス

審査ハ双方対審ノ上之ヲ行フ

遵守スヘキ方式及期限ニシテ審査條約ニ規定ナキモノハ委員自ラ之ヲ定ム

第十一條　国際審査委員ハ反対ノ規約ナキ限リ本條約第三十二條ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ設置ス

第十二條　紛争国ハ係争事実ヲ完全ニ知悉シ且精確ニ会得スルニ必要ナル一切ノ方法及便宜ヲ其ノ為シ得ヘシト認ムル限リ充分ニ国際審査委員ニ提供スルコトヲ約定ス

第十三條　国際審査委員ハ各委員ノ記名シタル報告書ヲ紛争国ニ提出ス

第十四條　国際審査委員ノ報告書ハ単ニ事実ノ記述ニ止マルモノニシテ決シテ仲裁宣告ノ性質ヲ有セス此ノ記述ニ

ノ結果ヲ生スルコトナシ

若戦闘開始ノ後ニ於テ居中調停起リタルトキハ反対ノ約束アル場合ノ外之カ為進行中ノ軍事的動作ヲ中止スルコトナシ

第八條　記名国ハ事情ノ許ス限リ左ノ手続ヲ以テスル特別居中調停ノ適用ヲ可トスルコトニ同意ス

平和ヲ破ルノ虞アル重大ナル紛議ヲ生シタル場合ニハ紛争国ハ平和ノ破裂ヲ豫防スル為各各一国ヲ選定シ他ノ一方ノ選定シタル国ト直接ノ交渉ヲ開クノ任務ヲ附託ス

右附託ノ期間ハ反対ノ規約アル場合ノ外三十日ヲ超エサルモノトシ期間中紛争事件ニ関スルコトハ調停国ニ一任シタルモノト看做シ紛争国ハ自ラ直接ノ交渉ヲ為スコトヲ中止ス右調停国ハ紛議ヲ処理スルニ全力ヲ竭スヘキモノトス

平和ノ既ニ破レタル後ト雖右調停国ハ平和ヲ回復スルノ機会アル毎ニ之ヲ利用スルノ共同任務ヲ負フモノトス

第三章　国際審査委員

第九條　名誉又ハ重要ナル利益ニ関係セス単ニ事実上ノ見解ノ異ルヨリ生シタル国際紛争事件ニシテ外交上ノ手段ニ依リ其ノ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ場合ニハ紛争国対シ如何ナル結果ヲ付スヘキヤハ全ク紛争国ノ自由タルヘシ

第四章　萬国仲裁裁判

第一節　仲裁裁判

第十五條　萬国仲裁裁判ハ紛争国ノ選定セル裁判官ヲシテ法ヲ尊重スルノ基礎ニ依リ国ト国トノ間ニ生シタル紛議ヲ処理セシムルコトヲ以テ目的トス

第十六條　法律問題就中国際條約ノ解釈又ハ適用ニ関スル問題ニ就テハ記名国ハ外交上ノ手段ニ依リ結了スルコト能ハサリシ紛議ヲ処理スルニハ仲裁裁判ヲ以テ最モ有効ニシテ且最モ公平ナル方法ト認ム

第十七條　仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル紛議又ハ将来生スルコトアルヘキ紛議ノ為ニ締結ス

仲裁裁判條約ハ総テノ紛議又ハ特ニ指定シタル種類ノ紛議ノミニ関スルコトヲ得

第十八條　仲裁裁判條約ハ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

第十九條　仲裁裁判ニ依頼スヘキ義務ヲ記名国ニ対シテ現ニ規定シタル一般若ハ特別條約ノ有無ニ拘ハラス記名国ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思料スル一切ノ場合

ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシメムカ為本條約批准前又ハ其ノ後ニ於テ一般若ハ特別ノ新協定ヲ為スノ権利ヲ保留ス

第二節　常設仲裁裁判所

第二十條　外交上ノ手段ニ依リテ処理スルコト能ハサリシ国際紛議ヲ直ニ仲裁裁判ニ付スルニ便ナラシムルノ目的ヲ以テ記名国ハ何時タリトモ依頼スルコトヲ得ヘキ且紛争国間ニ反対ノ規約ナキ限リハ本條約ニ掲ケタル手続ニ依リテ其ノ職務ヲ行フヘキ常設仲裁裁判所ヲ構成スルコトヲ約定ス

第二十一條　常設仲裁裁判所ハ紛争国ノ間ニ特別ノ裁判所ヲ設置スルノ協約アル場合ノ外一切ノ仲裁事件ヲ管轄スルモノトス

第二十二條　海牙ニ萬国事務局ヲ設置シ仲裁裁判所書記局ノ事務ニ当ラシム

右事務局ハ裁判所ノ開廷ニ関スル通信ノ媒介者トス

事務局ハ記録ノ保管ヲ掌リ一切ノ行政事務ヲ処理ス

記名国ハ相互ノ間ニ定メタル一切ノ仲裁裁判規約ノ認證謄本竝其ノ当事者タル場合ニ特別裁判所カ下シタル仲裁

宣告ノ認證謄本ヲ海牙萬国事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

記名国ハ仲裁裁判所ノ下シタル宣告ノ執行ヲ證明スルコトアルヘキ法律規則及文書モ亦同シク右事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

第二十三條　各記名国ハ本條約批准後三箇月以内ニ国際法上ノ問題ニ堪能ノ名アリテ徳望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意アル者四名以下ヲ指定スヘシ

右指定ヲ受ケタル者ハ仲裁裁判所裁判官トシテ名簿ニ記入シ事務局ヨリ之ヲ各記名国ニ通知スヘシ

仲裁裁判官ノ名簿ニ異動アル毎ニ事務局ヨリ之ヲ記名国ニ通知ス

二国若ハ数国相約シテ共同ニ一名又ハ数名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトヲ得

同一人ニシテ数国ヨリ指定セラルルコトヲ得

仲裁裁判所裁判官ハ其ノ任期ヲ六箇年トス但シ再任セラルルコトヲ得

仲裁裁判所裁判官中死亡又ハ退職スル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

第二十四條　記名国ハ其ノ相互ノ間ニ生シタル紛議ヲ処理

セムカ為常設仲裁裁判所ニ訴ヘムト欲スルトキハ其ノ紛議ヲ裁定スヘキ当該裁判部ヲ組織スル仲裁裁判官ノ選定ハ仲裁裁判所裁判官総名簿ニ就テ之ヲ為スヘシ仲裁裁判部ノ構成ニ関シ紛争国相互間ニ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

双方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半ハシタル場合ニハ双方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ双方ニ於テ各各異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

右ノ如ク仲裁裁判部ノ構成ヲ了リタルトキハ双方ヨリ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ決意及仲裁裁判官ノ氏名ヲ事務局ニ通知ス

仲裁裁判部ハ双方ノ定メタル期日ニ開廷ス

仲裁裁判所裁判官ハ外国ニ在リテ其ノ職務ヲ執行スルニ方リ外交官ノ特権及免除ヲ享有ス

第二十五條　仲裁裁判部ハ通常之ヲ海牙ニ設置ス

仲裁裁判部ハ不可抗力ノ場合ノ外雙方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ其ノ所在地ヲ変更スルコトヲ得ス

第二十六條　海牙萬国事務局ハ其ノ庁舎及局員ヲ記名国ノ為特別仲裁裁判所ノ用ニ供スルコトヲ得

常設仲裁裁判所ノ管轄ハ雙方ニ於テ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ協定シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ従ヒ之ヲ非記名国間又ハ記名国ト非記名国トノ間ニ生シタル紛議ニ及ホスコトヲ得

第二十七條　記名国ハ其ノ二国又ハ数国ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラムトスル場合ニハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ紛争国ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認ム

故ニ記名国ハ紛争国ニ向テ本條約ノ規定アルコトヲ注意シ且平和ノ大切ナル利益ヲ保タムカ為常設仲裁裁判所ニ訴フヘキコトヲ勧告スルハ全ク周旋ノ行為ニ外ナラサルモノト看做スヘキコトヲ宣言ス

第二十八條　少クトモ九箇国ニ於テ本條約ヲ批准シタル後ハ成ルヘク速ニ常設評議会ヲ海牙ニ設置シ同府ニ駐劄スル記名国ノ外交代表者及和蘭国外務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ和蘭国外務大臣ヲ推シテ其ノ議長トス

評議会ハ萬国事務局ヲ創設組織スルノ任務ヲ有シ竝之ヲ指揮監督ス

評議会ハ仲裁裁判所ノ構成ヲ各国ニ通知シ及其ノ開庁ノ設備ヲ為ス

評議会ハ其ノ事務章程及其ノ他必要ナル諸規則ヲ定ム

評議会ハ仲裁裁判所ノ職務執行ニ関シテ生スルコトアルヘキ行政事務上一切ノ問題ヲ決定ス

評議会ハ事務局ノ役員及雇員ノ任命停職及罷免ニ関スル全権ヲ有ス

評議会ハ俸給及手当ヲ定メ竝全般ノ経費ヲ監督ス

評議会ハ正当ニ招集セラレタル会合ニ於テ五名以上ノ出席者アルトキハ有効ノ評議ヲ為スコトヲ得決議ハ投票ノ多数ニ依ル

評議会ハ其ノ制定シタル諸規則ヲ速ニ記名国ニ通知シ且毎年仲裁裁判所ノ事業行政事務ノ執行及経費ニ関スル報告書ヲ記名国ニ提出ス

第二十九條　萬国事務局ノ経費ハ萬国郵便聯合事務局ノ為ニ定メタル比例ニ依リ記名国ニ於テ之ヲ負担ス

第三節　仲裁裁判手続

第三十條　仲裁裁判ノ発達ヲ助クルノ目的ヲ以テ記名国ハ紛争国カ別段ノ規則ヲ協定セサル場合ニ於テ仲裁裁判手続ニ適用スヘキ左ノ規則ヲ定ム

第三十一條　仲裁裁判ニ依頼スル諸国ハ其ノ係争事件ノ趣旨竝仲裁裁判官ノ権限ヲ明瞭ニ確定シタル特別條約（仲裁契約）ニ記名ス右條約ハ雙方ニ於テ誠実ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

第三十二條　仲裁ノ職務ハ雙方ニ於テ随意ニ指定シ若ハ本條約ニ依リテ設置シタル常設仲裁裁判所ノ裁判官中ヨリ雙方ノ選定シタル一名又ハ数名ノ仲裁者ニ委託スルコトヲ得

紛争国相互間ニ仲裁裁判所ノ構成ニ関シ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ従フヘキモノトス

雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半シタル場合ニハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三国ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ関スル協議成立セサルトキハ雙方ニ於テ各各異リタル一国ヲ指定シ其ノ指定セラレタル両国ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

第三十三條　君主其ノ他国ノ元首ニシテ仲裁者ニ選定セラレタルトキハ仲裁裁判手続ハ仲裁者自ラ之ヲ定ム

第三十四條　上級仲裁裁判官ハ当然裁判長タルヘシ

仲裁裁判所ニ上級仲裁裁判官ナキトキハ裁判所自ラ其ノ裁判長ヲ指定ス

第三十五條　仲裁裁判官中死亡シ辞職シ又ハ原因ノ如何ニ拘ハラス故障ヲ生シタル者アルトキハ其ノ任命ノ為ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

第三十六條　仲裁裁判所ノ所在地ハ雙方ニ於テ之ヲ指定ス其ノ指定ナキトキハ海牙ヲ以テ所在地トス

前項ノ所在地ハ不可抗力ノ場合ノ外雙方ノ承諾ヲ経ルニ非サレハ仲裁裁判所ニ於テ之ヲ変更スルコトヲ得ス

第三十七條　紛争国ハ自国ト仲裁裁判所トノ間ニ在リテ媒介者タル任務ヲ帯フル所ノ委員又ハ特別代理人ヲ該裁判所ノ下ニ派遣スルノ権利ヲ有ス

紛争国ハ尚顧問又ハ弁護人ヲ任命シ仲裁裁判所ニ於テ其ノ権利及利益ヲ弁護セシムルコトヲ得

第三十八條　仲裁裁判所ハ法廷ニ於テ自ラ使用シ及其ノ使用スルコトヲ許スヘキ国語ヲ選定ス

第三十九條　仲裁裁判手続ハ大体ニ於テ之ヲ準備書面ノ提出及口頭弁論ノ二種トス

準備書面ノ提出トハ雙方ノ派遣員ヨリ印刷シ又ハ筆記シタル一切ノ公文及訴訟上援用スル理由ヲ掲ケタル一切ノ書類ヲ仲裁裁判所裁判官及相手方ニ提出スルヲ謂フ右書類ノ提出ハ本條約第四十九條ノ規定ニ基キ仲裁裁判所ニ於テ定メタル方式及期限ニ従ヒ之ヲ為スヘシ

口頭弁論トハ法廷ニ於ケル雙方理由ノ口頭演述ヲ謂フ

第四十條　紛争国ノ一方ヨリ提出シタル書類ハ総テ之ヲ他ノ一方ニ通知スヘキモノトス

第四十一條　口頭弁論ハ裁判長之ヲ指揮ス

口頭弁論ハ紛争国ノ承諾ヲ経テ為シタル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ公開セス

口頭弁論ハ裁判長ノ指定スル書記ノ作リタル調書ニ之ヲ記載シ此ノ調書ノミヲ以テ公正ナル性質ヲ有スルモノトス

第四十二條　仲裁裁判所ハ準備書面ノ提出終結ノ後ハ紛争国ノ一方ヨリ他ノ一方ノ承諾ヲ得スシテ提出スル新ナル一切ノ公文又ハ書類ニ付論議スルコトヲ拒絶スルノ権利ヲ有ス

第四十三條　仲裁裁判所ハ紛争国ノ派遣員又ハ顧問カ其ノ注意ヲ求ムルコトアルヘキ新ナル公文又ハ書類ヲ参酌スルノ自由ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ仲裁裁判所ハ右公文又ハ書類ノ提出ヲ要求スルノ権利ヲ有ス但シ其ノ趣ヲ相手方ニ告知スルノ義務アルモノトス

第四十四條　仲裁裁判ハ尚雙方ノ派遣員ニ一切ノ公文ノ提出ヲ要求シ且必要ナル一切ノ説明ヲ請求スルコトヲ得若之ヲ拒ミタル場合ニハ其ノ旨ヲ記録ス

第四十五條　雙方ノ派遣員及顧問ハ其ノ訴訟ヲ弁護スル為ニ有益ナリト認ムル一切ノ理由ヲ口頭ニテ仲裁裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第四十六條　雙方ノ派遣員及顧問ハ抗弁ヲ為シ及中間ノ争ヲ起スノ権利ヲ有ス此点ニ関スル仲裁裁判所ノ法定ハ確定ニシテ更ニ之ヲ論議スルコトヲ許サス

第四十七條　仲裁裁判所裁判官ハ雙方ノ派遣員及顧問ニ質問ヲ為シ且疑ハシキ事項ニ関シテ其ノ説明ヲ求ムルノ権利ヲ有ス

弁論ノ進行中仲裁裁判所裁判官カ為シタル質問又ハ注意ハ仲裁裁判所全体若ハ其ノ裁判官カ自己ノ意見ヲ表彰シタルモノト看做スコトヲ得ス

第四十八條　仲裁裁判所ハ仲裁契約其ノ他紛争事件ニ関シテ援用セラルヘキ諸條約ヲ解釈シ且国際法ノ原則ヲ適用シテ自ラ其ノ権限ヲ定ムルコトヲ得

第四十九條　仲裁裁判所ハ訴訟取扱手続ニ関スル命令ヲ発シ各当事者ノ結論ヲ為スヘキ方式及期限ヲ定メ且證拠取扱ノ為適当ナル一切ノ手続ヲ履行スルノ権利ヲ有ス

第五十條　雙方ノ派遣員及顧問ヨリ各各其ノ訴訟ヲ弁護スル一切ノ説明及證拠ヲ提出シ了リタルトキハ裁判長ハ弁論ノ終結ヲ宣告ス

第五十一條　仲裁裁判所ノ評議ハ秘密会トス

決議ハ総テ裁判官ノ多数ニ依ル

裁判官中表決ノ数ニ加ハルコトヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨ヲ調書ニ記入スヘシ

第五十二條　投票ノ多数ニ依リテ決定シタル仲裁宣告ニハ其ノ理由ヲ附ス

右宣告ハ書面ニ認メ各裁判官之ニ記名ス

裁判官中少数ニ属シタル者ハ記名ノ際其ノ不同意ノ旨ヲ記入スルコトヲ得

第五十三條　仲裁宣告ハ雙方ノ派遣員及顧問在廷シ又ハ之ニ対シ正当ノ呼出ヲ発シタル仲裁裁判所ノ公開廷ニ於テ之ヲ朗読ス

第五十四條　正当ニ言渡ヲ為シ且雙方ノ派遣員ニ通知シタル仲裁宣告ハ確定ニシテ上告ヲ許サス

第五十五條　紛争国ハ仲裁契約ニ於テ仲裁宣告ノ再審ヲ請求スルノ権利ヲ保留スルコトヲ得

前項ノ場合ニハ再審ノ請求ハ反対ノ約束ナキ限リ最初宣告ヲ為シタル仲裁裁判所ニ之ヲ為スヘシ右ノ請求ハ口頭弁論終結ノトキ仲裁裁判所モ又再審ヲ要求シタル一方ノ紛争国モ共ニ覚知セサリシ新事実ニシテ其ノ性質宣告ニ断乎タル影響ヲ与ヘ得ヘキモノヲ発見シタル場合ノ外之ヲ為スコトヲ得ス

再審ノ手続ハ特ニ新事実ノ存在スルコトヲ確認シ其ノ事実ハ前項ニ掲ケタル性質ヲ有スルコトヲ識認シ且之カ為再審ノ請求ノ受理スヘキモノタルコトヲ宣言スル仲裁裁判所ノ決定ニ依ルノ外之ヲ開始スルヲ得ス

再審ノ請求ヲ提出スヘキ期限ハ仲裁契約ニ於テ之ヲ定ムルノ外効力ヲ有スルコトナシ

仲裁契約ニシテ紛争国以外ノ諸国カ加盟セル條約ノ解釈ニ関スルモノナルトキハ紛争国ハ其ノ締結シタル仲裁契約ヲ右諸国ニ通告スヘシ右諸国ハ各各訴訟ニ参加スルノ権利ヲ有ス若其ノ一国又ハ数国ニ於テ此ノ権能ヲ利用シタルトキハ宣告文中ニ記載シタル解釈ハ其ノ国ニ対シテモ亦均シク効力ヲ有スルモノトス

第五十七條　紛争国ハ各各自国ニ係ル費用ヲ負担シ且仲裁裁判所費用ヲ等分ニ負担ス

総則

第五十八條　本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ海牙萬国平和会議ニ賛同シタル各国ニ交付スヘシ

第五十九條　萬国平和会議ニ賛同シタル諸国ニシテ本條約ニ記名セサルモノハ他日之ニ加盟スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

第六十條　萬国平和会議ニ賛同セサリシ諸国カ本條約ニ加

盟シ得ヘキ條件ハ他日締盟国間ノ協商ニ依リテ之ヲ定ム

第六十一條　若締盟国中ノ一国ニ於テ本條約ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ

右通告ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル国ノミニ止マルモノトス

右證拠トシテ各全権委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年　海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭国政府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付スルモノナリ

国際紛争平和的処理條約ニ関スル報告書附屬書類

附屬書（イ）号露国委員ヨリ提出シタル書類

第一　海牙会議ニ賛同セル諸国ノ間ニ締結スヘキ條約案制定ノ要素

周旋及居中調停

第一條　国際関係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク制止セムカ為記名国ハ其間ニ生スルコトアルヘキ紛争ヲ平和的手段ニ依リテ結了セムコトニ其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

第二條　右ノ目的ノ為ニ記名国ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ妨ケサル限リ其ノ交親国中ノ一国若ハ数国ニ周旋又ハ居中調停ヲ依頼スヘキコトヲ決定ス

第三條　紛争中ノ国カ自由ニ居中調停ヲ承認シタルトキハ調停国政府ノ目的ハ紛争国雙方ノ申分ヲ和解シ且其ノ間ニ生スルコトアルヘキ悪感情ヲ融和スルニ在ルモノトス

第四條　調停国政府ノ職分ハ其ノ提供シタル和解方法若ハ友誼的協商ノ基礎カ紛争国ニ依リテ採納セラレサルトキ直ニ終止スルモノトス

第五條　政治上ノ利害問題ニ関シ文明国間ニ於テ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛争ヲ生シタル場合ニハ紛争国ハ紛争ニ関係ナキ諸国ニ周旋若ハ居中調停ヲ依頼シ得ヘキニ拘ラス是等紛争以外ノ諸国ハ事情ノ許ス限リ自ラ紛争国ニ向テ発議スルニ他国ノ利益ヲ害セスシテ紛争国ノ利益ヲ調和シ得ヘキ最良ノ友誼的処断方法ヲ以テシ之ニ依リテ既生ノ紛議ヲ融和セシカ為ニ周旋又ハ居中調停ノ任ニ当ランコトヲ提供スルヲ以テ各国ハ有益ナリト認ム

第六條　居中調停及周旋ハ紛争国ノ発意ニ係ルト中立諸国ノ発意ニ出ルトニ論ナク厳ニ友誼的勧告ノ性質ヲ有スルニ止マリ毫モ拘束ノ効力ヲ有セサルモノトス

萬国仲裁裁判

第七條　法律上ノ問題特ニ現行條約ノ解釈若ハ適用ニ関スル問題ニ就キ紛争ヲ生シタル場合ニハ記名国ハ仲裁裁判ヲ以テ其ノ紛議ヲ友誼的ニ処理スルニ最モ有効ナルト同時ニ最モ公平ナル方法ナリト認ム

第八條　此故ニ締盟国ハ前ニ掲ケタル種類ノ諸問題ノ生シタル場合ニハ其ノ生存上ノ利害又ハ紛争国ノ名誉ニ関係セサル限リ仲裁裁判ニ依頼スヘキコトヲ約定ス

第九條　仲裁裁判ニ附スヘキ場合タルト否トヲ識別スルハ一ニ各国ノ見ル所ニ依ル但本條約ニ記名シタル諸国ハ次條ニ掲ケタル事項ニ限リ之ヲ仲裁裁判ニ附スルノ義務アルモノトス

第十條　記名国ニ於テ漏レナク本條約ノ批准ヲ終リタル後ハ左記ノ事項ニシテ締盟国ノ生存上ノ利害若ハ其ノ名誉ニ関係ナキモノニ限リ之ヲ仲裁裁判ニ附スルノ義務アルモノトス

一　一国若ハ其ノ臣民カ他ノ一国若ハ其ノ臣民ノ不法行為又ハ懈怠ニ由リ金銭上ノ損害ヲ受ケタルニヨル紛議

若ハ争論

二　左ニ掲ケタル諸條約ノ解釈若ハ適用ニ係ル意見ノ衝突

（一）　郵便、電信、鉄道、及海底電信ノ保護ニ関スル諸條約、海洋ニ於ケル船舶ノ衝突豫防方法ニ関スル諸規則、国際河川及海洋間ノ運河航行ニ関スル條約

（二）　文学上及技芸上ノ所有権及工業所有権（発明特許権、製造標、商標及商号）貨幣條約及度量衡ニ関スル條約衛生、獣疫及「フィロクセラ」ニ関スル諸條約

（三）　相続ニ関スル條約、俘虜交換規約及司法上ノ協助ニ関スル條約

（四）　純粋ナル専門的問題タルニ止マリ政治上ニ関係ナキ限度ニ於ケル境界條約

第十一條　本條約ニ記名シタル諸国ハ更ニ今後ノ合意ニ依リ前條ニ列記シタル場合ヲ補充スルコトヲ得

前項ノ外各記名国ハ本條約ノ一般批准ニ先タチテ前記ノ場合ヲ仲裁裁判ニ依頼スルコトヲ義務的ナラシメンカ為及其

ノ義務的仲裁裁判ニ依頼シ得ヘシト思料スル一切ノ場合ニ該仲裁裁判ノ権限ヲ拡張スル為ニ他ノ国ト特別ノ協定ヲ為スコトヲ得

第十二條　前諸條ニ掲ケサル一切ノ国際紛争ヲ仲裁裁判ニ依頼スルハ極メテ望ムヘキ事ニシテ本條約ノ勧告スル所ナリト雖右仲裁裁判ハ単ニ任意的タルニ止マルヘク則チ紛争国ノ一方ノ自由ナル発意ト他ノ一方ノ相手方ノ自由意思ニ基ク明示ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ適用スヘカラサルモノトス

第十三條　仲裁裁判ニ付託スルコト及仲裁裁判ノ適用ヲ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ記名国ハ萬国仲裁裁判ニ付セラルル事件ノ為メ当該事件ノ立證及豫審中遵守スヘキ訴訟手続竝仲裁判決ノ宣告ニ就キテ遵守スヘキ基本原則ヲ相一致シテ明定スヘキコトヲ承認ス

国際審査委員会

第十四條　記名国ノ間ニ局部ノ事件ニ関シテ其ノ意見ヲ異ニシ之カ為メ普通ノ外交手続ニ依リ決定スル能ハス而モ該記名国ノ名誉若ハ生存上ノ利害ニ関係ナキ国際上ノ紛議ヲ生シタル場合ニ於テハ関係政府ハ不和ヲ生スルニ至レル事情ヲ審明シ竝実地ニ就キテ一切ノ事実問題ヲ公平誠実ニ調査セシムル為ニ国際審査委員会ヲ開設スヘキコトヲ約定ス

第十五條　右ノ国際委員会ハ左ノ如ク之ヲ組織ス

雙方ノ政府ハ各々二名ノ委員ヲ任命シ四名相合シテ別ニ一名ノ委員ヲ選定シ之ヲ以テ其ノ委員長ト為スヘシ、其ノ委員長ノ選挙ニ於テ投票相半ハシタルトキハ両国ノ政府ハ相一致シテ第三国若ハ第三者ニ委員長ノ任命ヲ依頼スヘシ

第十六條　前ニ掲ケタル條件ヲ備ヘタル重大ノ不和若ハ紛争ノ生シタルトキハ雙方ノ政府ハ其ノ係争事件ニ関スル事項ヲ精密且誠実ニ調査スル為ニ必要ナル一切ノ方法及便宜ヲ審査委員会ニ与フヘキコトヲ約束ス

第十七條　国際審査委員会ハ不和若ハ紛争ヲ生シタル事情ヲ審明シタル後委員会全員ノ記名セル報告書ヲ関係政府ニ提出スヘシ

第十八條　審査委員会ノ報告書ハ決シテ仲裁宣告ノ性質ヲ有セス該報告書ニ基キテ友誼的協商ヲ決定スルカ或ハ更ニ協議ヲ調ヘテ仲裁裁判ニ依頼スルカ若ハ国民相互間ノ関係ニ於テ認メラレタル事実上ノ手段ニ依頼スルカハ全然紛争国政府ノ権能ニ在ルヘシ

第二　右條約案制定ノ要素中第五條及第十條ニ関スル説明書

一、露国案第五條ニ関スル説明

今回海牙ニ開設セラレントスル萬国会議ハ「ジェネヴァ」（千八百六十四年）聖彼得斯堡（千八百六十八年）及比律悉（千八百七十四年）ニ開カレタル諸会議ニ比シ著シク異ナル所アリ

是等ノ前会議ハ一旦戦争ノ宣言セラレタル後ニ於テ之ヲ人道的ノモノタラシムルコトヲ目的トセリ然ルニ海牙ニ招集セラレタル会議ハ特ニ戦争ノ宣言其ノモノヲ豫防スルノ方法ヲ研究スルヲ以テ其ノ本旨ト為スヘキカ故ニ此海牙会議ハ最積極的ノ意義ニ於ケル平和会議ナリト云ハサルヘカラス

国際公法ノ実際ニ於テハ国際紛争ヲ平和的ニ処理シ以テ戦争ヲ豫防シ得ヘキ一篇ノ方法ノ創定セラレタルアリ、就中第一ニ指ヲ屈スヘキハ周旋、居中調停及仲裁裁判ナリトス蓋シ平和会議カ国民間平和ノ永続ヲ確保スル為ニ未タ実際ニ於テ経験セラレス且確立セラレサル新方法ヲ求メントスルヨリモ既ニ存在セル保障及方法ヲ完全ナラシメントスルニ努ムルハ寧ロ当然ノコトタルヘシ是レ平和会議カ第三者即所謂紛議中ニ舎マレサル諸国ノ「周旋」及「居中調停」ニ就キ特ニ注目セサルヘカラサル所以ナルヘシ

（註）周旋及居中調停ノ区別ハ専ラ理論上ノコトニ屬セリ、此二種ノ方法ハ其ノ法律上ノ性質ハ全ク同等ニシテ唯軽重ノ程度ト結果ノ大小トニ於テ僅ニ区別セラルル所アルニ過キス而シテ外交上ニ於テハ未タ曾テ毫モ此区別ニ拘泥シタルコトナシ（千八百五十六年巴里條約第八條及同年巴里会議議定書第二十三條対照）

居中調停ハ其ノ性質上当然ニ国際法上最有要ニシテ最実際的ナル行動手段ノ中ニ列セラレサルヘカラサルハ敢テ疑ナキ所ナリ蓋シ居中調停ハ各国カ其ノ有形上及無形上ノ共通利益ニ基キテ国際団体ヲ形成セル必然ノ結果ナリ故ニ此方法ハ各国間密接ノ度ノ増加シ其ノ国際的関係ノ拡張セラルルニ従テ其ノ価値ヲ増大シ重要ノ地歩ヲ占ムルニ至ルハ勢ノ然ラシムル所ナリ

又居中調停ヲ国際紛争ヲ処理スヘキ他ノ方法ニ比較スレハ自ラ優ル所アリ其ノ然ル所以ノ要点ハ活用上著シク伸縮力アルコト、各場合ノ特別ナル事情ニ適合シ易キコト竝此便宜ニ応センカ為ニ種々ノ形式ヲ有シ得ルコト等ニ在リ、又居中調停ハ紛争国ノ自由ナル承認ニ依ルモノナルヲ以テ紛

争国主権ノ原則竝自由及独立ニ対シ毫モ侵害ヲ加フルコトナク且紛争国ノ自由意思ヲ危フシ若ハ之ヲ脅カスコトナクシテ自ラ其ノ上ニ勢力ヲ及ホスモノナリ

仲裁裁判ハ概シテ居中調停ヨリモ一層有力ニシテ一層根本的ノ方法タルハ疑ナシ然レトモ亦仲裁裁判ハ法律的ノ活用方法タルヲ以テ其ノ適用ハ主トシテ国際法上ノ紛争ノ場合ニ止マルモノトス之ニ反シテ居中調停ハ政治的ノ方法タルヲ以テ国民間ノ平和ヲ脅迫スルコト極メテ頻繁タルヘキ利益上ノ紛争ニモ均シク適用セラルヘキモノナリ又居中調停ト他ノ類似ノ行動手段トノ差異ノ特ニ顕着ナルハ居中調停ニ関シテハ豫メ何等ノ準備ヲ要セス従テ其ノ適用ノ簡約且容易ナルコト驚クヘキモノアルノ点是ナリ

蓋シ是外交上ニ於ケル日用ノ要具ニシテ其ノ運用ノ巧妙精緻ナルヲ得、且平和ヲ思フノ誠心ニ由リテ指導セラルルニ於テハ此制度ハ必スヤ将来漠大ノ利益アル任務ヲ遂行シ得ヘキナリ

然ルニ今日ニ至ルマテ居中調停ハ実際国際紛争ノ処理上極メテ微弱ノ効果ヲ致シタルニ過キサルコト最近ノ国際紛争史上ニ於テモ尚ホ之ヲ證明シテ余アリ

斯クノ如キ状態ヲ来シタル理由ヲ探究セントスルニハ第一リ観レハ居中調停ハ紛議ニ直接関係アル清国ニ対シテ義務ヲ負ハシムルモ中立国ニ対シテハ何等ノ義務ヲ負ハシメサルモノト為ルヘシ

右ノ如キ居中調停ハ理論上甚タ適正ヲ缺クルノミナラス実際上ニ於テモ亦実行シ難キモノタルノ不利益アリ抑モ居中調停ノ依頼ヲ見ルニ至ルニハ必スヤ紛争国相一致シテ其ノ依頼ノ必要ト時機ニ適スルコトヲ認メサルヘカラス然ルニ斯ノ如キ一致ハ利益ノ正反対ナル紛争ノ気焔盛ナルニ当リテハ必スシモ常ニ調ヒ得ルモノニアラス、利害問題ニ関係ヲ有スル国ニ対シ居中調停ニ依頼スルコトヲ義務的ノモノタラシメントスルハ孰レノ場合ニ於テモ不当タルヲ免レス況ンヤ之ヲ依頼スルニ就キテハ相反対セル意思ヲ合致セシムルヲ要シ加フルニ調停者ノ選択ニ関スル雙方一致ヲ必要トスルニ於テヲヤ

仲裁裁判ニ関シテハ之カ義務的依頼ヲ設定セル條約不幸ニシテ尚ホ僅少ナリト雖モ而モ是等ノ條約ニ在リテハ概シテ豫メ仲裁宣言ヲ為スヘキ裁判所ノ構成方法ヲ規定シ敢テ之ヲ以テ紛争国ノ承認若ハ否認ニ係ハルコトナカラシメタリ

ニ居中調停カ果シテ孰レノ点ニ於テ国際法ノ理論竝実際ニ適合セサル方法ヲ以テ応用セラレタルカヲ鑑ミサルヘカラス

巴里條約第八條ニ依レハ土耳其国政府及其ノ他該條約ノ記名国ハ兵力ノ行使ヲ豫防スル為メ相互ノ間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ不和ヲ他ノ諸国ノ居中調停ニ附スルノ義務ヲ負フ

英国全権委員「ロールド」クラレンドンノ発議ニ依リ記入セラレタル巴里会議議定書第二十三條ハ右ノ思想ヲ一層敷衍シ相互ノ間ニ重大ナル不和ヲ生シタル諸国ハ兵力ニ訴フルヨリモ寧ロ事情ノ許ス限リ或ル交親国ノ周旋ニ依頼スヘシトノ希望ヲ明記セリ

又千八百八十五年伯林ニ於ケル亜弗利加会議ニ於テ列国ハ公果及其ノ河域ニ関シテ不和ノ生シタル場合ニハ第一ニ一個若ハ数個ノ中立国ノ居中調停ニ依頼スヘキコトヲ相互ニ約定セリ

以上掲ケタル各約款ハ殆ト同一ノ文面ヲ有シ何レモ同一ノ思想ニ基クモノナリ其ノ文面ニ依レハ紛争ニ関係セル一切ノ国ハ居中調停ヲ依頼スルノ義務ヲ有シ而シテ中立国カ居中調停ヲ提供スヘキ義務ニ就テハ記載スル所ナシ、此点ヨ

（註）一千八百七十四年「ベルヌ」ニ於テ記名ヲ経タル萬国郵便條約第十六條及千八百九十年華盛頓ニ於テ調印セラレタル條約第八條参看）

然ルニ居中調停ニ関スル條約中ニ於テ居中調停者ノ選択ヲ紛争国ノ為メ強制的ニ決定シ置クノ不能ナルハ素ヨリ当然ナリトス何トナレハ居中調停者ノ勧告ハ徳義上ノ勢力ヲ有スルニ止マリ其ノ効果ハ紛争国カ調停者ニ対シテ有スル尊敬及信用ノ度ニ従ヒテ決定セラルヘキモノナレハナリ、此故ニ居中調停者ノ指定ハ必スヤ紛争国ノ一致ニ依ラサルヘカラス然ルニ此一致ハ偏ニ紛争国ノ善意ナルト否トニ関シ而モ善意ハ存在スルモ尚ホ一致ノ行ハレ難キコトアリ故ニ直接ニ利害関係ヲ有スル国ニ対シテ居中調停ヲ依頼スヘキノ義務ヲ命スルハ徹頭徹尾為スヘカラサルモノナリ、若シ條約ニ於テ果シテ紛争国ニ負ハシムルニ斯クノ如キ義務ヲ以テスルモ此義務ハ概ネ死文タルニ止マルヘシ何トナレハ條約ト雖モ到底国家カ某々調停者ヲ選択セントスルヲ強テ妨止スル能ハサルヘケレハナリ

千八百五十六年巴里会議以後ノ国際関係史ニ依ルモ尚ホ右ノ説ヲ確メ得ヘシ、則チ巴里会議ノ議定書第二十三條ニ依遵シ輓近四十年間ニ中立国ヨリ紛争国ニ向テ居中調停及周

旋ヲ提供シタル場合ハ許多アリト雖モ紛争国ヨリ中立国ニ向テ居中調停ノ依頼ヲ申込ミタル場合ハ未タ一回モ之アラサリキ又、客歳「フアショダ」ニ関スル英仏間ノ紛争ニ当リテモ此両国ハ孰レモ千八百八十五年伯林会議ニ於テ設定セル約款ニ依遵スルコトヲ為サス従テ第三国ニ向テ居中調停ヲ依頼スルコトアラサリキ、斯クノ如キ例ハ尚ホ他ニモ之ヲ求メ得ヘキナリ

紛争国ニ向テ居中調停ヲ提供スヘキ中立国ノ義務ニ関シテハ未タ條約ニ於テ之ヲ設定シタルモノアルコトナク従テ未タ何人モ此義務ヲ認知シ遵奉スル者アルコトナシ加之ナラス理論上ニ於テハ或著者ノ如キハ中立国ハ霄ニ紛争国ニ向テ居中調停ヲ提供スルノ義務ナキノミナラス寧ロ中立国ハ其ノ提供ノ権利ヲ有セスト断言スルヲ憚ラサルナリ、ブリュンチュリー及ヘフテルハ居中調停ヲ以テ他人ノ事務ニ対スル危険且有害ノ干渉ナリト認メオートフイユ及ガリアニハ居中調停ヲ以テ充分ノ理由ナク訴訟当事国ノ一方若ハ他ノ一方ノ同情ヲ薄フスルノ恐アルヲ以テ寧ロ之カ提供ヲ避クルノ利アルニ若カサル旨ヲ各国ニ向テ勧告セリ、実際上ニ於テハ重大ノ紛争ニシテ毫モ中立国ヲシテ居中調停ヲ以上陳弁シタル所ニ依リテ之ヲ観レハ居中調停ヲ以テ国際法上ノ常設的必要機関トシ以テ其ノ勢力ヲ拡張シ並之ニ重望ヲ負ハシメンカ為ニ平和会議ノ当サニ取ルヘキ方針ヲ指定スルハ敢テ困難ノ業ニアラサルナリ、蓋シ文明各国ハ互ニ相錯綜セル無数ノ利益ヲ以テ囲繞セラレ密接ニシテ分離スヘカラサル関係ヲ組織ス於是乎各国ノ政治的存在ニ於テ近頃マテ重キヲ致セル孤立主義モ遂ニ密着セル連帯的利益ト文明ノ賜タル有形及無形ノ康福共同享有トノ前ニ一歩ヲ譲ルコトト為レリ

近世ノ国家ハ凡ソ国際紛争ノ何レノ場処ニ発生スルト亦其ノ紛争当事者ノ何国タルヲ問ハス冷然之ヲ看過スルコト能ハサルナリ則チ現今ニ於テハ単ニ二個国間ニ生シタル戦争ト雖モ国際的災害タルニ均シク此災害ヲ救済センカ為ニ範囲ノ広汎ナル方法ヲ求ムルノ必要アリ須ラク総テノ国全体及各国国別ノ協力ヲ集合スルコトヲ要ス

於是乎各国ハ平和ヲ危フカラシムヘキ性質ノ紛争ヲ防止スル為ニ其ノ行ヒ得ヘキ一切ノ手段ヲ試ミ且其ノ全力ヲ之ニ集中セサルヘカラサルナリ素ヨリ此場合ニ於テ他ノ主権国ノ独立権ヲ尊崇スルヲ要スルハ疑ヲ容レサル所トス然リ而シテ特ニ之ヲ各国国別ノ側ヨリ論スレハ各国ハ苟モ之ニ依

提供スルノ企図ヲ起サシムルコトナク遂ニ戦争ニ立至リタル例甚タ少ナカラサルナリ然リト雖モ若シ右ノ如キ場合ニ此種ノ提供ノ為サルルアリ特ニ数多ノ国ヨリ一斉ニ之ヲ提供シタリシナランニハ国際団ヲ組織セル列国全体ニ対シ不測ノ結果ヲ蒙ラシメタル数回ノ戦争ヲ之カ為ニ避ケ得タリシヤモ亦未タ知ルヘカラサルナリ

而シテ居中調停ノ提供アリタル場合ニ於テモ其ノ提供タル多クハ遅延ニ失シ且其ノ文面ノ甚タ曖昧ナリシ為メ到底戦争ヲ避止スルニ足ラサリシナリ蓋シ千八百七十年仏独間ニ紛議ヲ生シタルニ当リ仏国政府カ英国ノ「周旋」ヲ拒絶シタルカ如キ亦右ノ理由ニ外ナラサルナリ

又居中調停ハ戦争ヲ避クル為ニアラスシテ戦争ヲ終結セシムル為提供セラレタルコトアリ

近時許多ノ戦争ハ中立国ノ居中調停ニ依リテ終局ヲ告ケタリ則チ千八百六十六年ノ墺普戦争、千八百八十二年ノ智利、白露及「ボリビイ」間ノ戦争、千八百九十七年ニ於ケル希臘土耳其間ノ戦争等是ナリ若シ是等ノ中立国ニシテ戦争ヲ終止セシメンカ為ニ費シタル全力ヲ挙ケテ戦争ヲ豫防スルノ用ニ供シタランニハ欧洲ニ於ケル武力的紛議ヲ減シ得タルコト必スヤ一再ニ止マラサリシナルヘシ

リテ戦争ノ惨害ヲ防止シ得ルノ望アリト信シクル以上ハ事情ノ許ス限リ紛争国ニ向テ居中調停ヲ提供セサルヘカラサルナリ

蓋シ数個ノ中立国カ通常交戦国ニ対シテ平和回復ノ為ニ居中調停ヲ提供スルハ戦争ニ依リテ如何ニ重大ノ結果ヲ生スルカヲ認ムルヲ以テナリ、此種ノ居中調停ハ概シテ連合的ノ性質ヲ有シ屢々戦勝国ヲシテ戦争ノ目的タリシ利益ヲ其ノ戦勝ニ依リテ獲取スル能ハサラシムルコトアリ

中立国ハ霄ニ戦争ノ結果ニ利害ノ関係ヲ有スルノミナラス既ニ戦争破裂ノ事実其ノモノニ重要ノ関係ヲ有スルハ疑ヲ容レサルナリ故ニ中立国ノ利益ヨリスレハ唯ニ開始セラレタル戦争ヲ停止セシムルヨリモ寧ロ戦争ノ破裂ヲ豫防スル為ニ居中調停ヲ提供スルヲ優レリトス、蓋シ紛争国ト雖モ同シク之カ利益ヲ受クヘク特ニ戦争破裂セントスルノ間際ニ於テ一層然リトス抑今日ニ於テ交戦国ハ紛争ニ対スル中立国ノ態度ヲ認知シ以テ霄ニ交戦中ニ於ケル敵国ノ抵抗力ノミナラス平和回復ノ際ニ於テ中立国ヨリ出ツヘキ反抗力ヲモ予メ算定シ確知シ置クノ必要在リトス

トラヴエルツウイス。フィリモール。プラジエ、フォデレー。ド、マルテンス其ノ他最信用アル学者ノ説ニ依レハ国際法ノ理論ニ於テハ古ヨリ居中調停ヲ以テ中立国ノ義務ノ

如ク看做シタリ思フニ平和会議ハ居中調停ニ与フルニ有力ナル平和機関タルノ全勢力ヲ以テセンカ為ニ全世界人類ノ目前ニ於テ此義務ヲ宣布スルヲ必スヤ有要ノコトト認メラルルナルヘシ

二　露国案第十條ニ関スル説明書

仲裁裁判ノ問題ヲ審査スルニ当リテハ第一ニ義務的仲裁裁判ト任意的仲裁裁判トノ間ニ存スル主要ナル区別ニ着眼セサルヘカラス

大体ヨリ論スレハ制定国際法ノ基礎ニ発生スル法律上ノ紛議ニシテ当事者間ノ一致ニ依ル任意的仲裁裁判ノ手段ニ依リ克ク結了シ能ハサルモノハ之無カルヘキナリ然リ而シテ素ト国際法ノ缺点ハ不幸ニシテ甚タ尠カラサルカ故ニ或問題ノ解決ニ関シテ未タ一般ノ準則ナキコト或ハ之アルヘシ斯クノ如キ場合ニ当リテモ尚ホ仲裁裁判手続開始前ニ於テ当事者間ニ決定シタル仲裁契約ヲ以テ取リモ直サス一ノ準則ヲ設定シタルモノト見ルヲ得ヘク之ニ依リ著ルシク仲裁者ノ任務ヲ容易ナラシメ得ヘキナリ

右ニ反シ義務的仲裁裁判ハ毫モ当事者ノ特別ナル承諾ノ有無ニ関スルコトナシ従テ義務的仲裁裁判ハ一切ノ場合及一切ノ種類ノ紛争ニ適用シ得ヘカラサルハ当然ノコトナリトス、蓋シ国際間ニ発生スル紛議ハ一国ノ国家的名誉、重大ナル利益及其ノ国ノ譲渡スヘカラサル財産ニ関スルモノタルコトアルヘシ然ルニモ拘ラス一切ノ紛議ヲ挙ケテ之ヲ仲裁裁判所ノ決定ニ付スルノ義務ヲ前以テ承諾スルカ如キ政府ハ必スヤ無カルヘキナリ、現今ニ於テハ各国相互ノ権利義務ハ多クハ政治的條約ト名ケラルル一団ノ條約ニ依リテ定メラレ是等ノ條約ハ各国民間ノ偶然ニシテ経過的ナル関係ノ一時的表示ニ外ナラス其ノ制定ヲ見ルニ至レル政治的條件ノ依然変セサル限リ当事者行動ノ自由ヲ羈束スルモノナリ、若シ是等ノ條件ニ変更ヲ来スニ於テハ右ノ條約ヨリ生スル権利義務モ亦必ス変セサルヘカラサルナリ、之ヲ概論スレハ政治的條約ノ基礎ニ生シタル紛争ハ大半ノ場合ニ於テハ其ノ某々準則ノ解釈上ノ異見ニ関スルヨリモ寧ロ是等ノ準則ニ変更ヲ行ハントスルカ或ハ全然之ヲ廃止セントスルニ在ルコト多シトス

由是観之実際政治上ノ点ニ於テハ萬国義務的仲裁裁判ノ不能ナルコトハ明白ノ事ト云フヘシ然リト雖他ノ一方ニ於テハ国際的生活ノ間ニ於テ常ニ且絶体ニ仲裁裁判ニ依リテ解決シ得ヘキ紛議ヲ生スルコト稀ナリトセス蓋シ専ラ法律上ノ特殊ナル諸点ニ関係シ而モ各国ノ生存上ノ利害ニモ国家的名誉ニモ接触セサル諸問題即是レナリ是等ノ問題ニ関シ

平和会議ニ於テ仲裁裁判ヲ以テ常設的且義務的ノ解決方法タラシムルハ豈ニ賀スヘキノコトニアラストセンヤ

抑モ仲裁裁判ニ付スルノ義務ヲ認ムルハ縦令極メテ制限セラレタル範囲ニ止マルト雖モ尚ホ克ク国際間ノ関係ニ於テ法律ノ原則ヲ確定シ之カ違犯及侵害ニ対シテ担保ヲ供シ国際法ノ広大ナル範囲内ニ於テ多少中立ノ部分ヲ作ルモノト云フモ不可ナカルヘシ蓋シ義務的仲裁裁判ハ各国間ニ於テ極メテ夥多ニシテ且障害多キ誤解ヲ避クル為メ各国ニ対シ便宜ナル方法ナリトス右等ノ誤解ハ左ノミ重大ノコトナラサルニ拘ラス徒ニ外交上ノ関係ヲ傷クルコト稀ナラサルモノナリ又義務的仲裁裁判ニ依リテ各国ハ容易ニ其ノ正当ノ主張ヲ伸張スルコトヲ得ヘク且特ニ重要ナル点ハ是ニ依リテ理由ナキ口実ヲ一層容易ニ避止スルヲ得ルニ在リ

義務的仲裁裁判ハ一般平和ノ為ニ効力アルコト測ルヘカラサルモノアリ、素ヨリ専ラ此方法ヲ適用スヘキ第二流ノ問題カ戦争ノ源因タルコトハ極メテ稀有ノコトタルハ明白ナリ、然リト雖モ国ト国トノ間ニ於テ紛議頻繁ナルトキハ縦令其ノ紛議ハ第二流ノ問題ニ関シ平和ノ維持上毫モ直接ノ危害ヲ及ホスヘキモノニアラスト雖而モ国際間善良ノ関係ヲ一変シテ猜疑及敵愾ノ気ヲ醸生シ一朝機ニ触レテ恰モ電光ノ如ク意外ニ戦争ノ爆発スルヲ見ルニ至ルコト決シテ之無シト云フヘカラサルナリ、義務的仲裁裁判ハ紛争ニ関係アル諸国ヲシテ其ノ紛争ニ如何ナル決定ヲ与フヘキヤニ付一切ノ責任ヲ免レシムノ効能ヲ有スルカ故ニ従テ是等関係諸国間ノ友誼的関係ヲ維持スルニ与リテ力アルヘク且之ニ依リテ最モ重要ナル相互間ノ利益ニ就キテ発生セル最モ重大ナル紛議ノ平和的解決ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘキナリ

義務的仲裁裁判ノ重要ナルコト以上ノ如キモノアルヲ認ムルニ於テハ先ツ第一ニ之カ適用ノ範囲ヲ確定シ如何ナル場合ニ義務的仲裁裁判ヲ適用スヘキモノナルカヲ指定セサルヘカラス

国際紛争ノ源因ハ極メテ多数ニシテ其ノ変化亦極リナシ然リト雖モ凡ソ紛争ノ目的ノ何タルヲ問ハス一国カ他ノ一国ニ提出スル請求ハ必スヤ左ノ各種ノ外ニ出ツル能ハサルヘシ

第一　一国カ適法ナラスト思料スル他ノ一国若ハ其ノ所轄人民ノ行為ニ因リ自国若ハ自国人民ノ蒙リタル損害ニ対シ有形上ノ賠償ヲ請求スルコト

第二　一国カ他ノ一国ニ対シ其ノ主権ニ属スル或ル確定セ

ル権限ヲ執行シ若ハ執行セサルコトヲ請求スルコト及有形上ノ利害ニ関セサル或ル一定ノ行為ヲ為シ若ハ為ササルコトヲ請求スルコト

第一種ノ紛争ニ関シテハ常ニ義務的仲裁裁判ヲ適用シ得ヘク亦之ヲ適用センコトヲ望ムヘキモノナリ、此種ノ紛争ハ法律上ノ問題ニ係リ一国ノ国家的名誉ニモ亦其ノ生存上ノ利害ニモ関セサルモノナリ何トナレハ苟クモ一国ニシテ其ノ国家的名誉若ハ生存上ノ利益ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ必スヤ単ニ其ノ蒙リタル損害ニ対シ有形上ノ賠償ヲ請求スルニ止マラサルヘケレハナリ、抑モ戦争ハ常ニ極メテ悲ムヘキ事タリト雖モ若シ一国カ他ノ一国ヨリ蒙リタル適法ナラスト思料スル損害ニ対シテノ賠償額ニ関スル如キ甚タシク重要ナラサル事実ニ基キテ発生セル紛争ノ為ニ開始セラルルニ於テハ其ノ戦争タル全ク無意義ニシテ徳義上毫モ正当ノ理由ヲ有セサルモノタルヘシ、然レトモ斯クノ如キ場合ニ戦争ノ不可ナルニ於テハ此種ノ紛争ノ平和的解決ニ対シ最モ効力アル手段トシテ義務的萬国仲裁裁判ヲ勧告スルハ亦已ムヲ得サルナリ

国際関係史ノ證スル所ニ依レハ仲裁裁判ノ目的タリシ場合ノ大半ハ損害賠償ノ請求ナリトス是等請求ノ基礎ハ其ノ類

極メテ多シ今其ノ例トシテ左ノ数種ヲ掲記セン（イ）中立義務ノ違反（ロ）中立国ノ権利侵害（ハ）外国臣民ノ不法逮捕（ニ）一国ノ過失ニ因リ外国臣民ニ蒙ラシメタル損失（ホ）大陸ニ於ケル交戦者ノ個人私有財産捕獲（ヘ）船舶ノ不法捕獲（ト）漁業権侵害、等即是レナリ

（註）（イ）「ジェネラル、アームストロング」号事件（千八百五十一年）、「アラバマ」号事件（千八百七十二年）

（ロ）「ポルテンディック」ノ封鎖（千八百四十三年）、等

（ハ）船長ホワイトノ事件（千八百六十四年）、ダウンドナルドノ事件（千八百七十三年）、等

（ニ）ハックアフェルドノ事件（千八百八十八年）、墨西哥国及合衆国間ノ紛争（千八百七十二年）、等

（ホ）「マセドニアン」事件

（ヘ）「ヴエローズ」号「ヴイクトリア」号及「ヴィジイ」号ノ捕獲　千八百五十二年）、「フアール」号事件（千八百七十九年）、其ノ他

（ト）「テール、ヌーヴ」漁業事件、等

之ヲ要スルニ紛争カ損害及損失ノ賠償ニ係ルトキハ其ノ源因若ハ事情ノ如何ニ拘ラス列国ハ之ヲ仲裁裁判ニ付スルニ当リ困難ヲ感スルコトナカルヘキナリ

由是観之平和会議ハ宜シク此方針ヲ執リ前記第一種ノ紛争ノ審査ニ就キ仲裁裁判ヲ義務的ノモノト宣言スルヲ以テ至当ナリトス而シテ其ノ金銭上ノ問題カ一国ノ破産ニ関係アルカ如キ国家ノ利害上第一位ノ重要ナル性質ヲ表ハスニ於テハ各国ハ其ノ国家的名誉若ハ生存上ノ利害ヲ援用シ其ノ紛争ノ解決手段トシテ仲裁裁判ヲ避却シ得ヘキヤ亦言ヲ俟タサルヘキナリ

第二種ノ紛争ニ至リテハ第一種ノモノヨリモ一層重要ニシテ且一般平和ヲ危フカラシムルコト一層甚タシク而モ之ニ向テ到底義務的平和ヲ適用シ得サルヘク又之ヲ適用スヘキモノニアラサルヘキナリ蓋シ国家ノ生存上ノ利害及国家的名誉ニ関スル政治條約ノ基礎ノ上ニ起レル有ラユル種類ノ紛争ハ此第二種ニ屬スルモノナリ、若シ此種ノ紛争ニ向テ義務的仲裁裁判ヲ適用セシカ必スヤ為ニ関係国ノ手腕ヲ緊束シ之ヲシテ国家ノ安危ニ関スルコト少ナカラサル問題則チ其ノ国ノ主権ノ外何人ト雖モ判断シ難キ諸問題ニ就キテ受働的地位ニ立タサルヲ得サラシムヘキナリ抑モ列国ノ国際的生存上ニ義務的仲裁裁判ノ制ヲ導入スルニ当リテハ須ラク之カ適用ノ限界ヲ設ケテ其ノ範囲ヲ過度ニ拡張スルコトナカラシメ以テ義務的仲裁裁判ニ関スル信用ヲ動揺セサラシメ列国政府及人民ノ眼中之ニ安ンセサルモノアルカ如キコト無カラシムルヲ要ス

各国特ニ諸大国ハ其ノ主権ニ依リ他ノ牽制ヲ受クルコトナク自由ニ決定ヲ下スヲ要スルカ如キ諸問題ニ関シテハ仲裁裁判ニ服従センヨリモ寧ロ既存義務的仲裁裁判條約ノ廃止ヲ望マントスルモノナルヘキニ注意スルヲ怠ルヘカラス、如何ナル場合ニ於テモ平和会議タルモノハ仲裁裁判制度後来ノ発達ノ為メ須ラク該制度ノ適用ヲ毫モ政治的ノ意義ヲ有セサル現存諸條約ノ解釈ニ就キテ生スル或ル一定ノ法律問題ニ限ラサルヘカラス平和会議タルモノハ豫メ明白ニ是等ノ條約ヲ指定スルヲ要シ而シテ時ヲ経テ国際法上ノ理論及特ニ実例ノ起ルニ従ヒ此指定表ヲ増補スヘキモノトス

條約ノ解釈ニ関シ全然無條件ニ義務的仲裁裁判ヲ採用セサルヘカラサルモノノ中第一ニ萬国的ノ性質ヲ有シ萬国共同ノ利益ニ供セラルル萬国聯合ナル国際的制度ヲ設定セル一団ノ條約ヲ指定セサルヘカラス、則チ例ヘハ郵便電信聯合、文芸所有権国際的保護ニ関スル各條約等ノ如キ是レナリ、時ヲ経テ各国間ノ関係益々密接スルニ従ヒ他ノ有形上竝無形上ノ利益モ多ク其ノ国家的性質ヲ失ヒ国際間共通ノ

利益ト為ルコトアルヘシ、而シテ是等ノ利益ノ性質ヲシテ斯クノ如ク変化セシムルハ一箇国ノ力ノ到底克クスル所ニアラス是レ即許多ノ国ヲ包含シ且共通的利益ノ共同保護ニ関スル手段及方法ヲ確定セル萬国的條約ノ年々其ノ数ヲ加フル所以ナリ凡ソ他ノ條約ハ概シテ反対セル利益ヲ人為的ニ調和セル和解ノ約束ニ外ナラスト雖モ萬国的條約ハ常ニ必ス均一ニシテ共通ナル利益ノ調和ヲ定ムルモノナリ是レ即此種ノ條約ノ基礎ノ上ニハ国家的性質ヲ有シ其ノ利害ノ彼我互ニ相容レサルカ如キ紛争及重大ニシテ動カスヘカラサルカ如キ紛争ヲ生スルコトナク又生スル能ハサル所以ナリトス、此種ノ條約ノ解釈ニ係ル一時ノ行違ヒニ就キテハ各国ハ喜ンテ其ノ解決ヲ仲裁裁判所ニ委任スヘキナリ蓋シ其ノ條約カ重要ニシテ永久ナル必要ニ満足ヲ与フル唯一ノ方法トシテ且広大ニシテ複雑ナル国際的制度ノ基礎ヲ為セルモノトシテ是等諸條約ノ依然トシテ不可侵ノ地位ヲ持続スルコトニ関シ列国皆同一ノ利益ヲ有スルヲ以テナリ

国際間ノ実際ニ於テ始メテ義務的仲裁裁判ノ制度ヲ誘入シタルハ正シク千八百七十四年ノ郵便同盟ニ関スル萬国的ノ條約ニ依レリ即該條約第十六條ハ該條約ノ解釈及適用ニ関シテ起ルヘキ一切ノ紛議ノ解決ノ為ニ義務的仲裁裁判ノ制

度ヲ設ケタリ

由是観之海牙会議ハ「ベルヌ」條約第十六條ノ規定ヲ該條約ト全然類似セル総テノ萬国的條約ニ推及セントスルコトニ就キ充分ノ根拠ヲ有スルモノト云フヘシ

現時義務的仲裁裁判ヲ採用シ得ヘキ萬国的條約ノ種類中左ノ二種ニ属スル総テノ條約ヲ包含セシメ得ヘシ

第一　萬国交通ノ大通路ヲ国際的ニ保護スルコトヲ目的トスル諸條約、郵便電信條約、鉄道條約、海底電信保護條約、海上ニ於ケル船舶衝突豫防規則、国際河川及海洋間ノ運河通航ニ関スル條約

第二　特定ノ国家若ハ国際共同団全躰ノ智能上及道徳上ノ利益ヲ国際的ニ保護スルコトヲ目的トスル諸條約、則チ文学技芸及楽譜所有権ノ保護ニ関スル諸條約、工業所有権保護（商標及製造標、発明特許権）ノ諸條約、度量衡ニ関スル條約、衛生條約、獣疫ニ関スル條約「フィロクセラ」豫防條約等是ニ属ス

萬国的條約ノ外義務的仲裁裁判ハ尚ホ之ヲ国際私法国際民法及国際刑法ノ特別ナル範囲ニ属スル條約ノ解釈及適用ニ就キテ生スル紛議ノ解決ニモ応用スルコトヲ得ヘシ、然レトモ国際私法上ノ最重要ナル諸問題ヲ決スルハ現今各国独立ノ法制ニ依ルコト最モ多シトス

右ノ種類ニ属スル事項ハ国際間ニ於ケル各個人相互間ノ権利義務ノ一定セサルコト甚タシキモノアルヲ以テ是等ノ不便ヲ除カンカ為メ或ハ国際私法ノ萬国法典ヲ制定センコトヲ唱フル者アリ、而シテ此問題カ或ハ各国間国別條約乃至萬国條約ノ締結ニ依リテ決定セラレサル以上ハ義務的仲裁裁判ノ応用ハ唯僅ニ今日充分ナル程度マテ国際條約ニ依リテ規定セラルル相続権問題ニノミ止ムルヲ以テ寧ロ策ノ得タルモノト云ハサルヘカラス

彼ノ司法行政ニ付各国間ノ協助ニ関スル條約ノ解釈ニ就キテ生スル国際刑法上ノ諸問題ニ至リテハ其ノ性質専ラ法律的ナルカ故ニ義務的仲裁裁判ノ方法ヲ以テ之ヲ解決シ得ヘキモノノ如ク又各国均シク此方法ヲ採用シ得ヘク且之ヲ採用センコトヲ希望シ得ルモノノ如ク爾リトス

終リニ境界ニ関スル諸問題ニ於テ国ト国トノ間ニ極メテ頻繁ニ生スル紛議及誤解ヲ避ケンカ為ニ境界條約ニシテ其ノ性質政治的ニアラスシテ専問的ナルトキハ之カ解釈ヲ義務的仲裁裁判ニ委託スルコトハ全然時宜ニ適スルモノノ如シ

義務的仲裁裁判活用ノ範囲ヲ以上ノ限界内ニ止ムルニ於テハ必スシモ不能ナラサルヘク又希望スヘカラサルノ事ニアラサルヘシ

時ヲ経ルニ従ヒ義務的仲裁裁判ヲ現今未タ豫見セサル場合ニマテ拡張シ得ヘキコトハ信スルニ足レリ而シテ此方法ノ活用ヲ前ニ掲ケタル範囲内ニ止ムルモ尚ホ国際関係ノ上ニ法律及正義ノ大原則ヲシテ勝利ヲ得セシメンカ為ノ一大勢援タルヘキナリ

平和会議カ可能ノ範囲内ニ於テ義務的仲裁裁判ノ採用ヲ認ムルニ於テハ則チ之ニ依リテ千八百十八年「エークス、ラ、シヤペール」ノ萬国会議ニ於テ諸大国政府ニ対シテ提議セラレタル目的ニ接近スルモノト云フヘク又正義、調和、及節譲ノ模範ヲ示シ平和ノ手段ヲ擁護シ国内ノ繁栄ヲ拡張シ且宗教及道徳ノ高尚ナル観念ヲ振起スル為ノ諸国政府ノ尽力ニ光彩ヲ添ユルモノト云フヘシ

第三　仲裁裁判所ニ関スル露国ノ提案

（イ）第十三條ニ代ハルヘキ條文

第一條　締盟国ハ能フ限リ国際仲裁裁判ノ実行ヲ鞏固ナラシメンカ為メ向フ何箇年ノ期間ヲ以テ一ノ仲裁裁判所ヲ設置シ第十條ニ列挙シタル義務的仲裁裁判事件ノ審理ヲ

依頼スヘキコトヲ約ス但シ利害関係国ニ於テ其ノ間ニ起レル紛争ヲ裁決スル為ニ特別仲裁裁判所ヲ開設スルノ協定ヲ為シタルトキハ此限ニ在ラス

紛争国ハ尚特ニ其ノ合意ニ由リテ一切ノ任意的仲裁裁判事件ヲ前項ニ掲ケタル義務的仲裁裁判所ニ依頼スルコトヲ得

本條約ニ加盟セサル諸国又ハ保留ヲ為シタル諸国ト雖モ亦齊シク附録（イ）号第……條ニ掲ケタル常設事務局ニ依頼シテ其ノ紛争ヲ右裁判所ノ審理ニ附スルコトヲ得

第二條　仲裁裁判所ノ組織ハ本條ノ附録（イ）号ノ如ク之ヲ定ム

紛争国間特別ノ協定ニ依リテ開設スル仲裁裁判所ノ組織竝係争事件審理中ノ訴訟手続規則及仲裁判決宣告ノ事ハ附録（ロ）号（仲裁裁判法典）ニ於テ之ヲ定ム

右附録（ロ）号中ノ諸條規ハ仲裁裁判ニ依頼スル諸国間ノ特別協定ニ依リテ之ヲ変更スルコトヲ得

（ロ）露国提案附言

前記第一條及第二條ヲ可決シタルトキハ第一、該二條中ニ掲ケタル附録（イ）号ヲ起草シ第二、仲裁裁判法典案中ニ適当ノ修正ヲ加フヘシ

第五條　本條約ニ依リテ仲裁裁判所構成ノ指定ヲ受ケタル五ヶ国ハ常設仲裁裁判事務局ヲ設置シ、同局ノ規則ヲ制定シ局員ヲ任補シ及其俸給額ヲ定ムヘシ、此事務局ハ之ヲ海牙ニ設置シ書記官長一人、書記官補一人、記録掛書記官一人其ノ他書記官長ノ任命スル人員ヲ置ク

第六條　此事務局ノ経費ハ萬国郵便事務局ニ就キテ定メタル割合ニ依リテ諸国ハ之ヲ分担スヘシ

第七條　事務局ハ其ノ局員ヲ任命シタル五箇国ニ年々其ノ事務ノ経過ヲ報告シ五箇国ハ更ニ之ヲ他ノ諸国ニ通知スヘシ

第八條　紛争ヲ生シタル諸国ハ仲裁裁判ノ請求ヲ事務局ニ提出シ且必要書類ヲ該局ニ差出スヘシ、事務局ハ前ニ掲ケタル五箇国ニ之ヲ通告シテ速カニ裁判所ヲ構成セシムヘシ此裁判所ハ通常海牙ニ於テ開廷スルモノトスルモ若シ関係諸国間ニ於テ此事ニ就キテ協議成立シタルトキハ他ノ市都ニ於テ開廷スルコトヲ得

第九條　裁判所ノ開設中ハ事務局ヲ以テ書記局ニ充テ裁判所ヲ他ニ移転シタルトキハ事務局モ亦之ニ随従スヘシ、国際仲裁裁判所ノ記録ハ之ヲ事務局ニ保管スヘシ

第十條　裁判所ニ於ケル訴訟手続ニ就テハ仲裁裁判法典

（八）　露国ノ追加提案（第十三條ニ代ルヘキ條文）第二條中ニ掲ケタル附録（イ）号第十三條ニ掲ケタル仲裁裁判所ハ特別ノ仲裁裁判所ナキトキハ左記ノ標準ニ依リテ之ヲ組織スヘシ

第一條　締盟国ハ本條約第十三條ニ依リ紛争国ノ出訴スル国際紛争ヲ解決スル為ニ常設裁判所ヲ設置ス

第二條　本会議ハ新会議ノ開設ニ至ルマテノ期間内ニ於テ五個国ヲ指定シ之ヲシテ仲裁裁判ノ請求アリタル場合ニ自国民中ヨリ若ハ其ノ国民以外ヨリ各々一人ノ裁判官ヲ任命セシムヘシ

右ノ方法ニ依リ任命セラレタル裁判官ハ当該事件ノ管轄裁判所ヲ構成ス

第三條　若シ紛争国中前條ノ規定ニ依リテ仲裁裁判所ニ代表者ヲ有セサル一国又ハ数国アルトキハ該紛争国ノ雙方ハ各々該裁判所ニ於テ自余ノ裁判官ト同一ノ権利ヲ有スル裁判官ヲ選定シテ其ノ代表者ト為スコトヲ得

第四條　仲裁裁判所ハ其ノ裁判官ノ中ヨリ裁判長ヲ互選セシム、裁判長ハ可否同数ノ場合ニ於テ裁定ヲ与フルノ権ヲ有ス

（附録ロ号）ノ規定ヲ遵守スヘシ

第四　露国委員ノ提議セル仲裁裁判法典案（附録ロ号）

第一條　記名国ハ国際仲裁裁判ノ手続トシテ下記ノ原則及規則ヲ承認ス但シ紛争国政府一致ノ協定ニ依リ各特別ノ場合ニ就キテ之ニ変更ヲ加フルコトヲ得

第二條　紛争国ニシテ仲裁裁判ニ依頼スルコトヲ承認シタルトキハ特別ノ條約（仲裁契約）ヲ協定シ之ニ依リテ仲裁者ノ裁定ニ附シタル問題及之ニ関聯セル事実及法律点ノ全部ヲ明瞭ニ指定シ且当事者雙方共其ノ受クヘキ仲裁宣告ニ対シ善意ヲ以テ終審トシテ服従スル旨ノ約束ヲ掲クヘシ

第三條　紛争国ハ右ノ如ク其ノ自由意思ニ依リテ締結シタル仲裁契約ヲ以テ其ノ間ニ起レル一切ノ紛争若ハ一定ノ種類ノ紛争ニノミ仲裁裁判ヲ適用スルコトヲ得

第四條　紛争国政府ハ第三国ノ君主又ハ元首ノ承諾ヲ得テ之ニ仲裁者ノ任務ヲ託スルコトヲ得ヘク又右ノ任務ヲ紛争国政府ノ選定シタル一個人若ハ該目的ノ為ニ設置シタル仲裁裁判所ニ委託スルコトヲ得ヘシ

右最後ノ場合ニ於テ其ノ争件ノ重大ナルトキハ其ノ仲裁裁判所ノ組織ハ次ノ方法ニ依ルコトヲ得、当事者ハ各二名ノ仲裁者ヲ選定シ、其ノ仲裁者相合シテ更ニ一人ノ上級仲裁者ヲ選定シ之ヲ以テ当然該仲裁裁判所ノ裁判長トス

上級仲裁者ノ選定ニ就キテ投票相半ハシタルトキハ紛争国政府ハ其ノ一致ノ協定ニヨリ第三国ノ政府若ハ第三者ニ依頼シテ上級仲裁者ヲ指定セシムヘシ

第五條　前條ニ掲ケタル第三国政府若ハ第三者ノ選任ニ就キ紛争国ノ一致ヲ得ルニ至ラサルトキハ当事者各々紛争ニ関係ナキ一国ヲ指定シ此指定ヲ受ケタル諸国一致ノ協定ヲ以テ上級仲裁者ヲ選定セシムヘシ

第六條　前ニ掲ケタル仲裁者中一人タリトモ無能力ノモノアルカ若ハ忌避スヘキ者アルトキ竝仲裁者タルコトヲ受諾シタル後其ノ職務ヲ行フコトヲ拒絶シ又ハ死亡シタル者アルトキハ仲裁契約全部ヲ無効トス但シ締約国一致ノ協定ヲ以テ豫メ右ニ関スル規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

第七條　仲裁裁判所ノ開設地ハ締約国若ハ裁判所裁判官自ラ之ヲ定ム、裁判所開設地ノ変更ハ更ニ関係諸政府間ノ一致アルカ若ハ不可抗力ノ場合ニ於テ裁判所自ラ発意スルニアラサレハ許ササルモノトス

第八條　紛争国ハ裁判所ト関係政府トノ間ニ在リテ媒介者タル任務ヲ帯フル所ノ委員又ハ特別代理人ヲ該仲裁裁判所ニ派遣スルノ権ヲ有ス

前項ニ掲ケタル役員ノ外紛争国政府ハ尚ホ顧問又ハ弁護人ヲ任命シ仲裁裁判所ニ於テ其ノ権利及利益ヲ弁護セシムルコトヲ得

第九條　仲裁裁判所ハ其ノ審理及当事者ノ弁論ニ於テ用ユヘキ国語ヲ選定ス

第十條　仲裁裁判手続ハ概シテ準備手続及本裁判ノ二期ヲ経ルコトヲ要ス

準備手続トハ締約国ノ派遣員ヨリ係争事件ニ関係アル一切ノ公文、書類及論述ヲ印刷シ又ハ筆記シタルモノヲ仲裁裁判官ニ提出スルヲ謂フ

本裁判トハ仲裁裁判ニ於ケル口頭弁論ヲ謂フ

第十一條　準備手続ノ終了後仲裁裁判所ニ於ケル口頭弁論ヲ開始シ裁判長之ヲ指揮ス

弁論ハ凡テ裁判長ノ任命シタル書記ノ作リタル調書ニ登載シ此ノ調書ノミヲ以テ法律上効力アルモノトス

第十二條　準備手続終結ノ後ハ仲裁裁判所ハ当事国ノ代表者ヨリ新ニ提出セントスル一切ノ公文及書類ヲ受理セサルノ権ヲ有ス

第十三條　然レトモ双方政府ノ委員又ハ顧問カ法廷ニ於ケル弁論中ニ新ニ援用シタル書類若ハ公文ヲ参酌スルコトハ全ク仲裁裁判所ノ自由ノ権内ニ存スルモノトス

右裁判所ハ此等公文及書類ノ提出ヲ要求シ且之ヲ相手方ニ告知スルノ権ヲ有ス

第十四條　右ノ外仲裁裁判所ハ其ノ必要ト認メタル一切ノ公文及弁明書類ノ提出ヲ紛争国ノ派遣員ニ要求スルノ権ヲ有ス

第十五條　紛争国政府ノ派遣員及顧問ハ其ノ弁護セントスル訴件ノ為ニ利益アル一切ノ弁明又ハ證拠ヲ口頭ニテ仲裁裁判所ニ申立ツルノ権ヲ有ス

第十六條　右ノ派遣員及顧問ハ又裁判所ノ審議ニ付スヘキ事項ニ就キテ申請ヲ為スノ権利ヲ有ス

右ノ申請ニ関スル裁判所ノ決定ハ確定ノモノトシ更ニ之ニ就キテ論議ヲ用ユルコトヲ許サス

第十七條　仲裁裁判所裁判官ハ締約国ノ派遣員又ハ顧問ニ向テ質問ヲ為シ若ハ疑ハシキ点ニ就キテ説明ヲ求ムルノ権ヲ有ス

弁論ノ進行中ニ於テ裁判所裁判官ノ為シタル質問又ハ注意ハ裁判所全躰若ハ其ノ裁判官自己ノ意見ヲ表彰シタルモノト看做スコトヲ得ス

第十八條　仲裁裁判所ハ仲裁契約ノ條款ヲ解釈シ且国際法ノ原則竝ニ係争事件ニ関シテ援用シ得ヘキ特殊條約ノ約款ニ遵拠シ其ノ権限ヲ定ムルコトヲ得

第十九條　仲裁裁判所ハ訴訟取扱手続ニ関スル命令ヲ発シ各当事者ノ結論ヲ為スヘキ方式及期限ヲ定メ且雙方ニ告知セラレタル提出書類ノ解釈ヲ定ムル権ヲ有ス

第二十條　紛争国政府ノ派遣員及顧問ヨリ各々其ノ訴訟ヲ弁護スル一切ノ説明及證拠ヲ提出シ了リタルトキハ仲裁裁判所裁判長ハ弁論ノ終結ヲ宣告ス

第二十一條　紛争事件ニ関スル仲裁裁判所裁判官ノ評議ハ秘密会トス

凡ソ確定若ハ仮定ノ決議ハ出席裁判官ノ多数ニ依ル

裁判官中表決ノ数ニ加ハルコトヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨ヲ調書ニ記入スヘシ

第二十二條　投票ノ多数ニ依リテ決定セラレタル仲裁宣告

ハ之ヲ書面ニ認メ且仲裁裁判所裁判官之ニ署名スルコトヲ要ス

裁判官中少数ニ属シタルモノハ記名ノ際其ノ不同意ノ旨ヲ記入ス

第二十三條　仲裁宣告ハ紛争国政府ノ派遣員及顧問在廷ノ上裁判所ノ公開廷ニ於テ之ヲ朗読ス

第二十四條　正当ニ言渡ヲ為シ及紛争国政府ノ派遣員ニ通知シタル仲裁宣告ハ雙方ノ間ノ紛争ヲ確定ニ裁決シ上告ヲ許サス且仲裁契約ニ依リテ設定シタル一切ノ仲裁手続ヲ結了ス

第二十五條　紛争国ハ各各自国ニ係ル費用ヲ負担シ且仲裁裁判所費用ヲ等分ニ負担ス但シ紛争国ノ一方若ハ他ノ一方ニ於テ支払フヘシト宣告セラレタル賠償ニ関スル裁判所ノ決定ヲ妨ケス

第二十六條　仲裁契約ノ無効ナルトキ又ハ仲裁裁判官中越権ノ処為アルトキ若ハ其ノ収賄ノ證明アリタルトキハ仲裁宣告ハ無効トス

右ニ掲ケタル仲裁裁判所訴訟手続中「仲裁裁判所ノ開設地ハ」云々ト規定シタル第七條以下ハ関係政府ノ選定ニ依リテ単ニ一人ニ仲裁裁判ヲ依頼シタル場合ニモ総テ之ヲ適用ス

君主又ハ国ノ元首カ親ラ仲裁者タランコトヲ保留シタル場合ニハ訴訟手続ハ其ノ君主又ハ元首自ラ之ヲ定ム

第五　マルテンス氏報告書類

大不列顛国皇帝陛下ノ政府ト「ヴェネズエラ」合衆国政府ノ間ニ於ケル仲裁裁判

仲裁裁判訴訟規則

大不列顛国ト「ヴェネズエラ」合衆国間ノ境界紛議ヲ裁定センカ為メ千八百九十七年二月二日華盛頓條約ニ依リテ設定セラレタル仲裁裁判所ハ其ノ開廷ニ就キテ左ノ訴訟規則ヲ採用セリ

一　仲裁裁判所ハ其ノ開廷ノ始メニ於テ裁判長ノ発議ニ因リ書記ヲ任命シ同裁判所一切ノ訴訟記録ヲ調製セシムヘシ、両紛争国政府ノ派遣員ハ同裁判所ノ秘密評議ヲ除ク外其ノ一切ノ訴訟記録ヲ調製セシメンカ為ニ各特定ノ書記ヲ任命スルノ権利ヲ有ス

二　仲裁裁判所ノ訴訟記録ハ裁判長及紛争国政府ノ派遣員ノ一名之ニ署名シ書記長之ニ副署スヘシ、右ノ記録ノミヲ以テ公正ニシテ完全ナル法律上ノ効力ヲ有スルモノトス

三　仲裁裁判所ニ於ケル一切ノ弁論及評議ハ仏語若ハ英語ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ最終調書ハ英、仏及西ノ三国語ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

四　両紛争国政府ノ派遣員ハ其ノ顧問及特定書記ノ氏名ヲ裁判所ニ通告スルコトヲ要ス

五　公衆ハ裁判所書記ヨリ受取リタル切符ヲ差出ストキハ仲裁裁判所ノ公開廷ニ入ルコトヲ得

六　仲裁裁判所裁判長ハ裁判所ニ於ケル一切ノ弁論及評議ヲ指揮ス

七　仲裁裁判所裁判官又ハ「ヴェネズエラ」合衆国政府若ハ大不列顛国政府派遣員中一時疾病ノ場合ニハ短期日間裁判所ノ開廷ヲ中止スルコトヲ得、若シ裁判官中長病又ハ大病ニ罹リタルモノアルトキハ千八百九十七年二月二日華盛頓條約第二條ヲ実施スヘシ

八　仲裁裁判所ニ於テ紛争国政府ヨリ現訴訟ニ関スル一切ノ公文及書類ヲ提出スルノ準備手続結了シタル後ハ華盛頓條約ノ條款ニ依リ仲裁裁判所ハ前記両国政府ノ代表者ニ於テ新ニ提出セント希望スルコトアルヘキ公文若ハ書類ノ受理ヲ拒絶スルノ権利ヲ有ス

九　右ト同時ニ仲裁裁判所ハ両紛争国ノ派遣員又ハ顧問ニ於テ裁判所ノ注意ヲ求ムルコトアルヘキ何等新ナル公文及書類ヲ参酌スルコトニ就キ全権及自由ヲ有ス

十　仲裁裁判所ハ両紛争国政府派遣員ニ対シ一切ノ公文書類ヲ提出スヘキコト及其ノ必要ト認ムル一切ノ説明ヲ為スヘキコトヲ求ムルノ権利ヲ有ス

十一　両紛争国政府ノ派遣員又ハ顧問ハ其ノ訴訟ノ正当進行ノ為メ必要ト思料スル一切ノ弁明ヲ口頭ニテ仲裁裁判所ニ申立ツルノ権利ヲ有ス

十二　前記派遣員又ハ顧問ハ仲裁裁判所ニ対シ評議ノ事件ニ就キ一切ノ申請又ハ修正ヲ提出スルノ権ヲ有ス、右ノ申請若ハ修正ニ対スル裁判所ノ決定ハ確定ノモノトシ更ニ之ヲ討議スルコトヲ許サス

十三　仲裁裁判所裁判官ハ両紛争国政府ノ派遣員又ハ顧問ニ向テ質問ヲ為シ若ハ一切ノ疑点ニ就キ更ニ幾層精細ナル弁明ヲ求ムルノ権ヲ有ス

裁判所裁判官ノ為シタル質問又ハ注意ハ裁判所全躰若ハ其ノ裁判官自己ノ意見ヲ表彰シタルモノト看做スコトヲ得ス

十四　仲裁裁判所ハ何等ノ点ニ就キテモ専ラ千八百九十七年二月二日ノ華盛頓條約ニ基キ且国際法ノ原則ニ遵ヒ其ノ権限ヲ定ムルコトヲ得

十五　両紛争国政府ノ派遣員又ハ顧問カ其ノ一切ノ弁明及證拠ヲ仲裁裁判所ニ提出シタル後ハ裁判長ハ弁論終結ヲ宣告スヘシ

十六　仲裁裁判所ハ其ノ弁論中一切ノ問題ヲ秘密会ニ於テ討議スルコトヲ得

十七　訴訟上一切ノ決議ハ出席裁判官ノ投票ノ多数ニ依ル

十八　仲裁裁判所裁判官中表決ノ数ニ加ハラサルモノアルトキハ訴訟記録中正式ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

十九　投票ノ多数ニ依リテ判決シタル最終決定書ハ英語、仏語及西語ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

仏訳文及西訳文ハ両国政府ノ派遣員之ヲ證明スヘシ

二十　裁判所裁判官ノ少数ニ屬スルモノノ中若シ最終決定書ニ署名スルコトヲ拒絶スルモノアルトキハ訴訟記録中正式ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

二十一　最終決定書ハ仲裁裁判所ノ公開廷ニ於テ裁判官ノ面前ニテ之ヲ朗読スヘシ、両紛争国政府ノ派遣員及顧問ハ右公開廷ニ出席スルノ呼出ヲ受クルモノトス

二十二　最終決定書ハ三通ヲ調製シ其ノ中一通ハ大不列顛国政府ニ通牒スル為メ同国政府ノ派遣員ニ之ヲ交付シ他ノ一通ハ「ヴェネズエラ」合衆国政府ニ通牒スル為メ同国政府ノ派遣員ニ之ヲ交付スヘシ

仏語ヲ以テ調製シタル自余ノ一通ハ仏蘭西共和国ノ記録ニ供託スル為メ之ヲ仏国政府ニ送付スヘシ

二十三　三通ノ最終決定書ハ仲裁裁判所裁判長及裁判官ノ全員之ニ署名スヘシ、裁判官中少数ノ投票ニ屬シタルモノハ若シ適当ナリト思料スルトキハ決定書中ニ其ノ異見ヲ記入スヘシ

二十四　正当ニ言渡ヲ為シ且両紛争国ノ派遣員ニ交付セラレタル最終決定書ハ相互ノ境界線ニ関スル大不列顛国及「ヴェネズエラ」合衆国両政府間ノ争点ヲ確定ニ裁決セルモノト認メ是ニ依リテ千八百九十七年二月二日華盛頓條約ニ依リテ設立シタル仲裁裁判所一切ノ訴訟ヲ終了スルモノトス

裁判長　マルテンス

千八百九十九年六月十四日巴里ヨリ

附屬書（ロ）号　英国委員ヨリ提出シタル書類

常設仲裁裁判所

一「サー」ジュリアン、ポーンスフォート閣下ノ提案

第一條　締盟国ハ外交手続ニ由リテ其ノ紛議ヲ処理スルコト能ハサル諸国ヲシテ即時ニ仲裁ニ依頼スルコトヲ得セシムルノ目的ヲ以テ次ノ方法ニ依リ何時ニテモ訴訟ヲ受理シ本條約ニ掲ケタル仲裁裁判法典ト両紛争国間ニ締結シタル仲裁契約ノ規定ニ遵由シテ其ノ訴訟ヲ審理スヘキ「常設仲裁裁判所」ヲ構成スヘキコトヲ約ス

第二條　右ノ目的ヲ以テ中央事務局ヲ（某処）ニ常設シ之ニ裁判所ノ記録ヲ保存シ公務ノ管理ヲ委任シ常任書記官一人記録官一人及ヒ局務ヲ理辦スルニ足ルヘキ吏員ヲ置ク

事務局ハ紛争当事者ノ訴訟ニ就キ裁判所ノ開廷ニ関スル通告ノ媒介者タルヘシ

第三條　各締盟国ハ其ノ国人中ヨリ法律家又ハ公法学者トシテ声望アリ性行鈇クル所ナクシテ最モ世人ノ尊敬ヲ受ケ仲裁者タルノ職務ヲ行フコトヲ承諾シ得ヘク且一切ノ必要條件ヲ具有セル者二人ノ氏名ヲ他ノ締盟国ニ通知スヘシ此ノ指定ヲ受ケタル者ヲ以テ裁判所裁判官トシ其ノ資格ヲ以テ中央事務局ノ名簿ニ記入スヘシ

裁判所裁判官中死亡シ又ハ退職シタルモノアルトキハ其ノ任命ト同一ノ方法ニ依リテ後任者ヲ定ムヘシ

第四條　締盟国ニシテ其ノ間ニ起レル紛争ヲ平和ニ処理センカ為ニ常設仲裁裁判所ニ依頼センコトヲ望ムトキハ其ノ旨ヲ中央事務局書記官ニ通知シ書記官ハ直チニ裁判所裁判官ノ名簿ヲ右諸国ニ提示シ紛争国ハ其名簿ニ就キテ仲裁契約ニ掲ケタル定数ノ仲裁人ヲ指定スヘシ

右ノ外紛争諸国ハ名簿中ニ掲ケサル者ヲ以テ仲裁裁判官ニ加フルノ権能ヲ有スルモノトシ以上ノ方法ニ依リ選定セラレタル仲裁裁判官ハ其ノ仲裁裁判ノ為ニ裁判部ヲ構成シ紛争国ノ指定シタル日ニ於テ開廷スヘシ

裁判部ハ通常之ヲ（某所）ニ開廷ス然レトモ裁判部ハ其ノ事情又ハ便宜ノ為メ若ハ紛争国ノ便宜ニ応シテ其ノ位置ヲ他ニ移シ又ハ時々其ノ開廷地ヲ変更スルノ権能ヲ有ス

締盟国ニアラサル国ト雖モ規則ニ定メタル條件ニ従ヒ常設仲裁裁判所ニ依頼スルコトヲ得

六　本條約批准ノ後（某）国政府ハ締盟諸国ノ名ヲ以テ五

名ノ評議員ト一名ノ書記官ヨリ組織セル行政評議会ヲ成ルヘク速ニ設定スヘシ

此評議会ハ其ノ指揮監督ノ下ニ置クヘキ中央事務局ヲ設置シ及之ヲ構成スルノ義務ヲ負フモノトス

評議会ハ時々中央事務局ノ執務ニ必要ナル諸規則ヲ発シ又裁判所ノ職務執行ニ関シテ生シ若ハ中央事務局ノ提出ニ係ル一切ノ問題ヲ処理ス

吏員ノ任命停職若ハ免職ハ評議会自ラ之ヲ行ヒ其ノ俸給ヲ定メ竝一般ノ経費ヲ監督ス

評議会ハ其ノ議長ヲ選挙シ之ニ終決権ヲ賦与ス、出席評議員三名ニ達スルトキハ其ノ議事ヲ開クコトヲ得ヘク決議ハ多数ニ依ル、評議員ノ報酬ハ締盟国間ノ合意ヲ以テ之ヲ定ム

七　締盟国ハ行政評議会及中央事務局ノ経費ヲ均一ニ分担スヘキコトヲ約ス各仲裁事件ニ附帯セル費用ハ紛争国等分ノ負担ニ帰スルモノトス

二　常設評議会ニ関スル「サア」ジュリアン、ポーンスフォート閣下ノ新提案

新第六條　海牙ニ在留スル締盟諸国ノ代表者及和蘭国外務大臣ヲ以テ組織シタル常設評議会ヲ本條約批准後成ルヘク速カニ海牙市ニ設置スヘシ此評議会ハ其ノ指揮監督ノ下ニ置カルヘキ中央事務局ヲ設定シ且之ヲ構成スルノ任務ヲ有ス

評議会ハ裁判所開廷ノ設備ヲ為シ裁判所ノ執務ニ関シテ生スヘキ一切ノ問題ヲ処理シ若ハ該問題ヲ記名各国ニ告知スルモノトス

評議会ハ中央事務局吏員ノ任命停職若ハ解任ニ就キテ全権ヲ有シ吏員ノ俸給及手当ヲ定メ一般ノ経費ヲ監督ス

評議会ノ会合ハ正当ノ招集状ヲ発シタル上五名ノ評議員出席シタルトキハ有効ニ議事ヲ開クコトヲ得、其ノ議決ハ多数ニ依ルヘシ

附屬書（ハ）号　米国委員ヨリ提出シタル書類

一　特別居中調停

亜米利加合衆国委員ホルス君ノ提案

第七條　締盟国ハ事情ノ許ス場合ニハ左記ノ形式ニ依リ特別居中調停ノ適用ヲ勧告スルコトニ同意ス

平和ヲ危クスヘキ重大ナル争件アル場合ニハ紛争国各々一ノ中立国ヲ選定シテ之ニ平和関係ノ破裂ヲ豫防スル為直接交渉ヲ開始スヘキ任務ヲ託スヘシ

反対ノ協約アル場合ノ外二十日間該係争事件ヲ専ラ右ノ調停国ニ委任シタルモノト看做シ調停国ハ其ノ紛争ヲ処理シ且能フ限リ紛争以前ノ現状ヲ回復スル為ニ其ノ全力ヲ竭クスヘシ

平和ノ関係全ク破裂シタル場合ニハ右調停国ハ依然平和ヲ回復スル為ニ総テノ機会ヲ利用スルノ共同任務ヲ帯フルモノトス

二　萬国裁判所案

審査委員会ノ審査ニ付シタル亜米利加合衆国委員ノ提案

平和手段ニ依リテ争件ヲ兵力ニ訴フルコトヲ豫防センカ為メ本会議ニ参集セル各主権国ノ代表者ヨリ各々其ノ本国政府ニ向ヒ下記ノ規定ヲ原案トシ之ニ少クトモ九個ノ独立国ノ同意ヲ得ルニ足ルヘキ修正ヲ加ヘタル一般條約ヲ締結スルノ目的ヲ以テ談判ヲ開クノ提議ヲ為サンコトヲ決議ス但シ右九国ノ中少クトモ八個国ハ欧羅巴又ハ亜米利加ニ在ル国タルヘク少クトモ其ノ内ノ四個国ハ巴里條約ノ調印ニ加ハリシ者タルコトヲ要シ而シテ独逸帝国ハ普漏士ノ後ヲ承ケ伊太利王国ハ「サルデーニュ」ノ後ヲ承ケシ者ト認ム

一　裁判所ハ性行方正ニシテ国際法ニ精通シ各加盟国ニ在ル最高等法院ノ裁判官ノ多数ニ依リテ選任セラレタル者ヲ以テ之ヲ組織ス本條約ニ調印シタル諸国ハ該裁判所ニ各々一名ノ代表者ヲ出クシ同裁判官ハ其ノ後任者カ同一ノ選挙手続ニ依リテ正式ニ任命セラルルニ至ルマテ其ノ職ニ留マルヘシ

二　裁判所ハ諸国ノ政府カ適当ト認メタル時期及ヒ場処ニ於テ開設ス然レトモ其ノ時期ハ前掲九個国ニ於テ一般條約ヲ批准シタル後六個月ヲ踰ユルコトヲ得ス、裁判所ハ常任書記其ノ他必要ト認メタル吏員ヲ任用シ又開廷スヘキ場所ヲ指定スルノ権利ヲ有シ裁判上ノ利益若ハ紛争者ノ便宜上然ルヘシト思料スルトキハ其ノ場所ヲ変更スルコトヲ得ヘシ又裁判所ハ其ノ遵守スヘキ訴訟規則ヲ定ムヘシ

三　裁判所ハ常設ノ性質ヲ有シ其ノ訴訟規則ニ定メタル限界内ニ於テ何時ニテモ新訴訟及反対訴訟ヲ受理スヘキ者トシ其ノ訴訟カ記名諸国ヨリ出テタルト他ノ諸国ヨリ審理ヲ求メタルトヲ別ツコトナシ、凡ソ訴訟及反対訴訟ハ證憑及其ノ訴訟ヲ支持シ又ハ反駁スヘキ弁論ト共ニ之ヲ書面ニ認メ又ハ印刷ニ付シタルモノナルコトヲ要ス又訴訟、反対訴訟、證言、弁論及裁判ノ理由ハ判決宣告ノ後

何人ヲ問ハス其ノ謄写ノ費用ヲ払フ者ニ之ヲ示スヘシ

四　記名国ノ間ニ起リタル争件ハ其ノ事ノ何タルヲ問ハス当事国間ノ合意ニ由リテ之ヲ萬国裁判所ノ審判ニ付スルコトヲ得ヘシ然レトモ当事国ハ之ニ訴フルニ当リ裁判所ノ受理シタル一切ノ事件ニ就キ其ノ判決ニ服スル旨ヲ約スルコトヲ要ス

五　仲裁裁判部ハ各事件毎ニ紛争国間ニ定メタル條約ニ従ヒ萬国裁判所ノ全部又ハ其ノ裁判官中紛争国ヨリ指定シタル三名ニ下ラサル奇数ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス而シテ其ノ法廷ヲ組織セル裁判官ノ数三名ニ止マル場合ニハ当該訴件ニ利害関係ヲ有スル国ノ出身者、臣民若ハ公民ヲ其ノ中ニ加フルコトヲ得ス

六　裁判所ノ一般経費ハ加盟国間等分又ハ相当ノ割合ヲ以テ之ヲ分担スルモノトス然レトモ各事件ニ由リテ生シタル経費ハ裁判所ノ指定シタル者ニ於テ之ヲ負担スヘシ、裁判官ノ俸給ハ裁判所ニ於テ実際其ノ職務ヲ竭クシタルトキニアラサレハ之ヲ支給セサルコトニ定ムルコトヲ得又当事国ノ一方若ハ雙方共ニ加盟国ニアラサル事件ニ就キテハ裁判所カ訴訟費用ヲ償フカ為ニ定ムヘキ金額ヲ其ノ紛争国ニ於テ支弁スルノ約束ヲ協定スルニアラサレハ

其ノ訴訟ヲ受理スルコトナキモノトス

七　凡ソ一事件ノ審判ヲ萬国裁判所ニ付託シタル紛争国ハ若シ新證拠又ハ第一審ニ於テ提起セラレサリシカ或ハ決定セラレサリシ法律問題ヲ援用シ得ヘシト宣言スルトキハ其ノ判決ノ通知アリタル日ヨリ三個月以内ニ於テ同一ノ裁判官ニ其ノ争件ノ再審ヲ求ムルノ権利ヲ有スヘシ

八　爰ニ提議セル條約ハ九個ノ主権国ニ於テ決議ニ掲ケタル條件ニ遵由シテ之カ規定ヲ批准シタル時ヨリ其ノ効力ヲ生スヘシ

附屬書（ニ）号　伊国委員ヨリ提出シタル書類

居中調停及ヒ仲裁裁判ノ約束ニ関スル露国ノ提案ニ対スニーグラ伯爵閣下ノ提出セル修正案

海牙ニ開カレタル平和会議ハ国際紛争ヲ豫防シ又ハ終結セシムルノ目的ヲ以テ国際的規約ト為スヘキ左記ノ條文ヲ草定シ之ヲ同会議ニ賛同セル諸国ノ議ニ付スコトヲ決定セリ

第一條　二箇国又ハ数箇国ノ間ニ重大ナル紛争ヲ生シ間接ノ手段ニ依リテ和解ヲ試ミタルモ総テ其ノ効ヲ奏セサルトキハ紛争国雙方ハ本條約ニ掲ケタル場合ニ於テ居中調

停若ハ仲裁裁判ニ依頼スルノ義務アルモノトス

第二條　右ノ外一切ノ場合ニ於テ記名国ハ居中調停又ハ仲裁裁判ヲ勧告スヘシト雖モ之ニ応スルト否トハ紛争国ノ随意トス

第三條　本條約ノ記名各国ニシテ争件ニ関係ナキ者ハ其ノ如何ナル場合タルトヲ問ハス且交戦中ト雖モ猶ホ紛争国ニ向ツテ周旋又ハ居中調停ヲ提供シ若ハ他ノ均シク中立ノ地位ニ立テル国ノ居中調停又ハ仲裁裁判ニ依頼センコトヲ提議スルノ権利ヲ有ス

紛争国雙方ハ右ノ提供若ハ提議ヲ以テ友誼ニ戻リタル行為ト看做スコトヲ得ス、其ノ居中調停及仲裁裁判カ義務的ノモノニアラサルカ為メ拒斥セラレタル場合モ亦同シ

第四條　居中調停ノ請求又ハ提供ハ仲裁裁判ノ提議ニ対シ先番ノモノトス

然レトモ居中調停ノ請求又ハ提供ナキカ或ハ居中調停ノ拒斥セラレタル場合若ハ其ノ効ヲ奏セサリシ場合ニハ時宜ニ依リ仲裁裁判ノ提議ヲ為スコトヲ得ヘク又ハ為ササルヘカラサルモノトス

第五條　居中調停若ハ仲裁裁判ノ提議ハ反対ノ規約アル場合ノ外紛争国雙方ニ於テ斉ク之ヲ承認スルニ至ルマテ動員其他ノ出師準備及進行中ノ軍事動作ヲ中止シ遅延シ若ハ阻止スルノ効力ヲ有セサルモノトス

第六條　第一條ニ依リ居中調停又ハ仲裁裁判ニ依頼スルノ義務アル事項左ノ如シ

（一）……

（二）……

附屬書（ホ）号　第三委員会ノ請求ニ由リシュヴァリエ、デカン君ノ起草シタル書類

平和会議ニ賛同セル列国ニ関スル居中調停及仲裁裁判ノ約款要報

先ツ一般的ノ性質ヲ有スル規定即列国全躰若ハ其ノ大多数ニ共通ナル規定ト二箇国間特別ノ協定法タル性質ヲ有スル規定トヲ甄別スルコトヲ要ス

第一節　一般的ノ性質ヲ有スル規定

此部類ニ列スヘキ重モナルモノ左ノ如シ

「一」　千八百五十六年会議議定書第二十三号中交親国ノ周旋ニ依頼スルコトニ関スル一般ノ希望

右ノ希望ハ左ノ如キ條件ヲ以テ表明セラレタリ

○伯爵ド、クラレンドン君　ハ右会議ノ承認ヲ得ヘシト信スル一ノ発議ヲ提出スルノ許可ヲ請フタル上述ヘテ曰ク戦争ノ害悪ハ深ク世人ノ脳裡ニ印シ未タ世人ニ之ヲ防遏スヘキ総テノ方法ヲ討尋スルノ余裕ヲ与ヘサルナリ本平和條約第八條ニハ宜シク土耳其国ト其ノ他ノ締盟諸国中ノ一箇国若ハ数箇国トノ間ニ不和ヲ生シタル場合ニハ兵力ニ訴フル前一交親国ノ調停行為ニ依頼スルコトヲ勧告スル一約款ヲ挿入スヘキナリト

大不列顛国第一全権委員ハ右ノ革新ヲ尚ホ一層拡張シ之ヲ以テ互ニ弁明協商スルノ機会ヲ得サリシカ為ニ破裂スルニ至ルヘキ多クノ紛争ニ対シ防壁ノ用ヲ為サシメ得ヘキモノナリト為セリ此趣旨ヲ以テ同全権委員ハ各国政府ノ独立ニ侵害ヲ及ホササシテ将来ニ於ケル平和維持ヲ確保スルニ適スヘキ決議ニ同意センコトヲ発議セリ

○伯爵ウアレウスキー君　ハ大不列顛国第一全権委員ノ発表シタル意見ニ賛成スルノ許可ヲ得タル旨ヲ宣言シ仏国全権委員等ハ当代ノ傾向ニ全然適合シ毫モ各国政府ノ自由行動ヲ傷害スルコトナカルヘキ一ノ希望ヲ議定書中ニ掲載スルコトニ付何時ニテモ同意スルモノナリト断言セリ

一応政府ニ申告スルトコロナカルヘカラスト信スル旨ヲ陳述セリ

……

○伯爵ウアレウスキー君　ハ更ニ陳述シテ曰ク、今問題ト為レル発議ハ敢テ権利ヲ設定シ又ハ約束ヲ締結セントスルモノニアラス抑モ萬国会議ニ於テ発表シタル希望ハ何レノ場合ニ於テモ各独立国カ此種ノ事項ニ就キテ保留スルヲ要スル認定ノ自由ヲ毀損スヘキモノニアラス従テクラレンドン伯爵提案ノ思想ヲ敷衍シ之ニ与フルニ其ノ最広汎ナル範囲ヲ以テスルモ何等ノ不便ナカルヘシト

……

○伯爵ド、ビュオル君　ハ曰ク、ロード、クラレンドンノ発議ニハ人道ノ為メニ賛成ヲ表スト雖モ若シ之ニ附与スルニ過大ノ範囲ヲ以テスルカ或ハ之ニ依リ「事実上ノ政府」ニ利益アル結果ヲ演繹シ又ハ余カ一個人トシテ許容スル能ハサル学説ヲ助成スルカ如キコトアラントスルニ於テハ是レ余ノ同意スル能ハサル所ナリト

又曰ク、本会議ハ将サニ其ノ閉会ニ垂ントスルノ際ニ当リ人心ヲ激動シ以テ従来須臾モ各国全権委員間ニ熄ムコトナカリシ完全ナル調和ヲ攪乱セントスルカ如キ問題ヲ

○伯爵ド、ビュオル君　ハ会議ノ決議ニシテ果シテウアレウスキー伯ノ指定シタル如キ形式ヲ有スルニ於テハ大不列顛国及仏蘭西国全権委員等ノ意見ニ賛成スルニ躊躇セスト雖モ塊国政府ノ独立ヲ制限スヘキ性質ノ絶対的約束ハ本国政府ノ名ニ於テ之ニ同意スル能ハサルヘキ旨ヲ陳述セリ

○伯爵ド、クラレンドン君　ハ各列国ハ其ノ名誉及利益ノ関繋スル所ヲ断言スル唯一ノ裁判官タルヘキモノナリ従テ君ハ毫モ各国政府ノ権力ヲ豫メ減制セント欲スルニアラス唯不和ノ生シタルトキ凡ソ他ノ方法ヲ以テ之ヲ融和シ得ヘキ限リハ兵力ニ訴フルコトヲ免カレシメントスルニ過キサル旨ヲ答弁セリ

○男爵ド、マルテウッフェル君　ハ普国皇帝陛下ニ於テモ全然クラレンドン伯爵ノ表明シタル思想ニ同意セラルルモノナルコトヲ確言シ此故ニ同伯爵ノ発議ニ賛同シ且能フ限リ之ヲ敷衍スルモ敢テ支障ナシト信スル旨ヲ明言セリ

○伯爵オルロッフ君　ハ此発議ノ名案クルコトハ充分之ヲ認ムト雖露国全権委員トシテ意見ヲ発表スルニ当リテハ

議スルコトナキヲ望ムト

……

右ノ後各国全権委員ハ各々其ノ政府ノ名ニ於テ躊躇ナク一ノ希望ヲ発表セリ即各国間ニ重大ノ不和ヲ生シタルトキハ兵力ニ訴フル前事情ノ許ス限リ交親国ノ周旋ニ依頼センコトノ希望是レナリ

且各国全権委員ハ該会議ニ賛同セサル諸国ノ政府ニ於テモ亦当議定書ニ掲ケタル右希望ノ観念ニ同情ヲ表センコトヲ望メリ

「二」　土耳其国ト千八百五十六年巴里條約ニ記名シタル其ノ他ノ諸国トノ関係ノ維持ヲ危フカラシムヘキ不和ヲ生シタル場合ニ於ケル調停行為

千八百五十六年三月三十日條約第八條

土耳其国ト他ノ一個若ハ数箇ノ記名国トノ間ニ其ノ関係ノ維持ヲ危フカラシムヘキ不和ヲ生シタルトキハ土耳其国又ハ右記名各国ハ兵力ニ訴フル前他ノ締約国ヲシテ其ノ調停行為ニ依リ該極端ニ至ルコトヲ豫防スルノ処置ヲ為サシムヘシ

「三」　公果協定地域中ニ含マルル地方ヲ局外中立制度ノ下ニ置キ以テ戦地ヲ制限スルノ周旋

千八百八十五年二月二十六日伯林会議一般議定書第十一條

第一條ニ掲ケタル商業自由制度ノ下ニ在ル地方ニ主権若ハ保護権ヲ行ヘル一国カ戦争ニ与リタルトキハ本條約ノ記名諸国及其ノ後ノ加盟諸国ハ右交戦国ノ領有セル地方ヲ該国及他ノ交戦国一致ノ承諾ヲ以テ戦争ノ継続中之ヲ局外中立制度ノ下ニ置キ非交戦国ニ屬スルモノト看做サンカ為ニ周旋ノ労ヲ執ルヘキコトヲ約定ス、右ノ如クシテ局外中立ト為シタル地方ニハ交戦国ハ其ノ時ヨリ敵対行為ヲ及ホスコトヲ止ムヘク且其ノ地方ヲ作戦ノ根拠ニ使用スルコトヲ得サルヘシ

「四」　公果協定地域ニ関シ又ハ其ノ地域内ニ於テ重大ノ不和ヲ生シタル場合ニ於ケル義務的居中調停及任意的仲裁裁判

千八百九十年二月二十六日伯林会議一般議定書第五十五條

第一條ニ掲ケタル通商自由制度ノ下ニ在ル地方ニ関シ又ハ其ノ地域内ニ於テ本條約ノ記名諸国又ハ後日ノ加盟諸国ノ間ニ重大ノ不和ヲ生シタル場合ニ於テハ右諸国ハ兵力ニ訴フル前一個若ハ数箇ノ交親国ノ居中調停ニ依頼スヘキコトヲ約定ス

右ノ場合ニ於テ右諸国ハ仲裁裁判ノ手続ニ依頼スルノ権能ヲ保留ス

「五」　亜弗利加條約ニ関スル比律悉会議一般議定書ニ依レル仲裁裁判権ノ設定

千八百九十年七月二日比律悉会議一般議定書

第五十五條

捕獲ヲ行ヒタル将校及審問ヲ指揮シタル官庁ハ各四十八時間内ニ一人宛ノ仲裁者ヲ指定シ且其ノ仲裁者二人ハ更ニ二十四時間内ニ於テ一人ノ上級仲裁者ヲ選定スヘシ、仲裁者ノ選定ハ成ルヘク記名国ノ外交官、領事官又ハ司法官中ニ於テスヘク締盟国政府ヨリ俸給ヲ受クル其ノ国人ハ当然之ヲ除外スヘキモノトス、仲裁者ハ多数決ニ依リテ裁定シ其ノ裁定ハ確定ノモノト看做ス

若シ指定ノ期間内ニ仲裁裁判所ヲ構成セサルトキハ第五十八條第二項ノ規定ニ従ヒ償金及損害賠償ノ手続ヲ為スヘシ

第五十六條　訴件ハ成ルヘク短期日内ニ被告ノ掲揚スル国旗ニ依リテ表明スル国ノ裁判所ニ送付スヘシ、但シ被告所屬国ノ領事又ハ其ノ他ノ官庁ニシテ本件ニ関シ特ニ委任ヲ受ケタル者ハ其ノ政府ヨリ裁判所ニ代リテ判決ヲ為スノ権能ヲ授ケラルルコトヲ得

第五十八條　停止セラレタル船舶カ商業ニ従事セサリシコトヲ宣告セル内国裁判所又ハ第五十六條ニ掲ケタル官庁ノ判決ハ即時執行セラルヘク依テ該船舶ハ其ノ進航ヲ継続スルノ全自由ヲ回復スルモノトス

右ノ場合ニ於テ疑ヲ容ルヘキ正当ノ原因ナクシテ停止ヲ命セラレ又ハ虐待ヲ蒙リタル船舶ハ損害賠償ヲ要求スルノ権利ヲ有スヘク其ノ賠償額ハ直接ノ関係アル政府間ノ一致ニ依リ又ハ仲裁裁判ノ方法ヲ以テ定メラレ捕獲ヲ解除シタル判決ノ日附ヨリ六箇月ノ期間内ニ支払ハルヘシ

「六」　万国郵便聯合ニ依ル仲裁裁判権ノ設定

千八百九十一年七月四日條約第二十三條

第一節　本條約ノ解釈又ハ書留郵便物紛失ニ関スル郵政庁ノ責任ニ対シ聯合ノ二庁以上ノ間ニ異見ヲ生スルトキハ仲裁ヲ以テ之ヲ裁決ス而シテ之ヲ裁決セシムル為メ異見ヲ有スル各庁ハ此事件ニ直接ノ関係ヲ有セサル聯合ノ他ノ一庁ヲ各自ニ推撰スヘシ

第二節　仲裁ノ裁決ハ其仲裁員ノ過半数ノ意見ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第三節　若シ可否ノ意見同数ナルトキハ其意見ヲ決定セシムル為メ仲裁総員ハ等シク此事件ニ関係ヲ有セサル他ノ一庁ヲ推撰スヘシ

第四節　本條ノ條款ハ前第十九條（価格公記書状及箱物、郵便為替、郵便小包、貯金取立商券、身元證明帳、新聞豫約等ノ事務ニ関スル）ニ拠リ締結セル諸約定ニモ亦タ均シク適用スルモノトス

「七」　商品ノ鉄道輸送ニ関スル萬国聯合ノ為メ任意的仲裁裁判事務局ノ設定

千八百九十年十月十四日條約第五十七條

第一節　本條約ノ実施ヲ容易ナラシメ且之ヲ確保スル為ニ左ノ任務ヲ有スル萬国輸送中央事務局ヲ設定スヘシ

（中略）

第三　各鉄道間ニ生スルコトアルヘキ紛争ニ就キ当事者ノ請求ニ依リ裁決ヲ宣告スルコト

千八百九十一年七月四日ノ條約第二十二條第二節ニ於テハ萬国郵便聯合委員事務局ニ負ハシムルニ「訴訟当事者ノ請求ニ依リ係争問題ニ就キ意見ヲ発表スルノ任務」ヲ以テセリ、是等ノ法律的意見ハ恰モ一種ノ準備的仲裁裁判ノ如キモノニシテ宜シク注意スヘキモノト謂フヘシ

千八百九十年十月十四日條約第五十七條第一節執行ノ為メ瑞西国聯邦議会ハ千八百九十二年十一月二十九日附ヲ以テ萬国輸送中央事務局ヘ出訴シタル係争事件ノ仲裁裁判手続ヲ定メタル規則ヲ公表セリ

第二節　特殊ノ協定ニ係ル規定

独逸国

千八百九十年七月一日英独協商第一條ニ於テ「ウオルフィッシベー」南境ノ境界区劃ハ若シ該協定ノ調印後二箇年内ニ於テ該境界ノ確定ニ関シ両国間ニ何等ノ協商ヲ定メサルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ附スヘキ旨ヲ掲ケタリ

墺地利洪牙利国

墺地利洪牙利国及邏羅国間千八百六十九年五月十七日通商條約ハ両国間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛議ニ関スル左ノ如キ一般仲裁裁判約款ヲ含ム

第二十六條　前記締盟国間ニ談判又ハ外交上ノ往復手段ニ依リ友誼的ニ協商シ得サル紛議ヲ生シタル場合ニハ其ノ紛議ハ之ヲ双方一致ノ上指定スヘキ中立交親国ノ仲裁裁判ニ依頼シテ処理スヘク且締約国ハ該仲裁裁判ノ結果ヲ以テ最終決定ト看做スコトヲ玆ニ約定ス

白耳義国

第四　白耳義国「ヴェネズェラ」国間千八百八十四年三月一日修好通商航海條約第二條

若シ白耳義国ト「ヴェネズェラ」国トノ間ニ紛議ヲ生シ友誼的ニ之ヲ処理スルコト能ハサルトキハ右両締盟国ハ其ノ係争事件ノ解決ヲ双方一致ノ上発議シ承認シタル一交親国ノ仲裁裁判ニ附スヘキコトヲ約定ス

第五　白耳義国及「エクアツウール」間千八百八十七年三月五日修好通商航海條約第二條（前掲第四、「ヴェネズェラ」国トノ條約ト同文）

第六　白耳義国及「オランジュ」自由国間千八百九十四年十二月二十七日修好居住通商條約第十四條（前掲第一、布哇国トノ條約ト同文）

限定仲裁約款ハ左ノ如シ

第一　白耳義国及伊太利国間千八百八十二年十二月十一日通商航海條約第二十條

前諸條ノ解釈又ハ執行ニ関シテ紛議ヲ生シタルトキハ両締盟国ハ一致ニ至ルヘキ一切ノ直接手段ヲ尽シタル後仲裁委員会ノ決定ヲ求ムルコトヲ約定ス

右委員会ハ各締盟国ノ選任シタル同数ノ仲裁者ト委員会自ラ選任シタル一人ノ仲裁者ヲ以テ之ヲ組織ス

白耳義国ハ仲裁約款ヲ含有スル十一個ノ條約ヲ締結セリ

右約款中ノ六個ハ一般的ノモノニシテ将来生スルコトアルヘキ一切ノ紛議ニ関シ其ノ他ノ五個ハ一定ノ範囲ヲ有セリ

右一般仲裁裁判約款ハ左ノ如シ

第一　白耳義国及布哇国間、千八百六十二年十月四日修交通商航海條約第二十六條

若シ不幸ナル事情ニ依リ締盟国間ノ紛議カ相互ノ友誼的関係ヲ阻害スルノ原因タラントシ且友誼上ノ調和的手段ヲ尽シタル後全然相互ノ希望セル目的ヲ達セサルトキハ依テ以テ確定的破裂ヲ避ケンカ為メ双方一致ノ上各当事者ノ交親国タル第三国ノ仲裁裁判ヲ要請スヘシ

第二　白耳義国及邏羅国間千八百六十八年八月二十九日修交通商條約第二十四條

両締盟国間ニ於テ両政府間外交上ノ往復ニ依リ友誼的ニ協定シ得サル紛議ヲ生シタルトキハ両国政府ハ一致承諾ノ上中立交親国タル第三国ヲ仲裁者トシテ指定スヘク其ノ仲裁裁判ノ結果ハ当事者双方ニ於テ之ヲ認容スヘシ

第三　白耳義国及南亜弗利加共和国間千八百七十六年二月三日修好居住及通商條約第十四條（前記第一、布哇国トノ條約ト同文）

委員会ニ於テ遵守スヘキ訴訟手続ハ白耳義国政府ト伊太利国政府トノ間ニ協商ナキ限リ仲裁者ニ於テ之ヲ定ム

第二　白耳義国及希臘国間千八百九十五年五月二十五日通商航海條約第二十一條

両締盟国ハ本條約ノ解釈又ハ執行ニ関シ生スルコトアルヘキ一切ノ紛議ニ対シ仲裁裁判ニ依頼スヘキコトヲ約定ス

第三　白耳義国及瑞典国間千八百九十五年六月十一日通商航海條約第二十條（前掲第二、希臘国トノ條約ト同文）

第四　白耳義国及諾威国間千八百九十五年六月十一日通商航海條約第二十條

本條約ノ解釈又ハ適用ニ関シ両締盟国間ニ紛議ヲ生シ外交上ノ手段ニ依リテ友誼的ニ処理シ得サル場合ニ於テハ両締盟国ハ之ヲ仲裁裁判所ノ判決ニ付スヘキコトヲ協定シ互ニ其ノ判決ヲ尊重シ誠実ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約定ス

仲裁裁判所ハ三人ヲ以テ組織シ両締盟国ハ各其ノ国民及其ノ国ノ居住者以外ニ於テ一人ヲ指定シ右二名ノ仲裁者ハ更ニ一名ヲ撰任スヘシ、若シ二名ノ仲裁者右ノ撰任ニ就キテ協議纏ラサルトキハ雙方ノ指定シタル一国政府ヲシテ撰任

セシムヘク若シ其ノ政府ノ撰定ニ就キテモ協議纏ラサルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ決スヘシ

第五　白耳義国及丁抹国間千八百九十五年六月十八日通商航海條約第二十條（前掲第二、希臘国トノ條約ト同文）

丁　抹　国

第一　丁抹国及「ヴェネズエラ」国間千八百六十二年十二月十九日通商航海條約第二十六條

若シ両締盟国間ノ紛議カ不幸ナル事情ノ集中シタル為メ相互ノ親交ヲ阻害セントシ友誼的調停的論議ノ方法ヲ尽シタル後相互ニ全ク其ノ主張ノ目的ヲ貫徹セサルトキハ悲シムヘキ兵力ノ使用ニ訴フル前一致協諧ノ上第三者タル中立交親国ノ仲裁裁判ヲ要請スヘシ

但シ侵害セラレタリトスル当事者ニシテ其ノ相手方ニ向ヒ仲裁裁判要請ノ申込ヲ為シタル日ヨリ三箇月ノ期限内ニ於テ仲裁者ノ選定ニ関シ一致ノ協定ヲ得ルニ至ラス若ハ右一致ノ協定ヲ得サル場合ニ抽籤ノ方法ニ依ルヘキコトニ付該相手方ノ協諧ヲ得サルトキハ此限ニ在ラス

第二　丁抹国及白耳義国間千八百九十五年六月十八日通商航海條約第二十條（白耳義国ノ部ニ掲出）

西　班　牙　国

西班牙国ノ締結シタル條約中仲裁裁判約款ヲ記入シタルモノ左ノ如シ

(イ)　一般仲裁裁判約款

第一　西班牙国及「ヴェネズエラ」国間千八百八十二年五月二十日通商航海條約第十四條

若シ一切ノ豫期ニ反シテ西班牙国及「ヴェネズエラ」国間ニ紛議ヲ生シ普通恒例ノ手段ヲ以テ友誼的ニ之ヲ結了シ得サルトキハ両締盟国ハ一致承諾ノ上発議シ承認シ且雙方ニ親交アル第三国ノ仲裁裁判ニ右紛議ノ決定ヲ付託スヘキコトヲ約定ス

第二　西班牙国及「エクアツール」国間千八百八十八年五月二十三日修好平和追加條約第五條

現存諸條約ノ解釈又ハ條約ニ規定セサル点ニ関スル西班牙国及「エクアツール」国間一切ノ争議及紛争ニシテ友誼的ニ決定シ得サルトキハ一致承諾ノ上発議シ承認シタル一交親国ノ仲裁裁判ニ之ヲ付託スヘシ

第三　西班牙国及「コロンビヤ」国間千八百八十一年修好平和條約ニ関シ千八百九十四年四月二十八日「ボゴタ」ニ於テ調印セル追加條約第一條

現行若ハ将来実施セラルヘキ諸條約ノ解釈ニ関シ西班牙国及「コロンビア」国間ニ生スル一切ノ争論及紛議ハ一致承諾ノ上発議シ承認シタル一名ノ仲裁者ノ終審決定ニ依リテ之ヲ裁定スヘシ、右諸條約又ハ諸協約ニ規定セサル点ニ関シ生スルコトアルヘキ争論モ亦均シク仲裁裁判ニ附託スヘシ但シ其ノ事件カ国家主権ニ関係スルカ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ性質上仲裁裁判ニ適セサルカ故ニ此制度ヲ採用スルコトニ付一致セサルトキハ両国政府ハ執レノ場合ニ於テモ一切ノ紛議ヲ友誼的ニ結了スル為メ交親国政府ノ居中調停又ハ周旋ヲ承認スルノ義務ヲ有ス

西班牙国及「コロンビヤ」国間ノ紛議カ仲裁者ノ裁判ニ附セラレタルトキハ前記締盟国ハ一致承諾ノ上其ノ裁判官及当事者カ仲裁裁判所ノ進行中及終結ニ際シテ遵守スヘキ訴訟手続、猶豫期間及形式ヲ制定スヘシ

第四　西班牙国及「ホンヂュラス」国間千八百九十四年十一月十九日修好平和條約第二條（第二ト同文）

(ロ)　限定仲裁裁判約款

西班牙国及瑞典諾威国、千八百八十七年六月二十三日宣言第二條

本年一月十八日ノ條約ヲ以テ延期シタル千八百八十三年三月十五日西班牙国及瑞典国諾威国間通商條約及右両国間千八百八十三年三月十五日航海條約ノ解釈若ハ執行ニ関シ又ハ右各條約違反ノ結果ニ関シテ生スルコトアルヘキ問題ニ付両締盟国間ニ一切ノ直接協商手段及友誼的紛議ヲ尽シタルトキハ之ヲ仲裁裁判委員会ニ付託スヘク其ノ決定ハ締盟国ニ対シ拘束ノ効力アルモノトス

右委員会会員ハ両締盟国一致協諧ノ上之ヲ任命シ其ノ協議纏ラサル場合ニハ両締盟国ハ各々一人若ハ同数ノ仲裁者ヲ任命ス、此任命ヲ受ケタル者ハ不一致ノ場合ニ職務ヲ行フヘキ追加仲裁者ヲ指定スヘシ

仲裁裁判ノ訴訟手続ハ各事件毎ニ締盟国雙方ニ於テ之ヲ定ムヘシ、其ノ制定ナキ場合ニハ仲裁裁判委員会ハ其ノ職務執行前自ラ之ヲ定ムヘシ、仲裁裁判ニ付託スヘキ問題又ハ事件ハ如何ナル場合ニ於テモ締盟国之ヲ確定スヘシ

（瑞典諾威国ノ部ニ掲ケタル千八百九十二年一月二十七日及千八百九十三年八月九日公文参照）

仏　蘭　西　国

仏蘭西国及韓国間千八百八十六年六月四日修好通商航海條約第一條第二節ハ左ノ約束ヲ掲ク

「締盟国ノ一方ト第三国トノ間ニ紛議ノ起リタルトキハ該

締盟国ハ友誼的協定ヲ遂ケンカ為ニ他ノ一方ノ締盟国ニ周旋ヲ要請スルコトヲ得ヘシ」

大不列顛国

大不列顛国ノ締結シタル條約中仲裁約款ヲ有スルモノ左ノ如シ

第一　大不列顛国及伊太利国間千八百八十三年六月十五日通商航海條約附屬議定書

本條約ノ解釈若ハ執行又ハ本條約違反ノ結果ニ関シテ生スルコトアルヘキ一切ノ争議ハ友誼的協商ニ依リ直接ノ協定ニ至ルヘキ総テノ手段ヲ尽シタル後之ヲ仲裁裁判委員会ノ裁判ニ付託スヘシ、右委員会ノ決定ハ両国政府ニ対シテ拘束ノ効力アルモノトス

右委員会会員ハ両国政府一致承諾ノ上之ヲ選定スヘク其ノ一致ナキ場合ニハ締盟国ハ各々一人若ハ同数ノ仲裁者ヲ任命シ其ノ任命セラレタル仲裁者ハ第三仲裁者ヲ選定スヘシ

仲裁裁判訴訟手続ハ各事件毎ニ締盟国之ヲ定ム、其ノ制定ナキトキハ仲裁裁判委員会ハ初メヨリ自ラ之ヲ定ムルコトヲ得

第二　大不列顛国及「ウルグェー」国間千八百八十五年十一月十三日通商航海條約第十五條（第一ト同文）

第三　大不列顛国及希臘国間千八百八十六年十一月十日通商航海條約附屬議定書（第一ト同文）

第四　大不列顛国及墨西哥国間千八百八十八年十一月二十七日修好通商航海條約第十五條（第一ト同文）

第五　大不列顛国及葡萄牙国間千八百九十三年五月三十一日英葡仮協約（東部亜弗利加ニ於ケル所領境界劃定）

希臘国

第一　希臘国及伊太利国間千八百八十年十一月二十七日領事職務條約第三十二條（伊太利国ノ部ニ掲出）

第二　希臘国及大不列顛国間千八百八十六年十一月十日通商航海條約附屬議定書（大不列顛国ノ部ニ掲出）

第三　希臘国及白耳義国間千八百九十五年五月二十五日通商航海條約第二十一條（白耳義国ノ部ニ掲出）

伊太利国

左ノ諸條約ハ仲裁契約ヲ包有ス

第一　伊太利国及「ウルグェー」国間千八百七十九年四月十四日罪人引渡條約第十六條

両締盟国ハ本條約ノ解釈若ハ執行又ハ其ノ規約違反ノ結果ニ関シテ生スルコトアルヘキ紛議ハ友誼的協商ニ依リテ直接ニ之ヲ協定スル為メ総テノ手段ヲ尽シタルトキハ之ヲ仲裁裁判委員会ノ判決ニ附スヘク而シテ右仲裁裁判ノ決定ハ両国政府ニ対シテ拘束ノ効力ヲ有スヘキ旨ヲ約定ス

右委員会会員ハ両国政府一致協諾ノ上之ヲ選定スヘシ、若シ一致協諾ニ至ラサルトキハ雙方ハ各々一人又ハ同数ノ仲裁者ヲ任命スヘク此任命ヲ受ケタル仲裁者ハ更ニ一名ノ仲裁者ヲ選定スヘシ

仲裁裁判手続ハ各場合毎ニ締盟国之ヲ定ム之ヲ定メサルトキハ仲裁者団体豫メ自ラ定ムルノ権能ヲ有スヘシ

第二　伊太利国及羅馬尼亜国間千八百八十年八月十七日領事職務條約第三十二條（第一ト同文）

第三　伊太利国及希臘国間千八百八十年十一月二十七日領事職務條約第二十六條（第一ト同文、但シ第一項ニ左ノ規定ヲ加ヘタリ）

雙方ノ国内裁判所ノ私法上ニ於ケル権限ハ本條ノ規定ニ依リ何等ノ制限ヲ受クルコトナシ

第四　伊太利国及白耳義国間千八百八十二年十二月十一日通商條約第二十條（白耳義国ノ部ニ掲出）

第五　伊太利国及「モンテネグロ」国間千八百八十三年三月二十八日通商條約第十七條

本條約ニ於テ定メタル箇條ノ解釈若ハ執行ニ就キテ異見ヲ生シタル場合ニ於テ友誼的直接妥協ヲ得ルノ方法ヲ尽クシタル後ハ其ノ問題ヲ仲裁裁判委員会ノ決定ニ付スヘシ右仲裁裁判ノ結果ハ両国政府ニ対シ拘束ノ効力ヲ有スヘシ

仲裁裁判委員会ハ雙方ニ於テ選定シタル同数ノ仲裁者ヲ以テ之ヲ組織シ右仲裁者ハ其ノ事務ニ着手スル前更ニ一人ノ仲裁者ヲ任命スヘシ、仲裁裁判手続ハ当事者ノ一致ニ依リテ之ヲ定メサルトキハ委員会豫メ自ラ之ヲ決定スヘシ

第六　伊太利国及大不列顛国間千八百八十三年六月十五日通商條約附屬議定書（第一ト同文）

第七　伊太利国及和蘭国間千八百八十四年一月九日救恤條約第四條

本條約ノ解釈ニ関シ或ル紛議ヲ生シタルトキハ両締盟国ハ之ヲ仲裁裁判委員会ニ付託スヘキコトヲ約定ス

此委員会ハ両締盟国ノ選定シタル同数ノ仲裁者及委員会ノ自ラ選定シタル一人ノ仲裁者ヲ以テ之ヲ組織スヘシ

第八　伊太利国及韓国間千八百八十四年六月二十六日修好通商航海條約第一條

締盟国ノ一方ト第三国トノ間ニ或ル紛争ヲ生シタルトキ締盟国ノ他ノ一方ハ之ニ干渉スヘキ請求ヲ受ケタルニ於テハ其ノ紛争ヲ友誼的ニ解決スルカ為ニ周旋ノ労ヲ執ルヘシ

第九　伊太利国及「ウルグェー」国間千八百八十五年九月十九日通商條約第二十七條（第一ト同文）

第十　伊太利国及南亜弗利加共和国間千八百八十六年十月六日通商條約第九條（第七ト同文）

第十一　伊太利国及「サンドミンゴ」共和国間千八百八十六年十月十八日通商條約第二十八條（第一ト同文）

第十二　伊太利国及希臘国間千八百八十九年四月一日通商條約附屬議定書（第一ト同文）

第十三　伊太利国及「オランジュ」自由国間千八百九十年一月九日通商條約第九條（第七ト同文）

第十四　伊太利国及墨西哥国間千八百九十年四月十六日通商條約第二十七條（第一ト同文）

第十五　伊太利国及瑞典国間千八百九十二年四月十九日通商條約第十四條

締盟国ハ本條約ノ解釈及適用ニ関スル問題ニシテ外交談判ノ直接方法ニ依リ雙方ヲ満足セシムル能ハサル場合ノ生シタルトキハ仲裁裁判ノ方法ニ依リテ之ヲ決定スヘキコトヲ約定ス

第十六　伊太利国及「コロンビー」国間千八百九十二年十月二十七日通商條約第二十七條（第一ト同文）

第十七　伊太利国及「モンテネグロ」国間千八百九十二年十月二十九日罪人引渡條約第十八條（第五ト同文）

第十八　伊太利国及「パラグェー」国間千八百九十三年八月二十二日通商條約第二十三條（第一ト同文）

第十九　伊太利国及亜爾然丁共和国間千八百九十八年七月二十二日一般仲裁裁判條約

伊太利国皇帝陛下及亜爾然丁共和国大統領閣下ハ両国間ニ存在セル友誼ヲ常ニ益々親密ナラシメンコトヲ希望シ一般仲裁裁判條約ヲ締結スルニ決意シ之カ為伊太利国皇帝陛下ハ上院議員海軍中将外務大臣伯爵ナポレオン、カネヴァロ閣下ヲ、亜爾然丁共和国大統領閣下ハ伊太利国駐劄特命全権公使ドン、エンリセ、ベー、モレノー閣下ヲ、各其ノ全権委員ニ任命シ右全権委員ハ相互ニ一方ノ委任状ノ完正ナルコトヲ認メ左ノ件ヲ協定セリ

第一條　両締盟国ハ本條約ノ存在時期中両国間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛争ニシテ直接ノ協議ニ依リ友誼的解

決ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ紛争ノ性質及原因ノ如何ヲ問ハス之ヲ仲裁判決ニ付スヘキコトヲ約定ス本條約締結前ノ事実ニ起因スル紛争ト雖モ亦同シ

第二條　両締盟国ハ紛争ノ精確ナル目的、仲裁者権限ノ範囲及其ノ他訴訟手続上便宜ナリト思料セル一切ノ方法ヲ決定スル為メ各事件毎ニ特殊ノ條約ヲ締結スヘシ

特殊ノ條約ナキトキハ其ノ紛争ヲ結了スル為ニ解決スヘキ法律点及事実点ト雙方ノ主張ニ応シ仲裁裁判所之ヲ確定スルノ権利ヲ有スヘシ

右特殊條約ナキトキハ其ノ他ノ事項ニ関シテハ左ノ規則ニ遵拠スヘキモノトス

第三條　仲裁裁判所ハ裁判官三人ヲ以テ之ヲ組織シ記名国ハ各其ノ一名ヲ選任シ此選任ヲ受ケタル仲裁者ハ第三仲裁者一名ヲ選定スヘシ

第三仲裁者ノ選任ニ就キ協議整ハサルトキハ第三国ノ元首ニ委託シテ之ヲ選任スヘシ、右第三国ハ既ニ任命セラレタル仲裁者之ヲ指定スルモノトス、第三仲裁者ノ任命ニ付一致ヲ得ル能ハサルトキハ仲裁者ハ瑞西聯邦大統領及瑞典諾威国皇帝ノ一方ニ向ヒ隔番ニ右ノ選任ヲ請フヘク、斯クシテ任命セラレタル第三仲裁者ハ当然其ノ裁判所ノ裁判長タルヘシ

同一ノ人ヲ引続キ第三仲裁者ニ任命スルコトヲ得ス

仲裁者ハ孰レモ記名国ノ公民又ハ其ノ領土内ノ住民若ハ居住民タルコトヲ得ス又其ノ仲裁裁判ノ目的タル問題ニ付何等ノ利害ヲ有スルモノタルコトヲ得ス

第四條　仲裁者ニシテ其ノ理由ノ何タルヲ問ハス其ノ委嘱ヲ受ケタル職務ヲ担当シ又ハ之ヲ継続スル能ハサルトキハ其ノ仲裁者ノ任命ニ就キテ行ヒタルト同一ノ手続ニ依リ代員ヲ選定スヘシ

第五條　雙方ノ間ニ特別ノ協定ナキトキハ締盟国ノ版図外ニ於テ開廷ノ場所及時期ヲ指定シ裁判所ニ於テ使用スヘキ国語ヲ選定シ審理ノ方法、当事者ノ遵守スヘキ形式竝猶豫期間及訴訟手続ヲ定メ其ノ他一般ニ執務上必要ナル一切ノ決定ヲ為シ竝弁論ノ進行中ニ生スルコトアルヘキ訴訟手続上ノ紛議一切ヲ決定スルハ裁判所ノ権内ニ屬スルモノトス

雙方ハ其ノ準備シタル一切ノ豫審書類ヲ仲裁者ニ提供スヘキコトヲ約束ス

第六條　雙方ノ代理人各一名ハ出廷シテ仲裁裁判ニ関スル一切ノ事件ニ就キ其ノ政府ヲ代表スヘシ

第七條　仲裁裁判所ハ其ノ構成ノ適法ナリヤ仲裁契約ノ有効ナリヤ竝該契約ノ解釈如何ニ就キテ決定スルノ権限ヲ有ス

第八條　仲裁契約ニ於テ特殊ナル規則ノ適用ヲ命シ若ハ友誼的調停者トシテ決定スヘキコトヲ仲裁者ニ許スニアラサル限リ仲裁裁判所ハ国際法ノ原則ニ遵ヒテ決定スヘシ

第九條　反対ノ明文アル場合ノ外裁判所ノ論定ハ総ヘテ仲裁者全員ノ投票ノ多数ヲ得タルトキハ有効ノモノト為ルヘシ

第十條　判決ハ各争点ヲ確定的ニ裁定シ其ノ原本二通ヲ作リ仲裁者全員之ニ記名スヘシ仲裁者中ノ一人其ノ記名ヲ拒ミタルトキハ他ノ仲裁者ハ其ノ旨ヲ記載スヘク其ノ判決ハ仲裁者過半数ノ記名ニ依リテ効力ヲ生スヘシ、判決ニハ反対ノ希望ヲ併セ掲クルコト得ス

判決ハ裁判所ニ於ケル代理人ヲ経由シテ之ヲ雙方ニ送付スヘシ

第十一條　雙方ハ各其ノ専属ノ費用及仲裁裁判所一般費用ノ半額ヲ負担スヘシ

第十二條　適法ニ宣告セラレタル判決ハ其ノ決定ノ範囲内ニ在ル雙方間ノ紛争ヲ裁定ス

判決ニハ其ノ執行期間ヲ指定スヘシ、又執行ノ際生スルコトアルヘキ問題ハ判決ヲ宣告シタル裁判所之ヲ裁定スヘシ

第十三條　判決ハ上告ヲ許サス其ノ執行ハ本條約記名国民ノ名誉ニ一任スルモノトス

但シ判決ノ執行前左ノ場合ニ於テハ其ノ判決ヲ為シタル同一ノ裁判所ニ再審ノ請求ヲ為スコトヲ得

一　判決カ虚偽若ハ錯誤アル書類ニ基キテ決定セラレタルトキ

二　判決ノ全部若ハ一部カ訴訟上ノ公文若ハ書類ニ基キタル事実点ノ積極的若ハ消極的錯誤ノ結果タルトキ

第十四條　本條約ノ有効期間ハ批准交換後十箇年トス、右期間終了ノ六箇月以前ニ於テ本條約ヲ廃棄セサルトキハ更ニ十箇年間有効ノモノト看做ス其ノ以後モ亦同シ

第十五條　本條約ハ之ヲ批准シ批准書ハ本日ヨリ六箇月以内ニ「ブエノス、エイレス」ニ於テ交換スヘシ

日本国ハ遅羅国トノ間ニ千八百九十八年二月二十五日修好通商航海條約ヲ締結シ其ノ附属議定書第三條ニ左ノ如キ仲裁約款ヲ掲ケタリ

本日調印シタル條約ノ解釈執行又ハ該條約違反ノ結果ニ関シテ生スル所ノ一切ノ争議ハ直接ニ調和的協定ヲ為スヘキ方法ノ尽キタル場合ニ於テハ仲裁委員ノ裁定ニ任スヘキモノトス而シテ該仲裁ノ決定ハ両国政府ニ於テ遵守スヘキモノトス

該委員ハ両国政府ノ合議ヲ以テ撰定スヘク若シ之ヲ為スコト能ハサルトキハ両者各一名若ハ各同数ノ仲裁者ヲ指定シ而シテ斯ク撰定セラレタル仲裁者ハ一名ノ審判長ヲ撰定スヘシ

仲裁ノ手続ハ各件毎ニ両締盟国ニ於テ決定スヘク若シ之ヲ為スコト能ハサルトキハ仲裁委員自ラ前以テ之ヲ決定スヘキ権利ヲ附与セラレタルモノトス

墨西哥国

第一　墨西哥国及大不列顛国間千八百八十八年十一月二十七日修好通商航海條約第十五條（大不列顛国ノ部ニ掲出）

第二　墨西哥国及伊太利国間千八百九十年四月十六日通商條約第二十七條（伊太利国ノ部ニ掲出）

「モンテネグロ」国

「モンテネグロ」国及伊太利国間千八百八十三年五月二十八日通商條約第十七條（伊太利国ノ部ニ掲出）

諾威国

諾威国ハ左ノ諸国ト仲裁約款ヲ協定セリ

第一　瑞典諾威国及暹羅国間千八百六十八年五月十八日修好通商航海條約第二十八條（墺地利洪牙利国ノ部ニ掲ケタル墺地利洪牙利国及暹羅国間條約第二十六條ト同文）

第二　瑞典諾威国及墨西哥国間千八百八十五年七月二十九日條約第二十六條

瑞典諾威国及墨西哥国間通商條約ノ解釈若ハ執行又ハ該條約ノ違反ノ結果ニ就キテ生スルコトアルヘキ諸問題ハ両国間ニ於テ一切ノ直接協商方法及友誼的討議ヲ尽シタル後之ヲ仲裁委員会ニ付託スヘク其ノ決定ハ両締盟国ニ対シテ拘束ノ効力ヲ有スヘシ委員会ノ裁判員ハ締盟国雙方一致承諾ノ上之ヲ命令スヘク此ノ一致ヲ得ル能ハサルトキハ雙方各々一人又ハ同数ノ仲裁者ヲ任命スヘク此任務ヲ受ケタル者ハ其ノ意見ノ合ハサル場合ニ職務ヲ行フヘキ第三仲裁者一人ヲ撰定スヘシ、仲裁裁判ノ訴訟手続ハ締盟国ニ於テ各事件毎ニ之ヲ定ムヘク其ノ之ヲ定メサルトキハ仲裁委員会ハ

職務ヲ執行スル前之ヲ定ムヘシ、右執レノ場合ニ於テモ締盟国ハ仲裁裁判ニ付託スヘキ問題又ハ事件ヲ明定スヘシ

第二十七條　右ノ如ク約定シタルヲ以テ若シ本條約ノ一箇條又ハ数箇條ノ違反又ハ侵犯アリタルトキハ締盟国雙方共ニ何等ノ報復ヲ為シ若ハ為スコトヲ認許セサルヘク又侵害セラレタリト思料スル一方カ其ノ他ノ一方ニ対シ證拠書類及要請書類ヲ添ヘタル理由書ヲ提出シテ裁定及要償ヲ請求シタルモ拒否セラレ且侵害ヲ加ヘタル一方カ其ノ紛争ヲ仲裁委員会ニ付託スルコトヲ拒否シタル後ニアラサレハ其ノ受ケタル損害ヲ理由トシテ他ノ一方ニ対シ戦争ヲ宣言スルコトナカルヘシ

第三　瑞典諸威国及西班牙国間千八百八十七年六月二十三日宣言第二條（西班牙国ノ部ニ掲出）

第四　諾威国及西班牙国間千八百八十七年六月二十三日ノ宣言ニ依リテ定メタル仲裁裁判ノ原則ヲ両国ノ通商関係ニ関スル千八百九十二年一月二十四日及千八百九十二年六月二十七日ノ條約ニ適用スルコトニ就キテノ千八百九十二年一月二十七日及千八百九十三年八月九日附公文

和蘭国

第一　和蘭国及伊太利国間千八百八十四年一月九日救恤・條約第四條（伊太利国ノ部ニ掲出）

第二　和蘭国及葡萄牙国、此両国ハ最初ハ制限的ニシテ後ニハ次ノ條件ニ依リ一般的トナレル仲裁約款ニ依リ相拘束ス

（イ）制限的仲裁約款　和蘭国及葡萄牙国間ニ於テ「チモル及ソロル」群島内ニ於ケル両国ノ関係ヲ精確ニ処理スル為メ千八百九十三年六月十一日里斯本ニ於テ締結セル條約ハ其ノ第七條ニ左ノ仲裁約款ヲ掲ケタリ

「チモル及ソロル」群島ニ於ケル両国ノ国際関係若ハ本條約ノ解釈ニ関シ紛議ヲ生シタル場合ニ就キ両締盟国ハ之ヲ仲裁裁判委員会ノ決定ニ付スヘキコトヲ約定ス

右委員会ハ両締盟国ノ選任シタル同数ノ仲裁者及其ノ仲裁者ノ指定シタル一人ノ仲裁者トヲ以テ之ヲ組織ス

（ロ）一般的仲裁約款　通商関係ノ仮規約ニ関シ両国政府カ千八百九十四年七月五日里斯本ニ於テ交換シタル宣言ニハ左ノ約款ヲ掲ケタリ

本宣言ノ解釈若ハ執行ニ関スル一切ノ問題及紛議並両国間ニ生スルコトアルヘキ其ノ他ノ一切ノ問題ハ両国ノ自主若

第五　諾威国及瑞西国間千八百九十四年三月二十二日通商居住條約第七條

本條約ノ解釈若ハ適用ニ就キテ両締盟国間ニ紛議ヲ生シ外交上ノ手段ニ依リテ友誼的ニ処理シ能ハサルトキハ両締盟国ハ之ヲ仲裁裁判所ノ判決ニ付託スヘク且其ノ判決ヲ遵守シ誠実ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約定ス

仲裁裁判所ハ三人ヲ以テ之ヲ組織シ締盟国ハ各々其ノ一人ヲ自国ノ国民及住民以外ノ者ヨリ選任スヘク此二人ノ仲裁者ハ第三仲裁者一人ヲ任命スヘシ、若シ此任命ニ就キテ協議整ハサルトキハ両仲裁者ノ指定シタル一国政府之ヲ任命スヘク若シ此政府ノ指定ニ就キテ協議整ハサルトキハ抽籤ニ依リテ之ヲ決スヘシ

第六　諾威国白耳義国間千八百九十五年六月十一日通商航海條約第二十條（白耳義国ノ部ニ掲出）

第七　瑞典諾威国及智利国間千八百九十一年智利国内乱ニ関スル損害ノ要求ニ就キ仲裁裁判所ノ設置ニ関スル千八百九十五年七月六日宣言

第八　諾威国及葡萄牙国間千八百九十五年十二月三十一日通商條約（第五、瑞西国トノ條約ト同文）

ハ独立ニ触レサル限リ且友誼的ニ処理セラレサル場合ニ於テハ之ヲ両国政府ヨリ一名宛指定セル二名ノ仲裁者ノ裁定ニ附スヘシ、両仲裁者間ニ意見ヲ異ニシタル場合ニ於テハ其ノ一致ノ協諾ヲ以テ指定セル第三仲裁者之ヲ決定スヘシ

第三　和蘭国及羅馬尼亜国間千八百九十九年三月十五日通商航海條約第六條

本條約ノ解釈適用若ハ実行ニ関スル一切ノ問題及紛争ハ平和的ニ処理シ得ラレサルトキハ之ヲ仲裁者三名ヨリ成ル委員会ノ決定ニ付スヘシ、両締盟国ハ各々一名ノ仲裁者ヲ指定シ此両仲裁者ハ第三仲裁者一名ヲ任命スヘシ

右ノ任命ニ就キ協議整ハサルトキハ其ノ第三仲裁者ハ両締盟国ノ指定シタル第三国ノ政府之ヲ任命スヘシ

葡萄牙国

第一　葡萄牙国及大不列顛国間千八百九十三年五月三十一日英葡仮協約（東部亜弗利加ニ於ケル領域境界條約）

第二　葡萄牙国及和蘭国間千八百九十三年六月十日條約第七條（制限的仲裁約款）及千八百九十三年七月五日宣言（一般的仲裁約款）（二種共ニ和蘭国ノ部ニ掲出）

第三　葡萄牙国及諸威国間千八百九十五年十二月三十一日通商條約（諸威国ノ部ニ掲出）

羅馬尼亜国

第一　羅馬尼亜国及伊太利国間千八百八十年八月十七日領事職務條約第三十二條（伊太利国ノ部ニ掲出）

第二　羅馬尼亜国及瑞西国間千八百九十三年二月十九日―三月三日通商條約第七條

両締盟国ハ本條約ノ適用及解釈ニ関シ外交談判ノ直接方法ニヨリ雙方ノ満足スル如ク処理セラレサル場合ノ生シタルトキハ仲裁裁判ノ方法ニ依リテ之ヲ決スヘキコトヲ約定ス

第三　羅馬尼亜国及和蘭国間千八百九十九年三月十五日通商航海條約第六條（和蘭国ノ部ニ掲出）

暹羅国

暹羅国政府ノ締結シタル五箇ノ條約ハ仲裁約款ヲ含ム

第一　暹羅国及瑞典諾威国間千八百六十八年五月十八日修好通商航海條約第二十五條（墺地利洪牙利国ノ部ニ掲ケタル墺地利洪牙利国及暹羅国間條約第二十六條ト同文）

第二　暹羅国及白耳義国間千八百六十八年八月二十九日修好通商航海條約（白耳義国ノ部ニ掲出）

千八百九十二年一月二十七日及千八百九十三年八月九日附公文

第五　瑞典国及白耳義国間千八百九十五年六月十一日通商航海條約第二十條（白耳義国ノ部ニ掲出）

第六　瑞典諸威国及智利国間千八百九十五年七月六日宣言（諸威国ノ部ニ掲出）

瑞西国

第一　瑞西国及布哇国間千八百六十四年七月二十日修好居住通商條約第十二條（白耳義国ノ部ニ掲ケタル同国及布哇国間條約ト同文）

第二　瑞西国及「サルヴァドール」国間千八百八十三年十月三十日修好居住通商條約第十三條

両締盟国間ニ紛議ヲ生シ両国政府間外交上ノ往復ニ依リ平和的ニ協定セラレサルトキハ之ヲ仲裁裁判所ノ判決ニ付シタル上両国政府ハ其ノ決定ヲ遵守シ誠実ニ之ヲ実行スヘキコトヲ約ス

仲裁裁判所ハ三名ヲ以テ之ヲ組織シ両国ハ其ノ国ノ国民及住民以外ノ者ヨリ各々一人ヲ選任シ此二人ノ仲裁者ハ第三仲裁者ヲ任命スヘシ、若シ第三仲裁者ノ任命ニ就キテ協議整ハサルトキハ両仲裁者ノ指定シタル一国ノ政府之ヲ任命

第三　暹羅国及伊太利国間千八百六十八年十月三日修好通商航海條約第二十七條（伊太利国ノ部ニ掲出）

第四　暹羅国及墺地利洪牙利国間千八百六十九年五月十七日通商條約第二十六條（墺地利洪牙利国ノ部ニ掲出）

第五　暹羅国及日本国千八百九十八年二月二十五日修好通商航海條約附屬議定書第三條（日本国ノ部ニ掲出）

瑞典国

第一　瑞典諸威国及暹羅国間千八百六十八年五月十八日修好通商航海條約第二十四條（墺地利洪牙利国ノ部ニ掲ケタル同国トノ條約第二十六條ト同文）

第二　瑞典諸威国及墨西哥国間千八百八十五年七月二十九日通商條約第二十六條（諸威国ノ部ニ掲出）

第三　瑞典諸威国及西班牙国間千八百八十七年六月二十三日宣言第二條（西班牙国ノ部ニ掲出）

第四　瑞典国及西班牙国間千八百八十七年六月二十三日ノ宣言ニ依リテ定メタル仲裁裁判ノ原則ヲ両国ノ通商関係ニ関スル千八百九十二年一月二十四日及千八百九十二年六月二十七日ノ條約ニ適用スルコトニ就キテノ

シ此政府ノ指定ニ付協議整ハサルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ決スヘシ

第三　瑞西国及南亜弗利加共和国間千八百八十五年十一月六日修好居住通商條約第十一條（第二ト同文）

第四　瑞西国及「エクアツール」国間千八百八十八年六月二十二日修好居住通商條約第四條（第二ト同文）

第五　瑞西国及公果独立国千八百八十九年十一月十六日修好居住通商條約第十三條（第二ト同文）

第六　瑞西国及伊太利国間千八百九十二年四月十九日通商條約第十四條（伊太利国ノ部ニ掲出）

第七　瑞西国及羅馬尼亜国間千八百九十三年二月十九日―三月三日通商條約第七條（羅馬尼亜国ノ部ニ掲出）

第八　瑞西国及諾威国間千八百九十四年三月二十二日通商居住條約第七條（諾威国ノ部ニ掲出）

九、第八回総会議

千八百九十九年七月二十七日第八回総会

議長スクール閣下

○議長　七月二十五日会議ノ議事録ハ未タ印刷ヲ終ラサルニ付本会議ニ於テ右議事録ノ調製ハ之ヲ事務局ニ委任スルコトトシ其ノ校正刷ハ成ルヘク速カニ各員ニ配付スヘ

キ旨ヲ述ヘ次ニ最終決議書起草委員会ノ事務ニ付口述ノ報告ヲ提出スル為メルノール君ニ発言ヲ許ス

○ルノール君　左ノ事項ニ付起草委員会ヨリ本平和会議ニ差出シタル提議ニ関シ以下ニ掲クル如キ報告ヲ為セリ

一　陸戦ノ法規慣例ニ関スル条約

二　千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約

三　窒息セシムヘキ投射物、軽気球上ヨリ爆裂物ノ投下及人躰内ニ入テ開展スヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スル三宣言

起草委員会ハ平和会議ニ於ケル右ノ決定ニ各其ノ前文ト末文トヲ附加セリ右ノ中最初ノ陸戦法規ニ関スル條約ニ就キテハ其ノ前文ノ起草委員ハ該條約ノ目的ト平和会議ノ目的トヲ結合センコトヲ努メ以テ本会ノ事業ト嘗テ二十五年前同シク露国政府ノ発意ニ由リ比律悉ニ於テ為サレタル事業トノ間ニ連絡ヲ付センコトヲ欲シタリ尚ホ又該前文ニハ第二委員会及本会議カ共ニ全会一致ヲ以テ賛成シタルマルテンス氏ノ宣言ヲ記入シ結局左ノ如キ案文ヲ採用スルコトトナレリ

「平和ヲ維持シテ諸国間ノ戦闘ヲ制止スルノ方法ヲ講スルト同時ニ其ノ所願ニ反シテ萬避クルコト能ハサル事変ノ竝公共良心ノ要求ヨリ生スル萬民法ノ原則ニ依リテ保護セラレ且ツ之ニ服従スヘキモノト宣言スルヲ以テ適当ト認ム

締盟国ハ其ノ採用シタル規則中殊ニ第一條及第二條ハ右ノ趣旨ヲ以テ解スヘキモノナルコトヲ宣言ス

締盟国ハ之カ為メ條約ヲ締結セムコトヲ欲シ各各左ノ全権委員ヲ任命セリ……

因テ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協定セリ」

右ノ前文ニ次イテ五箇條ノ朗読ヲ為スニ先チルノール君ハ陸戦ノ法規慣例ニ関シテ採用シタル六十個條ノ法文ハ本條約ノ本文中ニ登載セスシテ之ヲ條約付属ノ別則ト為スヘキモノト認メタル次第ヲ説明セリ、蓋シ斯クノ如ク之ヲ條約ノ本文中ニ掲ケスト雖モ規則其ノモノノ拘束力ニ至リテハ何等ノ異同アルコトナク唯単ニ或ル意味ノ観察ヲ受クルコトヲ豫メ避ケントスルノ趣旨ニ出テタルノミ則チ之ニ依リテ右ノ規則ハ兵力ノ為ニ権利ヲ認メタルモノニアラストノ観念ヲ特ニ明カニシタルモノト云フヘク要スルニ列国ハ単ニ戦時ニ於ケル軍隊ノ行動ヲ制限スルコトヲ約シタルモノニ過キス

為ニ兵力ニ訴フルコトアルヘキ場合ヲ豫想スルノ必要ナルコトヲ察シ斯ノ如キ非常ノ場合ニ於テモ尚能ク人類ノ福利ト文明ノ発展止ムコトナキ需要トニ副ハムコトヲ希望シ之カ為戦闘ニ関スル一般ノ法規慣例ハ一層精確ナラシムルヲ目的トシ又ハ成ルヘク戦闘ノ惨苦ヲ減殺スヘキ制限ヲ設クルヲ目的トシテ之ヲ修正スルノ必要ヲ認メ二十五年前即チ千八百七十四年比律悉会議ノ当時ニ於ケルカ如ク今日モ亦賢明慈仁ナル先見ヨリ出テタル前記ノ目的ヲ体シ陸戦慣習ヲ明確ニ規定スルヲ目的トスル許多ノ條規ヲ採用セリ

締盟国ノ所見ニテハ右條規ハ軍事上ノ必要ト相容ルル限リ努メテ戦闘ノ惨害ヲ軽減スルノ希望ニ出テタル成案ニシテ交戦国相互間竝人民トノ関係ニ於ケル交戦国ノ行動ノ準則タルヘキモノトス

実際ニ発生スル一切ノ場合ニ普ク適用スヘキ規定ヲ今ヨリ豫メ協定シ置クコト能ハスト雖明文ナキノ故ヲ以テ総テ規定ナキ場合ヲ挙ケ軍司令官ノ擅断ニ放任スルハ締盟国ノ意思ニ非ス

締盟国ハ一層完備シタル戦闘法典ノ編纂セラルルニ至ル迄ハ其ノ採用シタル條規ニ漏レタル場合ニ於テハ人民及交戦者カ従来文明国民ノ間ニ存立スル慣習、人情ノ原理ノ右ノ趣旨ニ基キ左ノ五個條ヲ制定セリ

第一條　締盟国ハ各々其ノ陸軍ニ対シ本條約附属ノ陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則ニ遵依スル所ノ訓令ヲ発スヘシ

第二條　締盟国中ノ二国又ハ数国ノ間ニ戦ヲ開キタル場合ニ限リ締盟国ハ第一條ニ掲ケタル規則ノ規定ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

右規定ヲ遵守スルノ義務ハ締盟国間ノ戦闘ニ於テ一ノ非締盟国カ交戦国ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

第三條　本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ各締盟国ニ交付スヘシ

第四條　非記名国ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得ヘシ

非記名国カ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

第五條　若締盟国中ノ一国ニ於テ本條約ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ右通告

ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル国ノミニ止ルモノトス

右證拠トシテ各全権委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年　海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭国政府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付スルモノナリ

第二條ニ関シルノール君ハ同條ノ規定タル陸戦ニ関スル規則ノ拘束力ハ締盟国相互間ノ関係ニ止マルト云ヘル普通法ヲ認メタルモノニ過キサルコトヲ説明セリ、而シテ本條ト同一ノ規定ハ既ニ聖彼得斯堡宣言中ニモ之ヲ掲ケタリ

第三條ハ批准ニ関スル普通ノ條款ヲ掲ケタルニ過キサルモ批准書寄託ノ形式ハ之ヲ簡略ニセリ蓋シ議院ノ干渉ヲ保留スルハ別ニ必要ノ件ニアラス本條約ヲ批准スルニ付如何ナル程度マテ自由ナリヤ之カ為ニ議院ノ承認ヲ要スルヤ若ハ此ノ條約ヲ実施スル為ニ或ル法律ノ協賛ヲ経サルヘカラサルヤ等ノコトヲ判定スルハ一ニ各国ノ君主又ハ元首ノ決スル所ナルヘキナリ

第四條ハ加盟ノコトヲ規定セリ初メ本條約ノ門戸ヲ開放スヘキヤ閉鎖スヘキヤノ問題ヲ生スルヤ稍ヤ躊躇スル所アリタルモ遂ニ之ヲ解放スルコトニ決シ本会議ニ参同セス又本條約ニ記名セサル国ト雖モ総テ将来之ニ加盟シ得ルモノト定ムルニ決シ加盟ノ躰様ニ就キテハ能フ限リ簡略ナル手続ヲ採用セリ

第五條ハ廃棄ノコトヲ規定セリ、蓋シ本條約カ永久的約束タルノ性質ヲ有スヘキモノニアラサルハ明瞭ノコトト云フヘシ然ラハ若シ締盟国ノ一ニシテ之ヲ脱セント欲スルトキ之ニ処スルノ途果シテ如何

蓋シ條約ノ廃棄ヲ豫見スルハ決シテ原則ニアラスト雖豫メ之カ規定ヲ設クルハ寧ロ用意ノ周到ナルモノト云フヘキナリ何トナレハ戦争ノ前ニ於テ或ル一国カ突然本條約ヲ廃棄スルノ意思ヲ宣言スルコト之ナキヲ保スヘカラサルヲ以テナリ是レ廃棄ノ効果ヲ制限スヘキ條款ヲ設ケテ之カ手続ヲ決定シ突然ナル挙動ヲ避ケントスル所以ニシテ決シテ廃棄ヲ奨励センカ為ニ此規定ヲ設ケタルニアラス且諸国ハ或ル時期ニ於テ約束ノ拘制ニ堪ヘサルコトヲ感スルニ当リ廃棄ニ関スル特別ノ條項存在セサルトキハ其ノ廃棄タル殆ント暴行ニ近キノ実アルヘキモ本條ノ規定ヲ俟チテ克ク適法ニ廃棄ヲ為シ得ヘキコトヲ豫知スルニ於テハ其ノ約束ニ加盟スルニモ亦自然容易ナルヘキノ道理ナリトス

○議長　右朗読及説明ヲ経タル前文及條文ヲ可トスヘキヤヲ議場ニ諮ル

別ニ発言ナキニ依リ議長ハ右ノ諸項ハ本会議ニ於テ可決シタルモノト認ムル旨ヲ宣告ス

○ルノール君「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スルノ條約ニ移リ陳ヘテ曰ク本條約ノ前文ハ其ノ形式及程度共「ジェネヴァ」條約ヲ参酌シ之ヲ左ノ如キモノト為セリ

共ニ其ノ力ノ及フ限リ戦闘ニ避クヘカラサル惨害ヲ軽減セムコトヲ冀望シ此ノ目的ヲ以テ千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用セムト欲シ之カ為條約ヲ締結スルコトニ決定シ各左ノ全権委員ヲ任命セリ……

因テ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

次ニ本会議ニ於テ採用シタル十箇條ヲ掲記セリ

第十一條以下ハ陸戦ノ法規ニ関スル條約ノ箇條ヲ採用シタルモノニ過キス

即チ左ノ如シ

第十一條　締盟国中ノ二国又ハ数国ノ間ニ戦ヲ開キタル場合ニ限リ締盟国ハ前記各條ニ掲ケタル規定ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

右規定ヲ遵守スルノ義務ハ締盟国間ノ戦闘ニ於テ一ノ非締盟国カ交戦国ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

第十二條　本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ各締盟国ニ交付スヘシ

第十三條　千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ヲ承認シタル非記名国ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得ヘシ

右非記名国カ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

第十四條　若締盟国ノ一国ニ於テ本條約ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ右通告ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル国ノミニ止ルモノトス

右證拠トシテ各全権委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年　　海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭国政府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付スルモノナリ

ルノール君ハ右諸條ノ中独リ第十三條ノミ加盟ニ関シテ少シク特異ノ規定ヲ掲ケタル旨ヲ説明セリ抑モ「ジェネヴァ」條約ヲ基礎トスル條約ニ加盟セントスルモノハ豫メ「ジェネヴァ」條約ヲ承認スルコトヲ要スルヤ明瞭ノコトト云フヘシ故ニ右ノ承認ヲ以テ加盟ノ豫備條件ト為スヲ以テ論理ノ当サニ然ルヘキ所ナリト思料シタルノミ之カ為メ決シテ制限的ノ結果ヲ生セシムヘキニアラス如何トナレハ「ジェネヴァ」條約ハ開放セラレアルモノナレハ先ツ該條約ニ定メタル形式ニ依リテ之ニ加盟シ然ル後第十三條ニ従ヒ海牙條約ニ加入スルハ最モ容易ノ事タルヲ以テナリ

○議長ハ右朗読ヲ経タル前文及各條ヲ可決スヘキヤ否ヤヲ議場ニ諮リ総テ異議ナク之ヲ可決セリ

○ルノール君ハ次ニ三宣言ニ移リ右各宣言ニハ総テ左ノ如キ極メテ単簡且一様ノ前文ヲ掲ケル旨ヲ説明セリ

下ニ記名スル海牙萬国平和会議ニ賛同シタル諸国ノ全権委員ハ之カ為各本国政府ノ委任ヲ受ケ千八百六十八年十一月十二月二十九日ノ聖彼得斯堡宣言書ニ掲ケタル趣旨ヲ体シテ左ノ宣言ヲ為セリ」

○ルノール君ハ説明シテ曰ク右ノ前文ハ記名国カ千八百六十八年聖彼得斯堡條約ニ加盟シ居ラサルヘカラサルコトヲ意味スルモノニアラス只是等ノ国ニシテ縦令該條約ニ記名シ居ラサルモ尚ホ右聖彼得斯堡宣言ニ掲ケタル感念ヲ服膺スルヲ以テ可ナリト思料スルコトヲ意味スルニ過キス、若シ是等ノ国ニシテ既ニ表明シタル此意思ヲ全カラシメント欲スルニ於テハ正式ニ千八百六十八年ノ條約ニ加盟スルコト亦自由ナリトス

末文モ三宣言総テ同一ニシテ陸戦ノ法規ニ関スル條約及赤十字條約ノ総則ト全ク相一致ス即チ左ノ如シ

「締盟国ノ二国又ハ数国ノ間ニ戦ヲ開キタル場合ニ限リ締盟国ハ本宣言ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ締盟国間ノ戦闘ニ於テ一ノ非締盟国カ交戦国ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

本宣言ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管スヘシ

各批准国ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交

上ノ手続ニ依リ各締盟国ニ交付スヘシ

非記名国ハ本宣言ニ加盟スルコトヲ得ヘシ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

若締盟国中ノ一国ニ於テ本宣言ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ右通告ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル国ノミニ止ルモノトス

右證拠トシテ各全権委員ハ本宣言ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年　　海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭国政府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付スルモノナリ

○次ニルノール君ハ右ノ前文及末文ノ間ニ入ルヘキ各宣言文ヲ朗読ス

第一宣言

「締盟国ハ窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ各自ニ禁止ス」

第二宣言

「締盟国ハ外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用ヲ各自ニ禁止ス」

第三宣言

「締盟国ハ軽気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スルコトヲ約ス」

○議長ハ右各規定ノ可否ヲ議場ニ諮リ平和会議ハ之ヲ可決セリ

○伯爵ド・グレル・ロジエー君ハ左ノ宣言ヲ為セリ

「本会議ノ事業ノ将ニ終ラントスルニ臨ミ予ハ白耳義国政府カ国際紛争平和的処理條約案ノ各條ニ全然賛同セントスルニ就キテノ條件ヲ茲ニ明言セント欲ス至尊ナル発意者ノ誘導ニ依リテ各国民ヲ高貴ナル目的ノ途ニ進メ及平和思想ノ拡張ヲ容易ナラシムヘキ一切ノ処置ニ賛同シ得タルハ白耳義国ノ幸慶トスル所ナリ、蓋シ白耳義国モ亦茲ニ参同セラレタル列国ト均シク居中調停及仲裁裁判ニ関スル條約案特ニ其ノ第二條及第三條ニ定メタル義務ヲ将サニ約定セントスルノ時期ニ際セリ

此時ニ当リ余ハ我国カ永久中立タルノ故ヲ以テ欧州国際法上ニ占有スル特別ノ地位ニ基キ大躰ニ渉リテ或ル保留ヲ為スノ必要ヲ認ム

蓋シ千八百三十九年四月十九日ノ條約ハ白耳義国及之カ中立ヲ担保セル各国トノ間ニ権利義務ヲ設定シタルコトヲ一言スルヲ以テ足レリト信ス

右ノ結果タル権利及義務ハ依然トシテ不可侵ナルコトヲ要シ白耳義国カ国際紛争処理ノ目的ヲ以テ頃日調印セントスル約束ハ決シテ之ニ侵害ヲ及ホスコトヲ得サルモノナリ

願クハ本会議ニ於テ此宣言ノ趣旨ヲ諒シ之ヲ議事録ニ登載セラレンコトヲ」

右伯爵ド・グレル、ロジエー君ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

○アイシェン閣下ハ海牙ニ於テ作ルヘキ諸條約ハ其ノ以前ニ各国間ノ関係ヲ構成シタル諸條約ヲ変更スヘキモノニアラサルコトハ幾回トナク繰返ヘサレタル事項ナリト述ヘ且曰千八百六十七年五月十一日倫敦條約ハ盧森堡国ニ委スルニ永久中立ヲ以テシ之ニ依リテ同国ハ列国ノ連合担保ヲ享有セリ、蓋シ本会議ニ於テ締結スヘキ新條約ハ旧條約ヨリ生スヘキ利益ヲ増加スルコトアリテ毫モ之ヲ減少スルコトアルヘカラサルナリ

右ノ必要上盧森堡国ハ白耳義国ト同一ノ保留ヲ為スモノナリト

右アイシェン閣下ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

○デリアンニ君ハ左ノ宣言ヲ為セリ

「外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用禁止ニ関スル宣言ニ就キテ余ハ希臘国軍隊ニ於テ尚ホ使用中ナル「グラス」銃ノ弾丸ノ決シテ右ノ種類ニ属セサルコト及戦時ニ之ヲ使用スルコトノ禁止ニ関シ何等ノ約束ヲ為シ得ルモノニアラサルコトヲ明カニ保留シ然ル後該宣言ニ記名スヘキコトヲ我カ政府ノ名ニ於テ玆ニ宣言セサルヘカラスト信ス

余ハ本会議ニ向テ余ノ宣言ヲ当会議議事録ニ登載セラレンコトヲ請フ」

右デリアンニ君ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

○陸徴祥ハ清国第一委員ノ名ニ於テ左ノ宣言ヲ為セリ

「本会議ノ事業カ将サニ最終決議書ヲ調印セントスルノ桂冠ヲ戴カントスル際ニ際シ清国第二委員ハ清国第一委員ノ資格ヲ以テ同委員ノ地位ヲ本会議ニ告白スルノ名誉ヲ有ス

清国第一委員ハ其ノ委員タルノ名誉ヲ有シタル各委員会ノ討議ニ対シ同僚ノ介助ニ依リテ終始注意ト利益トヲ保有シ得タリ

各種委員会ニ付託セラレタル戦争ニ関スル純粋ノ人道問題ニ就キテハ此高尚ナル会議ニ参同シタル列国委員諸君ノ提議ニ向テ躊躇ナク加盟セリ

同委員ハ時ニ或ハ某々ノ提議ヲ受諾スルコトヲ以テ清国ノ利益ニアラスト信シタリ、同委員ハ其ノ受ケタル一般ノ訓令ニ遵ヒ、同委員ニ提示セラレタル文躰ニ反対ノ投票ヲ為シタルコトアルモ一ト度ヒ其ノ希望セル文躰ニ接スルヤ即チ全会一致ヲ缺カサランカ為ニ其ノ同僚ニ参同シタリ、今ヤ最終決議書ニ依リテ陸戦ノ法規ニ関スル條約確定セントスルニ当リ清国第一全権委員ハ其ノ受ケタル訓令ニ遵ヒ慎密ニ之カ翻訳文ヲ作成シ原文ト共ニ之ヲ帝国政府ニ発送シ以テ之カ承認ヲ熱心ニ勧告スルノ外ナシ

遼遠ノ地往返許多ノ日時ヲ要スルニ拘ラス本條約ヲ調印スルニ必要ナル訓令ヲ適当ノ時期ニ於テ接受センコト清国委員ノ翹望シテ已マサルトコロナリ」（喝采）

右清国第一委員ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

○「サー」ジュリアン・ポーンスフォート閣下　本会議ニ於テ採用セラレタル或ル規定中議会ノ協賛ニ付セラルヘキモノアルカ故ニ之ニ記名ヲ為スニ当リ大不列顛国全権委員ハ全然右ノ協賛ヲ保留スルコト言ヲ俟タサル旨ヲ述フ

○ルノール君　右ノ件ニ関シテハ毫モ疑ノ余地ヲ存セス而シテ君カ報告中ニ於テモ亦此点ニ就キ指示スル所アリシ旨ヲ述フ

○伯爵ニーグラ閣下　伊太利国ハ英国ト同一ノ地位ニ在ルヲ以テ「サー」ジュリアン・ポーンスフォート閣下ト同一ノ宣言ヲ為ササルヘカラスト信スル旨ヲ述フ

○レオン・ブールジョア君　右ノ保留ハ正式ニ之ヲ明言スルノ必要ナキ程明瞭ナルモノト信シタリ、大不列顛国及伊太利国ノ全権委員カ之ヲ以テ宣言ノ事項ト為ササルヘカラスト信シタル以上ハ君モ亦此宣言ニ賛同ヲ表シ以テ其ノ各議院政治国ニ関スル一般ノ條件ナルコトヲ證セサルヲ得サル旨ヲ述フ

○伯爵デ・マセーヅ君　葡萄牙国全権委員カ最終決議書ニ付属セル條約及宣言ニ記名スルニ当リテハ其ノ各書類ニ対スル記名ハ全権委員ノ権限上ヨリ見ルモ本国政府ノ承認ヲ條件トスルモノト認ムルコトヲ要スル旨ヲ葡萄牙国全権委員ノ名ニ於テ宣言ス

右伯爵デ・マセーヅ君ノ宣言ヲ議事録ニ登載スルコトヲ許ス

散会

一〇、第九回総会議

千八百九十九年七月二十七日第九回総会議

議長スタール閣下

午後三時開会

○議長ハ七月二十五日及ヒ二十七日ノ議事録カ校閲ノ為メ各員ニ配付セラレタルコトヲ告ケ各員ハ之ニ必要ノ訂正ヲ加ヘテ速カニ書記局ニ還付センコトヲ求ム

○ルノール君　最終決議書起草委員ノ名ヲ以テ「国際紛争平和的処理條約」ノ前文及ヒ総則ニ就キ口述ノ報告ヲ提出シテ曰ク

前文ニ於テハ唯ク條約ノ各章ノ首文ヲ掲ケタルヲ以テ之ニ就キテ多ク説述スヘキモノアルコトナシ

総則ハ第五十八條ヨリ第六十一條ニ至ル各條ニ掲ケタリ

本條約ノ批准ニ関スル第五十八條ト其ノ廃棄ニ関スル第六十一條ハ「陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則」竝「千八百六十四年「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約」中ノ同一事項ニ就キテノ規定ト全ク相同シ

第五十九條及第六十條ハ加盟ノ問題ヲ規定セリ、此二個條ハ本平和会議ニ於テ議定シタル他ノ二條約ノ該当條文ト異ナリ蓋シ他ノ二條約ハ其ノ一タル赤十字ニ関スル條約「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ対シテ既ニ指定シタル特例ヲ除クノ外孰レモ絶対的ニ開放ノ主義ヲ採レリ

然ルニ本條約ニ於テハ二種ノ異ナリタル地位ヲ規定シ則チ平和会議ニ賛同シタル諸国ト賛同セサルモノトノ間ニ区別ヲ設ケタリ第五十九條及第六十條ハ右二種ノ地位ニ対応スルモノトス海牙会議ニ賛同シタル諸国ハ締盟国ト為ルニ二種ノ方法ヲ有ス則チ即時若ハ千八百九十九年十二月三十一日迄ニ自由ニ調印スルヲ得ヘク此日限以後ニ於テハ本條約ニ加盟スルノ手続ヲ踏マサルヘカラス然レトモ其ノ之ヲ為スハ権利タルヘキナリ故ニ賛同シタル国ニ就キテハ其ノ加

盟ハ他ノ二條約ニ於ケルト同様ニ規定セラル即テ第五十九條ニ掲クルトコロナリ

第六十條ニ於テハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ地位ニ就キテ規定セリ該規定ノ結果トシテ右ノ諸国ハ本條約ニ加盟シ得ヘキモ此加盟ノ條件ニ関スル問題ハ締盟国ノ他日ノ協商ニ付セラレタリ故ニ此等ノ諸国ハ本会議ニ賛同シタル諸国ニ認メラレタルト同一ノ権利ヲ有セサルモノトス

右ノ規定ハ極メテ単純ナリト雖モ之カ決定ヲ見ルニ至レルニハ必スシモ爾ク平易ナリシニアラス起草委員ハ之レカ為ニ反覆討議ヲ竭クシ時トシテハ其ノ抗論弁駁極メテ激烈ニ彌リテ全ク其ノ平生ノ態度ヲ一変シ辞句文章起案ノ範囲ヲ逸出シテ外交、政治ノ問題ヲ議スルニ至レリ而シテ其ノ最後ノ会議ニ於テ議長アッセル君ノ為セル演説ハ第六十條ノ規定ニ伴ヘル一切ノ難関ヲ指摘シテ遺憾アルコトナシ故ニ報告者ハ玆ニ其ノ演説ノ全部ヲ報告スルヲ以テ委員会ニ於テ主張セラレタル各種ノ方案ヲ本会ニ示スノ最良手段ナリト信スアッセル君ノ演説ニ曰ク

「諸君、本会ノ如キ国際会議ノ議事ハ時ニ或ハ議事ノ討論ニ均シキ性質ヲ示シ時ニ或ハ外交談判ノ性質ヲ表ハスコトアリ

我カ起草委員会ニ於テ頃日来ノ議題ト為レル件ニ就キテハ吾人ノ討論ハ外交談判ノ性質ヲ現ハセリ

則チ一方ニ於テハ我カ委員会ノ各員及ヒ吾人ニ助力ヲ与フルコトヲ承諾セル列国委員各自ノ意見ハ各々其ノ本国政府ノ裁可ヲ仰クノ必要アリ（蓋シ此必要ハ他種ノ問題ニ就キテヨリモ一層大ナリ）又他ノ一方ニ於テハ苟モ実際有効ノ結果ヲ収メント欲セハ必ス全会一致ノ協賛ヲ得サルヘカラス

右ノ二点ヨリ先日来ノ討論ヲ観察スルニ余ハ吾人カ皆（列国委員竝政府）平和会議ニ賛同セサル諸国ヲシテ国際紛争平和的処理條約ニ加盟スルヲ得セシメント欲スル者タルコトヲ認メタリ然レトモ其ノ加盟ノ権能ヲ絶対的ニ賦与スヘキカ将タ之ニ何等カノ條件ヲ設クヘキカ而シテ之ニ條件ヲ設クヘシトセハ其ノ條件ハ果シテ如何ナルモノナルヘキカノ問題ニ就キテハ其ノ意見大ニ相杆格スルモノアルコトヲ知得シタリ

一方ニ於テハ吾人ノ審議ニ附シタル條約ヲ以テ既ニ本会議ノ議決ヲ経タル二個ノ條約ト同視センコトヲ熱心ニ主張スル者アリ―且第三委員会ノ特別委員会ニ於テハ之ヲ同視スルノ決議ヲ為セリ

之ヲ同視スヘシト云フハ何レノ国ニ論ナク唯タ一ノ宣言ニ依リテ本條約ニ加盟スルコトヲ得ヘキ絶対的権利アルコトヲ認ムルモノナリ

将タ他ノ一方ニ於テハ或ハ締盟国ノ明示ノ承諾ニ依リ或ハ其ノ黙示ノ承諾ニ依リテ右ノ権利ヲ賦与センコトヲ主張スル者アリ而シテ其ノ所謂ル黙示ノ承認トハ一定ノ期限内ニ何レノ国モ加盟ニ反対ヲ唱フルモノナキトキハ其ノ加盟ヲ許シタルモノト看做スヲ言フナリ此他更ニ多数ノ承諾ニ依リテ加盟ノ権利ヲ与ヘンコトヲ主張スル者アリ多数ノ承諾トハ加盟ニ反対ヲ唱フルモノアル場合ハ海牙駐剳ノ列国公使全躰ヨリ成レル常設評議会ノ投票ニ依リテ之ヲ裁決スルヲ云フナリ、余カ我政府ノ名ニ於テ報告スルノ栄ヲ荷ヘル此ノ提議ノ目的ハ本件ニ関スル不認可権ヲ唯タ一箇国ノミニ賦与セサルニ在リ

最後ニ加盟ノ請求ニ反対アリシ場合ニハ其ノ加盟ハ唯タ之ヲ承諾シタル国ノミニ対シテ効力ヲ有スヘシトノ案ヲ提出シタル者アリ

余ハ今前記各種ノ方案ニ就キテ各々其ノ主張者ノ敷衍シタル論項ヲ一々爰ニ示スコトハ能ハス

余ハ単ニ吾人カ全会一致ノ協定ヲ遂クルノ立脚点ヲ発見スルニ苦ミ余ス所ノ時日極メテ僅少ナルニ加ヘテ許多ノ委員カ此ノ件ニ就キテ明確ナル訓令ヲ受領セサリシ為メ此ノ如キ協定ヲ遂クルノ実際不可能ナリシ所以ヲ證明スルニ止マルヘシ

右ノ如クナルヲ以テ吾人ハ左記ノ二案ニ就キテ其ノ一ヲ択フノ外ナキナリ

本会議ニ賛同セサル諸国ノ加盟ニ関スル規定ヲ全然削除スルコト是レ其ノ一ナリ

加盟権ノ原則ヲ採用スルト同時ニ加盟ノ條件ニ関スル規定ヲ諸国ノ間ノ他日ノ協商ニ委スルコト是レ其ノ二ナリ

而シテ之ヲ討論ノ状況ニ徴スルニ第二ノ方案ヲ取ルニ若クハナキモノノ如シ

吾人ハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ為ニ門戸ヲ開クノ望ムヘキモノタルコトヲ認ムルニ於テ皆其ノ意見ヲ一ニシタリ然ルニ若シ條約ニ於テ此点ニ就キ一言モ載スルコトナクンハ是レ其ノ條約ハ閉鎖主義ノ條約ニシテ吾人ノ齊ク欲セサル所ナリ之ニ反シテ若シ條約ニ於テ他日ノ協商ニ委スルコトヲ掲クルトキハ之ニ依リテ其ノ協商成立ノ希望ヲ表彰スルモノナリ

吾人ハ皆諸国ノ政府カ鋭意其ノ事ヲ進捗セントスルニ勤ムヘキヲ信ス然レトモ亦能ク一朝一夕ノ間ニ各国ノ批准ヲ得ルノ難キコトヲ知ル、故ニ吾人ハ諸国ノ政府カ本條約ヲ批准スルニ至ルマテノ間ニ能ク今日存在スル所ノ困難ヲ排除シ加盟ノ権利ヲ規定スルニ当リ務メテ寛大自由ナル方案ヲ採用スルハ最モ本條約ノ性質ニ適シタルモノタルコトヲ確認スルニ至ランコトヲ望マサルヘカラス

蓋シ本條約ノ目的ハ国際紛争ヲ平和的ニ処理スルコト並ニ能ク此ノ結果ヲ収ムルニ足ルヘキ方法ヲ確定スルニ在リ

其レ爾リ故ニ本條約ノ制定者タルモノハ必ラスヤ当サニ本会議ニ賛同セサル国ト雖皆此公益ノ事業ニ加ハランコトヲ望マサルヘカラス

且本條約ニ於テ強制的仲裁ノ規定ヲ存セサル以上ハ本会議ニ賛同セサル諸国ノ間ニ紛争ヲ生シ若ハ本会議ニ賛同セサル国ト之ニ賛同シタル国トノ間ニ紛争ヲ生シタル場合ニ際シ本條約ヲシテ締盟国間ニ紛議ヲ生シタル場合ト同一ノ結果ヲ収メシメンコトヲ希望セサルヲ得ス」

ルノール君ハ右アッセル君ノ演説ヲ以テ其ノ自ラ述ヘント欲シタル所ヲ述ヘ尽クシテ遺憾ナキモノナリトシ各種條約ノ総則ノ形式及ヒ趣旨ニ就キテハ更ニ解釈ヲ附加スヘキ余地アラサル旨ヲ述フ

○議長ハルノール君ノ明快ナル報告ニ対シ本会議ヲ代表シテ謝辞ヲ呈ス

○本條約ノ前文及ヒ末則ヲ朗読シ異議ナク之ヲ可決ス其ノ文左ノ如シ

……陛下……陛下等ハ一般ノ平和ヲ維持スルコトニ協力センコトヲ切ニ希望シ全力ヲ竭シテ国際紛争ヲ平和的ニ処理スルコトヲ幇助スルニ決シ文明国団ノ各員ヲ結合スル所ノ連帯責務ヲ認識シ法ノ領域ヲ拡張スルト共ニ国際的正義ノ感ヲ鞏固ナラシメンコトヲ欲シ諸独立国ノ間ニ各国ノ頼ルヲ得ヘキ常設仲裁裁判制度ヲ置クコトハ前記ノ目的ヲ達スルニ最モ有効ナルヘキヲ確信シ仲裁手続ニ関スル一般且正則ノ組織ヲ設クルノ有益ナルヲ察シ萬国平和会議ノ至尊ナル発議者ト共ニ国安民福ノ基礎タル公平正理ノ原則ヲ国際的協商ニ依テ定立スルノ須要ナルヲ認メ之カ為ニ條約ヲ締結セムト欲シ各々左ノ全権委員ヲ任命セリ云々

末則

第五十八條　本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付一通ノ保管證書ヲ作リ其ノ認證謄本ヲ外交

上ノ手続ニ依リ海牙萬国平和会議ニ賛同シタル各国ニ交付スヘシ

第五十九條　萬国平和会議ニ賛同シタル諸国ニシテ本條約ニ記名セサルモノハ他日之ニ加盟スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ加盟ヲ締盟国ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭国政府ニ通告シ同国政府ヨリ更ニ之ヲ爾余ノ締盟国ニ通知スヘシ

第六十條　萬国平和会議ニ賛同セサリシ諸国カ本條約ニ加盟シ得ヘキ條件ハ他日締盟国間ノ協商ニ依リテ之ヲ定ム

第六十一條　若締盟国中ノ一国ニ於テ本條約ヲ廃棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭国政府ニ通告シタル後一箇年ヲ経過スルニ非サレハ廃棄ノ効力ヲ生スルコトナシ

右通告ハ和蘭国政府ヨリ直ニ爾余ノ締盟国ニ通知ス

右廃棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル国ノミニ止ルモノトス

右證拠トシテ各全権委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年　　海牙ニ於テ本書一通ヲ作リ之ヲ和蘭国政府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ハ外交上ノ手続ニ依リ締盟国ニ交付スルモノナリ

七月二十九日午前十時ヲ以テ調印ノ為ニ総会ヲ招集シ同日午後三時閉会式ヲ執行スルニ決ス

散会

七月二十七日第九回総会議事録附屬書

平和会議ニ賛同シタル君主其ノ他国ノ元首列記表

独逸国普魯西国皇帝陛下、墺地利国「ボヘミヤ」国洪牙利国皇帝陛下、白耳義国皇帝陛下、清国皇帝陛下、丁抹国皇帝陛下、西班牙国皇帝陛下竝同皇帝陛下ノ名ヲ以テスル摂政皇后陛下、亜米利加合衆国大統領、墨西哥合衆国大統領、仏蘭西共和国大統領、大不列顛及愛蘭聯合王国兼印度国皇帝陛下、希臘国皇帝陛下、伊太利国皇帝陛下、日本国皇帝陛下、盧森堡国大公「ナッソー」公殿下、「モンテネグロ」国公殿下、和蘭国皇帝陛下、波斯国皇帝陛下、葡萄牙国及「アルガルヴ」皇帝陛下、羅馬尼亜国皇帝陛下、全露西亜国皇帝陛下、暹羅国皇帝陛下、瑞典諸威国皇帝陛下、瑞西聯邦政府、土耳其国皇帝陛下、勃爾牙利国公殿下

一一、第十回総会議

千八百九十九年七月二十九日第十回総会議

閉会式

○シュヴァリエー、デカン君ノ注意ニ由リ第五十八條以下ノ規定ヲ其ノ以上ノ規定ト区別シ之ニ総則ノ題名ヲ附スルニ決ス

デカン君ヨリ総会ニ提出セル報告書ニモ亦均シク前記ノ趣旨ヲ追加シ新タニ採決ヲ得タル條文ヲ挿入スルコトヲ許ス

○「ヨンクヘール」ド、カルネベーク君ハ同君ヲ委員長トシメレー、ド、カポスメール君アイシェン閣下バシリー君及ヒ博士ロート君ヲ委員トシテ組織セラレタル通信委員会ノ報告ヲ提出シ述ヘテ曰ク委員会ハ萬国会議ニ宛テ到来シタル各種ノ書簡、電信等ヲ審査シタリ是等ノ通信ハ其ノ種類一ナラスト雖モ其ノ多数ハ本会議ノ事業ノ成功ニ対スル願望ヲ記セシモノニシテ議長及事務局ヨリ相当ノ言辞ヲ以テ夫々之ニ回答セリ

委員会ハ又仲裁裁判制度ヲ可トスル私立協会ノ数多ノ決議其ノ他委員各自ニモ送付セラレタル若干ノ冊子類ヲ受領セリ終リニ委員会カ視テ本会議ニ関係ナシトシ若ハ委員会ノ職権ニ屬セスト為セル事項ノ通信類ハ総ヘテ之ヲ不問ニ措ケリ

総会ハド、カルネベーク君ノ報告ヲ是認セリ

議長スクール閣下

午前十時開会

○議長ハ前会ノ議事録ハ校閲ノ為メ配附シタルヲ以テ各委員ニ於テ必要ノ訂正ヲ加ヘテ書記局ニ還附センコトヲ望ム

○議長ハ更ニ本会議ニ於テ可決シタル最終決議書、諸條約、及諸宣言カ既ニ各全権委員ノ調印ヲ受クヘキ運ヒニ至レルコトヲ告ケ其ノ調印ヲ終ルマテ会議ヲ中止ス

午後三時再ヒ開会ス

名誉議長和蘭国外務大臣ド・ボーフォール閣下及ヒ大蔵大臣ピエルソン閣下ハ会議ニ参列セリ

「ヨンクヘール」ファン・カルネベーク君ハ各全権委員カ最終決議書、條約書及宣言書ニ施コセル調印表ヲ朗読ス

調印表

一　最終決議書

本会議ニ賛同シタル諸国皆之ニ調印セリ

独逸国	墺地利洪牙利国	白耳義国
清国	丁抹国	西班牙国
亜米利加合衆国	墨西哥合衆国	仏蘭西国
大不列顛国	希臘国	伊太利国

日本国　盧森堡国　「モンテネグロ」国
和蘭国　波斯国　葡萄牙国
羅馬尼亜国　露西亜国　塞爾比亜国
暹羅国　瑞典国及諾威国　瑞西国
土耳其国　勃爾牙利国

二　條約書

（イ）国際紛争平和的処理條約

十六箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
亜米利加合衆国　墨西哥合衆国　仏蘭西国
希臘国　「モンテネグロ」国　和蘭国
波斯国　葡萄牙国　羅馬尼亜国
露西亜国　暹羅国　瑞典国及諾威国
勃爾牙利国

（ロ）陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約

十五箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
墨西哥合衆国　仏蘭西国　希臘国
「モンテネグロ」国　和蘭国　波斯国
葡萄牙国　羅馬尼亜国　瑞典国及諾威国
土耳其国　勃爾牙利国

（ハ）開展スル弾丸等ヲ禁止スル宣言

十五箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
墨西哥合衆国　仏蘭西国　希臘国
「モンテネグロ」国　和蘭国　波斯国
羅馬尼亜国　露西亜国　暹羅国
瑞典国及諾威国　土耳其国　勃爾牙利国

○議長ハ和蘭国政府カ和蘭国皇帝陛下ヨリ羅馬法王台下ニ宛テ平和会議ヲ海牙ニ開キタルコトヲ報シタル書翰及之ニ対スル法王台下ノ答翰ヲ本会議ニ示サンコトヲ求メタル旨ヲ告ク

（ロ）窒息セシムヘキ瓦斯ヲ撒布スル投射物ノ使用ヲ禁止スル宣言

十六箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
墨西哥合衆国　仏蘭西国　希臘国
「モンテネグロ」国　和蘭国　波斯国
葡萄牙国　羅馬尼亜国　瑞典国及諾威国
土耳其国　勃爾牙利国

（ハ）軽気球ノ上ヨリ投射物ヲ投下スル等ヲ禁止スル宣言

十七箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
亜米利加合衆国　墨西哥合衆国　仏蘭西国
希臘国　「モンテネグロ」国　和蘭国
波斯国　葡萄牙国　羅馬尼亜国
露西亜国　暹羅国　瑞典国及諾威国
土耳其国　勃爾牙利国

三　宣言書

（イ）軽気球ノ上ヨリ投射物ヲ投下スル等ヲ禁止スル宣言ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約

十五箇国之ニ調印セリ

白耳義国　丁抹国　西班牙国
墨西哥合衆国　仏蘭西国　希臘国
「モンテネグロ」国　和蘭国　波斯国
葡萄牙国　羅馬尼亜国　露西亜国
暹羅国　瑞典国及諾威国　勃爾牙利国

和蘭国皇帝陛下ノ書翰

至尊ナル法王台下

台下ノ雄弁ハ常ニ至大ノ権力ヲ具ヘテ平和ノ木鐸トナリ而シテ台下ハ又曩キニ四月十一日ヲ以テ一ノ告諭ヲ発シ特ニ列国民相互ノ関係ニ就キテ慈仁ナル感情ヲ宣明シ給ヘリ故ヲ以テ朕ハ全露西亜国皇帝陛下ノ請求ト発意トニ本ツキ本月十八日ヲ期シテ萬国会議ヲ海牙ニ招集セルコトヲ台下ニ通告スルヲ以テ朕ノ義務タリト信ス蓋シ此ノ会議ハ現今ノ苛重ナル軍備ノ負担ヲ軽減シ及ヒ出来得ル限リ戦争ヲ豫防シ又ハ少クトモ其ノ結果ヲ緩和スルニ足ルヘキ方法ヲ審議スルコトヲ任トスルモノナレハナリ

朕ハ台下カ同情ノ眼ヲ以テ該会議ノ招集ヲ見給フヘキヲ信シテ疑ハス而シテ全露西亜国皇帝ノ慈仁ナル企図ニ従ヒ朕カ宮城内ニ於テ経理スヘキ大事業ノ上ニ台下希ハ其ノ高貴ナル無形ノ援助ヲ仮シ以テ至尊ナル同情ヲ朕ニ示スコトヲ吝ミ給ハスンハ朕ノ幸何ヲ以テカ之ニ加ヘン

至尊ナル法王台下、朕ハ此ノ機ニ附シ重ネテ朕カ深厚ナル敬意ト朕カ忠誠ノ至情トヲ台下ニ致ス

千八百九十九年五月七日「バウスバーデン」ニ於テ

ウヰルヘルミナー（手署）

法王台下ノ答辞

陛下

吾等ハ陛下カ陛下ノ王国ノ首府ニ於テ平和ノ為ニ萬国会議ヲ招集シタルコトヲ報シ仍テ其ノ会議ノ為メニ吾等カ無形ノ援助ヲ求メ給ヘル書翰ヲ領シテ欣喜ノ念ニ勝フルコト能ハス

吾等ハ萬国会議ノ至尊ナル発議者及其ノ会議ニ光栄ナル招請ヲ与ヘタル陛下ト並ニ専ラ道義仁慈ヲ目的トシテ今ヤ既ニ開始セラレタル萬国会議ノ事業トニ対シ熱心ナル同情ヲ表セサルヲ得ス

顧フニ此ノ如キ企業ニ対シテ曾ニ無形ノ援助ヲ与フルノミナラス又能ク現実ニ之ニ賛翼スルハ是レ特ニ吾等カ任務ニ屬スルモノナリ何トナレハ此ノ事タル本来極メテ宏大ナル目的ニ係リ吾カ宗門ノ神聖ナル開祖ノ遺旨ト幾多ノ世紀ヲ経テ渝ハラサル伝説トニ依リ平和ノ斡旋者トシテ一種高貴ナル天職ヲ有スル吾等ノ至大ナル教務ト密接ノ関係ヲ有スレハナリ夫レ法王ノ最上権ハ列国ノ疆界ヲ踰ヘテ遍ク全地球ノ人民ニ被及シ各国ヲ聯結シテ聖経ノ教フル真個ノ平和ヲ享受セシムヘキモノナリ而シテ其ノ人類一般ノ福利ヲ増進スルカ為ニ施為スル所ハ諸国ノ元首カ各々其ノ国ノ利益ヲ図リテ施為スル所ノ上ニ超然トシテ擢出シ迭ニ資質ヲ異ニシタル各国人民ヲ導キテ能ク輯睦親和ヲ遂ケシムルモノ固ヨリ此権ニ勝レル者アルコトナシ

之ヲ史乗ニ徴スルニ凡ソ吾等ノ先任者カ其ノ威力ヲ以テ人世ニ避ケ難キ不幸ナル戦争ノ法則ヲ緩和シ或ハ諸国ノ君主難ヲ構フルニ当リテ其ノ惨酷ナル戦闘ヲ防止シ或ハ諸国民間ノ最モ激烈ナル葛藤ヲ平和ニ収結シ或ハ強者ノ専横ニ対シ毅然トシテ弱者ノ権利ヲ保護シタルノ事績ハ総テ歴然トシテ没スヘカラサルナリ、而シテ吾等ハ当今極メテ不規則ナル條件ニ由リテ吾等ノ教権ヲ行フノ已ムコトヲ得サルニ至レルニ拘ハラス亦能ク日耳曼及西班牙ノ如キ顕着ナル国民ノ間ニ起リタル重大ノ紛議ヲ処理スルニ至レリ且今日ニ於テモ其ノ葛藤ノ仲裁ヲ吾等ニ委托シタル南亜米利加ノ両国民ノ間ニ久シカラスシテ和親ヲ回復スルコトヲ得ヘシト信ス

吾等ハ前途幾多ノ障碍ノ横ハレルヲ意トセス公共ノ福利ヲ図ルヲ以テ唯一ノ目的トシ基督教ニ基ク神聖ナル文明ノ為メニ力ヲ竭クスノ外敢テ他ノ名誉ヲ願ハス以テ歴代因襲ノ職分ヲ尽クシテ休スルコトナカラントス是レ吾等ノ双肩ニ荷ヘル重大ノ義務タルカ故ナリ

吾等ハ切ニ陛下カ吾等ノ深厚ナル敬意ト吾等カ陛下及陛下ノ王国ノ光栄ヲ祈ルノ衷情トヲ諒トセンコトヲ冀フ

千八百九十九年五月二十九日「ヴァチカン」ニ於テ

法王　レオン十三世（手署）

○議長ハ右二通ノ書翰ヲ会議ノ議事録ニ登載スヘキ旨ヲ告ケ次テ左ノ演説ヲナス

諸君、今ヤ吾人ハ事業ノ終局ニ達シタリ吾人カ此壮麗ナル「ボアー」宮殿ニ於テ握手別ヲ告クルニ先チ余ハ慈仁ナル和蘭国皇帝陛下カ吾人ヲ待ツニ無上ノ優遇ヲ以テシ給ヒシニ対シ茲ニ諸君ト共ニ更メテ感謝ノ意ヲ表セント欲ス陛下カ曩キニ親シク本会ニ臨ミ玉音厳カニ下シ給ヒシ祝辞ハ吾人カ討議ノ進行ノ為メ吉兆ヲ為セリ皇天希クハ恵ヲ皇帝陛下ノ治世ニ垂レ以テ陛下ニ臣従スル国民ノ康福ヲ進メンコトヲ

吾人ハド、ボーフォール君ニ向ヒ其ノ本会ノ名誉議長タル資格ヲ以テ吾人カ感謝ノ誠意ヲ陛下ノ左右ニ致サンコトヲ願ヒ更ニ閣下及ヒ和蘭国政府ニ向ヒ其ノ能ク吾人ニ懇切ナル助力ヲ与ヘ以テ大ニ吾人ノ事業ヲ容易ナラシメタル盛意ニ就キテ吾人ノ深厚ナル謝意ヲ受クラレンコトヲ願フ

余ハ又本会議ノ委員会分科委員会及ヒ特別委員会ニ議長タリシ卓越ナル政治家及ヒ法律家諸君ニ向ヒ会員一同ニ代リテ最モ熱心ナル謝辞ヲ呈セサルヘカラス諸君ハ実ニ其ノ任務ヲ行フニ当リテ稀有ノ才幹ヲ顕ハセリ今諸君ニ向フテ之ヲ賀スルコトヲ得ルハ吾人ノ最モ喜フ所ナリ

報告委員諸君モ亦均シク吾人ノ感謝ヲ受クヘキ権利ヲ有セリ諸君ノ提出セル報告書ハ真ニ当代ノ傑作ニシテ本会議決議ノ條文ノ公力アル註釈書タリ書記局ノ諸君カ企及スヘカラサル励精ヲ以テ其ノ職ヲ執リタルハ亦大ニ称スルニ足ル頻繁ニシテ長時間ノ会議ノ周到精確ナル議事録ハ即チ其ノ然ルヲ證スルモノナリ

最後ニ余ハ諸君ニ対シ諸君カ其ノ議長ニ向テ表シタル寛容ノ好誼ヲ謝セサルヘカラス余ハ夙ニ余ノ生命ヲ我君主ト我国土トニ捧ケテ今日ニ至リ其ノ間亦甚タ長カラストセス而シテ今乃チ諸君ノ推ス所トナリ此ノ高貴ナル会議ニ於テ議長ノ席ヲ汚スコトヲ得タルハ余カ畢生ノ一大栄誉ナリ余ハ我世紀ノ歴史ヲ構成スヘキ数多ノ事件ニ際会シ或ハ傍観者ノ地位ニ立チテ之ヲ精察シ或ハ親シク之ニ与カリテ恰カ犬馬ノ労ヲ執リ其ノ間、道徳ノ観念カ政治関係ノ上ニ徐々トシテ勢力ヲ加フルヲ見クリ而シテ此ノ勢力ハ今日ニ於テ一ノ記臆スヘキ段階ニ到達シタリ

露西亜国皇帝陛下ハ嘗テベルネルト君ノ言ヘルカ如ク其ノ

皇家累代ノ遺訓ヲ躰シテ絶エス諸国民ノ福利ヲ増進スルノ志望ヲ懐抱シ遂ニ本会ヲ招集シテ其ノ志ヲ実行スルノ門戸ヲ開キ給ヘリ諸君ハ議長ニ比シテ尚ホ春秋ニ富ム必スヤ吾人ノ発程シタル道途ノ上ニ遙ニ其ノ歩武ヲ進ムルトコロアラン

本会議ノ開期タル頗ル長ク諸君ノ精力ヲ労スルコト頗ル大ニ而シテ諸君カ勤労ノ結果ハ現ニ吾人ノ眼前ニ在リ此ノ時ニ方リ諸君カ拮据ノ功ニ成レル事業ノ沿革ヲ強イテ玆ニ絮説スルハ余ノ欲セサル所ナリ故ニ余ハ唯タ二三概要ノ事項ヲ約説スルニ止マルヘシ

本会議ハ我至尊ナル君主露西亜国皇帝ノ招集ニ応シムウラヴォエフ伯ノ廻章ニ掲ケタル案件ニ就キテ周到縝密ナル審査ヲ加ヘタリ

第一委員会ノ担任セル軍備問題即チ兵員及ヒ軍事費豫算額ヲ制限スルノ問題ハ其ノ専門上ノ困難ニ逢着セシト之ニ附帯シテ委員会ノ調査ヲ加フルニ由ナキ諸種ノ問題ヲ簇生セシトノ故ヲ以テ顕著ナル実際的ノ成果ヲ見ルコト能ハサリシト雖モ本会議ハ諸国ノ政府ニ向ヒテ更ニ同問題ニ就キテ考究センコトヲ請求シ全会一致ヲ以テ仏国ノ第一委員ヨリ提出セル下記ノ決議案ニ賛成シタリ曰ク「現今世界ノ重累

タル軍備ノ負担ヲ制限スルコトヲ以テ人類ノ有形的及無形的福利ヲ増進セムカ為大ニ望ムヘキモノタルコトヲ認ム」ト

本会議ハ又第二委員会ノ審査ニ附シタル博愛ノ情義ニ本ク各種ノ提案ヲ可決シタリ

此ノ事ニ関シテ本会議ハ「ジェネヴァ」條約ニ規定シタルト同一ノ原則ヲ拡充シテ之ヲ海戦ニ応用スルニ決シ因リテ以テ多年世人ノ冀望シタル所ヲ満足セシムルコトヲ得タリ

又本会議ハ今ヨリ二十五年前ニ皇帝歴山二世ノ庇護ニ依リ比律悉ニ於テ創始セラレタル事業ヲ継承シ陸戦ノ法規及慣例ニ関シテ一層明確ナル規則ヲ設定スルコトニ成功セリ

諸君以上ハ則チ諸君ノ精励ニ因リテ収ムルコトヲ得タル積極的ノ成果ナリ

然レトモ国際法ノ領域ニ於テ所謂一新紀元ヲ開キタル製作物ハ国際紛争平和的処理條約即チ是レナリ該條約ハ実ニ其ノ首文ニ於テ下記ノ如キ標題ヲ掲ケタリ、曰ク「一般平和ノ維持」ト

今ヲ距ルコト数年、「ベーリング」海ノ争件ニ関スル仲裁裁判ノ局ヲ結フニ当リ仏国著名ノ外交家ハ言ヲナシテ曰ク「吾人ハ専ラ尊貴ナル国際法ノ基本タル原則ヲ完全ニ維持

スルカ為メ吾人ノ力ノ及フ所ヲ竭クシタリ、蓋シ国際法ハ恰モ蒼穹ノ如ク遍ク諸国民ノ上ヲ蓋ヒ専ラ自然ノ法則ニ本キテ地球上ノ人民ヲ保護シ彼我互ニ好意ヲ以テ相交ルヘキヲ教フルモノナリ」ト

我カ平和会議モ亦凡ソ文明諸国ノ参列セル会議ニ附随セル権力ヲ以テ重大ナル利害ノ問題ニマテモ尚ホ能ク国際法ノ基本タル原則ヲ扶植スルニ其ノ力ヲ竭クシ此ノ原則ヲ明定シ拡張シ及一層完全ニ応用センコトヲ努メタリ新タナル必要ト国際的生存ノ進歩ト公共良心ノ要求ト人道ノ最大冀望トニ応シ諸種ノ点ニ於テ新タナル法律ヲ設定シタリ就中将来必ス「第一ノ平和国際法典」ト呼ハルヘク而シテ吾人カ謙遜シテ「国際紛争平和的処理條約」ト名ケタル一個ノ製作物ヲ成就シタリ

余ハ嘗テ本会議ノ議事ヲ開クニ方リ居中調停及ヒ仲裁裁判ノ件ニ関シテ世人ノ夙ニ期望シタル所ヲ実行スルハ吾人ノ相共ニ調査スヘキ主要ナル問題ノ一ニシテ寧ロ「吾人ノ任務ノ骨髄」ト看做スヘキモノナルコトヲ述ヘタリキ

而シテ余ハ今此ノ件ニ関スル吾人ノ事業カ将来国際ノ交渉ニ至大ノ影響ヲ与フヘキヲ思ヒ余カ前言ノ慥マラサリシヲ知レリ

今ヤ吾人ノ事業ハ既ニ其成ヲ告ケタリ而シテ其ノ能ク成ヲ告クルニ至リタルハ亦以テ列国政府カ国際関係ノ平和ナル発達ヲ図リ人民ノ福利ヲ進メンコトヲ望ムノ深且切ナルヲ知ルニ足レリ

此ノ事業タル固ヨリ完備ノモノニアラス然レトモ允当真摯能ク実際ニ適応シタルモノナリ国際法ノ基本タル二個ノ原則即各国主権ノ原則及正当ナル国際連帯ノ原則ヲ扶立スルト共ニ又能ク之ヲ調和スルニ勉メタルモノナリ

列国相分離セル間ニ於テ其ノ相合同スヘキ道ヲ示シタルモノナリ又吾人ノ将ニ入ラントスル新時代ニ於テ最モ勢力ヲ占ムヘキモノハ必ス協和輯睦ノ必要ヨリ生シ而シテ正義ニ本ケル鞏固ナル平和ノ間ニ其ノ正当ノ利益ヲ収メンコトヲ求ムル列国ノ協力ニ由リテ成立スル事業タルヘキヲ證明シタルモノナリ海牙萬国会議カ此ノ件ニ就キテ為セシ事業ハ真ニ欽称スヘク且善美ノモノナリ彼能ク其ノ至尊ナル発議者ノ盛意ニ応ヘタリ必スヤ天下輿論ノ後援ヲ得、而シテ其ノ功績ハ永ク史乗ニ垂ルヘキナリ

諸君、既ニ吾人ノ多数ノ調印ヲ得タル條約ノ細目ニ就キテハ余敢テ呶々ノ弁ヲ費ヤササルヘシ他ナシ諸君ノ手中ニ在

ル卓越ナル報告書ニ於テ既ニ詳ニ之ヲ説明シ之ヲ解釈シテ遺ス所ナケレハナリ

顧フニ玆ニ纔カニ其ノ成ヲ告ケタル事業ノ全体ニ就キテ判断ヲ下スハ頗ル早計ニ失スルノ嫌ナキニアラス吾人ハ猶ホ揺籃ノ傍ニ在リ未タ大空ヲ瞰望スルコト能ハス然レトモ必然疑ヲ容ルヘカラサル者ハ我至尊ナル君主陛下ノ発議ニ基キ和蘭国皇帝陛下ノ庇護ノ下ニ成レル此事業カ将来益々発達スヘキコト是レナリ第三委員会議長カ紀念スヘキ時機ニ於テ述テ曰ク「時ヲ経ル久シウシテ人益々此事業ノ重要ナルヲ感スルコト切ナラン」ト至言ト謂フヘキナリ

諸君、吾人ハ既ニ第一着歩ヲ為セリ願クハ吾人ノ志ヲ一ニシテ経験ヲ利用スルコトヲ努メン善良ノ種子ハ蒔カレタリ乞フ収獲ノ時季ノ到ルヲ竢タン

若シ夫レ余ノ一身ヨリ言ヘハ既ニ老衰ノ境ニ入リテ余生幾クモアラス而シテ今ヤ人類ノ福利ノ為メニ新タナル冀望ノ開ケタルヲ視、明カニ将来ノ機運ヲ察スルコトヲ得タルハ余ノ喜ヒ真ニ之ニ加フルモノアルコトナシ（大喝采）

○伯爵ド、ミュンステル閣下ハ左記ノ如キ演説ヲ為ス

「諸君、余ハ本会ノ年長者トシテ諸君ニ代リテ議長ノ演説ニ答ヘ且ツ議長ド、スタール君及副議長ド、カルネベーク君ニ感謝ノ意ヲ表セントス

トシテ其ノ光輝ヲ発スルヲ見ルド、スタール君及ビド、カルネベーク君ノ氏名是レナリ余ハ二君ノ栄誉ヲ表スルカ為メ諸君ノ起立ヲ請フ」（大喝采）

○議長ハ伯爵ド、ミュンステル閣下ノ雄弁ナル演説ヲ聴キテ感激ニ堪ヘサルコトヲ告ケ其ノ中心ヨリ伯爵閣下並ニ閣下ニ依リテ其ノ意志ヲ表明シタル会員全体ニ謝スルコトヲ述ヘ本会議ヨリ齎ラシ帰ルヘキ紀念中ニ就キ会員全体トノ交情ハ永ク其ノ胸臆ヲ去ルコトナカルヘキ旨ヲ述フ（喝采）

○ド、カルネベーク君ハ同ク君モ亦伯爵ド、ミュンステル閣下ノ演説ニ感激セリト雖トモ其ノ自己ニ与ヘタル讃辞ニ至リテハ敢テ当ル所ニアラストナシ共同ノ事業ヲ成就スルカ為メ聊カ竭クス所アリ稍ヤ一身ヲ以テ本会ノ精神ト事業トヲ代表シタルカ如キ観ヲ呈セリトスルモ是レ唯タ委員全体ノ齊シク発揮セル精神ト齊シク遂行シタル所ノモノトヲ反射シタル鏡面ニ外ナラサリシコトヲ述フ（喝采）

○男爵デツールネル君ハ左ノ如キ演説ヲナス

「余ハ吾人ノ名誉アル議長ノ許可ヲ得、吾人ノ相別ルルニ先チ本会議ニ向ツテ余一己ノ願望ヲ提出セント欲ス

人或ハ吾人ノ事業ヲ論議シテ軽微ニ失セリト為スモノアラン然レトモ伯爵ド、ミュンステル君ノ言ヘルカ如ク二箇月

ド、スタール君ハ吾人ノ事業ヲ成就スルニ最モ与カリテ力アリシ者ナリ君ハ其ノ寛容ナル襟度ヲ以テ吾人全会員ヲ遇シ因リテ以テ列国委員ノ間ニ存シタル良好ノ関係ヲ維持スルコトヲ得タリ今夫レ其ノ会期ハ二個月半ノ長キニ渉リ而シテ其ノ間終始協睦輯和シテ一点ノ破綻ヲ存セサルコト本会議ノ如キハ蓋シ稀レナリトス

ド、カルネベーグ君ハ洵トニ本会議ノ主働者ナリキ君ノ労ハ吾人全会員ノ労ニ超ヘ吾人ノ君ニ負フ所頗ル多シ且ツ上皇帝ヨリ下庶民ニ至ルマテ我等ニ表明シタル優遇ニ就キテ亦君ニ謝スル所ナカルヘカラス

ド、カルネベーク君ハ蓋シ其ノ至尊ナル君主ノ与ヘ給ヘル例ニ倣ヘル者ニシテ陛下ノ優渥ナル礼遇ハ吾人カ畢生ノ栄誉トシテ永ク忘レサル所ナリ

本会ハ未タ一切ノ冀望ヲ実行スルコト能ハサリシト雖トモ其ノ冀望其ノ豫想ハ蓋シ遠大ニ過キタリシカ故ニ亦能ク至大ノ影響ヲ将来ニ及ホシ而シテ其ノ投シタル種子ハ久シカラスシテ萠芽ヲ発スルコト疑ヲ容ルヘキニアラス故ニ凡ソ本会ノ如キ有力ナル人物ノ集会カ諸国民ノ協商ニ至大ノ影響ヲ及ホスハ必然ノ勢ニシテ本会議ノ主要ナル結果ハ実ニ此ニ在リテ存セリ本会議ハ実ニ吾人ノ為メ最モ慶スヘキ紀念ノ一ニシテ而シテ此紀念ノ中ニハ常ニ二個ノ氏名ノ灼然

半以来吾人カ心力ヲ竭シテ精励シタルコトハ何人カ之ヲ争ハン吾人ハ互ニ面識ヲ有セス寧ロ偏見ト不安ノ念トヲ抱キテ遠ク地球ノ各方面ヨリ来リ会セリ而シテ今ヤ偏見ハ煙散霧消シテ亦跡ヲ止メス信用ト同情トハ吾人ノ間ニ親交ヲ緊束セリ此一致タル吾人カ共同ノ事業ヲ思フノ至情ヨリ発シ吾人ハ之ニ頼リテ能ク第一ノ関門ヲ通過シタリ顧フニ吾人ノ収得シタル結果ノ軽視スヘカラスシテ豊富多望ナル一ノ萠芽タルコトハ徐々トシテ世人ノ識認スル所トナルヘシ然レトモ此萠芽ヲシテ発達セシメントセハ絶エス意ヲ用キテ之ヲ培養セサルヘカラス是レ余カ本会議ハ未来永劫解散スルモノニアラスト唱フル所以ナリ

本会議ハ宜シク始アルヘクシテ終アラシムヘカラス願クハ吾人各自ノ本国ハ更ニ本会議ノ如キ会議ヲ招集シ相共ニ文明ト平和トノ為ニ大ニ竭クス所アランコトヲ」（喝采）

○ド、ボーフォール閣下ハ左ノ如キ演説ヲナス

「本日散会ノ前ニ当リ余ハ誠意ヲ披瀝シテ諸君ニ数言ヲ呈セント欲ス

和蘭国政府ハ爰ニ諸君ト相見ルヲ得タルヲ喜ヒ尤モ深キ利害ノ念ヲ以テ諸君ノ討議ヲ傾聴シ諸君ノ事業カ其ノ効績ヲ奏シタルヲ歓ヘリ

抑モ平和会議ハ架空論者ノ夢想ヲ実行スルコトヲ能ハサリシト雖トモ凡ソ真摯ニシテ聰慧ナル人物カ専ラ実際ヲ旨トシテ開キタル会議ニ於テハ其ノ為ス所常ニ斯ノ如キモノタルコトヲ知ラサルヘカラス将タ他ノ一方ニ於テハ世ノ悲観論者ハ本会議ヲ以テ徒ラニ若干ノ希望ヲ列挙スルノ外一モ得ル所ナカルヘキヲ豫言セリト雖トモ本会ノ収メタル結果ハ全ク其豫言ヲシテ齟齬セシメタリ於是乎至尊ナル露西亜皇帝ノ識見卓越ニシテ能ク本会議発議ノ時機ヲ過リ給ハサリシコトヲ證言シ得タリ

本会議ノ収メタル結果ノ極メテ重要ナルコトハ余今ノ時ニ於テ必スシモ之ヲ言ハス解兵ノ原則ニ関スル本会議一致ノ意見ハ未タ之ヲ諸国区々ノ内政ニ適用シ以テ諸国民ノ各々相異ナレル需要ニ副ハシムヘキ実際的法文トナルニ至ラサリシコトハ事実ナリ然レトモ此点ニ就テハ須ク数週前著名ノ歴史家ド、ブログリー公カ本会議ニ関シテ為セル評言ヲ味フヘキナリ曰ク「今ノ時ハ大計画ニ就キテ即時且有形的ノ効果ヲ収メントスルヨリモ寧ロ専ラ之カ無形的ノ効果ヲ収ムルニ重キヲ措クヘキノ時代ナリ」ト

諸君カ討議ノ無形的効果ハ漸ク人心ヲ感動シ遂ニ輿論ノ上ニ赫々タル光輝ヲ発揮スルニ至ルヘシ而シテ将来列国政治家ノ正当ニシテ重大ナル任務タルヘキ兵備制限ノ問題ヲ解決スルニ於テ至大ノ助力ヲ列国政府ニ与フルナルヘシ終ニ臨ミ余ハ露西亜国皇帝陛下カ其ノ企画シ給ヘル大事業ヲ継続スル為ニ新タナル勇気ヲ鼓舞シ給フニ当リ其ノ今日マテニ遭遇シ給ヘル艱難辛苦ヲ以テ尤モ有力ナル慰籍ノ資トナシ給ハンコトヲ望マサルヘカラス又吾人ハ諸君ノ此ノ地ニ在留シタル紀念ニ因リテ我国ノ歴史ニ一ノ光彩ヲ添ヘタルヲ思ヒ永ク之ヲ忘ルコトナカルヘキナリ何トナレハ吾人ハ諸君ノ在留カ文明国民間ノ国際的関係ノ歴史上ニ一新紀元ヲ開キタルコトヲ確信スレハナリ」（満場大喝采）

○議長ハ平和会議ノ閉会ヲ告ケ散会ヲ命ス

萬国平和会議議事録　終

第十二章　第一回萬国平和会議最終決議

一　最終決議書
二　国際紛争平和的処理條約
三　陸戦法規慣例ニ関スル條約
四　「ジェネヴァ」條約ノ海戦適用ノ條約
五　宣言書（一）（二）（三）

一五三　明治三十二年七月二十九日　平和会議最終決議

一、萬国平和会議最終決議書

全露西亜国皇帝陛下ノ博愛ナル聖意ニ出テタル萬国平和会議ハ和蘭国皇帝陛下ノ政府ノ招請ニ因リ千八百九十九年五月十八日ヲ以テ海牙府ノ離宮「ボアー」宮殿ニ於テ開会セリ

左ニ列記スル諸国ハ本会議ニ賛同シ左記ノ委員ヲ任命セリ

独逸国

全権委員　仏国駐剳独逸国特命全権大使伯爵ド・ミュンステル

第二委員　「ミュンヘン」大学教授男爵ド・ストテンゲル

学術委員　「コンセイエー・アンチーム・ド・ジュスチス」「キョーニヒスベルヒ」大学教授博士ツォルン

専門委員　歩兵第五聯隊長陸軍歩兵大佐ド・グロッス・ド・シュワルツホッフ

専門委員　在仏国独逸国大使館附武官海軍大佐ジーゲル

墺地利洪牙利国

第一全権委員　特命全権大使伯爵エル・ヴェルセルスハインブ

第二全権委員　和蘭国駐剳特命全権公使アレキサンドル・オコリクサニー・ドコリクスナ